

科目名	インターンシップ
開講期・単位	1年 前後期・選択 2単位・実習
担当者	和田 早代、小林 純、石田 麻英子、遊佐 順和

### 講義の目的および概要

現在大学で用意しているインターンシップ先や経済同友会紹介先、北海道商工会議所・札幌商工会議所等からの紹介先を中心に参加するインターンシップです。社会で活躍できる人材となるための準備として、実際の職業の現場を知ることが重要です。また現場では普通の学習とは異なる知識・スキルが求められることがほとんどです。単なる「お仕事体験、見学」ではなく、卒業後に続く就業人生において必要なことを見つけ、自分を高め、自らのキャリアを形成する一助として参加してください。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 講義方法】

「事前指導」「派遣」「事後研修」の3つに分けられます。特に学内で行う授業では、ワークシートへの記入とディスカッションを中心に、社会で必要となる知識・能力について考察していきます。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

ワークシートや日誌にコメントを入れて返却します。

### 授業計画

#### 【事前指導】

ガイダンス、インターンシップとは  
意向調査、心構え、意識  
企業研究  
エントリーシート  
プロフィールシート  
社会人基礎力、コンプライアンス  
職場での振る舞い、お礼状の書き方

～ インターンシップ研修

#### 【事後研修】

事後個別指導（お礼状、報告書作成）  
総合報告会（ディスカッション・インターンシップで得たものを考える・まとめ）

#### （注意事項）

派遣期間は原則2週間ですが、受入先により異なる場合があります。  
事後研修は次期インターンシップ授業の初回目に行います。  
○履修登録は大学が一括でしますので、個人ではしないでください。

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

派遣を通じて、社会人として必要な責任感やビジネスマナー、社会人基礎力とは何かを理解し、向上させることができる。

実際の就業の現場を知り、就業の意味・目的を考察できる。

自身に足りない力や強みを自覚し、各自のキャリアパスをより明確にできる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

学位授与方針「自立して行動できる姿勢、課題を発見し解決する能力を身につける」に関連する。

### 成績評価基準と方法

報告会の参加、企業からの研修参加証明書を総合的に評価し認定します。研修継続に不都合が生じた場合や、本人の都合による途中離脱は「不可」となることがあります。

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

大学から配布される「テキスト」、「研修日誌」を利用します。

#### 【参考文献】

キャリア、ビジネス系科目のテキストなども参考になります。

### 授業外学習

【具体的な内容】

ビジネス文書、オフィス実務、キャリア形成、日本語基礎表現法などで扱う内容で、インターンシップ授業、研修で役立つ知識スキルが多くあります。各授業を常に復習し、実地で運用できるようにしておきましょう。1時間程度の予習復習が必要です。

また、日常で、社会人としての基本的マナーを身につける努力をしてください。授業のみならず、派遣前にも予習復習をしておきましょう。多くの書籍が市販されています。日常生活での先生方とのやり取りも、練習の機会です。

【必要な時間】

**その他**

授業は、一部大学との合同授業になります。全体・担当者別など研修形態や授業日程は変わりますので、掲示などに注意してください。交通費・食事等の支給は原則ありません（自己負担となります）。

参加しようと考えている学生はインターンシップ事前指導を受講してください。

科目名	インターンシップ
開講期・単位	1年 前後期・選択 1単位・実習
担当者	和田 早代、小林 純、石田 麻英子、遊佐 順和

### 講義の目的および概要

現在大学で用意しているインターンシップ先や経済同友会紹介先、北海道商工会議所・札幌商工会議所等からの紹介先を中心に参加するインターンシップです。社会で活躍できる人材となるための準備として、実際の職業の現場を知ることが重要です。また現場では普通の学習とは異なる知識・スキルが求められることがほとんどです。単なる「お仕事体験・見学」ではなく、卒業後に続く就業人生において必要なことを見つけ、自分を高め、自らのキャリアを形成する一助として参加してください。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

「事前指導」「派遣」「事後研修」の3つに分けられます。特に学内で行う授業では、ワークシートへの記入とディスカッションを中心に、社会で必要となる知識・能力について考察していきます。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

ワークシートや日誌にコメントを入れて返却します。

### 授業計画

#### 【事前指導】

ガイダンス、インターンシップとは  
意向調査、心構え、意識  
企業研究  
エントリーシート  
プロフィールシート  
社会人基礎力、コンプライアンス  
職場での振る舞い、お礼状の書き方

～ インターンシップ研修

#### 【事後研修】

事後個別指導（お礼状、報告書作成）  
総合報告会（ディスカッション・インターンシップで得たものを考える・まとめ）

#### （注意事項）

派遣期間は原則2週間ですが、受入先により異なる場合があります。

事後研修は次期インターンシップ授業の初回日に行います。

○履修登録は大学が一括でしますので、個人ではしないでください。

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

派遣を通じて、社会人として必要な責任感やビジネスマナー、社会人基礎力とは何かを理解し、向上させることができる。

実際の就業の現場を知り、就業の意味・目的を考察できる。

自身に足りない力や強みを自覚し、各自のキャリアパスをより明確にできる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

学位授与方針「自立して行動できる姿勢、課題を発見し解決する能力を身につける」に関連する。

### 成績評価基準と方法

報告会の参加、企業からの研修参加証明書を総合的に評価し認定します。

研修継続に不都合が生じた場合や、本人の都合による途中離脱は「不可」となることがあります。

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

大学から配布される「テキスト」、「研修日誌」を利用します。

#### 【参考文献】

キャリア、ビジネス系科目のテキストなども参考になります。

### 授業外学習

【具体的な内容】

ビジネス文書、オフィス実務、キャリア形成、日本語基礎表現法などで扱う内容で、インターンシップ授業、研修で役立つ知識スキルが多くあります。各授業を常に復習し、実地で運用できるようにしておきましょう。1時間程度の予習復習が必要です。

また、日常で、社会人としての基本的マナーを身につける努力をしてください。授業のみならず、派遣前にも予習復習をしておきましょう。多くの書籍が市販されています。日常生活での先生方とのやり取りも、練習の機会です。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

**その他**

授業は、一部大学との合同授業になります。全体・担当者別など研修形態や授業日程は変わりますので、掲示などに注意してください。交通費・食事等の支給は原則ありません（自己負担となります）。

参加しようと考えている学生はインターンシップ事前指導を受講してください。

科目名	基本演習[総カリ]
開講期・単位	1年 後期・必修 1単位・演習
担当者	和久田 紗恵子、小林 純、石田 麻英子

### 講義の目的および概要

家庭生活や社会生活に関わる課題の中から、これまで学んだことをもとに、問題点を発見し分析する能力を育成する。課題設定、テーマに即した資料収集、レジュメ、レポート、プレゼンテーションなど、学びの技法等の1年春学期科目で学んだことを活用し、学びをより深めながら、2年間の学びの中心となる方向性を確立する。2年次で行う学科の学びの集大成としての課題解決演習に向けて、知識のベースを作り、強みとして発揮できる能力を鍛え、活動に備える。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

授業は小人数による演習形式と、全員で受ける講義形式を適宜組み合わせで行う。ディスカッション、グループワーク、意見発表の機会があるので、毎回の授業では主体的に意欲的に取り組むことが求められる

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

提出課題は担当教員から添削とアドバイスを行う。課題に取り組んでいる途中でも、チェックを求めることができる

### 授業計画

学びの技法振り返り Can DOリストを使って  
 2年を俯瞰した学びの計画：履修、課題解決演習を見据えて  
 ディスカッション 結論を出すための話し合い  
 グループワークのコツ 役割分担とは  
 グループワークのコツ 集団で一つのゴールを目指すということ  
 グループワークのコツ リーダーになるということ 連絡・情報共有  
 グループワークのコツ ピア評価、相互チェック機能、助けあい  
 PDCAサイクルを学ぶ  
 チームビルディング  
 グループワーク 調査と情報共有  
 グループワーク ゴールの再設定  
 グループワーク 報告の方法  
 グループワーク 成果の共有（レポート）  
 学科発表会  
 1年の総まとめと次年度に向けて

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

春学期学びの技法、ベーシックスキルズで学んだことを実践的に生かし、短期大学での個人の学びの方向性を決定付けるテーマを設定でき、それについて広く知識を得、深く考察し、まとめて発表できる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

生活創造に必要な基礎的知識、それをもとにした専門知識を得る。広い視野をもち、社会生活の在り方を設計する。多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力及び課題を発見し解決する能力を身につける。

### 成績評価基準と方法

提出物 30%  
 グループワーク・アクティビティ 30%  
 レポート 40%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

キャリアパスノート、学びの技法ファイル以外のテキストは原則使用しない。

### 授業外学習

【具体的な内容】

毎回授業の資料をまとめ復習すること。次回用に課せられた予習課題をクリアしておくこと。  
日常的にニュースをチェックする習慣を身につけ、家庭生活や社会生活に関する興味関心を広げること。  
図書館資料の読解のみならず、館内の利用と、PCによる資料検索に慣れておくこと。  
完成度の高いレポート作成にむけて日々関連資料を収集し、ファイリングしておくこと。  
効果的な発表とまとめのためのPCの基礎スキル、図表の処理スキルをつけておくこと。

【必要な時間】

前後合わせて1時間以上はかかります。

**その他**

コンピュータリテラシー、プレゼンテーション基礎・応用、日本語基礎・応用表現法、キャリア形成、現代生活論、キャリア基礎演習、社会保障などと強い関連がある。特にスキルに関連する内容の授業は、プリント、テキスト、ワークシートを参考に、基本演習ではそれを使い自力で作業ができるようにしておくこと。



**【具体的な内容】**

運動や健康、様々なスポーツに興味を持ち、普段から体を動かすことを心がけておくこと。

**【必要な時間】**

できれば週に3回1時間程度の運動が望ましい

**その他**

種目については履修人数及び天候等により変更する場合がある。

科目名	健康とスポーツ [総カリ]
開講期・単位	1年 後期・選択 1単位・演習
担当者	金 誠

### 講義の目的および概要

スポーツをとおして身体を動かす楽しさを知る。また、高齢化が進む現代社会における、様々な健康阻害要因について理解し、青年期から健康に関心を持つことの重要性を理解する。さらに、各スポーツの技能・戦術・審判法についても学習する。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 講義方法】

第一・第二体育館、アリーナ、トレーニングルーム等で実技演習を行う。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

授業後にグループディスカッションを行い、それぞれの考察を振り返る講義方法】

### 授業計画

#### ガイダンス

#### トレーニング講習

体力づくりを主とした種目（種目の特徴と基礎技能）  
 体力づくりを主とした種目（種目のルールと基礎技能）  
 体力づくりを主とした種目（応用技能と審判法）  
 個人技能を主とした種目（種目の特徴と基礎技能）  
 個人技能を主とした種目（種目のルールと基礎技能）  
 個人技能を主とした種目（応用技能と審判法）  
 個人技能を主とした種目（応用技能とゲーム）  
 集団技能を主とした種目（種目の特徴と基礎技能）  
 集団技能を主とした種目（種目のルールと基礎技能）  
 集団技能を主とした種目（応用技能と審判法）  
 集団技能を主とした種目（応用技能とゲーム）  
 スポーツ傷害と予防  
 授業のまとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

身体を動かす楽しみを知り、健康の重要性を理解できるようになる。  
 健康や環境問題に関心を持ち、自らの健康の維持・増進を図れるようになる。  
 各スポーツの技能・戦術・審判法などについて理解できるようになる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

生活創造に必要な基礎知識、技能  
 自らの社会生活のあり方を設計  
 課題を発見し解決する能力

### 成績評価基準と方法

スポーツ（実施種目）の理解度と取り組み（マナー）（40%）  
 種目に特化した基礎的な技能の到達度（20%）  
 種目に特化した戦術・ルールの理解度（20%）  
 課題レポート（20%）

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

適宜資料を配布する

#### 【参考文献】

適宜資料を配布する

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

運動や健康、様々なスポーツに興味を持ち、普段から体を動かすことを心がけておくこと。

#### 【必要な時間】

週に3回、1時間程度の運動を行っておく具体的な内容】

### その他

幼稚園教諭免許、保育士資格ともに必修

科目名	国際フィールドワーク
開講期・単位	1年 後期・選択 2単位・演習
担当者	石田 麻英子

### 講義の目的および概要

学習してきた英語を実際を使って、海外の文化や社会について、体験を通して学ぶ研修です。普段の日本の生活環境から離れて、様々なことに挑戦し、視野を広げ精神を鍛えます。外側から日本を見直し、自分たちの今生きている社会や生活環境について客観的に考えてみましょう。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

事前研修として、10回程度の演習・オリエンテーションを、グループワークやディスカッションを通して行い、事後研修として最低2回程度の演習授業があり、成果発表のプレゼンテーションをします。研修中にも適宜英語の学習を行います。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

提出された課題には、フィードバックとアドバイスを記載し返却。

### 授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 日本人と海外
- 3 研修先について学ぶ
- 4 研修先について学ぶ
- 5 目標を設定する
- 6 目標を設定する
- 7 研修先について学ぶ
- 8 旅行の手続き、研修概要と注意
- 9 しおりの作成
- 10 研修に必要な英語の復習

11-12 研修（英語の通じる海外で、1週間程度の海外研修）

- 13 振り返り研修
- 14 成果報告に向けた準備
- 15 成果報告

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

実際の生活の中で英語を運用するコミュニケーション能力を伸ばし、異文化を積極的に受け入れ、関わろうとする姿勢を身につけ、自分で立てた目標を達成する。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

広い視野と社会人としての教養を身につける。多様な人々と協働するためのコミュニケーションの字力および課題を発券し解決する能力を身につけ、北海道に貢献できる人材を目指す。

### 成績評価基準と方法

事前学習の提出物 20%  
 事前、事後研修の課題 20%  
 研修中の課題 20%  
 研修レポート 20%  
 成果報告 20%

### テキスト・参考文献

テキストは特に使用しません。参考文献は授業中に指示しますが、図書館、インターネット等を利用して情報を集めてもらうことがあります。

### 授業外学習

毎回の授業の資料をまとめ復習すること。次回用に課せられた予習課題をクリアしておくこと。1時間程度はかかります。

渡航先で困らないように、Basic Conversation, Conversationを受講するか受講者と同等の英語力はつけておいて下さい。渡航前から、英語での会話に慣れておくことが望ましいです。

### その他

パスポートは夏休み、早いうちに必ず取得しておきましょう。持っている方は有効期限の確認をしてください。

\* コロナウイルスの状況次第では、実施できないこともあります。渡航の可否、授業の実施の有無については、8月末をめぐりに判断します。

科目名	情報処理
開講期・単位	1年 後期・選択 1単位・演習
担当者	小林 純

### 講義の目的および概要

代表的な表計算ソフトであるMicrosoft Excelを使い、ビジネス社会で求められる帳票作成、表計算の技能を習得することを目的としています。

また同時にコンピュータに関する知識を学ぶことで、ビジネスにおいてITを活用する実践的な知識と技術を養います。

目標として、日商PC検定（データ活用）の受験体制を整えます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

授業の冒頭で課題と解説を提示し、学生自身が演習する形式で進めていきます。また、知識分野に関するトピックも随時説明していきます。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

授業で作成された課題は、学習管理システムを通じて返却します。また全体的な回答を、授業冒頭で説明します。

### 授業計画

進度により、内容を変更することがあります。

ガイダンス / Excelの復習  
 Excelでの計算（オートフィル・計算式）  
 Excelでの表作成（並べ替え・表示形式）  
 絶対参照  
 ピボットテーブル  
 よく使用する関数（1）  
 よく使用する関数（2）  
 グラフの作成  
 実技練習（1）  
 実技練習（2）  
 知識科目の概要と問題演習（1）  
 知識科目の概要と問題演習（2）  
 知識科目の概要と問題演習（3）  
 模擬試験にチャレンジ  
 まとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

情報処理に関する基礎的な事柄を理解し、活用する知識と態度を身につける。  
 コンピュータ関連検定に対応できる、基礎的な知識と技術を身につける。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「就業に必要な基礎的知識、技能の修得」「生活、就業に関する専門知識、技能の修得」「社会人としての教養の獲得」という部分に対応しています。

### 成績評価基準と方法

毎回の課題提出（完成度） 80%  
 小テスト・試験 20%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

いちばんやさしい日商PC検定データ活用3級 ズバリ合格BOOK  
 [Excel 2013/2016/2019 対応]  
 八田仁/細田美奈[著] 技術評論社

#### 【参考文献】

この分野については多くの参考になる書籍があります。  
 それらも活用することで効果的に理解を進めることができます。

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

課題は常に次回の授業までに完成させておくことが重要です。  
 そのためには、授業以外の空き時間を利用しましょう。

#### 【必要な時間】

授業で出された課題の作成に1時間程度の課外学習が必要となります。

### その他

コンピュータリテラシー、情報処理などの情報系科目の履修をしていることが望ましいです。

日商PC検定（データ活用）3級に対応しています。

（受験にあたっては受験料5140円負担が必要、本学実施を検討）

科目名	北海道論[総カリ]
開講期・単位	1年 前期・選択 2単位・講義
担当者	遊佐 順和

### 講義の目的および概要

本講義では、北海道の自然、歴史、産業を中心に人口動態や経済事情に関する基本的な統計数値なども学び、北海道の現状を理解することを目的としている。さらに、道内の主な都市について、それぞれの「まち」に見られる現在の状況を把握し、外から見た北海道の魅力や地域が抱える課題などについても理解を深めていきます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

授業は配布するプリントを中心に講義形式で行う。北海道に関する全体的な学習内容を終えた時点で、グループワークによる協働作業を行ない、基本的知識を体系的に整理し、北海道の魅力を発信するためのプレゼンテーションを実施します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、参考資料等を適宜指示・配布します。

### 授業計画

授業は、概ね以下のとおり実施します。

オリエンテーション  
 北海道の基本統計  
 北海道の自然  
 北海道の歴史・文化  
 北海道の農林畜産業  
 北海道の水産業  
 北海道の都市（旭川）  
 北海道の都市（釧路）  
 北海道の都市（帯広）  
 北海道の都市（函館）  
 北海道の都市（札幌）  
 グループワーク（ディスカッション）  
 グループワーク（調査内容のまとめ）  
 グループワーク（プレゼンテーション）  
 まとめと振り返り

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

<知識・理解> 北海道に関する基本的統計、基礎知識を身につけ、北海道内の地域に対する関心や、地域貢献の意識を持てるようになる。

<技能・表現> 北海道の魅力や問題点等を発見・把握し、第三者に対して調べた内容を整理して発信できる資質を身につける。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力および課題を発見し解決する能力を身に付け北海道に貢献できる学生」に基づき、地域の現状と今後の課題を認識でき、北海道に対して貢献できる能力を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

定期試験	50%
プレゼンテーション	30%
授業内課題	20%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

適宜、資料などを提示・配布します。

### 授業外学習

**【具体的な内容】**

毎回授業で取り扱う内容に関し、地図帳や新聞記事、雑誌、書籍、テレビなどから関連事項に積極的に触れ、予備知識をつけて臨むこと。授業後はしっかりと復習を行い、さらに自ら関連する内容を深く調べ、それらの内容もノートなどに整理しておくこと。

**【必要な時間】**

1 - 2時間の時間が必要です。

**その他**

この科目で養うDPに関する能力：

科目名	マーケティング[総カリ]
開講期・単位	1年 後期・選択 2単位・講義
担当者	石川 智寛

### 講義の目的および概要

小売店などにおける販売員として必要となる業務内容をはじめとして、顧客や市場のニーズに応えるためのリテールマーケティングの基本的な知識を中心に学びます。具体的には、スーパーや百貨店など店舗形態別小売店の商品戦略の違い、消費者ニーズの掘り起こし（顕在的需要と潜在的な需要）などから、消費者ニーズに応えるマーケティング戦略について理解を深めます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

講義形式で行いますが、課題の取り組みや小テストなどで学習の理解を深めます。また、授業内では、リテールマーケティング（販売士検定3級）の過去問題演習のほか、適宜、グループワークやディスカッションを行って、調査内容の発表やレポート提出も行う予定です。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて適宜資料を配付します。

### 授業計画

以下のような授業の流れを計画していますが、進捗の関係により、内容・順序を変更することがあります。

ガイダンス～流通とマーケティングとは  
流通機構における小売業の役割：小売業の業務と役割、購買慣習と日本の小売業の特徴、企業調査（1）  
組織小売業の種類と特徴：チェーンストアの基本的役割とチェーンオペレーションの基本的知識、店舗形態別小売業の業種、企業調査2  
マーチャンダイジング（1）：購買慣習と商品の分類、マーチャンダイジング・サイクル（チェーンストア、コンビニストアなど）、商品特性分析（1）  
マーチャンダイジング（2）：商品計画、販売計画、仕入計画、発注・物流・在庫管理の基本的知識、価格政策、商品特性分析（2）  
ストアオペレーション（1）：開店準備と発注業務、荷受・検収と商品補充、顧客の購買心理過程と接客販売のプロセス、レジ業務  
ストアオペレーション（2）：包装技術の基本的知識、ディスプレイ（商品陳列）の目的と基本的パターン  
小売業のマーケティング(1)：小売業のマーケティングとは何か、マーケティングリサーチ、マーケティングミックスと顧客満足経営など  
小売業のマーケティング(2)：購買促進策の種類と実際、商圈の設定と分析、立地条件と出店の基本知識  
小売業のマーケティング(3)：売場づくり基本的知識、照明の基本、ディスプレイ効果を高める色彩の活用  
販売員の目的と役割：販売員の役割と接客マナー、接客用語、クレームや返品への対応など  
小売業に関する主な法規：経営や事業全般、販売活動、商品・販売促進、消費者基本法と個人情報保護法  
販売員に求められる計数管理：小売業の利益の種類とフロー、損益計算書の構造  
総合問題演習  
授業内考査、解答と振り返り

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

販売員に必要な基本的な知識と技術を身につけ、実務で活用できる力を養う。  
顧客の視点からのマーケティング的発想、提案ができるようになる。  
リテールマーケティング（販売士）検定3級に合格できる実力をつける。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「生活創造と就業に必要な基礎的知識、技能およびそれを基にした専門知識を修得した学生」に基づき、社会におけるビジネス実務を取り巻く環境等の変化に対応する能力の獲得を通じて、社会人として自立できる能力を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

以下の点数をもとに総合評価を行います。

定期試験 60%  
提出物・小テスト 40%

### テキスト・参考文献

【テキスト】

上岡 史郎 著 実教出版『2021 レクチャー&トレーニング 日商リテールマーケティング（販売士）検定試験3級』

【参考文献】

適宜、関連資料を配付します。

**授業外学習**

【具体的な内容】

事前学習：次回の講義内容の指示に沿って、テキストを読んで学習テーマや課題を明確にすることが大切です。

事後学習：講義で学んだ内容（インプットした力）をもとに、毎時間の課題や過去問題に取り組み、学習内容の理解の定着と広がりを持つことが大切です。

【必要な時間】

事前学習、事後学習をあわせて2時間程度が目安となります。

**その他**

（参考）日本商工会議所リテールマーケティング検定 受験料4,200円および申込手数料が必要です。

希望により、検定受験を授業内考査に換えることができる。（授業ガイダンスで説明）

この講義だけでは、リテールマーケティング（販売士）検定3級の出題範囲をすべてカバーすることはできません。受験を考えている人は、検定講習会への参加、自己学習が必要です。

科目名	食生活論
開講期・単位	1年 前期・選択 2単位・講義
担当者	和久田 紗恵子

### 講義の目的および概要

日本人の食生活は成熟段階に達し、多種多様な食品を利用する機会が増大しているが、不適切な食物摂取に起因する疾病や栄養上の課題も多く、食品の安全性への不安も高まっている。本講義では人間生活の基礎である食の基本構造を学ぶとともに、日本の食生活の現状と問題点を理解し、健康的な食生活のあり方について考察する。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

提示または配布したプリントを中心に講義形式で行う。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

小テストの解答、提出された小レポート、課題等については授業内で解説する。

### 授業計画

#### オリエンテーション

食文化と食習慣

食文化と食習慣

食文化と食習慣

食文化と食習慣

食文化と食習慣

食文化と食習慣

食文化と食習慣

食文化と食習慣

食生活と食品学

食生活と食品学

食生活と食品学

食生活と衛生管理

食生活と衛生管理

まとめ 期末試験

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

食品、栄養、健康に関する基礎的な知識を習得すること、日本の食生活の現状と動向、問題点が適切に把握できるようになること、食生活の意義と望ましいあり方について考察できるようになることを目標とする。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

学位授与の方針である「生活創造に必要な基礎的知識」「広い視野と望ましい社会人としての教養」「自ら社会生活のあり方を設計できる能力」を育成する科目である。

### 成績評価基準と方法

筆記試験（小テスト・期末試験）：50%

提出物（レポート等）：50%

### テキスト・参考文献

#### 【参考文献】

授業内で適宜紹介する。

食生活アドバイザー検定を受験する学生は「食生活アドバイザー検定」のテキスト購入を推奨する。

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

今回の授業内容について、キーワードを提示するので、調べてレポートにまとめてきてください。毎回の授業の冒頭で、前回の授業内容の復習問題を出题します。必ず前回の授業を振り返り、分からない箇所は調べてきてください。

#### 【必要な時間】

予習復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

### その他

科目名	オフィス実務
開講期・単位	1年 前期・選択 1単位・演習
担当者	和田 早代

### 講義の目的および概要

ビジネスの場で求められるコミュニケーション力やマナーを身につけることを目的に、オフィスに必要な対応能力を実践的に学びます。特に、敬語等の言語による表現に加え、他人に与える印象など非言語表現についても多面的に考えてみます。好感獲得力と仕事の処理能力を意識下に、正確性と迅速性を意識しながら、実際に起こるオフィスでの現実課題を教材に、どのような仕事についても生かせる職務遂行能力を身につけます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

講義と演習を交互に行ないます。挨拶から始まり、敬語の使い方、来客対応の仕方、電話対応など、オフィスルームを活用しながら、学生参加型の演習を展開します。秘書の実務経験のある教員が、ロールプレイング中にアドバイスをいたします。小テストは毎回採点し、満点で次のステップに進みます。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、学内共有フォルダを通じて資料を配布します。

### 授業計画

#### ガイダンス

敬語（尊敬語・謙譲語・丁寧語）  
第一印象とノンバーバルコミュニケーション  
改まった場面やビジネスシーンにおける敬語  
敬語確認テスト  
来客対応1（受付から見送りまで）  
来客対応2（席次、名刺交換）  
来客対応3（対応演習）  
来客対応実技試験  
電話対応1（受け方・伝言メモ）  
電話対応2（かけ方・携帯電話）  
電話対応演習  
電話対応実技試験  
仕事の基本（報連相）  
試験とまとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

尊敬語、謙譲語、丁寧語の敬語表現ができる。  
来客対応、電話対応、訪問のマナーを理解し、表現できる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立して生きていくための社会人基礎力を身に付けている学生にが浮きを授与する」に基づき、就業に必要な基本的知識と技能を修得し、社会人としての教養の獲得や社会生活のあり方を設計し、多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力を身に付けます。

### 成績評価基準と方法

筆記試験 30%  
実技試験 40%  
敬語総合テスト 20%  
提出物 10%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

「成功する仕事の基本とビジネスマナー」寿郎社

#### 【参考文献】

「秘書ビジネス実務」全国大学実務教育協会

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

次回の授業範囲について、敬語を暗記してノートにまとめてきてください。また、毎回の授業内容の復習問題を冒頭で出題します。必ず前回の授業内容を振り返り、ポイントや重要事項を復習ノートにまとめてください。

#### 【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

### その他

科目名	オフィス実務
開講期・単位	1年 後期・選択 1単位・演習
担当者	和田 早代

### 講義の目的および概要

ビジネスの場で求められるコミュニケーション力やマナーを身につけることを目的に、オフィスに必要な対応能力を実践的に学びます。特に、敬語等の言語による表現に加え、他人に与える印象など非言語表現についても多面的に考えてみます。好感獲得力と仕事の処理能力を意識下に、正確性と迅速性を意識しながら、実際に起こるオフィスでの現実課題を教材に、どのような仕事についても生かせる職務遂行能力を身につけます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

講義と演習を交互に行ないます。挨拶から始まり、敬語の使い方、来客対応の仕方、電話対応など、オフィスルームを活用しながら、学生参加型の演習を展開します。秘書の実務経験のある教員が、ロールプレイング中にアドバイスをいたします。小テストは毎回採点し、満点で次のステップに進みます。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、学内共有フォルダを通じて資料を配布します。

### 授業計画

ガイダンス、サービス接遇検定準1級とは、英語の来客対応  
 茶菓接待演習（入れ方）  
 茶菓接待演習（出し方）  
 茶菓接待実技試験  
 慶弔の知識  
 サービス接遇検定準1級基本言動  
 " 接客応答  
 " 接客対応  
 サービス接遇検定準1級実技試験  
 ビジネス文書  
 就職活動に伴う文書のマナー  
 コミュニケーションのための自己理解・表現  
 顧客満足とフレーム対応  
 会社・組織のしくみ  
 まとめと解説

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

相手に感じが良いという態度や言葉遣いができる。  
 会社の即戦力となれるよう、仕事の基本が理解できる。  
 サービス接遇検定準1級の資格を取得する。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立して生きていくための社会人基礎力を身に付けている学生にが浮きを授与する」に基づき、就業に必要な基本的知識と技能を修得し、社会人としての教養の獲得や社会生活のあり方を設計し、多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力を身に付けます。

### 成績評価基準と方法

筆記試験 30%  
 実技試験 50%  
 電話対応総合テスト 20%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

「成功する仕事の基本とビジネスマナー」寿郎社（春学期と同じテキスト）

#### 【参考文献】

「サービス接遇検定受験ガイド準1級」  
 「秘書ビジネス実務」全国大学実務教育協会

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

今回の授業範囲について、電話対応の言葉遣いを暗記してノートにまとめてください。また、毎回の授業内容の復習問題を冒頭で出題します。必ず前回の授業内容を振り返り、ポイントや重要事項を復習ノートにまとめてください。

#### 【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

その他

科目名	エアラインサービス演習
開講期・単位	1年 後期・選択 2単位・演習
担当者	中里 のぞみ、石田 麻英子

### 講義の目的および概要

本講義の目的はエアラインにおけるサービスについて学び、広義におけるホスピタリティマインドとスキルを修得する。変化の激しい社会において、将来、社会人として様々な現場において、ホスピタリティを具現化できるようになることを目指す。事例検討・グループワーク・ディスカッションなどを通して協働のためのコミュニケーション・協調性についても体験的に学ぶ。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

資料やパワーポイント・DVDを活用しての講義の他、グループワークやディスカッション・プレゼンテーションなどを通して、エアラインの時代的サービスの変化・求められるホスピタリティ・顧客満足などについて、より具体的に学んでいく。エアラインでの実務経験のある教員が、実際の具体事例も盛り込むことで、より現場について理解を深められるように講義を実施する。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

グループワーク・プレゼン・ディスカッションについては随時、授業内でフィードバック。レポートなどの提出物についても、精査後にフィードバックする。

### 授業計画

エアラインサービスに携わる職種と業務内容  
 エアラインサービスの時代的变化  
 顧客満足について  
 グランドスタッフの実務  
 グランドスタッフの対応事例検討  
 キャビンアテンダントの実務  
 キャビンアテンダントの対応事例検討  
 グループワーク1「サービス比較」  
 グループワーク2「エアラインサービスと顧客満足」  
 プレゼンテーション  
 エアラインにけるホスピタリティと顧客満足  
 クレーム対応・イレギュラリティ対応とその応用  
 エアラインに求められる人材（特別講義）  
 エバー航空とインバウンド・アウトバウンド（特別講義）  
 サービスの付加価値とこれまでの総括

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

エアラインサービスについて学ぶことで、現代社会に求められるホスピタリティへの理解を深化させ、職業人として顧客満足を提供できる人材となる。

お客様対応や組織内の業務遂行において重要なコミュニケーションについて学び、傾聴力・発信力を発揮できるようになる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を育成するという学位授与方針に基づき、自立かつ自律的に考え、表現でき、行動できる職業人として必要な能力を修得する。

### 成績評価基準と方法

レポート：空港見学あるいは救命救急講座のレポート・特別講義の後のレポート合計3回分10%ずつ、15回の授業が終了した後の最終レポート40%

グループディスカッション・プレゼンテーション30%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

使用しない。適宜、プリントを配付する。

#### 【参考文献】

「グランドスタッフ入門」絶版となっているため授業内で内容について説明。

「ホスピタリティとホスピタリティマネジメント」

中里のぞみ・紺野猷邦著 株式会社パレード

### 授業外学習

【具体的な内容】事前学習として航空業界やサービス業界に関連する新聞記事、ニュースなどは意識して読むようにすること。事後学習として配布したレジュメは読み返すようにしてください。レポート提出は何度かありますので、自分の言葉で表現することを心がけて下さい。提出期限は厳守すること。

【必要な時間】事前・事後学習には各授業前後にそれぞれ2時間程度費やすようにしてください。

### **その他**

空港見学が可能であれば実施しますが、不可能な場合は救命救急の講座を受講するなど、コロナの状況も踏まえて決定します。  
また、見学に行く場合の引率は石田先生が担当します。

科目名	学びの技法[総カリ]
開講期・単位	1年 前期・必修 1単位・演習
担当者	和久田 紗恵子、小林 純、石田 麻英子

### 講義の目的および概要

短大で主体的に学ぶための基本的技能の習得を目指す。高校までとの学びの違いを理解し、2年間の学びに必要なスタディスキルの習得をめざす。授業の受け方、スケジュール管理、レポート・課題に取り組む上での情報収集、意見交換に役立つ基礎的スキルなど、主体的に課題に取り組み、レポートを作成するための基礎的技法までを学ぶ。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

授業は小人数グループによる演習形式と、全員で受ける講義形式を適宜併用する。意見交換や発表の機会があるので、主体的に意欲的に取り組むことが求められる。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

提出課題は、担当教員から授業内、メールなどを通して個別にチェックとアドバイスがある。作成中の課題に対しては、途中の段階でもチェックを受けることができる

### 授業計画

- 1 大学について理解しよう
- 2 学習の計画を立てよう
- 3 学長講話 建学の礎と大学の沿革 / 次回の準備
- 4 学科の学びの特徴を知ろう(グループワーク)
- 5 図書館ガイダンスと図書館アクティビティ
- 6 調べて理解して伝えるために
- 7 相手の話を理解するために(質問、インタビュー)
- 8 ディスカッションとまとめ方
- 9 グループで調べてまとめよう
- 10 アンケートをとってみよう
- 11 考えを発展させるために
- 12 学習と成果(試験の意味、長期休暇の活用)
- 13 学びの技法を活用しよう
- 14 学びの技法を活用しよう
- 15 春学期の学びのまとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

ものごとを分析するための基礎的技法を習得する。  
 大学生として必要な基礎的スタディスキルを身につける。  
 本学の学生としての誇りを持ち、個々の能力や個性を活かして  
 主体的に学ぶ学生生活を送れるようになる。  
 わかりやすくまとめられるようになる

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

生活創造と就業には、聞いてまとめて自分の意見を持ち表現する力が必須。自らの生活設計のためにはスケジュール管理力、疑問を見つけ論理的に考え資料を収集し、解決策を考えだして表現する活動は知識、課題解決力、表現力を必要とする。

### 成績評価基準と方法

各種提出物(ワークシート他) 50%  
 最終課題(関連する提出物含め) 50%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

『学びの技法：ファイル』 『Study Guide』

#### 【参考文献】

『入学前課題』

### 授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業の資料をまとめ復習すること。次回ように課せられた予習課題をクリアしておくこと。

日常的にニュースをチェックする習慣を身につけ、家庭生活や社会生活に関する関心を広げること。大学生としての自覚をもち、「学生」としてふさわしい行動を実践する姿勢を常にもつ。資料収集を自身で行ってもらう機会も多くあるので、資料の読解だけでなく、図書館の利用やPCの利用そのものに慣れておくこと。

【必要な時間】

1時間から2時間はかかります。

**その他**

関連受講科目

伝わりやすい日本語、正しい漢字、表記：日本語基礎表現法

情報機器の扱い：コンピュータリテラシー

発信、発表の技術：プレゼンテーション基礎

視野の拡大、ニュースの理解：現代生活論、世界の中の日本

図表の処理、数字の理解、メディアリテラシー：ベーシックスキルズ

科目名	日本語基礎表現法
開講期・単位	1年 前期・必修 1単位・演習
担当者	石田 麻英子

### 講義の目的および概要

大学での全ての学び、活動の基本であり、社会に出る上で最も重要な力である「日本語能力」を高める授業。語彙力をつけ、読み、聞きとり、理解する読解能力、わかりやすく伝える基礎的知識技術を身につけ、総合的に高めることを目的としている。社会人にふさわしい日本語を正しく読み、書き、話し、聞けるように漢字や句読法について学ぶ。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

講義、演習形式を併用して行います。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

提出課題に対しては個別または次回授業で総合的なフィードバックを行う。漢字、語彙、文法の小テストは解答は即時、解説は次回授業で行う。

### 授業計画

- 1 オリエンテーション 短大卒に求められる日本語 メモとノート
- 2 社会で求められる日本語とTPO 言語の発達と変化 美しい言葉
- 3 文法と漢字 口頭表現と文章表現
- 4 文法と漢字 正確に表現する
- 5 語彙と漢字 正確に表現する
- 6 語彙と漢字 正確に理解する
- 7 語彙と漢字 正確に理解する
- 8 中間テスト
- 9 漢字と語彙 正確に表現する
- 10 漢字と語彙 正確に表現する
- 11 漢字と語彙 文章表現の基礎知識
- 12 漢字と語彙 文章を味わう
- 13 読んで、考えて、書く。
- 14 確認と期末テスト
- 15 フィードバックとまとめーさらに上を目指すために

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

様々な表現を理解しそれに対して自らの意見や感想をわかりやすく述べられる。漢字、語彙を豊かにし、表現に生かせる。日本語検定3級程度を目指す。場面、目的に沿った表現を選べるようになる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

学科の目標とする「多様な場で活躍できる実務能力」「生活創造と就業に必要な基礎的知識・技能」「多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力」としての基礎的な日本語の知識、運用能力を育てる科目です。

### 成績評価基準と方法

- 中間テスト20%
- ノート提出20%
- 作文20%
- 小テスト10%
- 期末テスト30%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

授業内で配付されるオリジナルワークシート

#### 【参考文献】

新聞、学科文庫の書籍など

### 授業外学習

小テストは毎回満点が取れるよう必ず事前学習し、できなかったところは復習してください。1時間程度はかかるでしょう。また、後半部のワークシート(ノート)の整理を毎回行ってください。次回課題の予習として与えられた資料は、必ず読んで理解してから授業に出るようにしないと、事後学習に相当な時間がかかります。読めない漢字、意味に自信のない言葉はすぐに調べることも大切です。こちらにも1時間程度の時間がかかると思います。

### その他

過去に使用していたノートのあまりページで構いませんので、罫線の入ったノートと定規、消えない筆記具（ボールペン）、赤青程度の2色以上の筆記具、シャープペンシルなどの消せる筆記具などをご用意ください。学期中に複数冊の本を読んでもらうことになります。

科目名	日本語応用表現法
開講期・単位	1年 後期・必修 1単位・演習
担当者	石田 麻英子

### 講義の目的および概要

春学期で修得した、短期大学での諸学習に必要なコミュニケーションにかかせない日本語の基礎能力を、「深く考える力」「文字で表現する力」に発展させていきます。正しく理解し、わかりやすく表現する活動を繰り返し行い、社会人にふさわしい言葉づかいで、論理的に書く、話すことができるように学びます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

演習科目です。過去問小テスト 授業後課題形式も適宜併用して進めます。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

主に提出された課題に関する個別フィードバックの形を取ります。

### 授業計画

日本語基礎表現法からの復習  
 わかりやすく描写する、要約する  
 質問をする  
 手がき、原稿用紙のルール  
 書き言葉のTPO  
 相手の意図を読もう  
 書評完成と提出  
 漢字と語彙 1  
 漢字と語彙 2 課題作文A  
 漢字と語彙 3 読解問題A  
 読解問題B 課題作文B  
 まとめと模擬試験準備  
 日本語検定3級公式模擬試験を利用した試験  
 フィードバックと時間内作文  
 まとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

大学生にふさわしい言葉で、論理的でわかりやすい文章を書けるようになる。課題を解決に導くための考え方を学び、それを適切に表現できるようになる。  
 日本語検定3級程度の語彙、言語運用能力、読解能力をつける

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

学科の目標とする「多様な場で活躍できる実務能力」「生活創造と就業に必要な基礎的知識・技能」「多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力」としての基礎的な日本語の知識、運用能力を育てる科目です。

### 成績評価基準と方法

課題小テスト 30%  
 授業内アクティビティ、ワークシート 30%  
 書評課題、テスト 40%

### テキスト・参考文献

#### 【参考】

日本語検定公式3級過去問題集

NHK高校講座 「ロンリのちから」

### 授業外学習

課題を提出するため、事前事後に1時間程度は授業外学習が必要です。  
 特に日本語検定の問題練習は自主学習となります。  
 適宜小テストと解説を行います。

### その他

テキストは使用しませんが、期末に日本語検定3級公式模擬試験の受験料1900円がかかります。

科目名	キャリア形成[総カリ]
開講期・単位	1年 前期・必修 1単位・演習
担当者	和久田 紗恵子、遊佐 順和

### 講義の目的および概要

変化する生活環境やビジネス社会を捉えながら、生き方、働き方が多様な現代社会の中で生きていくために、学生生活2年間でどのような学修をしておくべきかを考え学修計画を立てます。そして、社会で活躍する方から、実際に働くことについて学び、働くことについて深く考えてみます。さらに、働く人にインタビューを試み、それを1冊のブックレットにまとめ情報の幅を広げていきます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】テーマにより、以下の方法を織り交ぜながら展開します。

プリントやテキストを利用した講義形式。

グループワークによるディスカッション形式。

学外でインタビューを行い、取材内容をまとめ発表するプレゼンテーション形式。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、参考資料等を適宜指示・配布します。

### 授業計画

授業は概ね以下のように実施します。

1. ガイダンス（なぜ働くのか？）
2. キャリア形成の第一歩（エントリーシート、履歴書の意味）
3. 計画的な仕事の進め方（スケジュール管理、メモの取り方、手帳の使い方）
4. 学生生活ですべきことと学生力診断
5. 自立して生きるためのお金について考える
6. 社会で活躍できる人財となるための学生生活の過ごし方
7. 女性とキャリアセッション（短大卒業生の働き方～接客業編）
8. 女性とキャリアセッション（短大卒業生の働き方～事務職編）
9. グループディスカッション（OG体験談を基にキャリアを考える）
10. 成長する学生生活の送り方（課外活動編）
11. 大学生生活で磨く社会人基礎力
12. 学生生活と就職活動のスケジュールリング  
働く人インタビュー調査（インタビュー方法説明、準備作業）
13. 働く人インタビュー調査（インタビュー実施報告）
14. 調査結果と分析（グループワーク）
15. 期末レポートとまとめ・振り返り

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

自己の能力課題を把握し改善のための計画を立て実行できる。

キャリアを考え、自己の学生生活の送り方を計画、実行できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「生活創造と就業に必要な基礎的知識、技能およびそれを基にした専門知識を修得した学生」に基づき、社会におけるビジネス実務を取り巻く環境等の変化に対応する能力の獲得を通じて、社会人として自立できる能力を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

提出物・発表（課題シート等） 34%

セッションレポート 20%

プレゼンテーション 16%

期末レポート 30%

### テキスト・参考文献

【テキスト】学就BOOK、日経HR編集部編著 日経HR発行

【参考文献】

「大学のムコウ」小樽商科大学キャリア教育チーム他、日本経済評論社 2009

### 授業外学習

- ・ 仕事、働く、生活等をキーワードに、新聞やニュースに毎日触れておくこと。
- ・ 社会常識ミニテストをしますので、不足しているところの補強をしておくこと。

### その他

実践キャリア実務士の必修科目です。  
就業に必要な基礎的知識  
自らの職業生活のあり方を設計

科目名	キャリア基礎演習[総カリ]
開講期・単位	1年 後期・選択 1単位・演習
担当者	和田 早代、石川 智寛、遊佐 順和

### 講義の目的および概要

「キャリア形成」で立案した学修と学生生活の計画が実行されているかを確認しながら授業を進めます。「働く」ことについて、個人の視点と企業や社会の視点の双方から理解し、キャリアプランを設計します。そのため、社会の動向と産業・職業・労働について幅広く理解し、働く意義を踏まえながら就活への準備を整えます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

職種研究や自己分析などとおして、将来就きたい職業を見つけて就職するための準備を講義と演習で行ないます。授業は、企業で総務の実務経験のある教員らが担当し、キャリア支援センター職員や人事担当者より、個別にアドバイスいたします。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、参考資料などを適宜指示・配布します。

### 授業計画

ガイダンス、職務適性テスト検査  
求人票の見方/履歴書の構成（魅せ方・書き方）  
自己分析  
業界研究  
職務適性テスト検査結果&解説  
職種研究  
履歴書・ESの書き方  
内定者報告会（2年生）  
履歴書・エントリーシートの作成と添削  
面接の基本・集団面接対策  
着こなしと身だしなみ教室  
WEB選考対策・SPI対策  
集団面接対策  
ガールズキャリアコレクション（OG）  
ビジネス・コミュニケーション試験、ふりかえり

学内業界セミナー参加

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

社会の出来事に潜む問題点を見つけることができる。  
他者の考えを受け入れ、自分の考えを伝えることができる。  
社会に出る準備課題をこなすことができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「生活創造と就業に必要な基礎的知識、技能およびそれを基にした専門知識技能を修得した学生」に基づき、社会におけるビジネス実務を取り巻く環境等の変化に対応する能力の獲得を通じて、社会人として自立できる能力を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

授業内提出物 70%  
実技試験 25%  
口頭発表 5%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

毎回教材シートを配布します。

#### 【参考文献】

キャリアハンドブック  
女子学生のためのキャリアデザイン

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

○社会を知るため、新聞、ニュースには毎日触れアンテナを張ること。  
○宿題として出されたものは必ず取り組んで来ること。

#### 【必要な時間】

課題の完成、疑問点の整理などのため、授業前後に、1-2時間の時間外学習が必要です。

### その他

科目名	住生活論
開講期・単位	1年 後期・選択 2単位・講義
担当者	早川 陽子

### 講義の目的および概要

生活とは何か、ということを構造的に考察し、生活の原点である住まいを住宅の歴史、家族、住環境、インテリアとのかかわりから学習します  
みなさんが近い将来、快適で豊かな住まいを創ってゆくために、また賢い消費者として必要な知識を修学します。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

一般の講義の形でプリントに沿って記入しながら授業を進めます。  
写真・図や実例などを用いて、具体的に説明してゆきます。  
演習は2題あり、1題は「自分の育った家」を考察します。  
もう1題は「近い将来自分が住みたい家」を暮らし方の視点から設計します。  
授業内に1回テストを実施します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

「私の育った家」自分にとって家とは家族とは何かを確認し課題2へつなげます。  
「私らしい住まいの設計」は近い将来の職業、暮らし方を想像し間取りを作成します。それまでの講義内容との関係を認識します。

### 授業計画

住生活とは何か...住生活と居・食・住の関係  
住生活と住空間...家とは、家族とは、ライフテージ、ライフスタイル  
【演習1】私の育った家(1)課題の説明,実技  
【演習1】私の育った家(2)実技,提出  
住まいと住まい方のルーツ...原始~現代  
住まいはどのように建てるのか...材料,構造  
北海道のすまいづくり...歴史と暮らし方(DVD)  
【ミニテスト】(授業内試験)  
ミニテスト回答,ユニバーサルデザイン  
住環境と私たちの生活(1)...健康的な住環境のために  
住環境と私たちの生活(2)...インテリアデザインと室礼  
住まいを選ぶ...一戸建てとマンション  
【演習2】私らしい住まいの設計(1)課題の説明,実技(ゾーニング)  
【演習2】私らしい住まいの設計(2)実技(間取り)  
【演習2】私らしい住まいの設計(3)実技(インテリア)  
【演習2】私らしい住まいの設計(4)発表,提出  
各自用意するもの:鉛筆,消しゴム,色鉛筆,定規

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

人間にとって住まいの大切さを理解し、自分の住まいや暮らす地域に関心を持つことで将来の暮らし方を想像出来るようになります。  
講義で習得した知識をもって「私らしい住まい」を設計します。  
演習は講師とコミュニケーションを取りながら進め完成させます。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

生活創造に必要な基礎的知識 広い視野 社会人としての教養を身につけます。

### 成績評価基準と方法

ミニテスト(授業期間内試験1回) 30%  
演習(1)(実技2回) 30%  
演習(2)(実技4回) 40%  
演習は提出物で評価します。

### テキスト・参考文献

【テキスト】プリントを使います。

【参考文献】図説テキスト 住居学（岸本幸臣編・彰国社）  
北海道の住宅事情と北方型住宅（北海道立北方建築総合研究所）  
子どもをはぐくむ住まいづくり（北海道建築士会）

### 授業外学習

講義の後に作成したプリントの内容を復習してください。  
予習は講義の最後に次回のKEYWORDを伝えます。調べておく事。  
予習・復習はそれぞれ1時間を目安とします。

### その他

受講生へのメッセージ：近い将来、あなたはどのような職業についていますか。  
その時の暮らしの場として住まいはどうあってほしいでしょうか。  
将来の生活に夢を持って取り組んでください。

科目名	消費生活論
開講期・単位	1年 後期・選択 2単位・講義
担当者	和久田 紗恵子

### 講義の目的および概要

多くの商品やサービスを消費する今日、様々な消費者問題や商品問題も発生しており、私たちは確かな知識をもち、自立した消費行動を行う必要がある。本講義では消費生活の変容とその背景に理解を深め、今日の消費生活の現状と諸問題、消費生活における商品やサービスに関連する事項について学習する。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

授業は配布したプリントを中心に講義形式で行うが、一部グループワーク、ディスカッション等を取り入れる。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

提出された小レポート、課題等については授業内で解説する。

### 授業計画

オリエンテーション  
 生活環境と消費生活  
 生活環境と消費生活  
 生活環境と消費生活  
 生活環境と消費生活  
 生活環境と消費生活  
 消費生活と経済  
 消費生活と経済  
 まとめ・中間試験  
 消費生活の諸問題  
 消費生活の諸問題  
 消費生活の諸問題  
 消費生活の諸問題  
 まとめ(グループディスカッション)  
 発表

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

現代の消費生活の特質と問題点について理解を深め、自立的な消費生活の実現に向け、関連知識を習得することを目標とする。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

学位授与の方針である「生活創造に必要な基礎的知識」「広い視野と望ましい社会人としての教養」「自ら社会生活のあり方を設計できる能力」を育成する科目である。

### 成績評価基準と方法

期末発表：50%  
 中間試験：30%  
 提出物(小レポート等)：20%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

適宜プリントを配布する。

#### 【参考文献】

授業の中で適宜紹介する。

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

授業内容の理解度を高めるためにプリントの整理、復習を毎回行うこと。  
 授業内容に関連した個人テーマを設定し、発表を行うので、日頃から新聞記事やニュースなどに注目し、関連資料を収集し整理しておくこと。

#### 【必要な時間】

予習復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

### その他

科目名	生活と銀行
開講期・単位	1年 後期・選択 2単位・講義
担当者	牛嶋 和夫

### 講義の目的および概要

私たちに深く関わる「金融」について平易に解説し、また、受講生に考えて頂き、金融（銀行）についての興味と金融基礎力を身に付ける事を目的として授業展開します。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

基本的には講義形式で行いますが、毎回「振り返りシート」を記入し、講義内容を振り返り理解を深めます。また、グループワークを取り入れて能動的な学修を目指します。金融機関幹部の講話も予定しています。本講義は、銀行に28年間勤務し現在も地元信用組合の非常勤理事に就任している金融実務・知識が豊富な実務家教員が難解な金融につき身近で実践的な講義を実施します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

適宜提出して頂く課題については、コメントを付して各自の元へ返すとともに授業内で特徴的なポイントについて解説します。

### 授業計画

ガイダンス（銀行とは、金融とは）  
 金融商品の概要  
 お金を借りる  
 代表的な金融機関と役割  
 企業と銀行  
 保険について考える  
 外部講師講話（地域金融とは）  
 投資信託の仕組みと種類  
 金融基礎力とは  
 ローンについて学ぶ（グループワーク）  
 リスクとリターンとは  
 資産形成について考える  
 多重債務について考える  
 お金と経済  
 総まとめ、授業内定期試験

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

銀行（金融）の基本的な役割、仕組みを理解し金融基礎力を修得することを到達目標とします。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立して生きていくための生活習慣、社会人基礎力を身に付けている学生に学位を授与する」に基づき、社会人基礎力の一つである金融基礎力を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

授業内提出物20%  
 中間課題30%  
 定期試験50%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

毎回、プリントを配布します。

#### 【参考文献】

お金の基本 丸田 潔著 新星出版社 2015年

### 授業外学習

**【具体的な内容】**

金融に関する新聞記事等を配布しますので、それに沿って専門用語等事前に予習して下さい。毎回の授業の冒頭で指名して理解度をチェックします。

**【必要な時間】**

予習、復習の時間はそれぞれ2時間以内を目途とします。

**その他**

本受講者のうち希望者は北央信用組合の1日インターンシップを優先的に受けられます。

科目名	医療事務
開講期・単位	1年 前期・選択 2単位・演習
担当者	薄井 智也

### 講義の目的および概要

いずれの物事にも理由が存在する。

それぞれの仕組みが「なぜ、そうなっているのか？」理由と背景、根拠を理解し、自らの経験や体験シーンをリンクさせつつ想像力を働かせながら、関心を持ち、知識と技術をバランス良く習得しようとする意欲と姿勢から始まる。

#### 講義の目的

基礎編では病院のしくみや医療保険制度について理解することをねらいとする。また、実務編・カルテ問題集では医科診療報酬点数の算定について、診療行為それぞれの特性を掴むとともに、外来分の裏点整理と診療報酬明細書の記載要領について理解することをねらいとする。

裏点整理 = 診療報酬明細書作成前段階の点数整理を示す。

診療報酬明細書 = 月ごとに診療行為や点数がまとめられたもの。レセプトと言う。

記載要領 = レセプト記載に際するルールを示す。

#### 講義の概要

・医療事務基礎編  
第1章) 病院のしくみ 第2章) 医療保険 第3章) 公費負担医療制度  
・医療事務実務編、カルテ問題集  
診察料の算定(初診料・再診料等)、医学管理料の算定、投薬料の算定、注射料の算定、処置料の算定、手術・麻酔料の算定、検査料の算定、画像診断料の算定。カルテ問題集により、カルテ上の表記と診療報酬明細書への記入について特性を掴む。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 講義の方法

テキストにより講義を進行し、適宜、振り返りと授業内課題実践を行う。

主体的な振り返りに繋がるよう努め、理解の充実と記憶の定着を図る。

#### フィードバックの方法

授業内において前回ポイントの振り返りを行い、理解の充実と記憶の定着を図る。

### 授業計画

受講意思確認等、シラバス説明、検定、授業の進め方、課題取り組み、講師等紹介

医療事務基礎編 - 第1章) 病院のしくみ

- 第2章) 医療保険

- 第3章) 公費負担医療制度、医療事務実務編とカルテ問題集確認

医療事務実務編 - 初診料の算定・点数表との照合

- 再診料の算定・点数表との照合

- 医学管理料の算定・点数表との照合

- 投薬料の算定・点数表との照合

- 注射料の算定・点数表との照合

- 処置料の算定・点数表との照合

- 手術、麻酔料の算定・点数表との照合

- 検査料の算定・点数表との照合

- 画像診断料の算定・点数表との照合

カルテ問題集 - 頭書き(氏名や健康保険)、傷病名、カルテ2号紙の理解

- 外来分の裏点整理と診療報酬明細書記載要領の理解

定期試験に向けた振り返り

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 到達目標

基礎編では医療機関の仕組みや医療保険制度の仕組みについて理解する。実務編・カルテ問題集では医科診療報酬点数の算定について、診療行為それぞれの特性を掴み、外来分の裏点整理と診療報酬明細書の記載要領を理解する。カルテの情報(診療記録や疾病、医療用語)を読み取り、診療行為それぞれの特性を理解した上で診療報酬点数の算定が出来、外来分の裏点整理と診療報酬明細書(レセプト)の作成習得を到達目標とする。

#### 卒業認定・学位授与の方針との関連

自立した職業人を養成するため、現代生活を主体的に創造する知識と技術を身につけ多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を育成するに基づき、医療機関で活躍できる実務能力の獲得を通じ、社会人・組織人として活躍できる人材を養成する。

### 成績評価基準と方法

定期試験により60%を決定し、授業内課題40%による。

### テキスト・参考文献

【テキスト】  
全国医療技能検定協議会出版)  
医療事務基礎編、医療事務実務編、カルテ問題集

【参考文献】  
なし

### 授業外学習

理由と背景、根拠を知って理解し、そのシーンなど想像力を働かせながら習得しようとする姿勢とともに、興味と関心をもって授業後の振り返り、授業前の予習を行います。繰り返し行うことで理解の充実や記憶の整頓、正しい記憶の定着に繋がります。不明点は授業内でも積極的に発言し理解に努めてください。そうすることで周囲や全体への理解に繋がり、相乗効果が期待されます。大変だと思いますが時間目安は復習予習にそれぞれ1時間がよろしいと思います。

### その他

授業内での振り返りを取り入れ、理解の促進と授業の活性化を図るため、随時指名して発言を求めます。ぜひ授業後の振り返りを行った上で授業にご参加ください。また、授業計画 時点より、電卓を使用し始めますのでご用意をお願いします。テキストは授業の際に必ずご持参ください。なお、索引速度の観点より、特にテキスト医療事務実務編にはインデックス貼付をお勧めします。どうぞよろしくお願いいたします。

科目名	秘書演習
開講期・単位	1年 後期・選択 1単位・演習
担当者	和田 早代

### 講義の目的および概要

秘書業務で起こる事例をもとに、働くための基本的な知識を身につけます。特に、上司、社内・社外、先輩など人との良好な人間関係を築くためのコミュニケーションについて学びます。また、組織で働くための基本的知識として、会社と組織、企業活動と法律、税などを始め、働く場で飛び交う用語についても学び、広く一般知識を身につけていきます。この授業は、その知識の確認として秘書検定取得に挑戦します。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

秘書検定3級の資格取得を目指す科目です。毎回テキストを活用して、秘書の実務経験のある教員が、さまざまな事例を紹介しながら、職場環境に対応するための基本をマスターします。また、毎回過去問題の宿題がありますので、必ず解いてきてください。繰り返し問題を解くことで実力を付けて合格を目指します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、学内共有フォルダを通じて資料を配布します。

### 授業計画

ガイダンス、秘書検定の受験方法

第1章 秘書の資質

第2章 職務知識

第3章 一般知識

第4章 マナー・接遇・話し方

電話対応

交際業務

第5章 技能・会議

秘書室訪問

文書・取り扱い

ファイリング・日程管理・オフィス管理

復習

模擬試験

筆記試験と解説

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

上司とのペアワーク、秘書の技能について理解し説明できる。

社会人としての言葉遣いを理解し説明できる。

会社や組織、接遇、交際業務の基本を理解し説明できる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立して生きていくための社会人基礎力を身に付けている学生にが浮きを授与する」に基づき、就業に必要な基本的知識と技能を修得し、社会人としての教養の獲得や社会生活のあり方を設計し、多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力を身に付けます。

### 成績評価基準と方法

模擬試験30%

筆記試験40%

その他提出物30%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

「秘書検定3級パーフェクトマスター」実務技能検定協会編 早稲田教育出版

秘書検定3級の受験料は2800円

#### 【参考文献】

「秘書検定集中講義3級、2級」実務技能検定協会編 早稲田教育出版

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

今回の授業範囲について、専門用語の意味などをノートにまとめてきてください。また、毎回の授業内容の復習問題を冒頭で出題します。必ず前回の授業内容を振り返り、ポイントや重要事項を復習ノートにまとめてください。

#### 【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

### その他

秘書検定3級の試験は、本学を会場に2月に実施する予定です。

科目名	医療事務特別演習
開講期・単位	1年 前期・選択 1単位・演習
担当者	薄井 智也

### 講義の目的および概要

いずれの物事にも理由が存在する。

それぞれの仕組みが「なぜ、そうなっているのか？」理由と背景、根拠を理解し、自らの経験や体験シーンをリンクさせつつ想像力を働かせながら、関心を持ち、知識と技術をバランス良く習得しようとする意欲と姿勢から始まる。

#### 講義の目的

受付（接遇、健康保険の確認・情報登録など）～診療行為発生～会計（接遇、診療費計算や精算など）～診療報酬請求事務（レセプト）に至るまでの過程を想像しながら、カルテの情報（診療記録や疾病、医療用語）を元に、診療ストーリーを読み取る能力とともに外来分の裏点整理と診療報酬明細書（レセプト）作成の習得をねらいとする。

裏点整理 = 診療報酬明細書作成前段階の点数整理を示す。

診療報酬明細書 = 月ごとに診療行為や点数がまとめられたもの。レセプトと言う。

#### 講義の概要

・カルテ問題集、医療事務検定問題集  
検定受験を踏まえ、外来分の裏点整理と診療報酬明細書の作成をより多く、集中的に行う。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 講義の方法

テキストにより講義を進行し、適宜、振り返りと授業内課題実践を行う。  
主体的な振り返りに繋がるよう努め、理解の充実と記憶の定着を図る。

#### フィードバックの方法

授業内において前回ポイントの振り返りを行い、理解の充実と記憶の定着を図る。

### 授業計画

カルテ問題集  
カルテ問題集  
カルテ問題集  
カルテ問題集  
カルテ問題集  
カルテ問題集  
カルテ問題集  
医療事務検定問題集  
医療事務検定問題集  
医療事務検定問題集  
医療事務検定問題集  
医療事務検定問題集  
医療事務検定問題集  
医療事務検定問題集  
医療事務検定問題集  
医療事務検定問題集  
授業内テストならび解説

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 到達目標

カルテの情報（診療記録や疾病、医療用語）を読み取り、診療行為それぞれの特性を理解した上で診療報酬点数の算定が出来、外来分の裏点整理と診療報酬明細書（レセプト）の作成習得を到達目標とする。

#### 卒業認定・学位授与の方針との関連

自立した職業人を養成するため、現代生活を主体的に創造する知識と技術を身につけ多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を育成するに基つき、医療機関で活躍できる実務能力の獲得を通じ、社会人・組織人として活躍できる人材を養成する。

### 成績評価基準と方法

テストにより60%を決定し、授業内課題40%による。

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

全国医療技能検定協議会出版）  
医療事務基礎編、医療事務実務編、カルテ問題集、医療事務検定問題集

#### 【参考文献】

なし

### 授業外学習

理由と背景、根拠を知って理解し、そのシーンなど想像力を働かせながら習得しようとする姿勢とともに、興味と関心をもって授業後の振り返り、授業前の予習を行います。繰り返し行うことで理解の充実や記憶の整頓、正しい記憶の定着に繋がります。不明点は授業内でも積極的に発言し理解に努めてください。そうすることで周囲や全体への理解に繋がり、相乗効果が期待されます。大変だと思いますが時間目安は復習予習にそれぞれ1時間がよろしいと思います。

### その他

授業内での振り返りを取り入れ、理解の促進と授業の活性化を図るため、随時指名して発言を求めます。ぜひ授業後の振り返りを行った上で授業にご参加ください。また、テキストと電卓は授業の際に必ずご持参ください。なお、索引速度の観点より、特にテキスト医療事務実務編にはインデックス貼付をお勧めします。どうぞよろしくお願いいたします。

科目名	韓国語(初級)
開講期・単位	1年 前期・選択 1単位・演習
担当者	趙 恵真

### 講義の目的および概要

本講義は韓国語の文字である「ハングル」の仕組みを理解し、基本的な日常会話につながるために行います。なお、韓国語を学びながら、韓国における社会・文化を分かり、国際社会をより深く理解する姿勢を身につけることをめざします。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

テキストに従って進めていきます。新しい文型の説明をした後、練習問題を中心にし、理解を深めていきます。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題なし

### 授業計画

韓国、韓国語についての概略

第1課 母音 ・ 初声(鼻音・流音)

第1課 母音 ・ 終声(パッチム)

第2課 母音

第2課 母音のまとめ・初声(平音)

第2課 連音化

第3課 初声(激音)

第3課 初声(濃音)

第3課 終声(パッチム)

ハングルのまとめ

第4課 助詞「は」

第4課 ムニダ体「です・ですか」

第5課 助詞「が」・ヘヨ体「です・ですか」

第5課 「ではありません」

まとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

韓国語への関心を持ったうえで、簡単な挨拶や自己紹介に応用できます。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「理想を求め、明日の地域社会、国際社会へ寄与する姿勢を身につけている学生に学位を授与する」に基づき、日韓両国に対する社会的、文化的理解を深めて、世界的な変化に対応する能力の獲得を通じて国際人として自立できる能力を身につける。

### 成績評価基準と方法

期末テスト：50%

小テスト：20%

口頭発表：20%

授業への参加度：10%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

三訂版・韓国語の世界へ(入門編)、李潤玉他、朝日出版社

#### 【参考文献】

なし

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

今回の授業範囲について、新しい単語の意味などを予習してください。また、前回の授業内容を振り返り単語や文型を復習してください。

#### 【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

### その他

授業中に、韓国語の発音について随時指名して発言を求めらるので、しっかりと予習・復習した上で授業に参加してください。

科目名	韓国語(中級)
開講期・単位	1年 後期・選択 1単位・演習
担当者	趙 恵真

### 講義の目的および概要

本講義は、韓国語の基礎文法を利用し、日常会話に応用するために行います。なお、日本と韓国の言語を関連付けて比較しながら、日韓両言語の理解を深めて、幅広い教養として身につけることを目指します。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

テキストに従って進めていきます。新しい文型の説明をした後、練習問題を中心にし、理解を深めていきます。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題なし

### 授業計画

ハングルの読み書き/自己紹介  
 韓国語 までの復習  
 第6課 漢数詞・「に」「います・いません」  
 三体の作り方  
 過去形の作り方  
 第7課 「を」「も」  
 第8課 「で」「に」  
 第9課 「で」「から～まで」  
 第9課 固有数詞  
 第10課 「しに」「から～まで」  
 第11課 不規則活用  
 第11課 否定表現  
 第12課 敬語  
 第12課 「つもりです」「したいです」  
 まとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

韓国語の基礎文法を理解し、日常会話に応用できます。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「理想を求め、明日の地域社会、国際社会へ寄与する姿勢を身につけている学生に学位を授与する」に基づき、日韓両国に対する社会的、文化的理解を深めて、世界的な変化に対応する能力の獲得を通じて国際人として自立できる能力を身につける。

### 成績評価基準と方法

期末テスト：50%  
 小テスト：20%  
 授業への参加度：10%  
 口頭発表：20%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

三訂版・韓国語の世界へ(入門編)、李潤玉、朝日出版社

#### 【参考文献】

なし

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

今回の授業範囲について、新しい単語の意味などを予習してください。また、前回の授業内容を振り返り単語や文型を復習してください。

#### 【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

### その他

授業中に、韓国語の発音について随時指名して発言を求めするので、しっかりと予習・復習した上で授業に参加してください。

科目名	コンピューターリテラシー
開講期・単位	1年 前期・選択 1単位・演習
担当者	小林 純

### 講義の目的および概要

短期大学での学習や、社会で必要となる基礎的なコンピュータの操作や知識を学ぶことを目的としています。  
レポート提出などで必要となる文書作成やグラフの作成、また発表で必要なプレゼンテーションを学習します。  
コンピュータの操作に自信がない人や、自分で文章を作ったことがないという人は、必ず受講して、他科目の授業に備えてください。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

テキストを中心とした演習形式で進めます。教員からの説明ののち、課題に取り組み、成果を評価していきます。  
单元ごとに基礎的な知識を問うテストを取り入れていきます。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

提出物のチェックを行い、個別に評価を行ってフィードバックします。

### 授業計画

授業は、以下に示す順序で実施します。

ガイダンス、本学の情報環境に関する説明と設定  
Windows基本操作、環境設定  
ファイル操作、タイピング練習  
Wordの基礎  
Wordでの文書作成（チラシを作る）  
Wordでの文書作成（レポートを作る）  
Excelの基礎  
Excelでの表作成  
Excelでの表計算・関数  
Excelでのグラフ作成  
PowerPointの基礎、スライド作成  
PowerPointでの表現効果  
情報セキュリティについて  
情報モラルについて  
まとめ

レベル別に課題等を与えることもあります。

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

コンピュータを利用して基本的なファイル操作、文書作成（レポート程度）ができるようになる。  
情報社会で必要となる情報セキュリティや情報モラルなどの基礎的な知識を理解する。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「生活創造と就業に必要な基礎的知識、技能およびそれを基にした専門知識、技能を修得」に関連しています。

### 成績評価基準と方法

以下の点数を総合的に判断し、評価を行います。  
課題の提出（完成度） 60%  
確認テストの達成度 20%  
タイピングテスト 20%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

「イチからしっかり学ぶ！Office基礎と情報モラル」  
noa出版（編集）ワークアカデミー（発行）

#### 【参考文献】

### 授業外学習

**【具体的な内容】**

タイピングや確認テストは学外からも受験が可能です。授業前後、授業の空き時間や自宅での学習時間に進めてください

**【必要な時間】**

課題（宿題）の作成で1時間程度の学習が目安です。

**その他**

受講者は必ずテキストを購入し、2回目からの授業には必ず持参するようにしてください。

テキストには、ユーザー名、パスワード（1年間有効）が付いており、毎講使用します。テキストやパスワードの貸借は絶対にしないでください。

科目名	現代生活論
開講期・単位	1年 前期・必修 2単位・講義
担当者	和田 早代、和久田 紗恵子、小林 純、石田 麻英子、遊佐 順和

### 講義の目的および概要

私たちの生活は個人的営みでありながら、社会環境や時代の影響を強く受け、今日では複雑化しさまざまな課題に直面することも多い。本講義では現代生活の特徴について理解を深めるため、仕事、経済、文化、情報化社会および生活習慣など、生活を様々な視点からみつけ、その移り変わりや生活課題について考察することを目的とする。また女性の視点からみる現代生活の課題や今後について再考することをめざす。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

授業は提示、配布したプリントを中心に講義形式で行う。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

提出された小レポート、課題等については授業内で解説する。

### 授業計画

#### オリエンテーション

総合生活キャリア学科と現代生活、SDGs.科目のねらいと進め方：石田

情報社会とインターネット：小林

生活に関わる情報社会：小林

情報社会のこれから（地域・AI・メディア...）：小林

文化的側面から見るジェンダー：石田

生活が育む文化：石田

現代生活における食生活：高田

現代生活における健康問題：高田

?現代生活における課題の発見：高田

働くということ：遊佐

自己実現と生活設計：遊佐

自立した女性を目指して：和田

結婚と仕事：和田

期末レポート課題作成準備

期末レポート課題の作成とフィードバック

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

現代生活の特質と問題点について理解を深めること、生活者として主体的に生きるための基礎的知識を身につけ、個人や家庭にどのような生活課題があるかについて考察することを目標とする。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

学位授与の方針である「生活創造に必要な基礎的知識」「広い視野と社会人としての教養」「自らの社会生活のあり方を設計できる能力」を育成する科目である。

### 成績評価基準と方法

担当教員ごとに20%ずつの配点

まとめの課題試験を授業内で行う

それぞれ、授業前後の提出物8%、期末課題12%で評価する

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

適宜プリントを提示、配布する。

#### 【参考文献】

授業の中で適宜紹介する。

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

毎回の授業内容、プリントを整理し理解度を確認すること。

#### 【必要な時間】

それぞれ1時間程度の時間を要することを目安とする。

### その他

科目名	国内フィールドワーク
開講期・単位	1年 後期・選択 1単位・演習
担当者	遊佐 順和

### 講義の目的および概要

本演習は、道外を訪れ他地域を理解し、地域間の比較をとおして北海道を理解し視野を広げることを目的としています。訪問地の沖縄は、琉球王朝の歴史を受け継ぎ、世界遺産に登録される史跡、独自の伝統的工芸品や食文化などを有します。現地での歴史認識、伝統的工芸品の制作体験や健康長寿をもたらす独自の食文化などを体験し、社会に対する視野を広げます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

訪問地の沖縄では、北海道とは対照的な気候風土のもと、古くから独自の生活や文化が形成されています。事前学習では、沖縄の歴史、生活文化、自然および健康長寿をもたらす食文化などに注目し、参加者で役割分担を行い、リサーチ、レジュメ作成、プレゼンテーションなどの事前調査を繰り返します。これらの作業を通して、北海道との相違点の比較や共通項を理解した上で、現地での研修を実施します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で補足解説を行い、参加者同士によるディスカッションも実施することで訪問地に対する理解を深めるとともに、情報共有と協調性を高めます。

### 授業計画

研修は、概ね以下のとおり実施します。

#### ガイダンス（研修日程や趣旨に関する説明）

研修先に関する予備調査1(歴史文化)  
 研修先に関する予備調査2(伝統工芸)  
 研修先に関する予備調査3(食と健康)  
 研修先に関する予備調査4(産業理解)  
 研修先に関する予備調査5(自然資源)  
 研修先に関する予備調査6(戦争理解)

フィールドワーク：1日目  
 フィールドワーク：2日目  
 フィールドワーク：3日目  
 フィールドワーク：4日目  
 フィールドワーク：5日目  
 フィールドワークの振り返り  
 フィールドワークの取り纏め  
 成果報告

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

北海道と沖縄を比較することにより、それぞれの地域が独自に有する歴史や文化を理解し、社会や地域に対する視野を広くもてるようになる。

他科目で修得したスキルを活用し、フィールドワークに関する情報の収集や整理、実施後の取りまとめやアウトプット能力を身につけることができるようになる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「広い視野と社会人としての教養を持ち、自らの職業生活、社会生活のあり方を設計できる学生」に基づき、知性と教養を備えた社会人として自立できる能力を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

事前課題の提出 25%  
 現地での研修取組み 25%  
 成果報告 20%  
 研修レポート 30%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

適宜、資料等を配布します。

#### 【参考文献】

日本の食生活全集47「聞き書 沖縄の食事」（農文協）

### 授業外学習

沖縄の生活、歴史、文化を理解できるように、新聞や雑誌掲載される記事、書籍およびテレビ番組などをおして、日頃から関心を持つこと。

### その他

実施時期は、2022年1月上旬（4泊5日を予定）。

参加人数は、10名程度。

実習費等は、概ね10万円（航空券代、宿泊費等含む）。

詳細は別途指示するので、掲示に注意すること。

他の授業科目も含め、無断欠席が多いなど、研修参加に不適切な行動や態度が見られる学生は参加を認めないことがあります。

この科目で養うDPに関わる能力：

科目名	ファッションビジネス
開講期・単位	1年 後期・選択 2単位・講義
担当者	畑 育実

### 講義の目的および概要

ファッションビジネスの世界を知り、専門知識、専門技法を習得し情報発信側として、ブランド立案、デザイン、スタイリング方法を実践することで、消費者行動とファッション生活の側面の理解を深める

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

テキストとプリントを使い、専門知識・技法を習得しブランド立案、デザイン、スタイリング方法など実践する

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

授業後の質疑応答の時間、振り返りシートを使い課題に積極的に取り組み、成果を審査しフィードバックを行う

### 授業計画

ガイダンス～ファッション業界とは。市場の変化について、トレンド感性  
TPO、美点凝視、5大コレクション

5大コレクション、コレクションのDVD視聴と解説、次週の準備について  
ファッションコーディネートの方法と提案(骨格、視覚効果について)  
トータルスタイリング(ヘアメイク、ネイル、衣装)のバランスと提案  
テーマ別トータルスタイリング(ヘアメイク、ネイル、衣装)の提案  
テーマ別トータルスタイリング(ヘアメイク、ネイル、衣装)の提案  
テーマ別トータルスタイリング(ヘアメイク、ネイル、衣装)の提案

トレンド・ブランドデザインの企画立案

トレンドスタイリングの企画

トレンドスタイリングの企画

トレンドスタイリングの企画

トレンドスタイリングの企画

授業内試験 トrendスタイリング企画コンテスト

授業内試験 結果発表と振り返り

週目以降にテレビ北海道見学の実施の場合、振替日有り

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

ファッションビジネスの世界の様々な職種と役割及び機能を理解し説明することができる。又スタイリング技法の習得とデザイン提案により、自主性、積極性、分析力、発信力が我々のファッション生活の一部になることを実践を通して理解し説得力ある提案ができるようになる

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

広義のファッション産業の一部である衣生活の実践を通してファッションビジネスに関わることで広い視野と社会生活のあり方の設計ができる

### 成績評価基準と方法

授業内試験60%(14週目実技40%、15週目振り返り20%)

小テスト20%(筆記、レポート又は振り返りシート)

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

#### 【参考文献】

### 授業外学習

**【具体的な内容】**

筆記：前回の授業内容から復習問題を出題

実践：取り組み姿勢・準備物・計画性(進行状況の確認と調整)・自主性

**【必要な時間】**

**その他**

JWCスタイリングサポーター資格認定試験(任意)講習料5,000円、認定料3,000円

科目名	カラーデザイン
開講期・単位	1年 前期・選択 2単位・講義
担当者	恩村 比呂子

### 講義の目的および概要

色彩理論を学び、色の活用方法を身につける。  
身の回りの色の使われ方に興味を持ち、配色を工夫することでイメージのコントロールが可能になることを演習を通して感じ取る。  
学んだ知識をファッションやインテリアの配色に活かして生活を豊かにする。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

配布するプリント資料に沿って講義形式と演習形式を織り交ぜて行う。  
配色カードと雑誌を使い、実際に色に触れながら配色技法を習得する。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

色彩理論の基本となる色見本を作成し授業内で解説を行う。  
イメージを表現するカラーージュを作成し授業内で解説を行う。

### 授業計画

ガイダンス・色のはたらき  
色の分類と三属性  
色の心理効果  
色の三属性「PCCS色相」（課題提出 /色相環図の作成）  
色の三属性「PCCS明度と彩度」「トーン概念」  
トーン配色（課題提出 /トーン別色相環図）  
色相配色  
配色技法と配色イメージ（課題提出 /商品の配色分析）  
ファッションと色彩  
インテリアと色彩（作品提出 /ファッションのイメージカラーージュ）  
アンダートーン分類とパーソナルカラー  
4シーズンカラー（課題提出 /アンダートーンカラーパレット）  
ファッションのイメージとプライダル  
パーソナルカラーのイメージ（作品提出 /4シーズンのイメージカラーージュ）  
作品発表と講評

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

色彩理論・配色の基本を理解し、意図するイメージ表現を的確に行うことができる。  
目的に沿ったカラーデザインを行うことができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DPにおける「広い視野と社会人としての教養を持ち、自らの職業生活・社会生活のあり方を設計できる学生」をめざす。

### 成績評価基準と方法

課題提出（40%）  
作品提出（40%）  
毎回の授業振り返りシート（20%）

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

適宜プリントを配布する。

#### 【参考文献】

「色彩検定公式テキスト3級編」「パーソナルカラリスト検定3級公式テキスト」

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

日ごろから身の回りの色に積極的に触れることを勧める。商品パッケージ、よく利用する店舗のディスプレイ、雑誌の表紙デザイン、企業広告など色を使って表現している物全てが教材となる意識で注目する。

#### 【必要な時間】

日常的に色の使われ方を意識することで色彩感覚は確実に向上する。

### その他

色彩検定、パーソナルカラリスト検定の内容を含む。  
授業のために各自が用意するもの：はさみ、のり、雑誌...配色演習、カラーージュ作成  
「新配色カード199a（780円+税）」...色彩基本図作成、配色演習

科目名	ブライダル実務
開講期・単位	1年 後期・選択 1単位・演習
担当者	石井 愛彩

### 講義の目的および概要

ブライダルの基本的な知識として、挙式・披露宴・衣裳などについて学習します。また、ブライダルのマナーを習得します。ブライダル業界の研究およびウェディングプランナーを目指す学生には、基礎学習にもなります。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

パソコン・プロジェクターを用い講義形式で進めます。実際の結婚式などの映像を見て学ぶことも出来ます。

また、毎回テーマを与え、ディスカッションを行い能動的な授業を目指します。さらに、フィールドワークとして、ホテル内のチャペルを使用し「模擬キリスト教式」を行います。なお、新郎新婦役は学生がモデルを行います。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

ウェディングプランナーとして実務経験のある教員が、ブライダルについての知識、習慣、マナー等について実例を豊富にあげ講義を行います。

### 授業計画

ガイダンス  
 結婚式までのスケジュール  
 結納  
 挙式  
 披露宴  
 会費制祝賀会  
 熨斗・水引  
 六輝  
 実際の挙式・披露宴（DVD放映）  
 料理・飲物の知識  
 衣裳  
 ゲストとしての心構えとマナー  
 ホテルでの模擬キリスト教式  
 まとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

ブライダルに関する基礎知識の習得。結婚する側あるいはゲストとして参列する場合のしきたりやマナーの習得。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

広い視野と社会人としての教養を持ち、自らの職業生活・社会生活のあり方を設計できる学生に学位を授与する。」に基づき、結婚式と云う華やか且つ厳粛な場で、社会人として正しい知識やマナーを身につける。

### 成績評価基準と方法

小テスト30%、定期試験70%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

教科書は使用せず、配布するプリントを用います。

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

SNSやニュースなどでブライダルの話題に興味・関心を持つ。

### その他

模擬キリスト教式およびホテル見学時に、ホテル内での昼食代として2,500円程度の自己負担があります。

科目名	ビジネス文書
開講期・単位	1年 前期・選択 1単位・演習
担当者	和田 早代、小林 純

### 講義の目的および概要

ビジネスの場ではメール、報告書や依頼状など、様々な文書が存在します。さらに、情報発信の多くはWeb上で行われ、ホームページやフェイスブックなどは重要な情報ツールとして活用されています。これらを利用する際には、情報発信に相応しい言葉や表現の使い分けが必要になります。本授業では、話し言葉では使用しない慣用表現など、ビジネス文書特有の文書を理解するため、文書作成の基本と応用を学びます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

授業は演習方式で、パソコンを使用した文書作成、また手書きでの文書作成を行います。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

提出された課題、宿題を個別に評価し、返却することでフィードバックとします。また、全体的な解答傾向についても説明を行います。

### 授業計画

ガイダンス  
 ファイル管理、Web文書管理  
 社会人としてのメールの書き方  
 社内文書の書き方(1)  
 " (2)  
 社外文書の書き方(1)  
 " (2)  
 " (3)  
 中間まとめ  
 はがき、封筒の書き方、通信の知識  
 お礼状、送付状の書き方  
 総合実践(1)  
 " (2)  
 " (3)  
 ビジネス文書技能検定3級試験、ふりかえり

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

ビジネス文書に必要な表記、表現ができる。  
 ビジネス文書(社内・社外文書)を作成できる。  
 ファイル、データ管理ができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「生活創造と就業に必要な基礎的知識、技能およびそれを基にした専門知識、技能を修得」、「広い視野と社会人としての教養を持つ」ことに関連しています。

### 成績評価基準と方法

毎回の提出物 50%  
 ビジネス文書技能検定3級試験 30%  
 慣用表現テスト 20%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

適宜、プリントを配布します。

#### 【参考文献】

ビジネス文書技能検定公式テキスト

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

授業では、普段の会話で使用することがあまりない表現が多く出てきます。分からない用語は必ず事前に学習、また復習(宿題)を行ってください。

#### 【必要な時間】

事前事後の学習時間は、およそ1-2時間程度です。

### その他

上級秘書士、上級秘書士(メディカル秘書)、ビジネス実務士の選択科目です。

科目名	オフィス総論
開講期・単位	1年 後期・選択 2単位・講義
担当者	和田 早代

### 講義の目的および概要

広義のオフィス場面を想定して、顧客に対する心構え、言葉遣い、上司と部下とのコミュニケーションなどの理解を深めます。  
企業のサービスの事例をもとに、企業の顧客満足経営とホスピタリティの理解を深め、対人心理や対応の技術を学び、おもてなしの心とかたちを身に付けます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

秘書の実務経験のある教員が、上司とのコミュニケーションや、顧客との対応能力を高めるために、敬語ドリルを毎回実施し、社内と社外のコミュニケーションの理解を深めます。また、企業のサービス事例をもとに、オフィスにおける顧客満足経営とホスピタリティサービスを学び、対人心理や対応技術を身に付けます。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、学内共有フォルダを通じて資料を配布します。

### 授業計画

ガイダンス、笑顔で変わるVTR  
ビジネスとサービス活動（北海道の宿泊産業）  
ホスピタリティの段階（ハートフル）・チームワーク（作文）  
ビジネス活動とサービスのかかわり  
会社訪問とスケジュール管理  
おもてなしの極意（なつめ）  
ストレス対応・エゴグラム  
チームの問題解決（宇宙）  
労働意識の変化と迷い・チームワーク（会社合併）  
サービス能力を身につける（ホテル・旅館）  
自己啓発について考える（ガネーシャ）  
CS（顧客満足）の重要性  
仕事のシチュエーション・ロールプレイング  
サービスは現場で創造される（飲食業）  
まとめと試験

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

ビジネス常識やコミュニケーション、情報の活用法など、将来職業人として適応するために必要な知識を身に付けて企業の即戦力となること。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立して生きていくための社会人基礎力を身に付けている学生にが浮きを授与する」に基づき、就業に必要な基本的知識と技能を修得し、社会人としての教養の獲得や社会生活のあり方を設計し、多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力を身に付けます。

### 成績評価基準と方法

レポート40%  
小テスト30%  
その他提出物30%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

適宜プリントを配布します。

#### 【参考文献】

「ビジネス実務総論」全国大学実務教育協会  
「ハートフル・ビジネスマナー」JTB総合研究所

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

今回の授業範囲について、専門用語の意味などをノートにまとめてきてください。また、毎回の授業内容の復習問題を冒頭で出題します。必ず前回の授業内容を振り返り、ポイントや重要事項を復習ノートにまとめてください。

#### 【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

### その他

オフィスコース必須科目です。

科目名	世界の中の日本
開講期・単位	1年 前期・選択 2単位・講義
担当者	森 順子

### 講義の目的および概要

本講義の目的は、日本についての理解を深め、世界の諸国家との比較の中で、我が国の特徴や特異性を理解することです。

地図帳やデータなどを活用し、グローバルな視点を増やして我が国を見つめることで、日本の良さや課題を知る機会をつくります。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

基本的にはテキストや配布資料を用いた講義形式で実施しますが、内容によってディスカッションも行います。毎回講義のリフレクション（振り返り）シートを記入し、理解度を確認します。必要に応じてテーマに応じた課題レポートを作成、提出します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題レポートについては、講義で解説し、フィードバックします。

### 授業計画

オリエンテーション  
 世界の中の日本の位置（領土）  
 世界の中の日本の自然  
 世界の中の日本の人口（高齢化・出産育児）  
 世界の中の日本の文化1（習慣・宗教）  
 世界の中の日本の文化2（世界遺産・スポーツ）  
 世界の中の日本の農業・食  
 世界の中の日本の産業・資源  
 世界の中の日本の経済  
 世界の中の日本の教育事情  
 世界の中の日本の情報（通信・ネットリテラシー）  
 世界の中の日本の環境問題  
 世界の中の日本の歴史  
 世界の中の日本の課題  
 まとめ・授業内期末試験

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

世界や諸地域と比較しながら、日本の特徴や特異性を理解することができる。  
 地図や統計資料などから日本を分析することができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

本講義は、短大が求める「教養に関する広い知識を授ける」ことを目的とする「社会人基礎力」育成のためのものです。学科が求める「広い視野と社会人としての教養」を身につける一環として行われます。

### 成績評価基準と方法

毎時の出席率 30%  
 毎時のリフレクション（振り返り）シート30%  
 授業内期末試験（レジュメ持ち込み可）40%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

- ・毎時のレジュメ、各テーマの課題レポート配布
- ・「なるほど図帳世界2021 ニュースがわかる世界知図」昭文社

#### 【参考文献】

- ・地図帳や各種旅行記など

### 授業外学習

**【具体的な内容】**

事前学習では、授業内容に応じたテキストの読み込みを行ってください。  
事後学習では、毎時の授業内容を復習し、配布したレジюмеをまとめておいてください。なお、試験ではレジюмеを持ち込むことができます。  
日ごろからニュースを見て、世界や日本の動向をチェックしておくとう理解が深まります。

**【必要な時間】**

個人の取り組みペースによりますが、資料の整理などに1~2時間程度の時間が目安となります。

**その他**

講義内でディスカッションをする機会があるので、自分の意見を伝えられるようにすることを期待します(正解不正解はありません)。また、他の方の意見をしっかり聴くことで視野が広がります。

欠席すると課題レポートの提出ができなくなり、評価にも影響するので注意してください。

科目名	ボランティア
開講期・単位	1年 後期・選択 2単位・講義
担当者	石田 麻英子、遊佐 順和

### 講義の目的および概要

社会的弱者、障がい者、被災者などボランティア活動を必要としている人々が沢山います。また、北海道を訪れ、滞在する外国人の方々も、異なる言語文化圏で手助けを必要としています。オリンピックなどのボランティアのように、レベル、色々なボランティア活動や慈善事業に取り組んでいます。本講義では、こうした取り組みの実態を様々なケーススタディから学び、理解を深めることを目指します。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

毎回配布するレジュメや資料、パワーポイント等を用いて、様々な事例を基に学習しながら、ディスカッションやグループワークに取り組みます。また、実際に活動に参加してみて、ボランティアの課題や将来について考察します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

提出された課題は、教員がすべて読み、メールで、又は中間報告の際にフィードバックを行う。

### 授業計画

オリエンテーション 私たちとボランティア：ディスカッション  
 ボランティアとは  
 地域とボランティア  
 ボランティア活動に参加してみよう  
 活動に向けての準備  
 ボランティアの現状1（国際協力）  
 ボランティアの現状2（国際協力）  
 中間報告と問題共有  
 ボランティアの現状3（地域）  
 ボランティアの現状4（地域）  
 中間報告と問題共有  
 ボランティアを継続するために：ディスカッション  
 ボランティアとこれからの社会  
 総合報告会  
 まとめとフィードバック

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

ボランティアの様々な事例を通じて現状や課題を理解し、その内容をまとめ、自身の意見も含めて分かり易く説明することができる。ボランティアをテーマに、共同作業する能力やコミュニケーション能力を身につけ、グループワークに積極的に取り組むことができる。生涯にわたってボランティア活動に参加するための基礎知識を得る。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

広い視野と社会人としての教養を持ち、自らの社会生活の在り方を設計できる。多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力及び課題を発見し解決する能力を身につける。

### 成績評価基準と方法

個人レポートブック 15×3=45%  
 ディスカッション、グループワーク、授業ワークシート 30%  
 期末レポート 25%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

記録をつけるためのワークブックとプリントを配布します。

#### 【参考文献】

### 授業外学習

予習・復習としては、授業内容に関連する文献資料を自分で調べて報告する準備作業と、講義内容を振り返りまとめる作業に取り組んでもらいます。調査に1時間、振り返りに1時間程度かかります。

場合によっては、夏期休暇中に、体験を行っていただく（予習）ことも考えています。

### その他

ボランティアに興味があり、人のためになる活動や社会貢献に意欲的な学生の受講を期待します。授業などで紹介する団体からのボランティア活動情報の他、学内外でのイベントボランティアも活動の一つと認めます。(学内のものだけでは認められません)  
コロナウイルスの状況によっては授業内容を変更します。

科目名	社会保障
開講期・単位	1年 前期・選択 2単位・講義
担当者	大野 慶

### 講義の目的および概要

社会保障の概念、理念、対象、機能、歴史的展開、制度の概要・基本構造に関する基本的知識を学修していく。これらの学修を通じて社会保障の課題についても考察していく。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

講義方法は以下のとおりである。

- 1) 講義形式を基本とする。ただし必要に応じて視聴覚教材を用いることもある。
- 2) レジユメとその他資料を配布する。
- 3) リアクションペーパーの提出を求める。提出されたリアクションペーパーに対しては必要に応じて応答する。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたリアクションペーパーについては、講義前半に紹介・応答する時間を設ける。

### 授業計画

社会保障の概念・機能・理念  
 社会保障の成立と展開  
 社会保障の財政  
 社会保障制度の基本構造(1) 社会保険  
 社会保障制度の基本構造(2) 社会手当・公的扶助・社会福祉  
 まとめて小テスト  
 医療保険  
 介護保険  
 年金保険  
 労働保険  
 まとめて小テスト  
 社会手当  
 公的扶助  
 社会福祉  
 まとめて小テスト

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

到達目標は以下のとおり。

- 1) 社会保障の概念、理念、対象、機能。歴史的展開について説明できる。
- 2) 社会保障制度の基本的な構造、概要、課題について説明できる。
- 3) 自らの日常生活と関連させながら社会保障の諸制度の課題について考察できる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

以上は、札幌国際大学短期大学部卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)のうち、「生活創造と就業に必要な基本的知識、技能およびそれを基にした専門知識、技能を習得した学生」、「広い視野と社会人としての教養を持ち、自らの職業生活・社会生活のあり方を設計できる学生」になるためには、不可欠なものである。

### 成績評価基準と方法

成績評価基準と方法は以下のとおりである。

- 1) 授業内試験(50%)
- 2) 出席(50%)

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

原則使用しない。講義方法2) のとおりレジユメと関係資料を配布して講義を行う。

#### 【参考文献】

適宜紹介する。

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

事前学習では「社会福祉」「社会保障(論)」「社会政策」と冠したテキストを購入するとよい。適宜紹介する参考文献も併せて読まれたい。また、常日頃からニュース・新聞報道に目を通されるとよい。事後学習では配布されたレジユメやその他資料を見直しながらノートを作成するとよい。

#### 【必要な時間】

事前事後学習はそれぞれ2時間程度を目安とする。

### その他

その他注意してほしいことは以下のとおり。

- 1)十分に事前事後学習をしておくこと。
- 2)授業態度としては常に「問い」をもって臨むこと。
- 3)他受講生への配慮の観点から私語は慎むこと。

科目名	プレゼンテーション基礎
開講期・単位	1年 前期・選択 1単位・演習
担当者	小林 純、石田 麻英子

### 講義の目的および概要

人前で自らの意見を述べ、相手に伝える・説得する...プレゼンテーションは、現代社会では必要不可欠なスキルといえます。ビジネスの場だけでなく、授業内や日常生活においても、相手に「伝える」場面は多々あるものです。本科目では、人前で発表するという慣れのため、数回に渡りプレゼンテーションを実演します。また、他科目の授業でも技術が応用できるよう、意識して授業を進めます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

理論的な講義解説と、演習（プレゼンテーション）を組み合わせ、プレゼンテーションに必要なスキルを身につけていきます。

特に、この授業ではコンピュータを使わずに発表することを目的として、人前で話すことに慣れてもらい、また資料を効果的に用いて表現することを学びます。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

学生相互によるパフォーマンス評価、また授業内で全員に共通する要素をフィードバックするとともに、個別に添削、及びコメント評価を行います。

### 授業計画

以下のような流れで授業を展開する予定ですが、進度により内容を調整することもあります。

ガイダンス：プレゼンテーションとは何か  
 実習：自己紹介プレゼンテーション  
 発想の仕方：KJ法やブレインストーミング  
 実習：短時間スピーチによるプレゼンテーション  
 実習：プレゼンテーションの実施  
 振り返り：スピーチの振り返りと、口頭表現で伝える技術  
 視覚資料：なぜプレゼンテーションには視覚資料が有効なのか  
 構成：より効果的なプレゼンテーションを行うには  
 表現の仕方：数字、色、図表...  
 実習：フリップを使用したプレゼンテーション  
 説明するということ：相手に物事を伝えるとは  
 準備：情報収集とポスターの作成  
 演習：リハーサル的重要性  
 実習：ポスターセッションでのプレゼンテーション  
 まとめ：ここまで学んだことを振り返ってみよう

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

プレゼンテーションを理解し、必要な技術を身につける。  
 ストーリーを論理的に組み立て、相手を説得するための資料を作成できる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「生活創造に必要な技能」、「就業に必要な技能」、「多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力」に関連しています。

### 成績評価基準と方法

発表の様子・技術 40%  
 発表内容 40%（視覚資料・原稿など）  
 授業内における提出物 20%

以上の成績評価基準をベースとして、各演習・発表毎に配点します。

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

「30時間でマスター プレゼンテーション + PowerPoint2019」  
 編：実教出版企画開発部 実教出版

その他、適宜プリント等を配布します

#### 【参考文献】

### **授業外学習**

プレゼンテーション実習に関する準備活動（資料の作成・練習）に、少なくとも2時間程度の準備が必要となると考えられます。特にプレゼンテーションの完成度は、リハーサル・練習の回数によって大きく変化します。授業時間内では時間を取ることが難しいので、発表前に個々で準備をしてください。  
また、プレゼンテーション後の提出物の作成などでは、1時間程度が目安となります。

### **その他**

毎回の授業の資料をまとめ復習し、次の回に役立ててください。次回の授業までに課せられた、または自ら設定した課題を予習として達成しておくようにしてください。多く出版されている、プレゼンテーションに関する書籍は、授業の理解を助けます。

科目名	プレゼンテーション応用
開講期・単位	1年 後期・選択 1単位・演習
担当者	小林 純、石田 麻英子

### 講義の目的および概要

春学期に学んだプレゼンテーションに関する技術・知識を活用し、また基本的な理論を学ぶことで発表のクオリティを高める、「よりよい実践的プレゼンテーション」を重視して、コミュニケーション力をアップすることを目指します。発表時の振る舞いや、環境・TPOに合わせたプレゼンテーションの実施、そして発表の場をプロデュースすることを目的に授業を進めます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

春学期と同様に、講義説明+演習(プレゼンテーション)の組合せです。秋学期では、コンピュータによるスライドショーソフトウェアを利用して資料を作成することや、グループワークを中心に進めます。また、プレゼンテーションだけでなく、発表会の運営なども考えていきます。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

学生相互によるパフォーマンス評価、また授業内で全員に共通する要素をフィードバックするとともに、個別に添削、及びコメント評価を行います。一部の演習では、学外審査員にご協力をお願いする予定です。

### 授業計画

以下のような流れで授業を展開する予定ですが、進度により内容・順序を変更することもあります。

秋学期ガイダンス：スライドの工夫を考える  
 演習：気になるニュースをスライドにまとめてみる  
 実習：スライドショーを利用したプレゼンテーション  
 振り返り：スライド実習のフィードバック  
 演習：簡単な映像制作によるプレゼンテーション・チーム分け  
 演習：ストーリーの構成と取材計画の作成  
 演習：動画の作成と編集  
 実習：地元(きよたスイーツ)の魅力映像で紹介してみよう  
 講義：映像発表のフィードバック/発表会を運営する  
 演習：チームプレゼンテーション・チーム分け  
 演習：説得力のある構成を考える  
 演習：魅力あるスライドの作成と編集/リハーサル  
 実習：チームプレゼンテーションと発表会の準備・実施  
 実習：チームプレゼンテーションと発表会の準備・実施  
 まとめ：もう一度、プレゼンテーションとは何かを考える

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

プレゼンテーションによる表現、伝達の効果、目的を学び、実践に活かすことができる。

プレゼンテーションの効果的な発表場面を選択し、また自ら創造することができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「生活創造と就業に必要な基礎的知識、技能およびそれを基にした専門知識、技能」  
 「広い視野と社会人としての教養」「多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力」に関連した内容です。

### 成績評価基準と方法

発表の様子・技術 40%  
 発表内容 40% (視覚資料・原稿など)  
 授業内における提出物 20%

以上の成績評価基準をベースとして、各演習・発表毎に配点します。

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

「30時間でマスター プレゼンテーション + PowerPoint2019」  
 編：実教出版企画開発部 実教出版

その他、適宜プリント等を配布します。

### 授業外学習

**【具体的な内容・必要な時間】**

プレゼンテーション実習に関する準備活動（資料の作成・練習）に、少なくとも2時間程度の準備が必要となると考えられます。特にプレゼンテーションの完成度は、リハーサル・練習の回数によって大きく変化します。授業時間内では時間を取ることが難しいので、発表前に個々で準備をしてください。

また、プレゼンテーション後の提出物の作成などでは、1時間程度が目安となります。

その他 毎回の授業の資料をまとめ復習し、次の回に役立ててください。次回の授業までに課せられた、または自ら設定した課題を予習として達成しておくようにしてください。

**その他**

多く出版されている、プレゼンテーションに関する書籍は、授業の理解を助けます。また、授業以外の時間での作業が必要になります。コンピュータ操作に慣れていない人は特にスライドの作成に時間が必要になるでしょう。

科目名	Basic English
開講期・単位	1年 前期・選択 1単位・演習
担当者	廣山 メアリー、石田 麻英子

### 講義の目的および概要

今まで学習してきたであろう「試験・入試」を目的とした学び方ではなく、「実際に使う、何とか通じる」を目指して、今までと異なる方向性から英語をやり直すための授業です。使う目的で文法を見直し、ゲームやアクティビティを通して実際にどんどん使うことで、定着を図ります。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

説明、解説の時間も取りますが、基本的にはどんどん声を出し、使ってもらう活動、アクティビティがメインになります。単語は授業で発音練習します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

アクティビティワークや課題は、個別にチェックフィードバックを行う。

### 授業計画

Let's get started!! 英語授業の紹介、英語が広げる世界

とにかく声を出してみよう!

音と意味をリンクさせる

海外旅行に行こう&会話アクト準備開始

海外旅行に行こう会話アクト

架空の人物のプロフィール

架空の人物のプロフィール ゲームアクト

パーティに参加してみよう

英語ゲームを作ってみよう

英語ゲームを作ってみよう

単語帳を作ってみよう

単語帳を作ってみよう

期末実演試験準備、発音チェック

期末実演試験

まとめと最終Activity

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

- ・基礎的な英文法、特に語順に慣れ、適切な場面で発話できる
- ・ポイントを押さえた正しい発音で、英語を声に出すことに抵抗感をなくす
- ・日常生活における身近な様々な表現を、英語でどういうのかを知り、できる限り覚えて運用できる。
- ・海外に興味を持ち、英語を学んで外に出かけたいというモチベーションを持てる

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力及び課題を発見し解決する能力を身につける

### 成績評価基準と方法

Comment mail, mini quiz Reading Commentとミニクイズ50%

Final Exam 期末実演試験 50%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

ワークシートを配布、manabaを利用します。

#### 【参考文献】

辞書を使用することもあります。今までに持っているものや、電子辞書、Weblioなどのインターネット辞書でも可能です。

### 授業外学習

授業で学んだ単語をできる限り覚えてきてもらう(ゲームやアクティビティのために必要になります)こと、多読テキストを読んで記録をつけること。最低でも1時間以上の準備学習が必要になります。

Mary Schoolの公式ページから、単語の動画を使って練習しておく方法でも学習できます。

### その他

最も英語が苦手だった人にぜひ履修してもらいたいレベルの科目です。  
声に出し、発音練習なども行います。  
薄い本を授業外でたくさん読んで、読書記録をつけます。

科目名	ベーシックスキルズ
開講期・単位	1年 前期・選択 1単位・演習
担当者	小林 純、石川 智寛

### 講義の目的および概要

これから大学で学ぶ、また社会人として社会生活を進めて行くにあたって、必要となる知識・技能を学びます。この科目で学ぶ内容は、高校までに学んだ経験があるもの、もしくはその発展になります。

#### Section1 SPI対策

社会生活・就業で必要となる「言語能力」「非言語能力（計数能力）」に注目し、特に就職試験に関係する知識・技術を学びます

#### Section2 レポートの考え方

大学でレポートを書く際に必要となる考え方を学び、レポート執筆の「作法」を学びます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

演習形式で、説明 課題の実施 解答・振り返りを繰り返します。

課題によってはグループで考える形式や、ディスカッションを用いることもあります。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

個別に返却すると同時に、授業の冒頭において全体への説明を行います。

### 授業計画

#### ガイダンス

#### Section 1 言語能力、非言語能力（計数能力）の向上を目指す

SPI3基本演習 No.1（同意語、四則演算）

SPI3基本演習 No.2（対義語・反対語、代入法、表の読取り）

SPI3基本演習 No.3（二語の関係、損益計算）

SPI3基本演習 No.4（語の意味、代金精算）

SPI3基本演習 No.5（敬語問題、速さ・時間・距離）

SPI3基本演習 No.6（ことわざ・慣用句、濃度）

まとめ・テスト

#### Section 2

レポートとは何か？ / レポートの構造

論理的に考える

テーマはどう作る？

テーマからの論理的展開

剽窃の問題点 / 引用の仕方

レポートを書いてみよう

まとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

工作上必要となる「判断力」「速さ」「正確性」といった仕事の遂行能力を高める。

レポートの作成を通し、論理的思考力、文章での説明力を身に付ける。

剽窃の問題点を理解し、オリジナリティの重要性を知る。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「生活創造と就業に必要な基礎的知識、技能およびそれを基にした専門知識、技能を修得」に関連しています。

### 成績評価基準と方法

この授業は定期試験を行いません。その代わりに、單元ごとの小テストや、毎回の課題提出で成績を評価します。

授業内での課題 80%

SPI3テスト 20%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

適宜、プリントや資料を配付します。

ファイリングをして、整理してください。

#### 【参考文献】

石川マキ著 株式会社イプス「文系女子のためのSPI3突破大作戦テキスト&問題集」

7就職対策研究会著 高橋書店「7日できる！SPI【頻出】問題集」

柳本新二著 高橋書店「最新！SPI3【完全版】」

## **授業外学習**

### **【具体的な内容】**

大学でのリサーチリテラシーや初年次教育に関わる書籍は、授業の理解を助けます。図書館や書店にもありますので、各自で探してみましょう。

### **【必要な時間】**

宿題や課題の完成のために1時間程度の学習が目安となります。

## **その他**

科目名	コンピュータ統計
開講期・単位	1年 後期・選択 1単位・演習
担当者	小林 純

### 講義の目的および概要

社会に出た後、グラフや表を読み取る力、作成する力は必須となります。そのもととなる数字に着目して、統計資料の読み方や活用方法を通して、北海道の姿を統計資料から概観します。  
私たちが生活する北海道のリアルな数字を読みこなし、社会に貢献するための基礎的な知識を得ることを目的とします。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

教員からの講義・説明の後、課題にしたがって作業を行います。  
個人で作業するだけでなく、数人のチームによるグループワークをしてもらうこともあります。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題の完成度等について、個別に評価・コメントを行います。  
また、全体的講評を授業の冒頭に行い、フィードバックとします。

### 授業計画

以下のような授業の流れを予定しています。  
進度により、内容・順序を変更することがあります。

ガイダンス：統計とはなにか  
実際に統計資料を読んでみる  
基礎的な統計量を知る 平均・中央値・最頻値  
基礎的な統計量を知る 度数分布とヒストグラム  
Excelで統計資料を操作する 統計に関する関数  
基礎的な統計量を知る 標準偏差と変動係数  
Excelで統計資料を操作する 統計に関する関数  
基礎的な統計量を知る 相関係数  
分析ことはじめ パレートの法則とABC分析  
アンケート調査に必要なこと  
アンケート調査票、分析表をつくる  
Excelを使ったアンケート分析 クロス集計  
Excelを使ったアンケート分析 相関  
演習問題 統計資料から北海道の現状を考えよう  
まとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

Excelを使用した表やグラフを作成することができる。  
一般に公開されている統計資料を読み、事象を説明することができる。  
統計資料をもとに、北海道・日本を比較して、現状を知ることができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「生活創造と就業に必要な基礎的知識、技能およびそれを基にした専門知識、技能を修得」、「広い視野と社会人としての教養を持つ」、「課題を発見し解決する能力を身に付け北海道に貢献できる」ことに関連しています。

### 成績評価基準と方法

以下の配点で総合評価を行います。

課題の提出・内容・宿題 70%  
小テスト・まとめ課題 30%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

教科書は指定せず、プリントを配布します

### 授業外学習

**【具体的な内容】**

コンピュータを使用して統計の操作を行うので、ブラウザの利用や表計算ソフトはある程度使える状態にしておいてください。  
毎回の課題をきちんとこなして提出することが重要です。未提出の課題は採点されませんので、授業後に必ず提出しましょう。

**【必要な時間】**

授業の復習や宿題の作成のために1時間程度の学習が目安となります。

**その他**

科目名	Basic Conversation
開講期・単位	1年 前期・選択 1単位・演習
担当者	エレナ フォルトゥナート

### 講義の目的および概要

This class will be held mostly in English and will focus on developing the students conversational skills. During the classes, students will learn new vocabulary and will use the new words in role plays, short descriptions of daily routines, dialogues and other conversational activities.

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

This course will require students to actively communicate among each other during group discussions and pair dialogues. They will also perform role plays of common daily events. In each lesson there will be specific vocabulary to learn and practice through 1)speaking, 2)reading, 3) listening, activities. Students are expected to active participate in all aspects of the class.

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

The instructor will provide constant (general and specific) feedback during the lessons during all aspects of the developed activities.

### 授業計画

Orientation.  
 Unit 1: You and Me 1 - Meeting and Greeting People.  
 Unit 1: You and Me 2 - Dialogues and Role Play.  
 Unit 2: Growing Up 1 - Answering Questions.  
 Unit 2: Growing Up 2 - Past Tense.  
 Unit 3: At Home and at School 1 - Prepositions.  
 Unit 3: At Home and at School 2 - Frequency Expressions.  
 Practicing Vocabulary and Expressions.  
 Vocabulary test.  
 Unit 4: Going Out 1 - Making Plans.  
 Unit 4: Going Out 2 - Role Plays.  
 Unit 5: Food and Drink 1 - Likes and Dislikes.  
 Unit 5: Food and Drink 2 - Ordering in a Restaurant.  
 Practicing Vocabulary and Expressions.  
 Review and Final Exam.

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

- 1) Learning new vocabulary and using it during daily conversational activities.
- 2) Developing the skill to formulate/express ideas and feelings in English.

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

### 成績評価基準と方法

Final exam: 40%.  
 Mid-term test: 20%.  
 Class participation (discussions, role plays, descriptions): 20%.  
 Homework and weekly short quizzes: 20%.

### テキスト・参考文献

**【テキスト】**

Take it Easy: Talking Naturally and Confidently.  
Herman Bartelen.  
Cengage Learning.

**【参考文献】**

**授業外学習**

**【具体的な内容】**

Students should do the readings concerning the material given in the class.  
Review vocabulary learned and use it to prepare little texts for the class.

**【必要な時間】**

1-2 hours/week.

**その他**

It is important that students learn the vocabulary given every class and  
prepare to use it during the class activities.

科目名	Conversation
開講期・単位	1年 後期・選択 1単位・演習
担当者	エレナ フォルトゥナート

### 講義の目的および概要

This class will be held entirely in English and will focus on enhancing and expanding the students conversational skills and abilities. During the classes, students will learn new vocabulary and expressions, use the new structures in role plays, descriptions of daily routines, discussions and other conversational activities.

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

This course requires that students actively communicate among each other during pair and group discussions. They will also be required to perform role plays and record speeches. In each lesson there will be specific structures (vocabulary and grammar) to learn and practice through 1) speaking, 2) reading, 3) listening activities. Students are expected to active participate in all aspects of the class.

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

The instructor will provide constant (general and specific) feedback during the lessons during all aspects of the developed activities.

### 授業計画

Orientation.  
 Unit 6: The Future 1 - Future Tense.  
 Unit 6: The Future 2 - Agreeing and Disagreeing.  
 Unit 7: Travel 1 - Locations.  
 Unit 7: Travel 2 - Directions.  
 Unit 8: Entertainment 1 - Giving Information.  
 Unit 8: Entertainment 2 - Free Time Fun.  
 Interview and Vocabulary test.  
 Unit 9: Staying Healthy 1 - Health Routines.  
 Unit 9: Staying Healthy 2 - Instructions.  
 Unit 10: People I Know 1 - Describing People.  
 Unit 10: People I Know 2 - Describing Personalities.  
 Unit 11: Entertainment 1 - Making Phone calls.  
 Unit 11: Entertainment 2 - Formal and Informal Phone Calls.  
 Review and Final Exam.

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

- 1) Learning new vocabulary and using it during daily conversational activities.
- 2) Developing the skill to formulate/express ideas and feelings in English.
- 3) Developing the skills to discuss and express own opinions in English.

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

### 成績評価基準と方法

Final exam: 40%.  
 Mid-term test: 20%.  
 Class participation (discussions, role plays, descriptions): 20%.  
 Homework and weekly short quizzes: 20% .

### テキスト・参考文献

**【テキスト】**

Take it Easy: Talking Naturally and Confidently.  
Herman Bartelen.  
Cengage Learning.

**【参考文献】**

**授業外学習**

**【具体的な内容】**

Practice readings concerning the material given in the class. Prepare for discussions by researching topics and reviewing the structures learned.

**【必要な時間】**

1-2 hours/week.

**その他**

Students should prepare well before coming to the class. They should research the topics for the discussions and prepare for them.

科目名	Food & English
開講期・単位	1年 後期・選択 1単位・演習
担当者	廣山 メアリー、石田 麻英子

### 講義の目的および概要

私たちにとって最も身近な素材、「食」を通じて、英語の表現を学び、運用能力を高める授業です。日常生活で使うもの、感じることに関する表現を覚え、使えるようにします。北海道観光に来る旅行者にとっても海外旅行に出かけるときも、食は最も大きな魅力の一つです。簡単な英語で、食に関するやり取りができるように学びましょう。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

講義形式を挟みつつ演習形式メインで行います。五感を通じて覚え、使ってみることで表現を定着させていく活動が多いでしょう。英語でレシピを書いたり読んだりもします。(実演もします)英語を声に出すことが多い授業です。実食、実演も行います。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

基本的にアクティビティメインで行います。

### 授業計画

オリエンテーション World Food  
 レシピ1のための単語学習  
 レシピ1 デモンストレーション  
 レシピ2のための単語練習  
 レシピ2 デモンストレーション  
 単語の復習と使える表現  
 レシピ3のための単語学習  
 レシピ3 デモンストレーション  
 レシピ4のための単語学習  
 レシピ4でモンストレーション  
 単語の復習と使える表現  
 My Favorite Food 準備  
 My Favorite Food 準備  
 My Favorite Food 発表  
 Food & Communication まとめフィードバック

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

英語で簡単な料理のレシピ紹介ができる。  
 味や食感、食べ物に関する英語表現をできるだけたくさん覚えて使えるようにする。  
 英語で書かれたレシピを読み、料理ができるようにする。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

生活創造に関する知識、視野を広げる、多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力をつける  
 成績評価基準と方法

### 成績評価基準と方法

Cooking Book 50%  
 小テスト30%  
 デモンストレーション、プレゼンテーション20%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

特にありませんが、メモ用の用紙とCooking Bookをお配りします。最終的に自分用のマニュアルとして機能させるため保存しておくべき授業資料はすべて、メモ帳に転記して保存することをお勧めします。

### 授業外学習

毎回の授業の資料をまとめ復習すること。次回用に課せられた予習課題をクリアしておくこと。1時間以上の時間が必要になります。  
 単語や表現を覚えることは、皆さん自身にしかできません。日常から目にするもの、感覚することを、英語で思い出せるようにしましょう。また、これを何と知るか知りた、という項目を探し出しておくことも、立派な授業外学習です

### その他

文法は中学レベルのものしか使いませんが、内容でいうと の科目になりますので、 の科目で補強してから受講するのが望ましいです。

科目名	業界知識
開講期・単位	1年 前期・選択 2単位・講義
担当者	和田 早代、小林 純

### 講義の目的および概要

本講義では、将来の就業に備えて社会には様々な業界、会社があることを理解し、その役割、規模別・運営形態別の仕組みや特徴を学びます。その上で、情報収集の仕方、志望する業界・会社で求められているスキルについてもわかりやすく解説し、社会人になるために準備すべき企業の知識を理解できるようにします。また、実際に会社を訪問することで、座学で学んだ知識を深めることができます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

会社の仕組みを理解するとともに、業界別に会社研究を行ないます。また、会社説明会へも参加して、自分に合った業界や職種を絞り込んでいきます。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、フィードバックについても授業内で直接行います。

### 授業計画

ガイダンス  
 社会の現状と短大生の進路  
 会社のしくみ  
 職種研究  
 業界・会社研究（食品）  
 業界・会社研究（建設・製造）  
 業界・会社研究（流通・小売）  
 業界・会社研究（運輸・観光）  
 業界・会社研究（金融・マスコミ）  
 業界・会社研究（サービス・アパレル）  
 個別企業研究(1)  
 " (2)  
 グループディスカッション  
 発表準備  
 発表会とまとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

業界分析のための情報を収集し、その情報をまとめることができる。

自ら調べ、まとめたものをわかりやすく伝えることができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DPにおける「広い視野と社会人としての教養を持ち、自らの職業生活・社会生活のあり方を設計できる学生」を目指します。

### 成績評価基準と方法

最終発表会 40%  
 授業内提出物 40%  
 レポート 20%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

ガイドブックなど適宜関連資料は配布します。

【参考文献】『北海道の業界地図』北海道新聞社  
 就職ウォーカー、北海道就職ハンドブック

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

授業時に取り上げた業界については、復習として新聞、インターネットなどで情報を得ておいてください。また、授業で指示した課題については、提出締切後の授業開始時に発表内容の準備が整っているようにしておいてください。

#### 【必要な時間】

課題の回答、次回授業の準備などで1-2時間の学習時間が目安となります。

### その他

科目名	簿記入門
開講期・単位	1年 前期・選択 1単位・演習
担当者	石川 智寛

### 講義の目的および概要

本授業では、日本商工会議所が実施する「日商簿記検定3級」取得レベルの簿記会計に関する知識を習得します。受講後、検定試験の過去問題を解くことで検定試験の合格を目指します。企業実務において、業界や職種を問わず役に立つ簿記や会計に関する知識を身につけるとともに、資格の取得により企業経理や会計処理能力など、実社会で活躍するための実力をつけます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

授業はテキストを用いて、講義形式で複式簿記の原理と基礎知識を学び（インプット）、問題演習（アウトプット）により、学習内容の理解と知識の定着を図ります。扱う範囲は、小規模な株式会社の活動について、経理事務職の基本的な知識と技術を身に付け、将来の就職活動にも生かします。また、知識の理解度と定着度を確認するために、適宜小テスト等を実施します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて適宜資料を配付します。

### 授業計画

授業は、概ね以下のとおりに実施します。

オリエンテーション：授業の概要説明、簿記の基礎（簿記の対象、簿記の意義と目的）、資産・負債・資本と貸借対照表、収益・費用と損益計算書

仕訳のルール：（取引、資産の仕訳、負債の仕訳、収益の発生と掛売上、費用の発生と掛仕入、仕訳のルールと貸借対照表・損益計算書、仕訳と総勘定元帳、試算表）

日常取引の仕訳：（当座預金と小切手、小切手の受取りと現金の範囲、複数の預金と当座借越、現金過不足、小口現金、商品販売、買掛金と売掛金、返品、仕入諸掛と売上諸掛、前払金と前受金）

日常取引の仕訳：（貸付金、借入金、未収入金と未払金、立替金と預り金、仮払金と仮受金、受取商品券、手形のしくみと約束手形、約束手形の処理、手形貸付金と手形借入金、クレジット売掛金、電子記録債権と電子記録債務）

日常取引の仕訳：（固定資産、固定資産の改良・修理と租税公課、訂正仕訳、株式の発行、当期純損益の計上と剰余金の配当、法人税等、消費税）

決算手続き：（決算と一連の流れ、期末商品の整理、減価償却、減価償却の記帳方法、減価償却資産の売却、貸倒れと貸倒引当金、貸倒れの処理）

決算手続き：（費用収益の前払い・前受けと未収・未払い、精算表、貸借対照表・損益計算書）

総合演習：（全経簿記3級検定仕訳）

総合演習：（全経簿記3級決算対策、精算表の作成）

総合演習：（全経簿記3級 伝票、補助簿対策）

総合演習：（全経簿記3級 補助簿、計算問題対策）

総合演習：（全経簿記3級 模擬試験）

一般的な日常取引仕訳の確認

帳簿の締め切り（英米式決算）

授業内考査、全体の振り返り

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

簿記の意義や役割を理解し、適正な会計処理を行うための基本的な知識と技術を習得する。

複式簿記の特徴である「貸借平均の原理」に基づいて、さまざまな取引を記帳できるようにする。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「生活創造と就業に必要な基礎的知識、技能およびそれを基にした専門知識を修得した学生」に基づき、社会におけるビジネス実務を取り巻く環境等の変化に対応する能力の獲得を通じて、社会人として自立できる能力を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

定期試験 60%

提出物・検定取得状況 40%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

穂坂 治宏 著 『新なるほど合格塾 日商簿記3級（第2版）』（株）中央経済社

#### 【参考文献】

その他、適宜、関連資料を配付します。

## 授業外学習

### 【具体的な内容】

事前学習：次回授業で行う内容を毎回指示しますので、必ず授業の受講前に当該範囲に目を通し、予習を行うこと。

事後学習：テキスト及び授業で配布された資料等をよく読み返し、必ず復習を行って学習事項の定着を図ること。

### 【必要な時間】

事前学習、事後学習にそれぞれ1～2時間を目安とします。

## その他

(参考) 全国経理教育協会 簿記検定3級 受験料2,000円

1 希望により、検定受験を授業内考査に換えることができる。(授業ガイダンスで説明)

2 この講座の履修にあたって、簿記入門<1>は初めて簿記を学ぶ学生を対象とします。また、簿記入門<1>を履修した学生は、令和3年7月11日(日)全国経理学校協会主催簿記検定3級試験受験を目指しますので、別途、取得講習会にも参加すること。

科目名	簿記演習
開講期・単位	1年 後期・選択 1単位・演習
担当者	石川 智寛

### 講義の目的および概要

本授業では、「日商簿記検定3級（ネット試験）」検定取得に向けて、検定試験の対策問題および過去問題を解いて実力養成を図ります。問題演習を行う中で、要点の解説や問題の考え方を理解し、日商簿記検定3級合格のための実力をつけることを目的としています。資格取得後は、さらに内容を掘り下げ、ワンステップ上の株式会社社会計に関する知識を習得し、実社会で役立つ「会計処理能力の基本」を身に付けることを目指します。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

授業は、購入した問題集および配布資料に基づき、日商簿記検定3級レベルの問題の解き方の解説を行う演習形式にて実施します。問題演習の繰り返しにより、習得した知識の理解と定着を確認しながら授業を展開します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて適宜資料を配付します。

### 授業計画

授業は、概ね以下のとおり実施します。

オリエンテーション：授業概要の説明、出題傾向の分析、簿記の記帳手順の確認

仕訳総合演習 その1

仕訳総合演習 その2

各種帳簿の記帳演習 その1：（仕入帳・売上帳、商品有高帳、売掛金・買掛金元帳）

各種帳簿の記帳演習 その2：（小口現金出納帳、手形記入帳、伝票の起票と仕訳日計表）

決算整理事項の確認（未処理事項の整理、売上原価、貸倒引当金、減価償却費、収益・費用の加減処理）

精算表の作成演習

貸借対照表と損益計算書の作成演習

決算整理後試算表の作成演習と英米式決算法

総合問題演習 その1

総合問題演習 その2

総合問題演習 その3

ビジネス会計 その1：（財務諸表の読み方）

ビジネス会計 その2：（財務諸表分析のしかた）

授業内考査、解答と振り返り

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

小規模な株式会社の企業活動や会計実務を踏まえて、会計処理で必要となる基礎知識と記帳技術を習得する。

簿記の記帳手続きを体系的に理解し、日商簿記検定3級に合格するための基本的な力を身に付ける。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「生活創造と就業に必要な基礎的知識、技能およびそれを基にした専門知識を修得した学生」に基づき、社会におけるビジネス実務を取り巻く環境等の変化に対応する能力の獲得を通じて、社会人として自立できる能力を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

定期試験 60%

提出物・検定取得状況 40%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

ネットスクール出版 『2021年度版 日商簿記検定3級 模擬試験問題集』

#### 【参考文献】

適宜、関連資料を配付します。

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

事前学習：次回の講義内容についての指示に沿って、予習を行って課題を明確にすることが大切です。

事後学習：講義で学んだ内容（インプットした力）をもとに、検定レベルの問題を演習（アウトプット）して、理解の定着および応用力を図ることが大切です。

#### 【必要な時間】

事前学習1時間、事後学習2時間程度が目安となります。

## その他

(参考) 日本商工会議所 簿記検定3級(ネット試験方式) 受験料2,850円(税込)と申込手数料550円(税込)を併せて、3,400円がかかります。

- 1 希望により、検定受験を授業内考査に換えることができる。(授業ダインスで説明)
- 2 講義内容のレベルは、簿記入門<1>と簿記演習<1>(簿記初心者対象)、簿記入門<2>と簿記演習<2>(簿記検定取得者)が連携しています。
- 3 履修者は、日商簿記検定3級のネット受検を目指します。(日商簿記検定3級以上を取得している者は除く)。

科目名	食品と栄養
開講期・単位	1年 後期・選択 2単位・講義
担当者	和久田 紗恵子

### 講義の目的および概要

私たちは食物を摂取することにより、生命・健康を維持し、活力を生み出し、嗜好を充足させている。本講義では、健康的な食生活の実現に向けて、栄養素の働きと特徴を正しく理解し、各種食品の特性や食の嗜好性など、食品と栄養に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

配布したプリントを中心に講義形式で行う。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

小テストの解答、提出された小レポート、課題等については授業内で解説する。

### 授業計画

オリエンテーション  
 食生活と健康  
 肥満とダイエット  
 運動と休養  
 5大栄養素  
 ビタミンとミネラル  
 味覚・嗅覚・食欲  
 食生活と病気  
 まとめ 中間試験  
 食品の栄養学的特徴と調理特性  
 食品の栄養学的特徴と調理特性  
 食品の栄養学的特徴と調理特性  
 食品の栄養学的特徴と調理特性  
 食品の栄養学的特徴と調理特性  
 まとめ 期末試験

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

健康に留意した食生活を実現するための基本知識として食品と栄養に関する知識を習得すること、健康の保持増進に必要な栄養素の働きについて理解することを目標とする。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

学位授与の方針である「生活創造に必要な基礎的知識」「広い視野と望ましい社会人としての教養」を育成する科目である。

### 成績評価基準と方法

筆記試験（中間試験・期末試験）：50%

小テスト：25%

提出物（小レポート等）：25%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

適宜プリントを配布する。

#### 【参考文献】

授業内で適宜紹介する。

食生活アドバイザー検定を受験する学生は「食生活アドバイザー検定」のテキスト購入を推奨する。

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

今回の授業内容について、キーワードを提示するので、調べてレポートにまとめてきてください。毎回の授業の冒頭で、前回の授業内容の復習問題を出题します。必ず前回の授業を振り返り、分からない箇所は調べてきてください。

#### 【必要な時間】

予習復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

### その他

科目名	英語検定
開講期・単位	1年 前期・選択 1単位・演習
担当者	石田 麻英子

### 講義の目的および概要

実用英語技能検定などの資格取得を目指す。同時に、英語の語彙、文法、会話表現、リーディング、リスニング、英作文などの総合的な運用能力の伸長を目指す。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

中学～高校までの英語で学習した内容を実際の検定試験で問われる形式の中で、文法、リーディング、リスニング、英作文を総合的に演習形式で学ぶ。適宜、目指す級の過去問などでの演習も行う。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

単語課題は授業外で個別練習したものを小テストで確認する。作文課題はフィードバックを記入して返却する。Outlookメール、manabaを利用する

### 授業計画

オリエンテーション 英語の検定とレベル  
 単語の学習について  
 基礎文法の振り返り1と作文  
 基礎文法の振り返り2と作文  
 基礎文法の振り返り3と作文  
 リスニングの力をつけよう1  
 リスニングの力をつけよう2  
 リスニングの力をつけよう3  
 ディクテーション1  
 ディクテーション2  
 ディクテーション3  
 読む聞くと、話す1  
 読む聞くと、話す2  
 授業内最終試験  
 まとめとフィードバック

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

現在の實力、取得級よりも一つ上位級を取得する力を身に付ける（英検）  
 ＊希望者はTOEIC Bridge 150点を目指す

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

多様な場で活躍できる実務能力の一つとして、社会人としての教養として、多様な人々と協働するためのコミュニケーションツールとして英語の運用能力を身に付け、それを持っていることを証明するための検定取得を目指す。

### 成績評価基準と方法

期末テスト 40%、小テスト30%、  
 提出物（単語記録、作文練習など）30%  
 （希望により、第1回実用英語技能検定を中間期末テストに換えることができる場合がある。詳細は授業中に説明）

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

過去問、適宜プリント どちらも大学から配布します。

#### 【参考文献】

授業内で指示します。自主学習にはWeblioの語彙力診断テスト他、インターネット上の無料ツール、サイトを活用してください。

### 授業外学習

学習分の定着を図るための、1時間程度の復習を授業後に、次回授業を理解するため、あらかじめ問題を解いておくなどの予習を1時間程度行ってもらいます。manabaを使います

### その他

標準的なレベルは英検3級以上2級まで、TOEIC Bridgeです。

科目名	英語検定 [1年]
開講期・単位	1年 後期・選択 1単位・演習
担当者	石田 麻英子、竹内 康二

### 講義の目的および概要

実用英語技能検定の資格取得を目指しながら、英語の語彙、文法、会話表現、リーディング、リスニングなどの総合的な運用能力の伸長を目指す。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

現在取得している英検の級により、レベル別にクラスを分けて行う。語彙、文法、作文、リーディング、リスニングを総合的に演習形式で学ぶ。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

提出課題は教員から個別にフィードバックとアドバイスを行う。  
単語の課題は毎回チェックがある。

### 授業計画

1. オリエンテーション レベルチェック、目標の確認
2. 必須英単語熟語 リスニング
3. 必須英単語熟語 長文読解 リスニング
4. 必須英単語熟語 長文読解 リスニング
5. 必須文法 長文穴埋め リスニング
6. 中間試験
7. 必須英単語熟語 長文穴埋め リスニング
8. 必須英単語熟語 長文穴埋め リスニング
9. 必須英単語熟語 作文 リスニング
10. 必須英単語熟語 長文読解 リスニング
11. 必須英単語熟語 長文読解 リスニング
12. 必須英単語熟語 長文読解 リスニング
13. 文法総復習と直前対策
14. 期末試験
15. まとめとフィードバック

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

英検の現在の取得級よりも一つ上位級を取得すること。  
未受験の場合は、プレイスメントテストをします。  
英検2級取得後はTOEIC Bridgeの学習に移行します(目標150点)

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力としての英語力を伸長する。  
生活創造と就業に必要な技能の一つとして英語能力を伸長する。

### 成績評価基準と方法

定期テスト 40%、中間テスト20%、  
提出物・小テスト30%  
(希望により、実用英語技能検定またはTOEIC Bridgeを中間テスト、期末テストに換えることができる場合がある。)

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

過去問、適宜プリント どちらも大学から配布します。

#### 【参考文献】

Weblio 語彙力診断テストを活用します

### 授業外学習

毎回の授業の資料をまとめ復習すること。次回ように課せられた予習課題をクリアしておくこと。最低でも1時間程度はかかります。  
定期的なまとめで試験問題に取り組み、課題を整理して学習することが必要です。  
「単語は自己責任！」覚えることは自分にしかできません。リスニングのトレーニングなども含めて授業外学習が必要です。Weblio語彙力診断テストを授業前に指定された回数こなし、間違えた単語について復習してください。

### その他

科目名	色彩演習
開講期・単位	1年 後期・選択 1単位・演習
担当者	恩村 比呂子

### 講義の目的および概要

文部科学省後援 色彩検定3級合格をめざす。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

前半は、色彩検定3級テキストを使用し資格取得をめざす。  
後半は、色彩理論に基づいた配色演習を行い色彩感覚の向上をめざす。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

前半は、講義内容の復習は各自必須。次回授業内で確認テストを実施し解説する。  
後半は、イメージ表現のコラージュを作成し授業内で講評と解説をする。

### 授業計画

ガイダンス・色彩検定の説明・検定対策「色のはたらき」「光と色」  
検定対策「混色」  
検定対策「色の分類と三属性」  
検定対策「色の表示P C C S」  
検定対策「色の心理効果」  
検定対策「色の視覚効果」  
検定対策「色彩調和」  
検定対策「配色イメージ」「ファッション」「インテリア」  
色彩検定の解答と解説・カラーセラピー  
商品の色(課題提出 )  
イメージ配色「色と形」(課題提出 )  
イメージコラージュ(課題提出 )  
イメージコラージュ要素別(課題提出 )  
アンダートーンとパーソナルカラー(作品提出 )  
課題講評・パーソナルカラー診断

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

色彩検定3級の知識を習得し3級合格をめざす。  
配色の基本を理解し意図するイメージ表現を的確に行うことができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

D Pにおける「広い視野と社会人としての教養を持ち、自らの職業生活・社会生活のあり方を設計できる学生」をめざす。

### 成績評価基準と方法

色彩検定対策問題の解答提出(40%)  
配色演習課題と作品提出(40%)  
毎回の授業振り返りシート(20%)

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

公益社団法人 色彩検定協会「色彩検定公式テキスト3級編」2200円+税  
「新配色カード199a」780円+税

#### 【参考文献】

「色彩検定過去問題」「パーソナルカラー検定3級公式テキスト」

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

毎回授業の冒頭で復習問題を出题するため、必ず授業内容の復習をしておくこと。  
プリント以外に自分のノートを作ることは検定合格に向けて必要である。

#### 【必要な時間】

予習、復習として2時間を目安とする。

### その他

2021年度冬期色彩検定は11月14日に実施予定。  
色彩検定3級検定料は7000円(税込み)。  
後半で行うコラージュ作品制作のため、はさみ、のり、雑誌数冊を用意しておく。

科目名	メディカル秘書実務
開講期・単位	1年 後期・選択 1単位・演習
担当者	時野 香里

### 講義の目的および概要

診察を控え不安な患者様に対して、安心して診察や治療を行えるようにサポートするための知識を身につけます。病院などの医療機関組織の仕組みやそこで働く人たちの業務、医療に関する専門用語について学びます。患者様に寄り添うスキルとして接客対応、電話対応などのマナー、それに加え簡単な手話や英会話を学習します。また一般業務として院内や院外に向けての文書作成、様々な疾病、臨床検査項目、医療に関する法律、保険制度や薬の知識、などを学びます。保険制度や薬の知識からめて調剤報酬についても触れます。以上により医療秘書に必要な事柄を理解し専門的な知識を得ることを目的とします。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

基本的にテキストとスライドを用いた講義形式で授業を行います。患者様に寄り添うためのスキルを学ぶ際には実際に接客などを行なってもらう参加型の授業を行います。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

授業の単元毎に復習問題を行います。講義内で解答解説を行うので採点を行い間違い箇所をチェックし、学習の定着を目指します。

### 授業計画

医療秘書とは  
 医療機関の仕事、役割、仕組み、コメディカル  
 医療秘書として必要な接客対応  
 医療秘書として必要な接客対応  
 医療秘書として必要な接客対応  
 医療現場の専門用語、患者心理  
 疾病学と臨床検査  
 疾病学と臨床検査  
 医療機関文書、診療録管理  
 医療・薬事に関する法律  
 医薬品の知識、制度、調剤報酬  
 医薬品の知識、制度、調剤報酬  
 医薬品の知識、制度、調剤報酬  
 医薬品の知識、制度、調剤報酬  
 まとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

医療秘書の立場から医療機関の仕組み、業務、接客、疾病や薬、関係法規をなどの幅広い知識を学習し理解すること。それらの知識を生かし、患者様に対して、不安を取り除き安心して診察や治療を行えるようにサポートする技術を身につけることを目標とします。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立した職業人を養成するため、現代生活を主体的に創造する知識と技術を身につけ多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を育成する」に基づき、医療機関において実務だけではなく患者様に寄り添うことのできる能力をもつ職業人を養成します。

### 成績評価基準と方法

定期試験60%  
 課題提出物等40%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

『医療秘書』建帛社  
 適宜、プリントを配布

#### 【参考文献】

なし

### 授業外学習

**【具体的な内容】**

その日の講義で習ったことその日のうちに整理し復習を行うこと。知識の定着につながります。

**【必要な時間】**

最低1時間は行なってください。

**その他**



**【具体的な内容】**

復習を欠かさず行ってください、毎回、出された課題に取り組んでください。また授業で行った以外の箇所に関しても必要と思う箇所は積極的に自習しましょう。何度も繰り返し学習することで、正しい調剤録とレセプト作成の力が定着します。

**【必要な時間】**

復習に1時間、課題に1時間行うことが学力の定着及び向上に繋がりますので極力行なってください。

**その他**

・授業に関しては調剤録やレセプトを多数作成するためA4ファイル(リングタイプで2穴のもの)を1冊用意していると毎回配布される資料を綴るのに便利だと思います。

科目名	カレントトピックス
開講期・単位	2年 後期・選択 1単位・演習
担当者	山田 英寿

### 講義の目的および概要

私たちは日々ニュースに囲まれて生活しています。ニュースや出来事はすべて私たちの日常生活に関連しています。マスクを外せない生活も、スマホの料金値下げも理由があって、私たちの生活に変化を与えています。

本講義では、ニュースや出来事の間接関係を理解し、自分なりの考えや意見を表現できることを目指します。また事実を理解するための多様な情報の入手方法を身に付けます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

テレビや新聞、オンラインでのニュースの収集方法を比較し、それぞれの特徴を調べます。  
また事前にニュースをチェックし、授業で発表、意見交換をします。さらに新聞記事やTVの録画を視聴し、ディスカッションを行います。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

事前のレポート提出や授業内での発表と、それに対する他の意見を聞くことで、多様性を理解します。レポートに対する補足も授業内で共有します。

### 授業計画

学習の進め方、事前準備などのレクチャーとアンケート。  
アンテナをはろう(テレビ、新聞、週刊誌、ネットでチェック) クイズも  
メディアリテラシー(ネットやテレビでのニュース実例) 鷓呑みにしない  
メディアリテラシー(ネットニュースの長所短所、テレビのBPO)  
メディアの特徴(週刊誌、テレビ、新聞、ネットの伝達スピードと変化)  
テレビニュース放送まで(UHBの場合)写真と動画で説明  
衆議院議員選挙(各党の主張、選挙の結果)  
官総理の3大政策(新型コロナ対策、脱炭素グリーン社会、デジタル化)  
温暖化(台風、豪雨被害、地球温暖化との関連は)防ぐには  
脱ガソリン車のねらい  
プラスチックごみ削減(去年7月からのレジ袋有料化) 先進国では  
デジタル化で社会はどう変わるのか(5Gの恩恵は)  
尖閣諸島、台湾、香港は中国の内製化(内容、各国の反応)  
発表~カレントトピックスまとめ1  
発表~カレントトピックスまとめ2

衆議院選挙など、大きなニュースがあった場合は、それを取り上げ、予定を変更します。

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

新聞やテレビの政治・経済の記事やニュースに興味をもち、説明できるようになる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「教養に関する広い知識を身につけ、人格を磨き、文化の向上に寄与する」という学位授与の方針に基づき、世の中の出来事と日常生活の関連性を考える習慣を身につける。

### 成績評価基準と方法

授業内で小テスト、意見発表(30%)  
授業内での発表、レポート提出(30%)  
formsメモ記入提出(40%)

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

特になし。  
その都度、パワーポイント、新聞のコピーやテレビ番組の録画BDを使用します。

#### 【参考文献】

特になし。

### 授業外学習

**【具体的な内容】**

日ごろからテレビのニュース番組やSNSでのニュースをチェック。  
新聞などに目を通し、世の中の動きに関心を持つ。

次の授業までに、気になるニュースをまとめ、自分なりの意見を考えてくる。  
毎回の授業に対し、1 - 2時間程度の授業外学習が必要となる。

**その他**

普段から、ニュースを見聞きする習慣をつけましょう。

科目名	ビジネス実務
開講期・単位	2年 前期・選択 1単位・演習
担当者	石川 智寛

### 講義の目的および概要

ビジネスの世界では、日常的に数字を扱う場面が数多くあり、自社や自分自身が所属する部署の現状を把握するために会計数値をはじめとした数字の意味を理解することが大切です。授業ではビジネス現場で求められる製品やサービスの収益と原価（コスト）の計算方法、各種差異の分析に関する基本的な考え方を修得します。製品やサービスの原価には、「コントロール（統制）」と「マネジメント（経営管理）」といった側面があり、ビジネスを遂行していく上で、コスト意識（コストカットとコストダウン）を持つ、常に費用対効果を考えて、工夫・改善しようとする意識を育てます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

授業は講義形式での内容解説を行い、その後、受講者に計算や作表・分析をしてもらう演習形式により実施します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、必要に応じて適宜資料を配付します。

### 授業計画

授業は、概ね以下のとおり実施します。

#### オリエンテーション

原価計算の基礎：製造原価の分類と計算

利益の計画と統制：変動費と固定費、CVP分析、損益分岐点

目標売上高を達成するための売上高、予算実績差異分析

製造原価の分類と集計（1）：原価計算の基本的な流れ、材料費・労務費・経費の分類と集計

製造原価の分類と集計（2）：製造直接費と製造間接費、完成品原価と月末仕掛品原価の計算

損益計算書の作成：売上総利益・営業利益の計算、損益計算書の作り方

原価計算初級の仕訳：仕訳の基本、勘定科目

原価計算初級検定の問題演習（1）

原価計算初級検定の問題演習（2）

原価計算初級検定の問題演習（3）

単純総合原価計算（1）：1種類の製品を連続して大量生産する企業の計算方法

単純総合原価計算（2）：平均法と先入先出法

標準原価計算と原価管理：標準原価計算と実際原価計算

授業内考査：解答確認とフィードバック

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

製造業における製品の原価計算に関する基本用語や原価と利益の関係を分析・理解し、業務活動に利活用するための基本的な知識とスキルを身につける。

製品の製造方法に見合った製造原価の計算方法と原価管理の意味を理解し、基本的な差異の分析ができるようになる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「生活創造と就業に必要な基礎的知識、技能およびそれを基にした専門知識を修得した学生」に基づき、社会におけるビジネス実務を取り巻く環境等の変化に対応する能力の獲得を通じて、社会人として自立できる能力を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

定期試験 60%

提出物・検定取得状況 40%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

滝澤 みなみ 著 『スッキリわかる日商原価計算初級』（TAC出版）

#### 【参考文献】

適宜、関連資料を配付します。

### 授業外学習

【具体的な内容】

事前学習：次回の講義内容についての指示に沿って予習を行い、課題を明確にすることが大切です。

事後学習：講義で学んだ内容をしっかりと問題演習して、定着を図ることが大切です。

【必要な時間】

事前学習、事後学習ともに、それぞれ1時間程度が目安となります。

**その他**

(参考) 日本商工会議所 原価計算初級 検定 受験料2,200円  
希望により、検定受験を授業内考査に換えることができる。(授業ガイダンスで説明)

科目名	ビジネス実務総論[総カリ]
開講期・単位	2年 前期・必修 2単位・講義
担当者	遊佐 順和

### 講義の目的および概要

本講義の目的は、ヒトとつながりモノを活かして価値をつけてコトを起こすビジネスに必要な大切なことを理解し、組織や個人による社会の動きを理解することです。就職により社会人になると、多くのヒト・モノ・コトと関わることになります。社会の動きを理解することにより、より実践的なビジネス実務能力の必要性を考えていきます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

授業方法は配布するプリントに基づき講義形式で行います。問題意識および参加意欲を高めるため、適宜、授業内課題および提出物を課します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、参考資料などを適宜提示・指示する。

### 授業計画

授業は概ね以下のとおり実施します。

ガイダンス～ビジネスとは何か？  
 ビジネスと社会の関わり（１）～企業の責任と意義  
 ビジネスと社会の関わり（２）～企業の目的と貢献  
 会社の仕組み（１）～公企業と私企業  
 会社の仕組み（２）～企業の分類  
 会社の仕組み（３）～会社内の組織構造  
 ビジネスと会計（企業会計とIR）  
 ビジネスと法律（労働に関わる保険・税）  
 ホワイト企業  
 働き方の改革  
 現代社会におけるビジネス環境（１）～情報とマーケティング  
 現代社会におけるビジネス環境（２）～人口減少社会  
 グループワーク（ディスカッション）  
 グループワーク（プレゼンテーション）  
 まとめと振り返り

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

ビジネス実務への関心を持った上で、現在のビジネス実務を取り巻く社会・経済的環境の変化や、企業の置かれている状況や、仕事がどのように進められるかを理解し、説明できる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「生活創造と就業に必要な基礎的知識、技能およびそれを基にした専門知識、技能を修得した学生」に基づき、社会におけるビジネス実務を取り巻く環境等の変化に対応する能力の獲得を通じて社会人として自立できる能力を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

定期試験 50%  
 授業内提出物 30%  
 レポート 20%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

適宜プリントや資料を提示、配布します。

#### 【参考文献】

「ビジネス実務総論 - 企業と働き方 - 」水原道子 編著 樹村房  
 「ビジネス実務総論 付加価値創造のための基礎実務論 改訂版」  
 全国大学実務教育協会 紀伊國屋書店

### 授業外学習

【事前学習】授業で扱われる内容に関し、参考文献をはじめとする書籍や新聞記事およびニュースなどに積極的に触れ予備知識をつけ、問題意識を持って臨むこと。授業後は、講義の復習を欠かさずに行い内容理解に努め、さらに深く調べ、その内容もまとめておくこと。

#### 【事後学習】

1 - 2時間程度の時間が必要です。

**その他**

この科目で養うDPに関わる能力：

科目名	情報処理演習
開講期・単位	2年 後期・選択 1単位・演習
担当者	小林 純

### 講義の目的および概要

オフィスソフトウェアであるMicrosoft Officeのうち、文書作成（Word）、表計算（Excel）を使用して、ビジネスにおけるさまざまなコンピュータの利活用の手法を身につけることを目的としています。  
また日商PC検定にチャレンジできる程度のスキルを身につけます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

演習形式で進めます。  
毎回の課題の説明を行った後、実際に課題の作成を行います。  
その後で、解答を学生間で確認して、完成できるようにします。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題の完成度等について、個別に評価・コメントを行います。  
また、全体的講評を授業の冒頭に行い、フィードバックとします

### 授業計画

進度により、内容・順序を変更する場合があります。

ガイダンス・入力練習  
プロジェクト体制図を作る  
ビジネス文書を作成する  
ポスターの作成  
Wordによる表の作成  
差し込み印刷と宛名印刷  
中間まとめ  
Excelでの表作成とグラフ作成  
Excelでの計算と関数の使用（1）  
Excelでの表示形式とクロス表の作成  
表からの分析  
VLOOKUP関数を用いたマスタ表の使用  
Excelの集計機能  
総合実践 WordとExcelを用いた作業の実践  
まとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

オフィスソフトを使い、文書作成・データの活用ができる知識と技術を身につける。  
場面に応じた文書作成のスキルや、データからの推察力を身につける。  
PC検定（実技）に対応できる知識と技術を身につける。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「生活創造と就業に必要な基礎的知識、技能およびそれを基にした専門知識、技能を修得」、「広い視野と社会人としての教養」に関連します。

### 成績評価基準と方法

課題の提出と完成度 80%  
まとめ問題 20%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

よくわかるMicrosoft Word 2019&Microsoft Excel 2019スキルアップ問題集  
ビジネス実践編  
FOM出版

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

課題は常に次回の授業までに完成させておくことが重要です。  
そのためには、授業以外の空き時間を利用しましょう。

#### 【必要な時間】

宿題の完成のためには、1時間程度の学習時間が目安となります。

### その他

コンピュータリテラシー、情報処理などの情報系科目の履修をしていることが望ましいです。  
文字入力などの基礎的スキルはできていることを前提に授業を進めます。

科目名	サービスの心理学[総カリ]
開講期・単位	2年 前期・選択 2単位・講義
担当者	中里 のぞみ

### 講義の目的および概要

サービスの付加価値を追求し、顧客満足を提供し続けることは企業にとって大きなテーマであり、組織で働く上で、言語化されない顧客のニーズやウオツを把握し、サービスの実践をすることは職業人として求められる能力である。  
本講義では、サービスとは何か、顧客心理とは何かを学び、顧客とのよりよいコミュニケーション、並びに職場内でのコミュニケーション、クレーム対応など、具体的でかつ、現場で有益となるサービス創出のための実践的な学習と体験をし、将来に活用できることを目的とする。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

講義形式でサービスの基本的な知識を学ぶとともに、顧客心理を深く学ぶための実践的ワークも実施する。また、自分自身のコミュニケーションのパターンを把握できるようなワークシートを活用する。さらに、学んだことを共有化し、自分達で考察を深めるためのグループワークも実施。テーマによるグループディスカッションとプレゼンテーションにより、学んだことを職業人としても有益に活用できるようにアウトプットしていく。  
エアラインでの実務経験のある教員が、産業カウンセラーとしての現場経験から、より具体的にサービスの心理学の知識を理解できるように学んでいく。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーションについては随時、授業内でフィードバック。レポート、テストについては精査後にフィードバックする。

### 授業計画

サービスとは何か  
サービスとホスピタリティ  
ホスピタリティと共感的理解  
サービスのマインドとスキル  
サービスとコミュニケーション（顧客のニーズやウオツの察知）  
サービスの品質管理  
顧客心理とその事例検討  
お客様の心理状態に基づいたクレーム対応  
顧客満足と社員満足  
ロイヤルカスタマー獲得のマインド  
ロイヤルカスタマー獲得のスキル  
顧客満足に繋げる具体的方策  
具体的方策の提案  
サービスプロフィットチェーン  
総括とテスト

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

サービスについての知識を深め、顧客心理を理解できるようになる。  
様々な状況において、より適切なサービス提供に必要な現場での判断力・コミュニケーション能力が発揮できるようになる。  
顧客のみならず、組織内の人間関係構築に有益となる他者への察知力を高め、他者への配慮ができるようになる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を育成するという学位授与方針に基づき、変化の激しい社会において多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力を身につける。自分自身のコミュニケーションのパターンを理解した上で、他者とのよりよい関係構築ができるようになり、自立した職業人に求められる基礎力を修得する。

### 成績評価基準と方法

対面授業の場合はグループディスカッション・プレゼンテーション 30 %  
テスト 70 %  
オンライン授業となった場合は提出物 50 % テスト 50 %

### テキスト・参考文献

【テキスト】  
「ホスピタリティとホスピタリティマネジメント」  
中里のぞみ・紺野猷邦著 株式会社パレード

【参考文献】  
「コミュニケーション学」末田清子・福田浩子 株式会社松柏社  
「対話でみかくことばの力」宇都宮裕章 カニヤ出版  
「人間尊重の心理学」カール・ロジャーズ 創元社  
「ワークショップ心理学」藤本忠明・栗田喜勝・瀬島美保子  
橋本尚子・東正訓 カニヤ出版

### 授業外学習

【具体的な内容】  
配布レジュメには各自でメモを取り、授業後には見直して振り返りを行うこと。小レポートでは、その授業で学んだことや気づきを自分の言葉でまとめるようにしてください。グループディスカッションの際は事前学習として必要な情報などを収集しておくようにしましょう。

【必要な時間】  
事前・事後学習には各講義前後に2時間程度費やすようにしてください。

### その他

オンライン授業においては自律的に参加し、授業内でもわからないことは質問して共有化していくことを心がけてください。

科目名	現代生活と経済
開講期・単位	2年 後期・選択 2単位・講義
担当者	小林 純

### 講義の目的および概要

現代の生活では、さまざまな経済活動が関わっています。日常生活には関連がないような経済指標も、実際には生活に大きく関わることが多いのです。経済のしくみが理解できれば、政府の政策や市場の動きが見えてきます。社会人として知っておくべき経済の基礎知識を、かみ砕いて解説していきます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

原則として講義形式で行いますが、受講者からの発表やディスカッションも取り入れて進めます。毎回提出物などで、講義内容の振り返りを行います。また次回講義の準備となる宿題も出す予定です。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

提出物については、個別にコメントを加えて返却します。また、解答の傾向について、授業内で全体にフィードバックを行います。

### 授業計画

およそ以下のような展開を計画しています。  
1回ごとに区切るのではなく、複数回にまたがって行われる内容もあります、

経済とは(1) 消費と生産・資本  
 経済とは(2) 貨幣と所得  
 ミクロ経済学(1) 消費者と生産者の行動原理  
 ミクロ経済学(2) 価格の決定  
 ミクロ経済学(3) 外部経済と外部不経済  
 ミクロ経済学(4) 公共財と独占  
 マクロ経済学(1) 国の豊かさ  
 マクロ経済学(2) GDPと三面等価の原理  
 マクロ経済学(3) 物価と経済  
 マクロ経済学(4) 為替レート  
 経済政策(1) 政府の役割  
 経済政策(2) 財政政策  
 経済政策(3) 租税政策と日本の債務  
 経済政策(4) 日本銀行の役割  
 まとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

報道や経済情報などの内容を理解し、経済が生活にどのような影響を与えているかを考えられる。  
経済分野の幅広い情報に興味・関心を持つ。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「生活創造と就業に必要な基礎的知識」、「広い視野と社会人としての教養を持ち、自らの職業生活・社会生活のあり方を設計」という点に関連しています。

### 成績評価基準と方法

定期試験を実施します。また以下の配分で総合的に成績評価を行います。

定期試験 60%  
小テスト・提出物 40%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

適宜プリントを配布します。

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

新聞やニュースを見て、経済の知識を得ることはもちろん、市販の経済入門書などを読んで、経済用語などの知識を得ることで、理解の助けとしてください。興味を持ったことは、授業後に積極的に調べておきましょう。

#### 【必要な時間】

宿題等を含めて、予習、復習にそれぞれ1時間程度の学習が目安となります。

### その他

科目名	キャリア演習
開講期・単位	2年 前期・選択 1単位・演習
担当者	和田 早代、和久田 紗恵子、小林 純

### 講義の目的および概要

将来を考え、行動するための力を身に付けます。社会や企業を調べ、自分を知り、今後自分が進むべき方向性を考えます。そして、1年次に学習したことを基盤に、自分の興味のある業界や企業への就業実現に備えます。また、働き手の視点から企業を深く調べ社会現象を理解し、社会の一員として自分はどうのように働き、社会や地域に対して貢献していくべきかをじっくりと考察します。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

就活と並行してタイムリーな情報と就活対策について、筆記試験対策やスピーチ、ディスカッション、プレゼンテーションなど能動的な学修を行います。授業は、企業で総務の実務経験のある教員らが担当し、個別にアドバイスをいたします。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で解説するとともに、参考資料等を適宜指示・配布します。

### 授業計画

ガイダンス  
 キャリアゲーム(1)  
 " (2)  
 ワークライフバランス(1)  
 " (2)  
 グループディスカッション(1)  
 " (2)  
 " (3)  
 女性のライフコースと職業  
 就業形態別の働き方と待遇  
 コミュニケーション能力を養う  
 会社・組織のしくみ  
 グループワークの実践(1)  
 " (2)  
 振り返り・まとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

広い視野と社会人としての教養を持ち、自らの職業生活・社会生活のあり方を設計できる力を身に付け、社会動向に関心を持ち、その内容を客観的に捉え、自分の考えを論理的に話すことができる力を身に付けます。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「広い視野と社会人としての教養を持ち、自らの職業生活・社会生活のあり方を設計できる学生」に関連します。

### 成績評価基準と方法

提出物 70%  
 期末レポート 30%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

適宜プリントを配布します。

#### 【参考文献】

ワークライフバランス(日経BPマーケティング)  
 日本ビジネス実務学会教育指導法セミナー資料

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

日頃から社会動向を理解するため、新聞やニュースなどにはアンテナを張ること。

#### 【必要な時間】

課題の回答、次回授業の準備などで1-2時間の学習時間が目安となります。

### その他

科目名	TOEIC[総カリ]
開講期・単位	2年 後期・選択 1単位・演習
担当者	竹内 康二

### 講義の目的および概要

TOEIC を初めて受験するときに必要な英語能力と技術について、基本的な学習を行う科目です。特に、この科目では、TOEIC Listening & Reading の対策に焦点を当て、日常の様々な場面で使用する英語の表現について、聞き、読む能力を養い、問題の形式に習熟することを目指します。また、話したり書いたりする活動も行い、総合的な英語能力の伸長を図ります。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

リーディング問題では、語彙習得法やコロケーションの理論を背景として、まず問題へのストラテジーを確認しながら問題演習を行います。学習者は、毎授業後学習事項を整理してまとめることが大切です。また、リスニング問題ではディスコースの流れを把握し、会話文や説明分の焦点を見極める練習をします。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

毎授業後、学習内容の確認テストを行います。語彙・表現の整理、次回の授業内容の確認することが必要です。授業の最初には前回の授業内容について振り返り演習を行います。

### 授業計画

オリエンテーション、Unit 1 テスト形式を知る

Unit2 基本戦略 1

Unit3 基本戦略2

Unit4 英文の基本構造を見抜く

Unit5 解答根拠の登場順

Unit6 正解の言い換えパターンを知る

Unit7 機能疑問文を聞き取る

中間テスト まとめ

Unit8 動詞の時制を見極める

Unit9 接続詞 vs. 前置詞

Unit10 複数パッセージの攻略

Unit11 接続副詞に強くなる

Unit12 NOT型設問のコツ

総合まとめと受験スケジュール

最終テスト 解説

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

TOEIC Listening & Reading試験において450～500点を取得するのに十分な、総合的な英語コミュニケーション能力と問題解決のためのスキルを身に付ける。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「多様な場で活躍する実務能力やコミュニケーション能力を持った人材を育成する」という学科の学位授与方針に基づき、日常の様々な場面に応じた豊かなコミュニケーション能力を養成する。

### 成績評価基準と方法

最終テスト50%、中間テスト30%、小テスト10%、Weblio10%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

Ayako Yokogawa & Tony Cook 著 「Level-Up Trainer For the TOEIC Test」Cengage Learning. ISBN:978-4-86312-294-9

【参考文献】公式TOEIC listening&Reading トレーニングReading編. 一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会等

### 授業外学習

**【具体的な内容】**

毎回の授業の最初に、前回の授業で学んだ学習内容の確認をする振り返り演習を行います。また、授業で学習した語彙・表現・文法事項について、毎授業後に確認テストを行います。授業で学んだことは必ずノートにまとめておきましょう。また、単語学習サイトにある単語テストを課題とします。

**【必要な時間】**事前・事後の学習時間はそれぞれ2時間を目安とします。

**その他**

実際にTOEICをいつ受験するか、目標とするスコアはいくらかなど、自分に合ったTOEIC受験スケジュールを作成しましょう。教科書は必ず買きましょう。

科目名	衣生活論
開講期・単位	2年 前期・選択 2単位・講義
担当者	長尾 順子

### 講義の目的および概要

衣生活に関する課題は複雑であり、その問題は多岐にわたっています。本講義の目的は、多角的な視点から「装い」を捉え、人が快適な衣生活を送るために何が必要であるのかを、総合的に考えられる力を養うことを目指します。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

第9回までは衣生活に関する基礎的な内容について、第10回以降は主に歴史・文化史の視点から衣服について学びます。  
主に講義形式で行いますが、簡単なミニ実習を行う場合があります。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の課題については、講義内に口頭で解説し、必要に応じて資料を配布します。  
授業へやレポートへの質問は、次回の講義で資料を用いて口頭で回答します。

### 授業計画

ガイダンス、衣服に求められる役割とは  
衣服素材(1)天然繊維  
衣服素材(2)化学繊維  
衣服素材(3)糸  
衣服素材(4)布  
あなたの衣服いくらで作れるの？  
ファストファッションについて  
衣服管理(1)衣料品の表示  
衣服管理(2)界面活性剤の作用  
衣のルーツ  
洋服のルーツ(1)西洋服について  
洋服のルーツ(2)映像資料にみる時代衣装  
和服のルーツ  
ルーツから現代へ  
まとめと振り返り

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

- 1 衣生活に関する基本的な知識を身に付けることができる。
- 2 衣生活を多面的に捉えることができる。
- 3 衣生活をめぐる諸問題に対して多角的に捉えることができ、自らの衣生活を見直すことができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「一般教養に関する広い教養を身に付けている」に基づき、衣服に関する基礎的な知識を習得するとともに、衣服というひとつの事象に対して多方面から視点を注ぐことで、物事を多角的に捉える力を身につける。

### 成績評価基準と方法

レポート：60% (30% × 2回)  
毎回の提出物(振り返りシート)：20%  
授業内課題：20%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

適宜プリントを提示・配布します。

#### 【参考文献】

テーマに沿って、講義の中で随時紹介します。

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

次回の授業で取り扱う内容に関して、専門用語を提示しますのであらかじめ調べてきてください。授業後は必ず復習を行い、授業で得た知識を自らの衣生活に反映させてその内容をノートなどにまとめておいてください。

#### 【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1-2時間を目安とします。

### その他

のりやハサミなど文房具の持参をお願いすることがあります。けがのないよう注意して持ってきてください。

科目名	健康・医学
開講期・単位	2年 後期・選択 2単位・講義
担当者	大塚 吉則、遊佐 順和

### 講義の目的および概要

人の健康は個人が暮らしている環境から大きな影響を受けている。それは社会環境、自然環境、職場・学習環境などあらゆる状況が考えられる。本講義では様々な生活環境において、健康状態を左右する重要な要素である、栄養・運動・休養などについて、日常生活に即した身近な話題を取り上げ、健康の維持増進に必要な基礎的知識の習得を目標とする。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

教室内での講義形式とし、パワーポイントやプリントを用いて資料を視覚的に提示する。授業後半、学外にて講義で学んだ知識を活用するフィールドワークを実施する。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

毎回、レポートを課す。次回の講義時にレポートに記載された質問、課題等に関してディスカッションを行う

### 授業計画

オリエンテーション：授業の概要説明

食育\_生活習慣病

温泉と健康づくり

空気イオンと気候療法

コーヒーの医学

入浴とダイエット

東洋医学\_風邪症候群

うがい\_インフルエンザ\_風疹

生体リズム\_睡眠

先端医療の世界

医学と情報

フィールドワーク 事前学習

フィールドワーク 現地学習

フィールドワーク 現地学習

フィールドワーク 事後振り返りとレポート

～ は本学特任教授（医師）、～ は客員教授（医師）の講義を予定している  
講師の都合により、講義時間・教室などが変更になることがある

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

健康の維持・増進のために必要な栄養・運動・保養の重要性について理解できる。  
日常生活における病気予防の方策について、特に自然療法の有効性について理解できる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「生活創造と就業に必要な基礎的知識、技能およびそれを基にした専門知識、技能を修得した学生」に基づき、健康の維持増進に必要な基礎的知識を身に付けることにより、栄養・運動・休養の側面から健康的な生活創造を実現できる力を養う。

### 成績評価基準と方法

授業内レポート 40%  
フィールドワークレポート 10%  
期末レポート 50%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

適宜、資料を配布する。

### 授業外学習

該当内容の参考図書等を読んで予習しておくこと。  
各回の授業に対し授業後の復習を行うこと。それぞれ1時間程度。

### その他

医師による実務経験に基づいた講義も含まれる。

この科目で養うDPに関わる能力：  
フィールドワークに関する詳細は、別途指示するので学科掲示等に注意すること。

科目名	調理実習(応用)
開講期・単位	2年 後期・選択 2単位・実習
担当者	和久田 紗恵子

### 講義の目的および概要

多種多様な目的に応じた調理知識と技術を習得することは、人間生活を豊かにし心身ともに健全な食生活をおくる上で大きな意義をもつ。本科目では健康で自律的な食生活の実現に向けて、調理に関する基本知識と技術を習得すること、応用可能な調理手法について実習を通して実践的に学ぶことを目的とする。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

授業はプリントを中心に講義と実習形式で展開する。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説する。

### 授業計画

オリエンテーション 実習授業のねらいと進め方  
 調理の基本知識  
 調理の基本知識  
 日常食の献立・調理実習  
 日常食の献立・調理実習  
 道産食材・旬の食材を用いた調理実習  
 道産食材・旬の食材を用いた調理実習  
 講義(製菓実習・年齢別の食事)  
 製菓実習  
 年齢別の食事(離乳食・介護食)  
 講義(行事食 ・ の準備)  
 講義(行事食 ・ の準備)  
 行事食  
 行事食  
 まとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

各種食品を用いて、目的に応じた料理構成や調理手法を学び、食卓の演出等が的確に行える知識と技術について習得することを目標とする。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

学位授与の方針である「生活創造に必要な基礎的知識」「生活創造に必要な技能」「北海道に貢献できる能力」を育成する科目である。

### 成績評価基準と方法

実習記録ノート：50%

小レポート：50%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

適宜プリントを配布する。

#### 【参考文献】

授業の中で適宜紹介する。

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

実習記録ノート作成にむけて、毎回の授業内容と留意点を正確に記録し、適切に分りやすくまとめてください。また、随時提示される小レポートを作成するため関連資料を収集しまとめてください。

#### 【必要な時間】

それぞれ2時間程度が目安です。

### その他

春学期の調理実習(基礎)を受講していることが望ましいです。  
 施設設備、安全確保の観点から履修人数は12名を上限とします。

科目名	情報特別演習
開講期・単位	2年 前期・選択 1単位・演習
担当者	小林 純

### 講義の目的および概要

IT社会で活躍する人材に求められる、IT技術の基礎的な知識を問う「ITパスポート試験」の問題を中心に演習を行い、ITパスポート試験の受験準備を行うことを目的とします。

基本的にパソコンを使用する授業ではありません。コンピュータ操作能力を伸ばすための授業ではありません。IT、コンピュータに関わる社会・企業の知識や、ITの基礎知識を得るための授業です。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

分野に関する知識・トピックを説明し、そのあと演習問題にチャレンジします。コンピュータを利用した試験受験を模するために、manabaを利用します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

問題の回答については、その場で答えが出ます。成績状況や、間違いやすい問題などのフィードバックを教員から行います。

### 授業計画

ガイダンス  
ハードウェア  
ソフトウェア  
システムの構成  
ネットワーク  
セキュリティ  
データベース  
アルゴリズムとプログラミング  
企業の法務(1)  
企業の法務(2)  
経営戦略とシステム戦略(1)  
経営戦略とシステム戦略(2)  
マネジメント(1)  
マネジメント(2)  
まとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

社会で用いられているIT技術や、関連業務で必要となる知識を身につける。  
ITパスポート試験を受験するために必要な基礎知識を身につけ、自主的な学習につなげることができるようになる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「生活創造と就業に必要な基礎知識、技能およびそれを基にした専門知識、技能を修得」「広い視野と社会人としての教養」に関連しています。

### 成績評価基準と方法

小テスト・課題 70%  
まとめ(模擬試験) 30%

ITパスポート試験を受験、さらに合格した場合は成績評価を考慮します。

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

「令和03年 イメージ&クレーパー方式でよくわかる 栢木先生のITパスポート教室」  
栢木 厚[著] 技術評論社

#### 【参考文献】

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

試験範囲が広範囲に及ぶため、授業のみで全範囲をカバーすることは不可能です。そのため、一部範囲については自主的な学習が求められます。

#### 【必要な時間】

およそ授業に対して1時間の学習が目安となるでしょう。

## その他

ITパスポート試験受験は学外の試験会場にて受験することになります。

科目名	ブライダル演習
開講期・単位	2年 前期・選択 1単位・演習
担当者	石井 愛彩

### 講義の目的および概要

ブライダルのプランニングに関する知識・技能を習得することを目的とします。披露パーティの基礎知識を学習後、グループに分かれ各々自由なテーマで模擬披露パーティのプランニングを行います。出来上がったプランをプレゼンテーションしあいます。その後、プランを一本化しホテルの会場を使用して、模擬披露パーティを行います。なお、新郎新婦役は学生がモデルを行います。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

パソコン・プロジェクターを用い講義形式で基礎知識を習得して頂きます。その後、各自が自由に発言できるようなグループに分かれ、模擬披露パーティ実施に向け、テーマに基づいたプランニングや、使用するBGM、各種コーディネートをまとめ、各グループごとにプレゼンテーションを行って頂きます。選ばれたプランを全員が共有し、実習形式で準備作業を分担して行います。模擬披露パーティ当日はフィールドワークとして、実際のホテルにて、各々作成物を持ち寄り、会場内にセッティングを行い、本番さながらのパーティを実施します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

ウェディングプランナーとして実務経験のある教員が、プランニングについての知識、技能、マナー等の講義や、プランニングやコーディネートの指導を行います。課題については、授業内で模擬披露パーティの振り返りをグループワークやデスクッションを取り入れて行います。

### 授業計画

ガイダンス  
ブライダルプロデュースの基礎知識  
挙式の種類と披露宴の意義  
プログラムと演出、テーブルプラン  
料理・飲料、会場コーディネートの  
各グループでのプランニング  
各グループごとにプラン発表  
一本化したプランの発表と作業の役割分担の発表  
披露パーティ用各種アイテムの制作  
ホテルでの模擬披露パーティの準備、テーブルマナー、模擬披露パーティ実施  
反省とまとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

グループのメンバー全員が真剣にプランを考え、また、一本化されたプランに対し全員が協力し、一組の披露パーティを創りあげます。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立して生きていくための、専門知識、技能を身につけている学生に学位を授与する。」に基づき、ウェディングプランナーとして必要な知識や技能を身につける。

### 成績評価基準と方法

課題への取組状況40%、授業中の発言状況30%、レポート30%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

教科書は使用せず、配布するプリントを用います。

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

自分が結婚するとしたら、どんなパーティにしたいかイメージして下さい。

### その他

ホテルでの模擬披露パーティの飲食代（フルコース）として、5,500円程度の自己負担があります。

科目名	English Presentation
開講期・単位	2年 後期・選択 2単位・講義
担当者	エレナ フォルトゥナート

### 講義の目的および概要

This class will be held entirely in English. Students will learn how to make a business presentation in English by gaining skills such as: summarizing and explaining information including statistics, being confident in Q&A sessions, being aware of audience. During the classes, students will learn presentation skills including how to project their voice in a room.

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

the course will involve both individual and pair/group work. Students will  
1) watch TED Talks, 2) observe real-life presentations of good public speakers, 3) practicing observed skills through presentations, 4) reflecting on their practices and offering feedback to classmates, 5) participating in Q&A sessions.

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

The lecturer will provide feedback on all written assignments including scripts and PowerPoint drafts. Feedback will also be given during peerreview and preparation lessons.

### 授業計画

Orientation.  
What is a good presentation? Watch TED Talk #1 and its discussion.  
Audience Awareness - what is and how to cope with it.  
Choosing a Topic and Writing a Script for presentation #1.  
Making a PowerPoint - tips.  
Beginner Presentation Skills - in-class preparation, feedback from the teacher.  
In-class peer and self review. Recording.  
In-class presentation #1. Q&A session  
Feedback and consolidation from presentation #1.  
Intermediate Presentation Skills - watch TED Talk #2 and its discussion.  
Choosing a Topic and Writing a Script for presentation #2.  
Prepare for Final Presentation.  
Final Presentation I.  
Final Presentation II.  
Consolidation and final feedback.

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

- 1) Audience Awareness when writing a script and preparing a PowerPoint.
- 2) Being able to present own ideas in front of an audience and being confident in a Q&A session.

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

### 成績評価基準と方法

- 1) In-class discussion and writing: 20%.
- 2) Presentation #1: 30%.
- 3) Presentation #2: 40%.
- 4) Participation in Q&A and peer review of classmates: 10%.

### テキスト・参考文献

**【テキスト】**

No textbook for this class.

**【参考文献】**

TED Talks, materials provided by the teacher.

**授業外学習**

**【具体的な内容】**

Students are expected to do all homework before coming to the class and prepare for the discussions and peer feedback.

**【必要な時間】**

1-2 hours/week.

**その他**

Glaxa and computers will be used.

科目名	哲学[総カリ]
開講期・単位	2年 後期・選択 2単位・講義
担当者	石飛 貞典

### 講義の目的および概要

哲学というと現実とかけ離れた、実用性に欠ける学問、というイメージがあるのではないのでしょうか。たしかにそういう側面もありますが、哲学的な思考には、実は実生活に役立つものがたくさんあります。物事の真の姿を探究する態度、物事を多角的に眺める複眼的思考、正しい思考の筋道や議論の仕方など、哲学の方法を具体例を通じて学ぶことで、幅広い教養はもてる、自立して行動できる姿勢や、課題を発見しそれを解決する能力を身につけていただくことをめざします。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

基本的に講義形式で行いますが、各回のテーマに沿った具体例について、ディスカッションも取り入れて、内容理解を深めていきます。また、事前に課題を示し、それに事前学習として取り組んで頂くことで、講義の内容により深く興味を持って頂けるようにします。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

提出された課題は翌週、総括して紹介し、解説します。希望者には個別のコメントも行います。

### 授業計画

ガイダンスとイントロダクション（哲学とは）  
 哲学的態度（１）常識を疑ってみる  
 哲学的態度（２）対話によって吟味する  
 まとめで第1回小テスト  
 「確かなこと」は本当に確かか（存在の検討）  
 「百聞は一見にしかず」は正しいか（知識の検討）  
 「論理的」とはどんなことか（論理の検討）  
 まとめで第2回小テスト  
 人間とは？（１）人間は理性的動物か  
 人間とは？（２）感情を抑えるのが大人の態度か  
 人間とは？（３）欲望は人生を狂わせる？  
 まとめで第3回小テスト  
 どう生きる（１）義務論と帰結主義  
 どう生きる（２）「正義」は正しいか？  
 授業の総括（あらためて、哲学とは）

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

哲学的思考の特色を理解し、基本的な哲学用語についての知識を身に付ける。  
 自分の頭で考え、自分の意見を理路整然と展開できる力を身に付ける。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

常識にとらわれない「柔軟な思考力」を身に付け、ディスカッションや課題提出を通じて「自由、自立、自制の精神による人間形成」の実現をめざします。

### 成績評価基準と方法

定期試験：70%  
 授業期間内に実施する小テスト（3回）：30%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

毎回プリントを配布します。

#### 【参考文献】

必要に応じて、授業の中で紹介します。

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

毎回、次週の講義内容に関わる課題を出しますので、次回までにしっかり考えておくこと。それを前提として、ディスカッションなどを行います。講義を受けた後は、事前に考えていたことが適切であったかどうか、もう一度、深く考えておくこと。

#### 【必要な時間】

予習、復習とも2時間を目安とします。

その他

科目名	キャリア特別講義
開講期・単位	2年 後期・選択 2単位・講義
担当者	遊佐 順和

### 講義の目的および概要

現代はグローバル化、高度情報化により、企業環境が日々刻々と変化しています。就職後も転職、失業などにより、予期していなかった展開に遭遇することも考えられます。永年にわたる職業人生を自律的に生き抜くためには、企業の仕組みや活動を理解し、キャリアデザインをしっかりと描くことが必須の状況にあります。この授業では、社会に巣立つ前に職業人生をどのようにデザインできるのか、その可能性について考えてみます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

講義形式とグループディスカッション形式で授業を進めます。  
社会人として求められる用語等を毎回説明します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、参考資料等を適宜指示・配布します。

### 授業計画

授業は、概ね以下のとおり実施します。

1. 変化の激しい時代のキャリア形成
2. 変化するビジネス環境
3. 格差社会（学歴間格差・賃金格差）
4. 働く人のルール、就業規則、福利厚生
5. 昇進と昇格、異動、配置転換
6. 就業継続と転職 スカウト、移籍
7. 解雇と失業、定年退職、年金
8. パワーハラスメント
9. トークセッション「企業が期待する人材とキャリア」
10. トークセッションから発展ディスカッション
11. 労働時間と休暇ワークライフバランス
12. トークセッション「仕事を通して自己実現を図る」
13. 様々なキャリアと能力開発（自己投資・ロールモデル）
14. 学生生活とキャリアデザイン（プロフィールシート）
15. レポートとまとめ・解説

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

組織で働くために必要な環境やルールを理解できる。  
広く社会を見つめ、キャリア継続するため知識を理解できる。  
自らの職業生活の在り方を考えデザインすることができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「生活創造と就業に必要な基礎的知識、技能およびそれを基にした専門知識技能を修得した学生」に基づき、社会におけるビジネス実務を取り巻く環境等の変化に対応する能力の獲得を通じて、社会人として自立できる能力を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

レポート 50%  
毎回の提出物 30%  
トークセッション課題 20%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

適宜、プリントや参考資料を提示、配布します。

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

- ・新聞、ニュースに積極的に触れておくこと。
- ・課題を必ず調べ、まとめておくこと。

#### 【必要な時間】

課題を調べるため、授業を受けた後復習をするために1 - 2時間の時間が必要です。【必要な時間】

**その他**

実践キャリア実務士の必修科目で、キャリア教育の仕上科目です。  
この科目で養うDPに関わる能力：

科目名	職場のコミュニケーション
開講期・単位	2年 前期・選択 1単位・演習
担当者	和田 早代

### 講義の目的および概要

サービススタッフとしての、サービス接遇の考え方、行動の仕方、話し方の技術を学び、接遇者としてのマナーを発揮できるようになる。また、サービス接遇検定2級の資格をめざし、1年秋学期「オフィス実務」で準1級ロールプレイング合格の者は、この2級合格により、2級・準1級の資格が取得できる。受験の順序は逆でも構わない。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

秘書の実務経験のある教員が、職場内外におけるコミュニケーションについて事例を紹介しながら講義します。サービス接遇検定2級のテキストを使用し、資格取得を目指します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

検定の課題は、毎回採点します。課題については、授業内で解説するとともに、学内共有フォルダを通じて資料を配布します。

### 授業計画

ガイダンス、サービス接遇検定の説明

過去問の解説

2級検定講座1(サービススタッフの資質)(1)

“(2)

検定講座2(専門知識)(1)

“(2)

検定講座3(一般知識)(1)

“(2)

検定講座4(対人技能)(1)

“(2)

検定講座5(実技技能)(1)

“(2)

総復習

サービス接遇検定模擬試験、接遇用語テスト

サービス接遇解答速報・まとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

職場環境に対応して即戦力となるために、対人心理を理解し、自らがホスピタリティを発揮して、相手や状況に合わせて対応ができること。また、サービス接遇検定2級を取得すること。さらに準1級の取得も目指す。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立して生きていくための社会人基礎力を身に付けている学生にが浮きを授与する」に基づき、就業に必要な基本的知識と技能を修得し、社会人としての教養の獲得や社会生活のあり方を設計し、多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力を身に付けます。

### 成績評価基準と方法

サービス接遇検定問題集の解答提出60%

接遇用語集の提出20%

その他提出物20%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

実務技能検定協会「サービス接遇検定公式テキスト2級」1200円

#### 【参考文献】

実務技能検定協会「サービス接遇検定実問題集」

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

今回の授業範囲について、専門用語の意味などをノートにまとめてきてください。また、毎回の授業内容の復習問題を冒頭で出題します。必ず前回の授業内容を振り返り、ポイントや重要事項を復習ノートにまとめてください。

#### 【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

### その他

サービス接遇検定2級は、本学を会場に6月に実施予定です。

サービス接遇検定2級の受験料は3900円

科目名	課題解決演習
開講期・単位	2年 前期・必修 1単位・演習
担当者	和田 早代、和久田 紗恵子、石田 麻英子、石川 智寛、遊佐 順和

### 講義の目的および概要

学科の学びの集大成として、今までに学んだことを生かすための授業です。与えられたテーマの下で課題を見つけ、それを解決するために、自分たちの力でできることを探し、提案、実行します。課題解決演習 では、まずプロジェクト学習の基本と手法を押さえ、この授業がどのような効果を意図しているのか、どのような力を育成しようとしているのかを踏まえたうえで、チームを組み他者との協働により実施します。課題解決 終了時においては、ゴールを決め、計画書を作成し、ある程度実施を進め、報告できることが、最低限の目標になります。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

グループワークが中心 情報収集、ディスカッションをする  
活動状況を、教員や他チームにわかりやすいように報告する発表を行う

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

担当教員を上司に見立て、チームの活動 = 仕事についての報告・連絡・相談をし、成果を認めてもらう形式となる。

### 授業計画

オリエンテーション、今年度のプロジェクトについて  
プロジェクトの進め方、有効な機能とその使用について  
提出物、様式、予算執行方法、活動時間の計時ルール、成績評価の基準などを確認  
プロジェクト開始（プロジェクトごとの実施）目的の共有  
プロジェクトの運営上使える知識スキル  
ハウレンソウとチームワーク、効果検証の方法  
プロジェクト活動  
プロジェクト活動  
プロジェクト活動  
プロジェクト活動  
プロジェクト活動  
プロジェクト活動  
中間報告に向けたまとめ  
中間報告とフィードバック  
ピア評価と秋学期に向けて

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

チームでの自分の役割を意識し貢献できる  
プロジェクトの進め方と効果検証の方法について理解する  
テーマに対する理解を深め実現可能な解決策を立てる  
スケジューリング、タスクマネジメント、報連相などの基本的な仕事の技術を活用できるようにする。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力及び課題を発見し解決する能力を身につけ、北海道に貢献できる人材を目指す。

### 成績評価基準と方法

個人提出物（アクション記録、個人レポート他） 50%  
グループ提出物（中間報告、提出物、ピア評価他） 50%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

テキストは設定しません。配布物や重要書類を格納するためのファイルなど個人で用意してください。配布資料、アクションシートなどはA4 2つ穴あきの状態でお渡します。

#### 【参考文献】

「課題解決力と論理的思考力が身につくプロジェクト学習の基本と手法」鈴木敏恵著  
教育出版

### 授業外学習

毎回の授業前には授業時間以外でプロジェクトの情報を収集したり、授業内で成果物、書類が完成しなかった場合、その完成作業を授業外でもらうことになります。最低でも1時間以上の時間がかかります。

### その他

社会は目まぐるしく変化しています。変化に対応できる準備はできていますか？その準備がこの授業です。プロジェクト活動は苦労しただけ力がつくものです。苦労、失敗をたくさん経験してください。

科目名	課題解決演習
開講期・単位	2年 後期・必修 1単位・演習
担当者	和田 早代、和久田 紗恵子、石田 麻英子、石川 智寛、遊佐 順和

### 講義の目的および概要

課題解決演習 から継続して活動を行い、最終成果の発表に向けて活動します。企画を再構築したり、効果検証を行い、完全なものにするための工夫を継続します。チームでの活動をとおして、協働する意味、役割を認識し、最後までやり遂げる大切さを学びます。活動をとおして、今後、社会生活において起こり得る様々な問題に対応できる力を身につけます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

グループワーク、ディスカッション、発表を行う。  
フィールドワークを行い記録を残す  
まとめと成果物の作成を通じた取り組みへの反省を発表する

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

担当教員によるチェックとフィードバックは、授業内で適宜行う。

### 授業計画

概ね、以下のように進めます。

1. 課題解決演習 での内容、スケジュールの再確認
2. 個人スケジュールを勘案した実行計画の整理
3. プロジェクト活動
4. プロジェクト活動
5. プロジェクト活動
6. プロジェクトの実行・運営
7. プロジェクトの実行・運営
8. プロジェクトの実行・運営
9. プロジェクトの実行・運営
10. 効果検証
11. 効果検証
12. 成果発表に向けた準備
13. 成果発表に向けてのポスター完成
14. 成果発表
15. 全体振り返り

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

チームでの自分の役割を意識し、他者への配慮を忘れず組織的に動くことができる  
課題を最後までチームで遂行するための技術と力を身につける  
進捗状況を明確にし、期日までに予定された仕事を完遂することができる  
プランの適切な効果検証を行い、改善に向けた提案ができる

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力及び課題を発見し解決する能力を身につける

### 成績評価基準と方法

個人提出物（アクション記録、最終レポートなど）50%  
グループ提出物（最終ポスター、発表、ピア評価、成果物など）50%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

テキストは設定しません。配布物や重要書類を格納するためのファイルなど個人で用意してください。  
配布資料、アクションシートなどはA4・2穴あきの状態でお渡しします。

#### 【参考文献】

「課題解決力と論理的思考力が身につくプロジェクト学習の基本と手法」鈴木敏恵著  
教育出版

### 授業外学習

毎回の授業前に、授業時間以外でプロジェクトの情報収集や、授業内で成果物、書類が完成しなかった場合、授業外にその完成作業をしてもらうことになります。授業時間では間に合いませんので、前後に最低でも1時間以上の準備時間は必要です。また、夏季休暇中に継続してプロジェクトを進めておくことで、後で時間に追われず、満足いく成果を上げることができるでしょう。

## その他

課題解決演習 から引き続き、学科の2年間の学びの集大成となる科目です。  
社会に出る前に、仕事をする上での自分の得意不得意について実践を通して認識し、  
対策を講じられるようにしましょう。

科目名	北海道のフードビジネス
開講期・単位	2年 後期・選択 2単位・講義
担当者	遊佐 順和

### 講義の目的および概要

食のライフスタイルは多様化し、専門性や快適性が追求される中、フードビジネスの世界は年々専門性や高度化を増し、競争が激化している。本講義の目的は、フードビジネスの意義・歴史・環境変化などを学び、海山の恵みや豊かな大地で育まれる北海道食材の基本知識を学習し、フードビジネスに対する理解を深めることである。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

授業は配布するプリントを中心に講義形式で行うが、学習内容への理解を深め問題意識を持つために、演習形式やグループワークなども一部取り入れて実施します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、参考資料等を適宜提示・配布します。

### 授業計画

授業は、概ね以下のとおりに実施する。

オリエンテーション：授業の概要説明  
 フードビジネスの意義  
 フードビジネスの歴史（消費者の食ニーズ）  
 フードビジネスの歴史（外食ビジネスの成立と特徴）  
 食卓におけるプロトコール  
 北海道が育む和食文化  
 北海道産の魅力ある加工食品  
 食やジビエによる地域振興の取組み  
 異業種からのフードビジネス参入  
 農業生産者による6次産業化の取組み  
 フードビジネスに特化する宿泊産業  
 食品衛生とマネジメント  
 グループワーク（ディスカッション）  
 グループワーク（プレゼンテーション）  
 振り返りとまとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

多様化する消費者の食に関するニーズやウォンツを学び、専門化、高度化するフードビジネスの現状や、今後の課題・可能性について考察し、北海道の食材、加工品に対して理解できるようになる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力および課題を発見し解決する能力を身に付け北海道に貢献できる学生」に基づき、北海道の食資源の特徴を理解し、地域における現状と今後の課題を発見・解決することにより北海道に対して貢献できる能力を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

定期試験 50%  
 授業内課題 20%  
 授業内プレゼンテーション 30%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

適宜、資料を提示・配布します。

### 授業外学習

**【具体的な内容】**

< 予習 > 授業で取り扱う内容に関し、毎回事前に新聞やニュース番組などを利用して、自ら積極的に触れておくこと。

< 復習 > 各回の授業で取り扱った内容に関し、講義内容をしっかりと復習するとともに、図書館の関連書籍やインターネットなどを活用して深く調べ、それぞれの内容をまとめておくこと。

**【必要な時間】**

それぞれ1時間ずつはかかります。

**その他**

この科目で養うDPに関わる能力：

科目名	レシピ研究と実践
開講期・単位	2年 前期・選択 1単位・演習
担当者	和久田 紗恵子

### 講義の目的および概要

様々な料理レシピ情報が簡単に手に入る現代社会の中で、レシピについて正しく理解し、実践できる力は健康的な食生活を形成するうえでとても大切である。本科目では調理実習を通して、食材が調理を経て料理になるまでの手順を理解しながら、テーマに沿ったレシピを考え、オリジナルレシピを作成する。調理実習を行いながら、より良いレシピ作成のために、レシピを活用する人の立場になり考え研究するとともに、レシピ通りに調理する実践力をはぐくむ科目である。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

授業は講義と実習形式で展開する。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題等については授業内で解説する。

### 授業計画

レシピの成り立ち  
 レシピのテーマについて  
 メニューの決定  
 レシピ案作成  
 食材の調達  
 試作  
 試作  
 レシピ案修正  
 試作  
 試食会と評価  
 レシピの充実  
 レシピ修正  
 レシピ仕上げ  
 レシピ完成  
 発表

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

食材が料理になるまでの手順を理解することができる。レシピを活用し、正しく料理できるようになる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

学位授与の方針である「生活創造に必要な基礎知識」「生活創造に必要な技能」「広い視野と望ましい社会人としての教養」を育成する科目である。

### 成績評価基準と方法

レポート：40％  
 レシピ：40％  
 発表：20％

### テキスト・参考文献

#### 【参考文献】

レシピや食材、調味料に関する書籍等。

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

レシピ研究の過程をまとめ、復習してきてください。予習のテーマは授業内で提示します。日頃から、「こんなレシピがあったら良いな」とレシピに興味を持ち、料理を見て調理過程を想像して生活してみましょう。

#### 【必要な時間】

それぞれ1時間程度が目安です。

### その他

施設設備、安全確保の観点から履修人数は12名を上限とする。

科目名	オフィス演習
開講期・単位	2年 後期・選択 1単位・演習
担当者	和田 早代

### 講義の目的および概要

一人の社会人として、ビジネス全般についての知識やビジネスマナーを身に付けることを目的としています。ビジネス現場全般についての理解と、人と情報のネットワークを良く知り、一人のビジネスワーカーとして活躍するための知識と技能を学びます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

理論に対する実務的アプローチを、一人の秘書の事例を中心にストーリーを構成し、それをもとに学習します。秘書の実務経験のある教員が、事例を豊富に提供しながら理論と実務で進めていきます。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

評価基準となる課題については、その評価を個別に示します。学生からの質問については、授業の始めに全体へ向けて答えます。

### 授業計画

ガイダンス、秘書の役割と仕事  
 スケジュールリング  
 メディカル秘書の役割  
 基本業務と人間関係  
 感じの良い人になる（非言語と言語）  
 基本的なコミュニケーション力を考える  
 オフィス業務実践演習  
 中間まとめ  
 応対演習  
 出張のコーディネート  
 会議のコーディネート  
 慶弔・贈答のコーディネート  
 文書業務・情報管理  
 オフィス業務実践演習  
 まとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

上司とのコミュニケーションを実践できる。  
 人と情報のコーディネートができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立して生きていくための社会人基礎力を身に付けている学生にが浮きを授与する」に基づき、就業に必要な基本的知識と技能を修得し、社会人としての教養の獲得や社会生活のあり方を設計し、多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力を身に付けます。

### 成績評価基準と方法

レポート30%×2本  
 その他提出物40%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

プリントを配布します。

#### 【参考文献】

「新しい時代の秘書ビジネス実務」全国大学実務教育協会、紀伊國屋書店  
 「新しい時代の秘書ビジネス論」 " "

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

学科での学びを保証するためビジネススキル等の目標バーを越えることを目的としています。目標をクリアするために、事前事後で1時間以上の授業外学習が必要です。テストをクリアするまで何度も挑戦します。

#### 【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

### その他

科目名	調理実習(基本)
開講期・単位	2年 前期・選択 2単位・実習
担当者	和久田 紗恵子

### 講義の目的および概要

多種多様な目的に応じた調理知識と技術を習得することは、人間生活を豊かにし心身ともに健全な食生活をおくる上で大きな意義をもつ。本科目では健康で自立的な食生活の実現に向けて、調理に関する基本知識と技術を習得することを目的とする。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

授業はプリントを中心に講義と実習形式で展開する。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説する。

### 授業計画

調理実習（基本）は、調理の基礎的知識、基礎的技術の習得を目指し、健康と栄養バランスに配慮した日常食の実践に関する学習を行う

オリエンテーション  
調理の基本知識  
調理の基本知識  
調理手法の基礎知識  
調理手法の基礎知識  
調理実習  
献立作成の基礎知識  
献立作成演習  
調理実習  
振り返り  
献立作成演習  
調理実習  
振り返り  
献立作成演習  
調理実習 ・まとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

調理時に大切な衛生管理を理解すること。調理器具の種類や取り扱い方について理解すること。料理構成や調理手法を学び、献立作成ができるようになることを目標とする。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

学位授与の方針である「生活創造に必要な基礎的知識」「生活創造に必要な技能」「北海道に貢献できる能力」を育成する科目である。

### 成績評価基準と方法

実習記録ノート：50%  
提出物（小レポート等）：50%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

適宜プリントを配布する。

#### 【参考文献】

授業の中で適宜紹介する。

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

実習記録ノート作成にむけて、毎回の授業内容と留意点を正確に記録し、適切に分りやすくまとめてください。また、随時提示される小レポートを作成するため関連資料を収集し、まとめてください。

#### 【必要な時間】

それぞれ2時間程度が目安です。

### その他

施設設備、安全確保の観点から履修人数は12名を上限とする。

科目名	生活文化
開講期・単位	2年 後期・選択 1単位・演習
担当者	和久田 紗恵子

### 講義の目的および概要

私たちの生活環境、社会環境はめまぐるしく変化しているが、長い歴史の中で培われてきた日本の伝統的な生活文化について知識を深めることはとても大切である。本科目では、社会生活を送る上で必要な生活文化に関する基礎知識と歴史的由来について学習し、自らが文化の作り手、担い手であることを意識できるようになる。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

授業は提示または配布したプリントを中心に講義形式と演習形式を適宜組み合わせで展開する。課題に基づいたグループワーク、ディスカッション等を取り入れる。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたレポートや課題については授業内で解説する。

### 授業計画

#### オリエンテーション

日本の伝統文化

日本の伝統文化

日本の伝統文化

グループワーク

発表

私たちの生活文化(衣食住)

私たちの生活文化(衣食住)

私たちの生活文化(衣食住)

私たちの生活文化(衣食住)

私たちの生活文化(衣食住)

私たちの生活文化(衣食住)

グループワーク

グループワーク

発表とまとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

より豊かな生活を送るために日本の生活文化に関する基本的な知識と特徴を理解すること、日常生活の中にある「生活文化」を知り、その在り方について、考察することを目標とする。生活文化について学び、今後の自分たちが新たな生活文化を作っていくという意識をもって生活できるようになる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

学位授与の方針である「生活創造に必要な基礎的知識」「生活創造に必要な技能」「広い視野と望ましい社会人としての教養」を育成する科目である。

### 成績評価基準と方法

レポート：50%

グループワーク：40%

授業内提出物：10%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

適宜プリントを配布する。

#### 【参考文献】

日本の伝統文化、年中行事に関する書籍等。

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

毎回の授業の資料をまとめ、復習をしてください。予習のテーマは授業内で提示します。日頃から、自分の送りたい生活、日常の中の「文化」を意識して生活してみましょう。また、異文化生活の授業の学びを振り返っておくと良いでしょう。

#### 【必要な時間】

予習復習それぞれ1時間程度を目安とします。

### その他

科目名	異文化生活
開講期・単位	2年 前期・選択 2単位・講義
担当者	藤垣 エミリア

### 講義の目的および概要

本講義では芸術、工芸、ライフスタイルや食文化を通して日本と違った世界に関して理解を深めることを目指す。歴史、社会、自然環境や芸術といったパースペクティブから見た「異文化」について学び、視野を広げることと、過去と現在に異なるコンセプトやグローバル社会の中でも民族のアイデンティティと伝統として守られている価値観に気づくことを目的とします。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

主な講義スタイル。

講義の内容は西洋文化の「過去」と「現在」をテーマ レクチャーに分かれている

講義の内容をテーマにし、グループワークを行う。

学生は毎回の授業に関して短いサマリーを書く。

【課題に対するフィードバックの方法】毎回の授業中は学生がコメントを書き、数回は教員がチェック・評価してから学生に戻す。

### 授業計画

オリエンテーション・異文化とは何か・挨拶・ボディランゲージ・習慣・ステレオタイプ

古代：ヨーロッパ芸術の特徴と生活・歴史・社会的背景・オリンピック

中世：ヨーロッパ芸術の特徴と生活・歴史・社会的背景・手書き本・大聖堂

17世紀ネザールランド地方の絵画を通して、人々の考え方や食文化の紹介

17世紀ネザールランド地方の絵画を見て分析する・フェルメール他

豊かな自然を誇る、緑の国ポーランド・町並み（アーバンプランニングと緑）

ポーランドの行事と食文化・手作り・伝統行事

自然を中心とするスウェーデンのライフスタイル・ごみのリサイクル

スウェーデンの工芸と食文化・ノーベル賞

お米を愛するカンボジア・食卓・自然環境

カンボジアの子どもたち・学校教育・歴史的な背景

国民の幸せな生活を一番大事にする国ブータン

幸せの生活の様相とは何ですか(ワークショップ)

授業のまとめと復習

期末テストフィードバック

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

異文化の芸術や自然に対する考え方を学ぶ

過去と現在を結ぶ文化的要素に気づく

考える力とコミュニケーションスキルを伸ばす

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

広く知識を増やし、物事を客観的にみる能力や、情報機関に流されず、自立した考えを持つことで、広い視野と社会人としての教養を身につけ、自らの社会生活の在り方を考える。

### 成績評価基準と方法

毎回のサマリー(コメントシート)	30%
参加報告	11%
期末テストフィードバック	59%

### テキスト・参考文献

【テキスト】  
教員による資料・プリントの配布

【参考文献】信憑性の高い資料を読むこと。データならソースをはっきりわけて、他と比較できるもの。ニュースや教育番組の観賞。雑誌やガイドブックの一部を使うことができる。

### 授業外学習

【具体的な内容】  
授業で配布された資料、また教員にチェックされた自分のコメントやレポートを再び読み、必ず復習を行うこと。授業で使われる予定の内容について、参考文献・新聞やニュースなどで積極的に予習を行い、分析や総合的な考え方を養うこと。各回の授業で紹介されたトピックスについてさらに深く調べ、ワークショップなどに生かし、ノートでまとめること

【必要な時間】予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

### その他

毎回授業前に前回の授業の復習をし、授業内で積極的に質問やコメントを述べること。授業後は、配布された資料を読み、授業での「ここは大事」だけではなく、自分が興味を持ったことに関してさらに調べる。

科目名	女性と人生
開講期・単位	2年 後期・選択 2単位・講義
担当者	石田 麻英子

### 講義の目的および概要

女性という立場を選んで生きるうえで、ライフイベントなどにより、人生は大きく揺れ、その都度、迷い、選択することが発生します。自身の人生において、短大生活2年間が持つ意味を考え、様々な生き方について学び、現実の社会について知り、既成概念にとらわれず、自分で考え選択することについて考察します。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

講義形式で授業を進めますが、質問を向けたりして双方向授業になります。また、課題についてグループを作りディスカッションをしてより掘り下げて考察をします。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

評価基準となる課題については、その評価を個別に示します。  
学生からの質問については、授業の始めに全体へ向けて答えます。

### 授業計画

1. 女性とは。
2. 幸せを考える 日本社会と女性（ディスカッション）
3. 歴史、文化と女性：自己肯定、美
4. 現実社会に照らしたディスカッションと意見形成
5. 現実社会に照らしたディスカッションと意見形成
6. 発表
7. ヒロインたちに学ぶ生き方
8. ヒロインたちに学ぶ生き方
9. 発表
10. 私たちの今までとこれから ディスカッションと準備
11. 私たちの今までとこれから ディスカッションと準備
12. 私たちの今までとこれから 発表：幼児教育保育学科とのコラボ授業
13. 家庭、子育てと、私たちの生き方：幼児教育保育学科とのコラボ授業
14. 予期せぬシナリオ、それでも前を向いて生きるために
15. レポート課題の共有、まとめ、振り返り

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

女性として生きることについて自分の意見を確立する。  
仕事と生活のバランスのとり方について自分なりのポリシーを確立する。  
経済的自立と精神の自立の関係を理解できる。  
自分の人生を振り返り、未来に向けて自信をつける。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「広い視野と社会人としての教養を持ち、自らの職業生活・社会生活のあり方を設計できる」「多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力および課題を発見し解決する能力を身に付ける」に関連する。

### 成績評価基準と方法

提出物（課題シート、毎回の提出シート）・・・40%  
レポート・・・40%  
アクティビティ（ワークシートで判断）20%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

毎回、資料を配布します。

#### 【参考文献】

授業内で適宜紹介します

### 授業外学習

- ・毎回、前回の授業内容の復習、確認をします。提出物で指摘されたところの訂正をします。
- ・次週の課題が出ますので、必ず取り組んでくることが求められます。事前・事後学習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。
- ・授業の課題のために、授業外で映画を見たり、本を読んだりしていただくことがあります。

### その他

科目名	現代生活と福祉
開講期・単位	2年 前期・選択 2単位・講義
担当者	鈴木 道代

### 講義の目的および概要

本講義の目的は 社会福祉とは何か、それを必要とする生活とはどのような状況であるのかを理解することが目的である。また社会福祉の理念、様々な社会福祉法制の仕組み、サービス体系についても学習する。  
以上を通して、受講生の生活における社会福祉の考え方、その必要性等について受講生自身の考えを持つことを目指す。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

主に、講義形式(板書)で展開するが、DVD視聴、学生に意見を求めディスカッション形式で実施する。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

講義開始時に、事前学習課題、リアクションペーパーに対するコメントをし、学生と意見を共有する。

### 授業計画

オリエンテーション、社会福祉とは何か  
社会福祉の対象と利用形態  
社会福祉の仕組みと生活  
社会福祉の援助方法 1 ~ 社会福祉の専門職と視点  
社会福祉の援助方法 2 ~ 社会福祉で活用する技術  
現代社会の変化  
第 1 回から第 6 回のまとめ・中間テスト  
児童家庭福祉 1 ~ 児童福祉の理念、児童虐待の現状と児童養護施設  
児童家庭福祉 2 ~ ひとり親家庭の現状、特別養子縁組  
障害児・障害者福祉 ~ 障害、ノーマライゼーション、合理的配慮  
低所得者福祉 1 ~ 貧困、貧困の連鎖  
低所得者福祉 2 ~ 生活困窮者自立支援制度、生活保護制度  
高齢者福祉 1 ~ 高齢者をめぐる家族問題、介護保険制度  
高齢者福祉 2 ~ 高齢者の身体的・精神的特性  
第 8 回から第 14 回のまとめ・授業内期末試験

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

社会福祉に関する知識を理解することができる。  
現代生活における社会福祉の必要性について関心を持ち、考えることができる。  
現代生活における社会福祉の必要性について説明することができる。  
~ の理解を通して、受講生自身の生活と社会福祉の必要性を関連づけ、受講生自身の考えを持つことができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

総合生活キャリア学科では、広い視野と社会人としての教養を持ち、自らの生活のあり方を設計できること、多様な人々とコミュニケーションをとることができる能力を身につけることが学位授与の認定要件となっている。このことからすれば、本科目は現代生活において社会福祉を必要とする人やその生活状況を理解することがに相当し、かつ、自らの生活における社会福祉の必要性をも理解することが、これがに相当する。加えて、社会福祉実践の場においてはコミュニケーション技術は不可欠であることから、そのような技術を学習することはに役立つと考える。

### 成績評価基準と方法

テーマごとのリアクションペーパーを兼ねた確認問題・キーワードを調べる事前学習の提出状況、取り組み方(20%)  
取り組み方：授業内私語で注意された場合、氏名を確認の上マイナス1点とする  
公欠以外の欠席は減点対象とし欠席 1 回につきマイナス 1 点とする  
中間テスト(30%)  
授業内期末試験(50%)

### テキスト・参考文献

【テキスト】  
特になし。プリントを配布する（各自でファイルすること）。

【参考文献】  
山縣文治ら編（2013）『社会福祉用語辞典第9版』ミネルヴァ書房。  
鈴木幸雄編（2012）『現代の社会福祉』中央法規。  
鶴 幸一郎、藤田 孝典、石川 久展ほか（2019）『福祉は誰のためにーソーシャルワークの未来図』へるす出版。

### 授業外学習

事前学習：毎週提示するキーワードを調べ、理解する。  
事後学習：事前学習で調べたキーワードの内容と講義内の内容、日常的に見聞する社会福祉の事象を関連づけられることが望ましい。講義内においてリアクションペーパーを記述することを求めるので、その際の考えを事後学習に役立ててもらいたい。  
事前学習・事後学習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

### その他

講義内で意見を求められた場合には積極的に答えること。  
携帯電話の使用を禁ずる。  
私語等授業妨害とみなす行為をした学生には退出してもらう。  
講義の展開上、席の移動を求められた場合には、速やかに従うこと。

科目名	Office English
開講期・単位	2年 前期・選択 1単位・演習
担当者	竹内 康二

### 講義の目的および概要

実際の職場で発揮できる英語運用力を高めることを目的とします。具体的には、同僚との打合せ、お客への対応や電話での受け答え、また、スケジュール管理など、職場での様々な場面を想定して、円滑なコミュニケーションができるように、英語の表現を身につけます。授業の活動では、ペアワークやグループワークでロールプレイングをすることが多くなります。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

演習形式を主として行いますが、主に、YouTube を利用した場面スキーマの構築、会話表現演習、ペアワーク&グループワーク、リスニング、ライティング、まとめ、を基本的な学習過程とします。場面をよく思い浮かべ、そのようなときの適切な応答は何か考えながら、コミュニケーションをするように心がけましょう。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

前回の授業で学習した内容を、授業の最初に小テストで確認したり、ペアワークで実際に演じたりします。前回学んだ基本的な表現をただ丸暗記するのではなく、自分らしく表現するように学習して次の授業に臨みましょう。

### 授業計画

オリエンテーション 学習方法と内容 Unit 1 Introductions  
 Unit 2 Telephone Calls  
 Unit 3 Making an Inquiry  
 Unit 4 Making an Appointment  
 Unit 5 Receiving a Visitor  
 Unit 6 Invitations  
 Unit 7 Presentations 1  
 中間まとめ Mid-Term Test  
 Unit 8 Presentations 2  
 Unit 9 Presentations 3  
 Unit 10 Online Meetings  
 Unit 11 Negotiations  
 Unit 12 Placing an Order  
 Unit 13 Making a Complaint  
 最終まとめ Final Exam

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

職場での基本的な英語コミュニケーション運用能力を身につける。グローバルな時代にあって、顧客への対応、電話の受け答え、簡単なメールのやりとりなどの基本的な英語コミュニケーション能力を身に付ける。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

学科の学位授与の方針である、「多様な場で活躍できる実務能力を持った人材」を育成するため、国際化された社会にあって社会人としての教養と基礎的な英語コミュニケーションを培う。

### 成績評価基準と方法

授業内期末テスト50%、中間テスト30%、小テスト20%。なお、中間、期末テストには会話実技を含む。

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

Tae Kudo. Successful Office English. Cengage Learning. ISBN:978-86312-343-4

#### 【参考文献】

公式TOEIC Listening & Reading トレーニング リスニング編及びリーディング編等

### 授業外学習

【具体的な内容】

ビジネスの場面における英語コミュニケーションを学ぶ機会を自分から探すことも必要です。自己学習できるものとしては、様々なビジネスの場面の英語表現を扱っているTOEICの問題にどんどん挑戦しましょう。授業の事前学習としては、小テストの準備、次のユニットの語彙のチェック、事後の学習としては、学習した表現の確認とリスニングの復習が必要です。

【必要な時間】

授業ごとに事前・事後とも2時間の学習が必要です。

**その他**

授業中にペアワークやグループワークを行いますので、互いに競い合って学習の効果が上がるように積極的に授業に参加することが大切です。教科書は必ず買いましょう。

科目名	Customer Service English
開講期・単位	2年 前期・選択 1単位・演習
担当者	石田 麻英子

### 講義の目的および概要

国際化する社会において、外国人のお客様にとっさに対応できるように、必要な英語を学び、準備をするための科目です。基本的な表現を身につけ、場面や状況に応じて応用できるように、実際に練習を重ね、「職場に一人は欲しい英語を使えるスタッフ」として自信をもって積極的に接客できる人材を目指します。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

講義形式を挟みつつ、演習形式をメインで行います。場面を想定し、自分たちが必要な表現を集め、実際に実演してみるロールプレイ（グループ）を重ね、指導を受けながら自分専用の表現集を完成させてもらいます。自分で作った試験問題で自分をテストしてもらいます。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

ロールプレイ後に個別にコメントアドバイスを行う。

### 授業計画

- 1 オリエンテーション 外国人のお客様
- 2 基本的な表現 来店からお見送りまで
- 3 場面の想定 想定されるお問い合わせ洗い出し
- 4 パターンの設定と流れの確認
- 5 基本ストーリーの作成と原稿の完成
- 6 実演とフィードバック
- 7 あらかじめ準備しておくこと メニュー、説明書、看板
- 8 あらかじめ準備しておくこと 販促POP チラシ
- 9 場面別 POPや説明書き、メニュー等の作成
- 10 私の職場で使う表現
- 11 ツールの作成と単語帳の完成
- 12 テスト問題を作ってみよう ストーリーの設定
- 13 あったら便利、自分専用マニュアル完成に向けて
- 14 実演試験と筆記試験
- 15 フィードバックとマニュアルの完成

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

職場に外国人の方が来た時にうろたえず対応できる準備をする。  
自分が仕事をするフィールドにおいてよく使われる表現を確認し、すぐに使えるように準備をしておく。自分専用のマニュアルを作る

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

就業に必要な能力の一つとして、また多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力をつける。

### 成績評価基準と方法

フィードバックフォーム 30%  
積み上げ式期末課題（自分マニュアル）40%  
実演 30%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

特に使用しません。

#### 【参考文献】

関連書籍は複数市販されています。参考資料のURLは授業内で指示いたします。

### 授業外学習

毎回の授業の資料をまとめ復習すること。次回用に課せられた予習課題をクリアしておくこと。予習復習合わせて、最低でも1時間はかかります

### その他

何より、英語を「声に出す事」に慣れていてください。メモを見ながらでも、熱心に伝えることが重要です。  
この科目は ~ レベルです。、 の科目を事前または同時に受講し、準備をしておきましょう。

科目名	Travel English
開講期・単位	2年 前期・選択 1単位・演習
担当者	トーマス ジョン ニコラス

### 講義の目的および概要

インバウンドの観光客を案内するうえで必要な技能を上達するため、異文化の理解を深め、コミュニケーション方法を学ぶ。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

観光事業に関連させたテキストをもとに、実用的な観光英会話や実践力を身につける。ワークシートやグループワークなどのアクティビティを通して、ツアープランを作成するうえでの工夫や仕方を学ぶ。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

学生と講師がそれぞれの課題についてフィードバックを行う。ミニプレゼンテーションの準備のため、講義内容や課題を復習する。

### 授業計画

Orientation, Introduction  
 Basic Questions about Travel Plans  
 Thinking about Travel Destination  
 Planning a Tour (1)  
 Planning a Tour (2)  
 Review / Mini-Presentation Practice  
 Mini-Presentation  
 Research about Spots in Kiyota-ku  
 Research about Spots in Sapporo-shi  
 Script Writing Check  
 Practice  
 Field Trip - Guiding Practice

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

日常生活や将来の仕事に使えるよう英語の知識と能力を身につけ、継続的にスピーキング練習やテーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「国際社会の発展に寄与する社会人を育成する」に基づき、そのための基礎となる英語の知識、技能を身につける。

### 成績評価基準と方法

課題: 20%  
 リサーチ: 20%  
 スクリプト: 30%  
 町の案内: 30%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

特に無し

#### 【参考文献】

特に無し

### 授業外学習

【具体的な内容】

毎回授業の始めに前回の授業の復習として質問をしますので、復習をして授業を受けてください。宿題とミニプレゼンテーションの練習も含め、復習を2時間程度行ってください。

【必要な時間】

**その他**

予習をすることで学習効果が上がりますので、しっかり予習をすることをお勧めします。

4回の「Field Trip - Guiding Practice」という授業は対面授業の代わりに、演習になります。

科目名	ビジネスマネジメント
開講期・単位	2年 前期・選択 2単位・講義
担当者	牛嶋 和夫

### 講義の目的および概要

実務経験のある教員による実践的な授業であり、経営という実務に現在も関わっている経験を具体例という形で講義に反映させます。  
この科目では、経営資源（人、物、金、情報）やリスクを管理し経営効率を最大化するビジネスマネジメントに必要な具体的基礎理論（経営学）や手法について身近な事例により皆さんと一緒に考えていきます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 講義方法】

講義方式を展開しますが、適宜皆さんに質問し、色々な意見を聞きながら一方的にならない様に留意します。また、講義の最後で毎回課題に取り組んで頂きます。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

提出して頂いた課題により講義の理解度をチェックし、次の講義に反映させていただきます。課題は次回の講義で、講師から総評させていただきます。

### 授業計画

ビジネスマネジメントとは～ガイダンス～  
企業の機能と組織について  
人的資源管理とは  
経営戦略について  
マーケティングについて  
会社を理解する  
会計の基礎知識について  
経営情報とは  
意思決定の重要性について  
サプライチェーンマネジメントについて  
生産管理について  
経営機能と管理機能について  
企業の社会的責任と環境経営について  
グローバルゼーションとは  
まとめ、最終課題策定

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 到達目標】

一人一人が自分の言葉でビジネスマネジメントは何かを語れるようなレベルまで理解して頂くことと、自分の身近なアルバイトや部活、ゼミ活動の中で「ビジネスマネジメント」の手法を使えるようにすることが到達目標です。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

自立した職業人として、多様な場で活躍できる実務能力を身につけるために「ビジネスマネジメント」の専門知識を修得します。

### 成績評価基準と方法

毎回授業時の課題提出 20%  
中間課題 30%  
授業内定期試験50%

### テキスト・参考文献

#### テキスト】

事前にプリントを配布します。

#### 【参考文献】

「経営学入門」 根本 孝編著 学文社 2014年  
「プレステップ経営学」北中英明著 弘文社2013年

### 授業外学習

**【具体的な内容】**

毎回の授業の冒頭で、前回の授業内容につき指名して質問しますので、必ず前回の授業内容を復習しておいて下さい。また、次回の授業を予習しておくべき事項につき提示しますので、予習をお願い致します。予習、復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。また、常日頃から最近の企業の動き、情報を入手するよう心掛けてください。

**【必要な時間】**

予習、復習に必要な時間はそれぞれ2時間を目安とします。

**その他**

1年次科目「マーケティング」「生活と銀行」を履修した方は復習してください。履修されていない方には別途参考資料を配布します。

科目名	英語検定 [2年]
開講期・単位	2年 前期・選択 1単位・演習
担当者	石田 麻英子、竹内 康二

### 講義の目的および概要

英語検定準2、または2級、およびTOEIC Bridgeのスコアアップを目指しながら、仕事の現場で使う英語の語彙、文法、会話表現、リーディング、リスニングなどの総合的な運用能力の伸長を目指し、9月のTOEIC Bridgeの受験、6月か10月の英検受験を目指す。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

現在取得している英検の級、受験を希望する検定により、レベル別にクラスを分けて行う。  
語彙、文法、作文、リーディング、リスニングを総合的に演習形式で学ぶ。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

提出課題は教員から個別にフィードバックとアドバイスを行う。  
課題は毎回チェックがある。

### 授業計画

1. オリエンテーション TOEICとTOEIC Bridgeとは、目標の確認
2. 必須英単語熟語 リスニング
3. 必須英単語熟語 長文読解 リスニング
4. 必須英単語熟語 長文読解 リスニング
5. 必須文法 長文穴埋め リスニング
6. 必須英単語熟語 長文穴埋め リスニング
7. 中間テスト
8. 必須英単語熟語 長文穴埋め リスニング
9. 必須英単語熟語 作文 リスニング
10. 必須英単語熟語 長文読解 リスニング
11. 必須英単語熟語 長文読解 リスニング
12. 必須英単語熟語 長文読解 リスニング
13. 文法総復習と直前対策
14. 期末テスト
15. まとめとフィードバック、TOEICに向けて

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

秋学期でTOEIC450-500を目指すため、Bridgeテスト120-150点をめざす。  
在学中に取るうと目指している英検の級を取得する

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力としての英語力を伸長する。  
生活創造と就業に必要な技能の一つとして英語能力を伸長する。

### 成績評価基準と方法

期末テスト 40%、中間テスト30%、  
提出物・小テスト30%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

練習問題は大学から配布します。プリントや、manabaの素材を使用します

#### 【参考文献】

Weblio 語彙力診断テストを活用します

### 授業外学習

毎回の授業の資料をまとめ復習すること。次回ように課せられた予習課題をクリアしておくこと。最低でも1時間程度はかかります。  
定期的なまとめで試験問題に取り組み、課題を整理して学習することが必要です。  
「単語は自己責任！」覚えることは自分にしかできません。リスニングのトレーニングなども含めて授業外学習が必要です。Weblio語彙力診断テストを授業前に指定された回数こなし、間違えた単語について復習してください。

### その他

9月にBridge受験を希望する方、TOEICのスコアを上げたい方は竹内クラス  
まだ目標とした英検級を達成しておらず、引き続き英検に向けて学習する方は石田クラス

科目名	色彩演習
開講期・単位	2年 後期・選択 1単位・演習
担当者	恩村 比呂子

### 講義の目的および概要

文部科学省後援 色彩検定3級合格をめざす。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

前半は、色彩検定3級テキストを使用し資格取得をめざす。  
後半は、色彩理論に基づいた配色演習を行い色彩感覚の向上をめざす。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

前半は、講義内容の復習は各自必須。次回授業内で確認テストを実施し解説する。  
後半は、イメージ表現のコラージュを作成し授業内で講評と解説をする。

### 授業計画

ガイダンス・色彩検定の説明・検定対策「色のはたらき」「光と色」  
検定対策「混色」  
検定対策「色の分類と三属性」  
検定対策「色の表示P C C S」  
検定対策「色の心理効果」  
検定対策「色の視覚効果」  
検定対策「色彩調和」  
検定対策「配色イメージ」「ファッション」「インテリア」  
色彩検定の解答と解説・カラーセラピー  
商品の色(課題提出 )  
イメージ配色「色と形」(課題提出 )  
イメージコラージュ(課題提出 )  
イメージコラージュ要素別(課題提出 )  
アンダートーンとパーソナルカラー(作品提出 )  
課題講評・パーソナルカラー診断

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

色彩検定3級の知識を習得し3級合格をめざす。  
配色の基本を理解し意図するイメージ表現を的確に行うことができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

D Pにおける「広い視野と社会人としての教養を持ち、自らの職業生活・社会生活のあり方を設計できる学生」をめざす。

### 成績評価基準と方法

色彩検定対策問題の解答提出(40%)  
配色演習課題と作品提出(40%)  
毎回の授業振り返りシート(20%)

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

公益社団法人 色彩検定協会「色彩検定公式テキスト3級編」2200円+税  
「新配色カード199a」780円+税

#### 【参考文献】

「色彩検定過去問題」「パーソナルカラー検定3級公式テキスト」

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

毎回授業の冒頭で復習問題を出题するため、必ず授業内容の復習をしておくこと。  
プリント以外に自分のノートを作ることは検定合格に向けて必要である。

#### 【必要な時間】

予習、復習として2時間を目安とする。

### その他

2021年度冬期色彩検定は11月14日に実施予定。  
色彩検定3級検定料は7000円(税込み)。  
後半で行うコラージュ作品制作のため、はさみ、のり、雑誌数冊を用意しておく。

科目名	医薬・販売
開講期・単位	2年 前期・選択 2単位・講義
担当者	時野 香里

### 講義の目的および概要

平均寿命が長くなり生活習慣病などが問題となってきた現代、日々をいかに健康に生きるかが問われ「自分自身の健康に責任を持ち軽度の身体の不調は自分で手当てしていこう」というセルフメディケーションの考え方が生まれました。病気や薬についての正しい知識があれば軽い症状を自分で改善したり生活習慣病の予防や健康維持に役立てることができます。このような時代の中で注目されてきたのが登録販売者です。登録販売者とは薬局やコンビニエンスストアなど薬を扱うお店で薬剤師が不在でも一般用医薬品の販売ができる専門家のことです。登録販売者の資格は各都道府県で実施されている試験を受験し合格することで取得することができます。本講義では一般医薬品の成分や薬効、人体の仕組み、医薬品に関する法律などを学ぶことによりセルフメディケーションの理解を深めます。これらの知識は登録販売者資格試験の試験範囲を十分に網羅するものとなっているため、受験希望者にとっては資格取得受験対策にも最適な内容です。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

スライドを用いた講義形式で行います。教科書のほか、要点をまとめたプリントを配布するので講義を聞きながらプリントを埋めていくことで授業内容の定着を図ります。学習内容は5分野に分かれています。スマートフォン教材や実際の医薬品を用いる場合や現職薬剤師として実務経験のある教員が、実際に接客するような形での能動的な学習も行う予定です。単元ごとのまとめとして確認チェック問題を行うこともあります。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

学習した内容の過去問題を課題とします。次回の授業までに解答、自己採点したものを提出してもらいます。授業内に疑問点について解説を行います。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

授業の単元毎に課題が提示され、次の授業で課題の正答が示します。自己採点をし全体解説を聞き必要に応じてテキストチェックを行います。課題は全単元において行われ学びの定着を図ります。

### 授業計画

医薬品に共通する特性と基本的な知識  
 医薬品に共通する特性と基本的な知識  
 人体の構造と働き  
 人体の構造と働き とここまでの確認テスト  
 主な医薬品とその作用  
 主な医薬品とその作用 とここまでの確認テスト  
 主な医薬品とその作用  
 主な医薬品とその作用  
 主な医薬品とその作用  
 主な医薬品とその作用 とここまでの確認テスト  
 主な医薬品とその作用  
 主な医薬品とその作用 とここまでの確認テスト  
 薬事関係法規、制度  
 薬事関係法規、制度 とここまでの確認テスト  
 医薬品の適正使用安全対策とここまでの確認テスト

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

セルフメディケーションについて説明できる、登録販売者資格試験にも対応できる知識(一般用医薬品の成分や薬効、人体の仕組み、薬に関する法律)の知識を見につけることができる。希望者は登録販売者試験を受験し合格を目指すようになる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立した職業人を養成するため、現代生活を主体的に創造する知識と技術を身につけ多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を育成する」と言うポリシーに基づきこの講義を通して病気や薬についての正しい知識を得ることで登録販売者を目指し病院薬局やドラッグストアなどの医療の現場で活躍できる人材を養成する。

### 成績評価基準と方法

講義内模擬テスト60%  
 確認小テスト20%  
 課題提出物等20%

## テキスト・参考文献

### 【テキスト】

登録販売者試験テキスト&要点整理(薬事日報社)改と問題集

### 【参考文献】

厚生労働省(登録販売者試験問題作成に関する手引き)

## 授業外学習

### 【具体的な内容】

学習分野は5分野に分かれています。分野によっては初めて聞く用語なども多いと思うので事前にわからない単語などを調べておくことが望ましいです。また暗記することが多いので出された課題は取り組んだり、必要に応じて医薬品成分単語帳やまとめを作るようにしましょう。時間の許す限り予習を行うことが望ましいです。

## その他

各回の配布プリントは授業を休むともらえなくなる可能性があるので気をつけてください。授業の進捗状況により事業計画の一部省略や順序の変更があります。

科目名	メディカル秘書実務
開講期・単位	2年 後期・選択 1単位・演習
担当者	時野 香里

### 講義の目的および概要

診察を控え不安な患者様に対して、安心して診察や治療を行えるようにサポートするための知識を身につけます。病院などの医療機関組織の仕組みやそこで働く人たちの業務、医療に関する専門用語について学びます。患者様に寄り添うスキルとして接客対応、電話対応などのマナー、それに加え簡単な手話や英会話を学習します。また一般業務として院内や院外に向けての文書作成、様々な疾病、臨床検査項目、医療に関する法律、保険制度や薬の知識、などを学びます。保険制度や薬の知識からめて調剤報酬についても触れます。以上により医療秘書に必要な事柄を理解し専門的な知識を得ることを目的とします。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

基本的にテキストとスライドを用いた講義形式で授業を行います。患者様に寄り添うためのスキルを学ぶ際には実際に接客などを行なってもらう参加型の授業を行います。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

授業の単元毎に復習問題を行います。講義内で解答解説を行うので採点を行い間違い箇所をチェックし、学習の定着を目指します。

### 授業計画

医療秘書とは  
 医療機関の仕事、役割、仕組み、コメディカル  
 医療秘書として必要な接客対応  
 医療秘書として必要な接客対応  
 医療秘書として必要な接客対応  
 医療現場の専門用語、患者心理  
 疾病学と臨床検査  
 疾病学と臨床検査  
 医療機関文書、診療録管理  
 医療・薬事に関する法律  
 医薬品の知識、制度、調剤報酬  
 医薬品の知識、制度、調剤報酬  
 医薬品の知識、制度、調剤報酬  
 医薬品の知識、制度、調剤報酬  
 まとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

医療秘書の立場から医療機関の仕組み、業務、接客、疾病や薬、関係法規をなどの幅広い知識を学習し理解すること。それらの知識を生かし、患者様に対して、不安を取り除き安心して診察や治療を行えるようにサポートする技術を身につけることを目標とします。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立した職業人を養成するため、現代生活を主体的に創造する知識と技術を身につけ多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を育成する」に基づき、医療機関において実務だけでなく患者様に寄り添うことのできる能力をもつ職業人を養成します。

### 成績評価基準と方法

定期試験60%  
 課題提出物等40%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

『医療秘書』建帛社  
 適宜、プリントを配布

#### 【参考文献】

なし

### 授業外学習

**【具体的な内容】**

その日の講義で習ったことその日のうちに整理し復習を行うこと。知識の定着につながります。

**【必要な時間】**

最低1時間は行なってください。

**その他**



**【具体的な内容】**

復習を欠かさず行ってください、毎回、出された課題に取り組んでください。また授業で行った以外の箇所に関しても必要と思う箇所は積極的に自習しましょう。何度も繰り返し学習することで、正しい調剤録とレセプト作成の力が定着します。

**【必要な時間】**

復習に1時間、課題に1時間行うことが学力の定着及び向上に繋がりますので極力行なってください。

**その他**

・授業に関しては調剤録やレセプトを多数作成するためA4ファイル(リングタイプで2穴のもの)を1冊用意していると毎回配布される資料を綴るのに便利だと思います。

科目名	登録販売者演習
開講期・単位	2年 前期・選択 1単位・演習
担当者	時野 香里

### 講義の目的および概要

平均寿命が長くなり、生活習慣病などが問題になってきた現代、日々をいかに健康に生きるかが問われ、「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てしていこう」というセルフメディケーションの考え方が生まれました。病気やくすりについての正しい知識があれば、軽い症状を自分で改善したり、生活習慣病の予防や健康維持に役立てることができます。このような時代の中で注目されてきたのが登録販売者です。登録販売者とは薬局やコンビニエンスストアなど薬を扱うお店で薬剤師が不在でも一般用医薬品の販売ができる専門家のことです。登録販売者の資格は各都道府県で実施されている試験を受験し、合格することで取得することができます。本講義では医薬・販売の講義で習った一般用医薬品の成分や薬効、人体の仕組み、医薬品に関する法律等の知識を生かして登録販売者の資格取得試験受験対策を行うことを目的としています。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

スライドを用いた講義形式で行います。その後、前年度の各都道府県の登録販売者資格試験過去問題を行います。講義内で解答解説を行います。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

学過去問題で間違った箇所を課題とします。次回の授業までに解き直したものを提出してもらいます。授業内に疑問点について解説を行います。

### 授業計画

医薬品に共通する特性と基本的な知識  
 医薬品の適正使用・安全対策  
 登録販売者過去試験問題  
 人体の構造と働き  
 人体の構造と働き  
 登録販売者過去試験問題  
 主な医薬品とその作用  
 主な医薬品とその作用  
 登録販売者過去試験問題  
 主な医薬品とその作用  
 主な医薬品とその作用  
 主な医薬品とその作用  
 登録販売者過去試験問題  
 薬事関係法規・制度  
 薬事関係法規・制度  
 登録販売者過去試験問題

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

登録販売者資格試験にも対応できる知識（一般用医薬品の成分や薬効、人体の仕組み、医薬品に関する法律等）を生かして登録販売者資格試験で合格点を目指すようになる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立した職業人を養成するため、現代生活を主体的に創造する知識と技術を身に付けるとともに、自ら課題を見つけ解決する、多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を育成する」というポリシーに基づきこの講義を通して病気やくすりについての正しい知識を得ることで登録販売者を目指し、合格し、病院、薬局やドラッグストアなどの医療の現場で活躍できる人材を養成する。

### 成績評価基準と方法

成績評価基準と方法  
 講義内模擬テスト 5回 60%  
 課題提出物など40%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

登録販売者試験テキスト&要点整理（薬事日報社）と問題集  
 2019年度登録販売者過去問試験

#### 【参考文献】

厚生労働省 「登録販売者 試験問題作成に関する手引き」

### 授業外学習

【具体的な内容】

その日の過去問で間違えたところは解き直しを行い二度と間違わないように整理し、必要に応じてノートにまとめてください。暗記を必要とすることが多いので予習復習はできる限り時間を見つけて取り組んでください。

【必要な時間】

試験直前の講座です。できる限り合格に向けて学習時間を確保してください。授業の理解、模擬テストに向けては1 - 2時間程度の学習時間は必要です。

**その他**

過去問題の模擬テストがあります。授業を休むと受けられなくなるので注意してください。

授業の進捗状況により、授業計画の一部省略や順序の変更があります。

科目名	基本演習[幼教]
開講期・単位	1年 前期・必修 1単位・演習
担当者	伊藤 桂子、小川 久恵、朝地 信介、田村 めぐみ、神林 裕子

### 講義の目的および概要

講義やグループワークを通して大学生生活を送るために必要な知識について学ぶとともに、自己の能力や個性を發揮するための方法や、主体的、能動的な学びの態度を身につけていくことを目的とします。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

内容に応じて、講義形式や演習形式（グループワーク、プレゼンテーション）で授業を行います。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説し、他者からの意見や考えを聞いたり、成果を全体で共有したりすることを通して学びを深めます。

### 授業計画

ガイダンス、本学の建学の礎・教育の基本的な考え方（学長講話）  
 学内施設の活用を考えよう  
 安全な学生生活のために（インターネット・SNS・勧誘等について）  
 地域との関わりについて(1) 企画の構想・立案  
 地域との関わりについて(2) 企画内容の発表  
 グループワーク(1)-1 「テーマ」に基づく情報の整理  
 グループワーク(1)-2 「テーマ」に基づく意見の集約  
 グループワーク(1)-3 「テーマ」に基づく発表  
 主体的、能動的な学びについて(1) 企画の実施  
 主体的、能動的な学びについて(2) 企画の振り返り  
 グループワーク(2)-1 「テーマ」に基づく情報の整理  
 グループワーク(2)-2 「テーマ」に基づく意見の集約  
 グループワーク(2)-3 「テーマ」に基づく発表  
 試験に向けて（事前の学習、試験の受け方、追試・再試・再履修について等）  
 まとめレポート、履修カルテ記入

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

大学生生活に必要な基本的な知識を身につける。グループワークを通して、考え方の異なる人とも意見を交換し調整しながら進めることができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「社会的な使命を自覚し、責任ある行動をとることができる学生」「保育者に求められる態度・姿勢と、社会人に必要な教養を身に付けている学生」に基づき、社会人として自立できる能力を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

毎時間の取り組み（振り返りシート）：30%  
 グループワーク等の課題・提出物：50%  
 まとめレポート：20%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

適宜プリントを配布します。

#### 【参考文献】

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

事前に配布される資料を熟読し、次回の授業範囲のポイントについて予習し、ノートにまとめてください。グループワーク実施時の課題となります。

#### 【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1時間ずつ、合計2時間を目安とします。

### その他

科目名	教育原理[幼教]
開講期・単位	1年 前期・選択 2単位・講義
担当者	平野 良明

### 講義の目的および概要

教育の本質や意義について思想や歴史に学び、特に幼児期の教育についての本質的な理解を深める。  
時代の流れの中で豊かな青年期への育ちを支える幼児期の教育について、新教育要領解説を通して、理解を深めながら実践的な理解を図る。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

テキストを主たる教材とし、講義中心に授業を進める。適宜文献や新聞などから資料を用意、配布し講義内容の理解を助ける。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

授業内容の理解を計るために折々にリアクションペーパーや小テストを活用し不明な点に応えながら進める。

### 授業計画

オリエンテーション 自己実現・可能性・根っこ育て  
 教育とは何か プラトン ルソー  
 教育とは何か ルソー、コメニウス  
 「教室のピグマリオン」や「ルサンチマン」  
 大切な原則  
 生涯学習の中の幼児教育 - 1  
 生涯教育の中の幼児教育 - 2  
 幼稚園・保育所・認定子ども園  
 幼稚園・保育所・認定子ども園の違いや共通する保育の本質  
 教育課程 - 1 幼稚園教育要領  
 教育課程 - 2 意義と編成  
 子どもにとっての遊びの意義  
 環境理解と環境構成  
 教育と評価  
 これからの幼児教育

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

教育の本質を理解しそれに伴って、乳幼児期からの教育の意義と役割について理解を深め、理解した内容を自分の言葉で語り、書き表すことができるようになることを目指す。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

・保育者として専門性の基本を身につけ、併せて社会人としての教養を育む。  
 ・現代の教育課題についても理解を深め、幼児期の育ちや教育についての実践の方向性に関心を深める。

### 成績評価基準と方法

リアクションペーパー (20%)  
 小テスト1回 (20%)  
 定期試験 (50%)  
 最終回にノート提出 (10%)

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

『幼児教育の原理』（同文書院）  
 『幼稚園教育要領解説』（他の教科で購入していればそれを使用）

【参考文献】適宜紹介する。

### 授業外学習

【具体的な内容】

授業後には教科書や配布資料の関連内容を読み込み、学習内容の理解を深める。解らないことは図書館等で調べたり教員に質問すること。  
幼稚園・保育園・施設・子育て支援等ボランティア体験で感じ考えたことを理論と重ねながら学びを進める。

【必要な時間】

**その他**

対面授業を前提に実施するが、コロナの状況によっては遠隔も併用となる。  
これらの状況によって授業計画の一部が変更になることもある。

科目名	造形表現
開講期・単位	1年 後期・選択 1単位・演習
担当者	藤本 和彦

### 講義の目的および概要

課題制作の経験、学生相互の作品画材や技法の使い方などから、幼稚園教育要領と保育所保育指針に示された造形表現の学習内容への理解を深め、子どもにとっての「表現」を考える。また課題作品を制作した経験から作品の活用方法を考えることで、実践的な保育に繋げていく授業である。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】提示された課題内容について学生が自己のイメージを元にアイデアを考え、提出期限を元に各自で制作計画を立てる演習形式で行う。教員が資料・参考作品を基に課題の説明をし、学生は互いの作品を提示し鑑賞する。また、完成した作品を使った実践法を試みることで保育について考える。授業後に振り返りの資料になる物として、作品と資料を綴じたファイルを作成する他、授業冒頭に当番制による学生相互の「折り紙実践（プレゼンテーション方式）」を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】課題作品の展示や作品を使った実践などを通し、学生が互いの感想を語り合う。毎回授業の終わりに今日の制作について振り返り、配布されたプリントに授業での取り組み状況、目標、質問などについて記入して提出し、教員がアドバイスなどを記入して、返却する。

### 授業計画

オリエンテーション(授業のスケジュール)/保育での作品活用自己紹介グッズ(構想)

保育での作品活用自己紹介グッズ(アイデア)/折り紙(乗り物1)  
 保育での作品活用自己紹介グッズ(下描き)/折り紙(乗り物2)  
 保育での作品活用自己紹介グッズ(制作1)/折り紙(服飾1)  
 保育での作品活用自己紹介グッズ(制作2・作品発表)/折り紙(服飾2)  
 子どもに贈るポップアップカード(練習作品)/折り紙(食べ物1)  
 子どもに贈るポップアップカード(アイデア)/折り紙(食べ物2)  
 子どもに贈るポップアップカード(準備)/折り紙(食べ物3)  
 子どもに贈るポップアップカード(制作1)/折り紙(道具1)  
 子どもに贈るポップアップカード(制作2)/折り紙(道具2)  
 壁面環境構成ステンドグラス(切り絵1)/折り紙(季節1)  
 壁面環境構成ステンドグラス(下描き)/折り紙(キャラクター1)  
 壁面環境構成ステンドグラス(制作1)/折り紙(キャラクター2)  
 壁面環境構成ステンドグラス(制作2)  
 課題作品提出、授業まとめ、履修カルテ記入

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】自身の制作経験から、子どもの表現について考える。  
 ・子どもの造形表現に必要な知識と技術を習得し、実践的な活用方法を考えた作品を制作することができる。  
 ・学生が相互に作品鑑賞をすることで、それぞれの着目点や表現方法には多種多様であることを感じとり、理解することができる。  
 【卒業認定・学位授与の方針との関連】「自分のイメージを表現しよう」とすること、そのための技術を習得することが、「卒業認定・学位授与の方針」に掲げられた「共感的な感性と知性に支えられた、人間性豊かな保育者」および「子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術を身に付けている学生」の養成につながる。

### 成績評価基準と方法

- ・完成作品の提出、作品内容・作品数・期限など条件の達成度：70%
- ・振り返りシート(小レポート)の提出：30%

### テキスト・参考文献

【テキスト】特になし

### 【参考文献】

- ・文部科学省「幼稚園教育要領解説」
- ・厚生労働省「保育所保育指針解説書」
- その他、授業時にプリント、資料を配布し参考作品を提示する。

### 授業外学習

**【具体的な内容】**

・制作に必要な資料や図案などの準備、配布される材料以外に使用したい材料等の準備・用意をする。

・課題内容から、アイデアを独自に拡げておく。また作っていく中で、よりイメージに近づける工夫を意識し、授業後、アイデア・制作の吟味・修正を膨らませ、実行すること。

**【必要な時間】** 事前事後合わせて3時間程度

**その他**

春学期「子どもの図画工作」で購入した教材を使用する。

科目名	保育原理[幼教]
開講期・単位	1年 前期・必修 2単位・講義
担当者	岡部 祐子、野崎 剛毅

### 講義の目的および概要

保育についての基礎的な知識について学ぶ。保育の理念や意義を制度や歴史を踏まえて理解する。また現代社会における保育者の役割についても広く学んでいく。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

授業は教員2名のオムニバス形式で、講義形式でおこなう。基本的にはテキストにそって学習を進め、必要に応じて資料や視覚的教材も使用する。またレジュメやノートを活用して書き込む作業もおこなう。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

学生からの質問にはできぎ講義内で回答する。  
積極的な質問を期待する。  
提出した課題については、返却後解説を加える。

### 授業計画

保育原理という科目について  
 子どもの特性を知る(1章)  
 保育を知る(2章)  
 保育者を知る(4章)  
 法令と制度(3章)  
 遊びを知る(5章)  
 日本の保育の現状を知る(10章)  
 前半のまとめと確認テスト(合同)  
 内容・方法・形態(6章)  
 内容・方法・形態(6章)  
 保育の現場を知る(7章)  
 保育の歴史を知る(8章)  
 保育の歴史を知る(8章)  
 諸外国の保育を知る(9章)  
 総まとめ、履修カルテの記入

なお、クラスによって授業の順番は前後する。

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

保育者の仕事を理解し、保育者になりたいという意識を定着させる。また、保育についての基本的な知識を理解する。特に保育士試験に例年出題されるような基本的な事項について理解する。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

ディプロマポリシーにかける「現代の保育に必要な理論」をみにつけていくための根幹となる講義である。

### 成績評価基準と方法

確認テスト40%  
 定期テスト40%  
 リアクションシート20%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

小田豊・神長美津子・箕輪潤子編著『保育原理』光生館

#### 【参考文献】

適宜紹介する。

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

授業をおこなう前に、必ずテキストの指定箇所を読んでおくこと。  
 不明な点、理解が難しい点は必ず質問し、疑問を解消すること。  
 質問は授業中、授業外のほか、リアクションシートやメール等でも随時受け付ける。

#### 【必要な時間】

事前、事後それぞれ2時間程度の学習を必要とする。

### その他

科目名	保育内容(健康)
開講期・単位	1年 後期・必修 1単位・演習
担当者	林 二士

### 講義の目的および概要

幼稚園指導要領や保育所保育指針の領域「健康」における、乳幼児期の健康の考え方や、ねらいと内容について学ぶとともに、幼児の健康づくりに関わる、心身の発達、生活習慣、安全な生活、運動の発達について学ぶ。また「健康」にかかわる具体的な指導場面を想定し、保育を構想し実践する力を身に付けることを目的とする。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

・専門事項については講義形式、その他は演習、グループワーク、指導実践を行う。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

・課題の解説、学生からの疑問等は講義内で対応する。

### 授業計画

1. ガイダンス
2. 健康とは・健康の概念・WHOの健康の定義・ヘルスプロモーションの理解
3. 子どもの健康・保育内容 領域 健康のねらいと内容
4. 子どものからだの発達・身体の発育と発達・運動の発達
5. 子どものこころの発達・心の発達・情緒の発達
6. 子どものこころの発達・社会性の発達・自己肯定感
7. 子どもの生活習慣・生活習慣の援助や保育者の役割
8. 子どもの遊びと運動・幼児期の運動の意義やあり方
9. 運動遊びの指導法・指導技術 ・運動遊びの展開・環境構成
10. 運動遊びの指導法・指導技術 ・運動遊びの体験
11. 運動遊びの指導案の作成
12. 運動遊びの指導実践と評価
13. 運動遊びの指導実践と評価
14. 安全教育と安全への配慮
15. まとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

- ・領域「健康」のねらい及び内容について理解する。
- ・幼児の健康づくりに関わる専門事項について、理解し説明できる。
- ・幼児の健康づくりに関わる具体的な指導場面を想定し、保育を構想し実践できる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

・幼児の健康に関わる専門事項を理解し、それに関わる具体的な指導場面を想定し実践を行うなかで、「子どもの安全を守るための適切な配慮」や「子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術」を学ぶことができる。

### 成績評価基準と方法

- ・小テスト・筆記試験（40％）
- ・模擬保育（30％）
- ・レポート課題・提出物（30％）

### テキスト・参考文献

#### テキスト】

- ・新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 健康

#### 【参考文献】

- ・幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム（日本スポーツ協会）
- ・幼児期運動指針実践ガイドブック（文部科学省）

### 授業外学習

#### 【事前学習】（2時間）

・次回の授業内容を確認し、専門事項であればテキストを参考に自分の考えや疑問をまとめ、指導実践であれば指導のアイデアを考えておく。

#### 【事後学習】（2時間）

- ・講義や演習後はテキストや配布資料を振り返り小テストに備える。
- ・指導実践後は、自他の指導内容を振り返り考察する。

### その他

日ごろから「子ども（幼児）の健康」に関する出来事や情報に関心を持ち、それについて自分は「どう思うか」「どう考えるか」など意見を持つ習慣をつけましょう。

科目名	保育内容(人間関係)[幼教]
開講期・単位	1年 後期・必修 1単位・演習
担当者	小川 久恵、深浦 尚子

### 講義の目的および概要

本講義では、乳幼児の保育・教育において育みたい資質・能力を理解し、「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」等に示された当該領域の及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、乳幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構成する方法を身に付ける。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

講義形式とグループワークを織り交ぜながら行う。  
グループワークは課題について自分たちで考え、計画を立て、ロールプレイを行い、アクティブラーニングの方法で進める。  
本講義は、幼稚園園長・幼稚園教諭の実務経験のある教員が保育内容の知識や保育を構想する知識・技術を活かして、保育内容全体を構造的に理解し具体的な保育の場면을想定して構想する方法を理解できる講義を実施する。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

グループワーク等の中の特筆すべき点については、全体に向け解説し共有する。

### 授業計画

オリエンテーション、幼児教育の目的と領域人間関係  
 幼児教育の基本と保育者の役割  
 領域人間関係と他領域の関係  
 乳幼児期の発達を踏まえた人間関係  
 子どもと保育者の関わり  
 保育内容の指導法 遊びの中の人との関わり  
 保育内容の指導法 生活を通して育つ人との関わり  
 保育内容の指導法 個と集団の育ち  
 人との関わりを見る視点  
 指導案の構成と指導案作成のポイント  
 遊びを豊かにする教材の活用法、指導案の作成  
 指導案についてのグループワーク(模擬保育準備)  
 領域人間関係を育む保育(模擬保育)  
 保育の評価と改善(模擬保育の振り返り)  
 幼児教育の現代的課題と領域人間関係、履修カルテ記入

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針等に示された乳幼児教育・保育の基本を踏まえ、領域のねらい及び内容を理解する。
2. 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場면을想定して保育を構成する方法を身に付ける。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

幼児教育保育学科のディプロマ・ポリシー 『子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術を身に付けている学生』に関連づけられる。

### 成績評価基準と方法

小レポート(10%) 指導案(20%)  
 模擬保育・ワークシート(30%) まとめテスト(40%)

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

事例で学ぶ保育内容「領域 人間関係」 萌文書林  
 無藤 隆：監修 岩立 京子：編者代表

#### 【参考文献】

幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領

### 授業外学習

**【具体的な内容】**

次回の授業範囲を事前学習すること。  
指導案等については、授業で学習したことをもとに、各自が完成させて提出すること。

**【必要な時間】**

予習・復習の時間はそれぞれ1時間、計2時間を目安とします。

**その他**

グループワークには保育のイメージを構築しながら、積極的に参加すること。  
欠席した場合は、授業のプリント等を速やかに取りに来ること。

科目名	保育臨床
開講期・単位	1年 前期・選択 1単位・演習
担当者	深浦 尚子

### 講義の目的および概要

保育の場で起きる様々な出来事、子どもの問題行動、保育者との絆、保護者との関係などの事例を、心理臨床的な観点等を応用して読み解きます。その中で、子どもと大人の精神保健（メンタルヘルス）の側面、心の拠り所としての保育者の援助的役割について考察し、臨床的なセンスと保護者への対応について学びます

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

演習方式で行います。事例や実際の認定こども園での観察から検討します。グループワーク、ディスカッションなどを通して理解を深めます。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題は、授業中に行い、コメントを付けて返却します。

### 授業計画

子どもと大人の精神保健（メンタルヘルス）の基礎知識（1）  
 精神保健の基礎知識（2） 保育の現場で気になる子  
 園生活の治療的意味とカウンセリングマインド 保育者の援助的役割  
 子育ての歪みを受けとめる（1） 母子分離不安、過剰な期待と抑圧  
 子育ての歪みを受けとめる（2） 子育ての悩みと拒否感、子どものいざこざと親  
 のSOS  
 子どもの関係の歪みを読みとめる（1） いじめが発生する集団の状況  
 歪みを読みとめる（2） いじめの構造、保育者がこうしていたら  
 歪みを読みとめる（3） 登園拒否の発生するクラス  
 言葉につまづく集団状況、選択性緘黙  
 発達診断と発達援助（1）  
 発達診断と発達援助（2）  
 発達の問題をもつ子どもと家庭の支援  
 幼稚園での観察—気になる子の観察  
 幼稚園での観察—保育の実際  
 まとめのレポートと解説

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

事例を読み解く中で、保育実践の中のカウンセリングマインド、保育者の援助的役割、臨床的なセンスへの理解を深め、現場で遭遇する問題、保護者との関係に対応する力を身につける。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

幼児教育保育学科のディプロマ「子ども達の安全を守る適切な配慮」「子どもの健やかな育ちのために、必要な保護者支援ができる」保育者の社会的な使命を自覚し、責任ある行動をとることができる」「保育者に求められる態度・姿勢と、社会人に必要な教養」に基づき、自立した保育者として現場の問題に対応できる力を身に付けることを目標とします。

### 成績評価基準と方法

まとめのレポート50%、振り返りシート50%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

適宜プリントを配布します。

#### 【参考文献】

新聞などで、幼児に関する記事を探して読む。授業後は、レジュメを復習し理解を深める

### 授業外学習

【具体的な内容】  
予習、復習が必要です。

【必要な時間】  
それぞれ2時間くらいです。

**その他**

科目名	乳児保育 [幼教]
開講期・単位	1年 前期・必修 2単位・講義
担当者	荒井 ひとみ

### 講義の目的および概要

本講義は、乳児期（0歳～3歳未満児）の発育や発達を学び、基本的な発達段階を理解すると共に、乳児保育の意義や現状を知り、保育者の役割や保護者支援の意味、環境のあり方など、乳児保育の基礎的な知識について学びます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

基本的に講義形式で行いますが、視聴覚教材の活用や実技などを取り入れ、必要に応じてグループワークで学び合います。

授業の振り返りとして、小レポートやワークシート等の記入を行います。

本講義は、保育所保育の実務経験のある教員が、乳児保育に携わった経験を活かし、保育士としての専門的な視点から、乳児保育への理解が深められるようにします。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、小レポートについても必要に応じて解説や補足等を行います。

### 授業計画

ガイダンス 乳児保育とは

乳児保育の意義と役割

乳児保育の現状と課題

保育所における乳児保育

保育所における乳児保育

0歳児の発達と保育

0歳児の発達と保育

1歳児の発達と保育

1歳児の発達と保育

2歳児の発達と保育

2歳児の発達と保育

乳児期の発達のまとめと確認

乳児保育の環境

乳児保育の環境

乳児保育における連携

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

乳児の発育や発達を理解し、子どもの姿を捉えることができる。

乳児保育の意義や現状などを理解し、乳児保育の役割について説明できる

乳児保育における保育者の役割について理解し説明できる

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術を身に付ける学生及び子どもの健やかな育ちのために必要な保護者支援ができる学生に学位を授与する」に基づき、乳児保育における発達の援助や保護者に対する支援の在り方などの基礎的な知識を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

- ・提出物（小レポート、ワークシート等）30%
- ・課題ワーク 20%
- ・定期試験 50%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

『やさしい乳児保育』神蔵幸子 金允貞編著 青踏社

#### 【参考文献】

『保育所保育指針解説』厚生労働省編 フレーベル館

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

授業前にはテキストを読み、分らない内容は授業の中で確認できるようにしてください。授業後は、必ずテキストや配布プリントで大切なポイントについて復習してください。「子どもの命を育むために必要な知識」という意識を持ち、授業で話された内容も含めて振り返っておくことが大切です。

また、子育てに関する新聞記事やニュースなどに関心を持ち、日頃から乳児保育に意識を向けるように心がけてください。

#### 【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

## その他

授業計画については、必要に応じて授業内容の入れ替えや変更を行うことがあります。

科目名	乳児保育 [幼教]
開講期・単位	1年 後期・必修 1単位・演習
担当者	荒井 ひとみ

### 講義の目的および概要

本講義は、乳児期の基本的な発達を踏まえて、子どもへの具体的な援助の方法や配慮について学ぶと共に、乳児の健康や安全、子育て支援について理解するなど、乳児保育の実践力を高めることを目指します。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

講義と演習とし、グループワークを交えて行います。保育現場での様々な事例や遊び、製作などを取り入れ、乳児保育がより身近に感じられるように進めます。授業の振り返りとして、小レポートやワークシート等の記入を行います。本講義は、保育所保育の実務経験のある教員が、乳児保育に携わった経験を活かし、保育士としての専門的な視点から、乳児保育への理解を深められるようにします。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、小レポートについても必要に応じて解説や補足を行います

### 授業計画

ガイダンス 乳児保育の生活と配慮  
 乳児保育の生活援助と配慮  
 乳児保育の生活援助と配慮  
 乳児保育の生活援助と配慮  
 乳児保育の生活援助と配慮  
 乳児保育の遊びと環境  
 乳児保育の遊びと環境  
 乳児保育の遊びと環境  
 乳児保育における保健衛生  
 乳児保育における保健衛生  
 乳児保育における安全管理  
 乳児保育における安全管理  
 乳児保育における子育て支援  
 乳児保育の計画  
 授業内試験とまとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

演習や実践を通して子どもや保護者への具体的な援助の在り方や配慮について理解し、説明することができる。

乳児の病気や事故などの学びから、乳児保育での健康や安全について説明できる。習得した知識や技術、理解した内容を保育者としてどのように活用・展開するかを考えることができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術を身に付けた学生及び子どもの健全やかな育ちのために必要な保護者支援ができる学生に学位を授与する」に基づき、保護者と共に子どもを守り育てるための援助や配慮など、保育者に求められる専門的知識や技術を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

- ・ 提出物（小レポート・ワークシート等） 30%
- ・ 課題ワーク（個人・グループ等） 30%
- ・ 授業内試験 40%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

『やさしい乳児保育』神蔵幸子 金允貞編著 青踏社

#### 【参考文献】

『保育所保育指針解説』厚生労働省編 フレーベル館

### 授業外学習

**【具体的な内容】**

授業前にはテキストを読み、分らない内容は、授業の中で確認できるようにしてください。授業後は、必ずテキストや配布プリントで大切なポイントを復習してください。「子どもの命を育むために必要な知識」という意識を持ち、授業で話された内容も含めて振り返っておくことが大切です。

また、子育てに関する新聞記事やニュースなどに関心を持ち、日頃から乳児保育に意識を向けるように心がけてください

**【必要な時間】**

予習・復習時間は、2時間を目安とします。

**その他**

授業計画については、必要に応じて授業内容の入れ替えや変更を行うことがあります。

科目名	学びの技法[幼教]
開講期・単位	1年 前期・必修 1単位・演習
担当者	東谷 一彦、野崎 剛毅

### 講義の目的および概要

この科目は、次の2点を主な目的とする。

2年間の短期大学での学習方法などを学び、一人ひとりに短期大学での学びの意味と方法、目標を考え理解すること。

大学で課せられるレポートや実習日誌、指導案、専門職に就いてからのお便りや報告書など、様々な文書を作成できるようになるための考え方と文章力を身につけること。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

演習が中心となる。テーマに沿った課題をおこない、提出する。

提出された課題は添削をしたうえで返却し、不足している点について解説を加え、修正をほどこす。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

提出された課題はチェックした上で返却し、講義内で解説を加える。

### 授業計画

ガイダンス『学びの技法とは』

「学び」のバリエーション：高校までの学びと大学からの学び

図書館が「学ぶ」 図書館の活用

著作権について知る

「入学前課題」振り返り 日本語系

「入学前課題」振り返り 日本語系

「入学前課題」振り返り 日本語系

「入学前課題」振り返り 算数・数学・論理系

「入学前課題」振り返り 算数・数学・論理系

「入学前課題」振り返り 算数・数学・論理系

伝わる文章を書く

日誌を書く

「入学前課題」振り返り 読書レポート

「入学前課題」振り返り 推敲

まとめ・履修カルテの記入

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

大学での学びを身につける。

資料から適切な引用をして、論理的に文章を書くことができる。

自分の考えを論理的に他者に伝えることができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

この科目は、大学生活で学んでいく土台となるものであり、ディプロマポリシーに挙げられる要素を身につけていくための基盤となる。

### 成績評価基準と方法

各回の課題：80点

最終レポート：20点

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

「入学前課題」

『学びの技法2020』（授業時に配布予定）

『三省堂ポケット国語辞典』三省堂

#### 【参考文献】

### 授業外学習

**【具体的な内容】**

入学前課題について振り返りをしておくこと。  
社会情勢の変化に伴い、子どもを取り巻く環境も変化する。いろいろな事柄に興味や関心を持ち、自分たちが学ぶべき内容との関わりを知ってほしい。そのために、新聞などを日頃から読んでおくこと。

**【必要な時間】**

事前・事後それぞれ2時間程度の学習を必要とする。

**その他**

科目名	キャリア形成[幼教]
開講期・単位	1年 後期・必修 1単位・演習
担当者	伊藤 桂子、小川 久恵、朝地 信介、田村 めぐみ

### 講義の目的および概要

本講義では社会人・保育者になるための学びにはどのような種類や体系があるか、どのような資質・態度が求められるかを理解します。また、社会人・保育者を目指すための目標や課題を自分自身で具体的に考えられることを目的とします。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

講義方法はグループワークやディスカッション、プレゼンテーション等の演習、発表を中心としながら、講義を織り交ぜ能動的な学修を目指します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説します。またグループワークやディスカッション等を通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びに繋げていくことを目指します。

### 授業計画

オリエンテーション：キャリアとは  
 社会人に求められる資質・能力 ~ 自分を知る(自己分析)  
 社会人に求められる資質・能力 ~ 自分を知る(グループワーク・他者からのフィードバック)  
 社会人に求められる資質・能力 ~ 働くとは  
 社会人に求められる資質・能力 ~ 自分に必要な資質・能力(ビジネスマナー)  
 外部講師講話：保育職の先輩から  
 社会人・保育者になるための学び ~ 先輩の活動から知る協働性  
 社会人・保育者になるための学び ~ ライフサイクルとキャリア  
 社会人・保育者になるための学び ~ 社会人・保育者の役割(グループワーク)  
 社会人・保育者になるための学び ~ 社会人・保育者になるための課題(グループワーク)  
 社会人・保育者になるための学び ~ 理想の社会人・保育者像(グループワーク)  
 社会人・保育者になるための学び ~ 社会人・保育者になるための学びのまとめ(プレゼン資料作成)  
 社会人・保育者になるための学び ~ プレゼンテーション  
 外部講師講話：多様なキャリア  
 まとめ(ライフプラン・キャリアプラン)、履修カルテ記入

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

・自分が目指す社会人像・保育者像を具体的に描き、その実現に必要な自己課題を定めることができる。  
 ・自分のライフプラン・キャリアプランを描き、目標を定めることができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「保育者の社会的な使命を自覚し、責任ある行動をとることができる学生」「保育者に求められる態度・姿勢と、社会人に必要な教養を身に付けている学生」に学位を授与するに基づき、社会人・保育者に必要な態度・姿勢を理解し、自己課題・目標を思考する態度を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

- ・提出物(ワークシート等)：50%
- ・プレゼンテーション資料：10%
- ・外部講師講話レポート：20%
- ・授業のまとめ：20%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

#### 【参考文献】

適宜提示する

### 授業外学習

**【具体的な内容】**

次回の授業範囲について自分の考えをまとめたり、発表準備をしたりするなどの予習をしノートにまとめてください。  
毎回の授業内容を振り返り、ポイントなどを復習してノートにまとめてください。

**【必要な時間】**

予習・復習の時間はそれぞれ1時間、計2時間を目安とします。

**その他**

科目名	外国語コミュニケーション(基礎)
開講期・単位	1年 前期・選択 1単位・演習
担当者	神林 裕子

### 講義の目的および概要

本講義では、保育者として必要な基本的な英語表現を身に付ける。また、適宜、英語の歌やゲーム等の活動の学習を通して、保育者として英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる指導力を育成する。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

実際の保育現場を想定した英語表現をペアワークやグループワークを中心に学習する。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをプリントにまとめて提供する。

### 授業計画

#### オリエンテーション

Unit 1 What's your name?

Unit 2 Where are you from?、関連した英語の活動

Unit 3 Good morning!

Unit 3 Good morning! 、関連した英語の活動

Unit 4 Are you OK?

Unit 4 Are you OK? 、確認テスト

Unit 5 What are you doing?

Unit 5 What are you doing? 、関連した英語の活動

Unit 6 How are you feeling?

Unit 6 How are you feeling? 、関連した英語の活動

Unit 7 What's she like?

Unit 7 What's she like? 、関連した英語の活動

Unit 8 What's she like?

Unit 8 What's she like? 、関連した英語の活動

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

保育現場における基本表現を用いて、日常的な会話ができる。また、発音とリズムに留意しながら、英語の歌、英語の絵本の読み聞かせ等の活動ができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「共感的な感性と知性に支えられた、人間性豊かな保育者を育成する」に基づき、英語の世界の豊かさを英語学習を通して感じ取り、英語を学ぶ楽しさを子どもたちに伝える能力を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

毎回の課題の提出 30%

小テスト 30%

確認テスト 20%

定期試験 20%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

・Speaking of Childcare」Peter Vincent&Naoko Nakazono、出版社：NAN'UN-DO

#### 【参考文献】

・しゃべる英文法、監修・著 白井恭弘、出版社：コスモピア株式会社

・Essential Grammar in Use (A self-study reference and practice book for elementary students of English with answers), by Raymond Murphy,出版社：Cambridge University Press

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

・テキストで使用する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。

・学んだ英語表現等はその日のうちにしっかり覚えましょう。

・演習等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。

#### 【必要な時間】

・予習・復習の時間はそれぞれ1時間を目安とします。

### その他

次の5つを大切にしましょう。

- Be helpful.
- Be friendly.
- Be active.
- Be creative.
- Be ambitious.

必要に応じて辞書や電子辞書を持参しましょう。

科目名	外国語コミュニケーション(応用)
開講期・単位	1年 後期・選択 1単位・演習
担当者	藤垣 エミリア

### 講義の目的および概要

本講義では英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けるとともに、日常生活に関連した英会話力を身に付けることを目的とする。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

日常生活に関連した内容について、ペアワークやグループワークを中心に学習する。また、英語を使う楽しさを実感できるような資料等を適宜配布し、演習形式で学習する。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをプリント等にまとめて提供する。

### 授業計画

Orientation  
Unit10 Restaurants  
Unit11 Shopping  
Unit12 Strengths and Weaknesses  
Review Units10-12  
Unit13 Places  
Unit14 Vacations  
Unit15 Experiences  
Review Units13-15  
確認テスト・フィードバック  
Unit16 Opinions  
Unit17 Health and Illness  
Unit18 The Future  
Review Units16-18  
定期試験

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

基本的な英会話を身に付け、様々な場面において対応できるようにする。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「共感的な感性と知性に支えられた、人間性豊かな保育者を育成する」に基づき、英語でのコミュニケーションを図るよさを感じながら、基本的な英会話力を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

毎回の課題等 (30%)  
授業への積極性 (10%)  
確認テスト1 (40%)  
確認テスト2 (20%)

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

Free Talking, by Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvist, Yuki Hasegawa,  
出版社 : Cengage Learning

#### 【参考文献】

しゃべる英文法, 監修・著 白井恭弘、出版社 : コスモピア株式会社  
・Essential Grammar in Use (A self-study reference and practice book for elementary students of English, with answers), by Raymond Murphy, 出版社 : Cambridge University Press

### 授業外学習

**【具体的な内容】**

- ・テキストで使用する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。
- ・学んだ英語表現等はその日のうちにしっかり覚えましょう。
- ・演習等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。

**【必要な時間】**

- ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

**その他**

- ・ Be helpful
  - ・ Be friendly
  - ・ Be active
  - ・ Be creative
  - ・ Be ambitious
- 必要に応じて辞書や電子辞書を持参しましょう。

科目名	体育実技(基礎)[幼教]
開講期・単位	1年 前期・選択 1単位・演習
担当者	林 二士、柴田 良子

### 講義の目的および概要

様々な運動を通し、体を動かす楽しさを体験し、保育者として求められる基礎体力や運動能力、運動の基礎知識を身につけることを目的とする。また生涯にわたる自らの健康づくりに必要な資質や能力を育成する。また、子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの身体活動や遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

- ・ 2名の教員によるオムニバス形式で実技を中心に理論を交えて演習を行う。
- ・ 1～8回目(担当教員:林) 9～15回目(担当教員: )
- ・ 講義の内容に応じてグループワークを取り入れ、主体的・協働的な学修を目指す。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

- ・ 課題の解説、学生からの疑問等は講義内で対応する。

### 授業計画

1. ガイダンス 幼児の身体活動や運動の意義
2. 乳幼児期の運動の発達
3. 3歳児の動きの発達と運動遊び
4. 4歳児の動きの発達と運動遊び
5. 5歳児の動きの発達と運動遊び
6. グループワーク(運動遊びの指導実践案の作成)
7. グループ発表 振り返りと意見交換
8. グループ発表 振り返りと意見交換
9. 身体表現の意義とその方法
10. 身体表現における多様な動きの展開
11. 身体表現における多様な動きの展開
12. グループワーク(創作ダンスの構成)
13. グループワーク(創作ダンスの振付)
14. グループワーク(創作ダンスの中間発表)
15. グループ発表 振り返りと意見交換 レポート提出

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

- ・ 体を動かすことを楽しみ、基礎体力や運動能力の向上を目指す。
- ・ 子どもの運動の発達を理解し、運動の基礎知識を身につける。
- ・ チームプレイやグループワークなどの集団的活動を通して、他者との積極的なコミュニケーションを図り、相互理解を深める。
- ・ 自らの健康づくりに必要な知識や態度を選択し行動できるようにする。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- ・ 子どもの運動の発達や運動の基礎知識を理解することで「子どもの発達段階にあった保育」ができる。
- ・ グループワークなどの主体的・協働的な集団的活動を通して「社会人として責任ある行動」を学ぶことができる。

### 成績評価基準と方法

- ・ 実技試験 30%
- ・ 指導技術達成度 30%
- ・ レポート課題 20%
- ・ 毎回の提出物 20%

### テキスト・参考文献

#### 【使用テキスト】

- ・ 幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム(日本スポーツ協会)

#### 【参考文献】

- ・ 幼児期運動指針 ガイドブック(文部科学省)
- ・ 小学校学習指導要領・体育編(文部科学省)

### 授業外学習

#### 【事前学習】(2時間)

- ・ 基礎体力向上を意識し、日常生活の中で体を動かすこと(階段での移動、徒歩での移動など)や、運動やスポーツすることを心がける。

- ・ 授業の前日は食事・睡眠をしっかり取り、体調管理を心がける。

#### 【事後学習】(2時間)

- ・ 授業で学んだストレッチ、動きや技術を復習する。
- ・ 授業を振り返り、疑問や不明な点があれば自分で調べる。

### その他

- ・運動に適した服装（運動着、運動靴）や準備（タオル、水分、気持ち）をする。
- ・運動に不適切な服装や格好の場合は見学となることがある。
- ・その他の注意事項は1回目のガイダンスで説明する。
- ・幼児や児童と関わる場所（教室やボランティアなど）に積極的に参加し、子どもと触れ合う機会をつくる。

科目名	体育実技(応用)[幼教]
開講期・単位	1年 後期・選択 1単位・演習
担当者	林 二士、柴田 良子

### 講義の目的および概要

体育実技(基礎)で身に付けた基礎知識・体力・技能をもとに、さらに保育者として活躍するための体力の維持向上を目指し、生涯にわたる自らの健康づくりに必要な資質や能力を育成する。また子どもの身体活動や運動遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

- ・ 2名の教員によるオムニバス形式で実技を中心に理論を交えて演習を行う。  
1～8回目(担当教員:林) 9～15回目(担当教員: )
- ・ 講義の内容に応じてグループワークを取り入れ、主体的・協働的な学修を目指す。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

- ・ 課題の解説、学生からの疑問等は講義内で対応する。

### 授業計画

1. ガイダンス・「多様な動き」を導き出す運動遊び
2. 「ボール」を使った運動遊び
3. 「縄・フープ」を通した運動遊び
4. 「マット」を使った運動遊び
5. 「跳び箱」を使った運動遊び
6. 「鉄棒」を使った運動遊び
7. 「遊具や用具」を用いた運動遊び
8. 「遊具や用具」を用いた運動遊び
9. 身体表現における体づくり・ストレッチ(レクリエーションゲーム)
10. 身体表現における指導技術(フィールドを使った全身運動)
11. 身体表現における指導技術(手具を使った全身運動)
12. グループワーク(創作ダンスの構成・選曲・振付)
13. グループワーク(創作ダンスの中間発表)
14. グループワーク(創作ダンスのリハーサル)
15. 創作ダンス発表 振り返りと意見交換

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

- ・ 体を動かすことを楽しみ、基礎体力や運動能力の向上を目指す。
- ・ 運動遊びの基本的な指導方法と指導技術の習得をする。
- ・ チームプレイやグループワークなどの集団的活動を通して、他者との積極的なコミュニケーションを図り、相互理解を深める。

- ・ 自らの健康づくりに必要な知識や態度を選択し行動できるようにする。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- ・ 運動遊びの基本的な指導方法や指導技術を理解することで「子どもの発達段階にあった保育」ができる。
- ・ グループワークなどの主体的・協働的な集団的活動を通して「社会人として責任ある行動」を学ぶことができる。

### 成績評価基準と方法

- ・ 実技試験 30%
- ・ 技術達成度 30%
- ・ レポート課題 20%
- ・ 毎回の提出物 20%

### テキスト・参考文献

テキスト・参考文献

#### 【使用テキスト】

- ・ 幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム(日本スポーツ協会)

#### 【参考文献】

- ・ 幼児期運動指針ガイドブック(文部科学省)
- ・ 小学校学習指導要領・体育編(文部科学省)

### 授業外学習

**【事前学習】(2時間)**

・基礎体力向上を意識し、日常生活の中で体を動かすこと(階段での移動、徒歩での移動など)や、

運動やスポーツすることを心がける。

・授業の前日は食事・睡眠をしっかり取り、体調管理を心がける。

**【事後学習】(2時間)**

・授業で学んだストレッチ、動きや技術を復習する。

・授業を振り返り、疑問や不明な点があれば自分で調べる。

**その他**

・運動に適した服装(運動着、運動靴)や準備(タオル、水分、気持ち)をする。

・運動に不適切な服装や格好の場合は見学となることがある。

・その他の注意事項は1回目のガイダンスで説明する。

・幼児や児童と関わる場所(教室やボランティアなど)に積極的に参加し、子どもと触れ合う機会をつくる。

科目名	子どもの音楽(基礎)
開講期・単位	1年 前期・選択 1単位・演習
担当者	伊藤 桂子、河本 洋一

### 講義の目的および概要

保育職に必要な音楽に関する基礎的な知識と表現を知り、これらを自ら学び続けるための方法を身につけることを目指します。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

毎回の冒頭30分程度を使い、「スキルアップタイム（発声、読譜、リズム等）」をおこないます。

二人の担当教員が交代しながら、理論的内容と表現的内容の演習授業をおこないます。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

スキルアップタイムでは実技レベルの確認を行い、その都度学生のレベルに合った適切な助言を行います。また、授業終了時に提出するコミュニケーションシート（一言感想）を基に、次の授業時に課題に対する具体的な助言をおこないます。

### 授業計画

オリエンテーション：『子どもの音楽』という科目の目指すものを理解します。今持っている音楽の力を把握し、今後の授業の受け方をに役立てます。（河本）[講義・演習]

音と音楽の基礎～楽譜の読み方などの基本を知ります。（伊藤）[演習]

保育における「声」の重要性：様々な声の使い方を知り、保育者の様々な声の使い方について理解を深めます。（河本）[演習]

毎日の歌～生活の一部となる音楽についての理解を深めます。（伊藤）[演習]

子どもの身体的・言語的発達と音・音楽：子どもの身体的発達と共に声（声域）や言語的能力も発達していくことを知り、子どもの音楽との関わりを理解します。（河本）[演習]

行事の歌～さまざまな行事と音楽との関わりについて知ります。（伊藤）[演習]

子どもの音楽的能力の発達と音・音楽：子どもの音楽的能力の発達を知り、子どもの音楽との関わりを理解します。（河本）[演習]

遊びの歌～遊びと音楽との結びつきについて体験的に理解します。（伊藤）[演習]

子どもの表現活動と音・音楽：音楽的要素を含む多様な活動を知り、子どもの生活の中での音楽との関わりを理解します。（河本）[演習]

子どもに聴かせる歌～いろいろな歌の表現の実践を試みます。（伊藤）[演習]

音・音楽の気づきを促す工夫：今まで意識したことがなかった音や音楽の存在に気づくことで、音の世界観を広げます。（河本）[演習]

うたあそび～わらべうたなどを交えながら子どもの音楽あそびを知ります。（伊藤）[演習]

子どもの生活の中での音・音楽との関わり方：「気づき」から「感じる」「楽しむ」までの流れの具体例を学びます（河本）[演習]

実技試験（授業内試験）（伊藤）[実技試験]

まとめと履修カルテ記入：アドグル毎に質問を取り上げて、これまでの授業を振り返ります。（河本）[演習]

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

子どもの発達を踏まえた音楽表現のための基礎的な知識について理解している。

子どもの音楽表現の支援に必要な基礎的な音楽理論について理解している。

子どもの音楽表現に必要なピアノの使い方や歌唱についての基本的な技術が身につけている。

保育に必要なピアノや歌唱の技能を向上させるための基本的な方法が身につけている。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

本科目は、学位授与方針第2項「子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術を身に付けている学生」に関わる基礎科目である。

### 成績評価基準と方法

下記のAとBを80：20の比率で合計100点に換算し、評価します。

A（80点） 知識（定期試験）：マークシート方式40点換算、実技（授業内試験）：歌唱中心40点換算

B（20点） 毎回のスキルアップ課題（15点換算）、質問シート作成（5点換算）

### テキスト・参考文献

【テキスト】

子どもの歌200 (チャイルド本社) 複数科目共用  
新・保育内容シリーズ5 音楽表現(一藝社)  
ゆびトレ(本学オリジナル教材)  
教職課程のための大学ピアノ教本(教育芸術社) 複数科目共用

【参考文献】

(財)幼少年教育研究所編著 『新版 遊びの指導』 同文書院

**授業外学習**

【具体的な内容】

・スキルアップタイムの課題は、事前の練習が必要です。毎回指名しますので、必ず練習してきてください。また、事後は扱った教材について演奏や演習の復習が必要です。

【必要な時間】

・スキルアップ課題については30分程度、授業内容の下調べに30分程度、合計1時間程度の事前学習が必要です。  
・事後の復習については、実技的な内容について30分、理論的な内容については30分程度の時間を要します。

その他

**その他**

音楽用の五線ノートを必ず用意してください。なお、授業で使用したノートは、理論の定期試験の時に持ち込み可能な資料になります。

【関連免許資格】幼稚園教諭、保育士、こども音楽療育士

科目名	子どもの音楽(応用)
開講期・単位	1年 後期・選択 1単位・演習
担当者	伊藤 桂子、河本 洋一

### 講義の目的および概要

保育職に必要な音楽に関する基礎的な知識と技能を発展させ、身につけた知識と技能をより実践的に使うことを目指します。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

保育職に必要な音楽に関する基礎的な知識と技能を発展させ、身につけた知識と技能をより実践的に使うことを目指します。なお、各回の担当と講義方法については、授業計画に別掲します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

スキルアップタイムでは実技レベルの確認を行い、その都度学生のレベルに合った適切な助言を行います。また、授業終了時に提出するコミュニケーションシート(一言感想)を基に、次の授業時に課題に対する具体的な助言をおこないます。

### 授業計画

オリエンテーション：『子どもの音楽』という科目の目指すものを理解します。今持っている音楽の力を把握し、今後の授業の受け方をに役立てます。(河本) [講義・演習]

子どもの歌の新譜に挑戦(伊藤) [演習]

子どもの音楽の楽譜を使いこなす方法：音符も文字も一種の記号であるという観点から、楽譜の使い方を見直します。(河本) [演習]

定番子どもの歌の弾き歌い (伊藤) [演習]

コード(和音)の仕組み：わかると便利なコード(和音)の基礎について理解します。(河本) [演習]

定番子どもの歌の弾き歌い ~季節に合った選曲を考える(伊藤) [演習]

コード(和音)の仕組み：様々なコードの種類について理解します。(河本) [演習]

定番子どもの歌の弾き歌い ~場面に合った選曲を考える(伊藤) [演習]

コードネームの実践的な使い方：コードネームを使って演奏する方法を理解します。(河本) [演習]

定番子どもの歌の弾き歌い：コードの違いを感じ取り表現する(伊藤) [演習]

コードネームの実践的な使い方：楽譜に書いてある音符からコードネームを導く方法及びコードネームの繋がり方を理解し、簡易伴奏を自作する方法を理解します。(河本) [演習]

簡単な作曲の実践(伊藤) [演習]

コードネームの実践的な使い方：初めて出会う楽譜との向き合い方や、コードネームを使った楽しい遊びについて学びます(河本) [演習]

実技試験(授業内試験)(伊藤) [実技試験]

まとめ及び履修カルテ記入：これまでの授業を振り返ります。(河本) [演習]

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

子どもの発達を踏まえた音楽表現のための実践的な知識について理解している。  
 子どもの音楽表現の支援に必要な実践的な音楽理論について理解している。  
 子どもの音楽表現に必要なピアノの使い方や歌唱についての発展的な技術が身につけている。  
 保育に必要なピアノや歌唱の技能をさらに向上させるための発展的な方法が身につけている。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

本科目は、学位授与方針第2項「子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術を身に付けている学生」に関わる基礎科目である。

### 成績評価基準と方法

下記のAとBを80:20の比率で合計100点に換算し、評価します。

A(80点) 知識(定期試験)マークシート方式40点換算、実技(授業内試験)  
 :40点換算

B(20点) 毎回のスキルアップ課題(15点換算)、質問シート作成(5点換算)

### テキスト・参考文献

**【テキスト】**

子どもの歌200 (チャイルド本社) 複数科目共用  
新・保育内容シリーズ5 音楽表現(一藝社)  
ゆびトレ(本学オリジナル教材)  
コードネーム徹底克服! ピアノ伴奏入門(ヤマハ・ミュージック)  
教職課程のための大学ピアノ教本(教育芸術社) 複数科目共用

**【参考文献】**

(財)幼少年教育研究所編著 『新版 遊びの指導』 同文書院

**授業外学習****【具体的な内容】**

・スキルアップタイムの課題は、事前の練習が必要です。毎回指名しますので、必ず練習してきてください。また、事後は扱った教材について演奏や演習の復習が必要です。

**【必要な時間】**

・スキルアップ課題については30分程度、授業内容の下調べに30分程度、合計1時間程度の事前学習が必要です。  
・事後の復習については、実技的な内容について30分、理論的な内容については30分程度の時間を要します。

**その他**

音楽用の五線ノートを必ず用意してください。なお、授業で使用したノートは、理論の定期試験の時に持ち込み可能な資料になります。

**【関連免許資格】**幼稚園教諭、保育士、こども音楽療育士

科目名	幼稚園実習(基礎)
開講期・単位	1年 通年・選択 2単位・実習
担当者	小川 久恵、朝地 信介、河本 洋一、田村 めぐみ

### 講義の目的および概要

本講義では付属認定こども園での実習を通して、保育者としての在り方や子どものかかわり方について課題意識を持って取り組み、保育者に求められる態度・姿勢、資質・能力について知ることを目的とします。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

付属認定こども園での実習と、学内研修をローテーションで行います。学内研修では制作や指導案作成等のグループワーク、また、音楽表現や模擬保育等の演習、発表を織り交ぜ、能動的な学修を目指します。

本講義は教員・幼稚園教諭の実務経験のある教員が、実習にかかわる知識・技術を活かして、教育実習の意義、習得すべき知識・技能について、教員の視点から理解できる講義を実施します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説します。また、グループワークや演習、発表等を通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びに繋げていくことを目指します。

### 授業計画

オリエンテーション・授業計画と学内研修説明、個人票・日誌などの配布

学内研修(名札作成)

学内研修(名札作成、音楽表現、手遊び、読み聞かせのローテーション)

学内研修(名札作成、音楽表現、手遊び、読み聞かせのローテーション)

学内研修(名札作成、音楽表現、手遊び、読み聞かせのローテーション)

学内研修(音楽表現、制作、手遊び、読み聞かせのローテーション)

学内研修(音楽表現、制作、手遊び、読み聞かせのローテーション)

学内研修(音楽表現、制作、日誌の書き方・指導案のローテーション)

学内研修(音楽表現、制作、日誌の書き方・指導案のローテーション)

学内研修(音楽表現、制作、日誌の書き方・指導案のローテーション)

付属認定こども園実習事前指導

付属認定こども園実習(観察実習),学内研修(音楽表現,制作,指導案のローテーション)

付属認定こども園実習(観察実習),学内研修(音楽表現,制作,指導案のローテーション)

付属認定こども園実習(観察実習),学内研修(音楽表現,制作,指導案のローテーション)

付属認定こども園実習(観察実習),学内研修(音楽表現,制作,指導案のローテーション)

付属認定こども園実習(観察実習),学内研修(音楽表現,制作,指導案のローテーション)

付属認定こども園実習(参加実習),学内研修(音楽表現,制作,指導案のローテーション)

付属認定こども園実習(参加実習),学内研修(音楽表現,制作,指導案のローテーション)

付属認定こども園実習(参加実習),学内研修(音楽表現,制作,指導案のローテーション)

21付属認定こども園実習(参加実習),学内研修(音楽表現,制作,指導案のローテーション)

22付属認定こども園実習(参加実習),学内研修(音楽表現,制作,指導案のローテーション)

23付属認定こども園実習(参加・部分実習),学内研修(音楽表現,制作,保育準備のローテーション)

24付属認定こども園実習(参加・部分実習),学内研修(音楽表現,制作,保育準備のローテーション)

25付属認定こども園実習(参加・部分実習),学内研修(音楽表現,制作,保育準備のローテーション)

26付属認定こども園実習(参加・部分実習),学内研修(音楽表現,制作,保育準備のローテーション)

27付属認定こども園実習(参加・部分実習),学内研修(音楽表現,制作,保育準備のローテーション)

28付属認定こども園の先生からの講話、実習についての質疑応答

付属認定こども園一日実習(指導案による保育の観察、参加・部分実習)

29付属認定こども園の先生からの講話、実習についての質疑応答

付属認定こども園実習(運動会観察)

30振り返りとまとめ、履修カルテ記入

28付属認定こども園の先生からの講話、実習についての質疑応答

付属認定こども園一日実習(指導案による保育の観察、参加・部分実習)

29付属認定こども園の先生からの講話、実習についての質疑応答

付属認定こども園実習(運動会観察)

30振り返りとまとめ、履修カルテ記入

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

- ・子どもとかかわることへの関心や意欲をもつことができる。
- ・仲間と意見交換したり、協働で作業したりすることを大切にできる態度が身につく。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「子どもの安全を守るための適切な配慮ができる学生」「保育者に求められる態度・姿勢と社会人に必要な教養を身に付けている学生」に学位を授与するに基づき、子どものかかわりや保育者の対応の理解、また仲間との協働を通し、保育者の役割や求められる態度・姿勢を知る。

### 成績評価基準と方法

- ・ 付属認定こども園の実習評価（日誌を含む） 30%
- ・ 学内研修(各活動)における提出物・発表等 70%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

- 『幼稚園実習(基礎)付属認定こども園実習ハンドブック』
- 『実習ハンドブック』

#### 【参考文献】

- 『こどものうた200』（チャイルド社）

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

『幼稚園実習(基礎)付属認定こども園実習ハンドブック』を精読し、実習のねらいや実習準備のポイント等を予習しノートにまとめてください。実習目標の設定や自己課題の設定時に課題を出題します。  
また、学内研修の内容を振り返り、付属認定こども園での実習に向けて知識・技能の向上を目指して復習に取り組んでください。

#### 【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1時間、計2時間を目安とします。

### その他

- ・ 実習時は指定の実習着を着用します。
- ・ 証明写真（付属、保育実習で使用）が必要になります。
- ・ 付属認定こども園での実習の際に昼食が必要になる日があります。
- ・ 制作時は「子どもの図画工作」で購入した教材等を使用します。

科目名	保育者論
開講期・単位	1年 後期・選択 2単位・講義
担当者	小川 久恵

### 講義の目的および概要

本講義は保育者の役割と倫理、保育者の制度的な位置づけを理解し、保育者の専門性について考察することを目的とします。  
また保育者の協働及び専門的成長について理解します。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

基本的に講義形式で行いながら、授業の中ではテキストの要点を捉える、学習したことに基づき自らの考えに重ねて思考する、考えたこと発言する、文章としてまとめる等、グループワークやディスカッションを織り交ぜながら能動的な学修を目指します。

本講義は幼稚園教諭の実務経験のある教員が、保育者の役割や倫理、制度的な位置づけ等にかかわる視点・知識などを活かして、保育者の専門性とは何かを保育者の視点から理解できる講義を実施します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説します。また、グループワークやディスカッションを通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びに繋げていくことを目指します。

### 授業計画

#### オリエンテーション

～授業計画説明、科目・授業へのアンケート～

幼稚園・保育所における保育者の仕事と役割  
認定こども園・児童福祉施設における保育者の仕事と役割  
保育者になるための学び(資格・要件)  
保育に求められる資質とは  
職場で学びあう専門家として  
子どもの育ちの危機  
子育て支援と保育者の役割  
現代社会の変化と保育者の仕事や課題  
保育者の専門性  
保育者の職務と生活  
地域のなかの保育者・施設  
保育者になるために必要な経験  
保育者の実態、諸外国の保育者  
保育者の仕事や課題、これまでのまとめ、履修カルテ記入

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

- ・保育者の役割や意義、制度、歴史等に関する基本的知識について理解することができる。
- ・自分が目指す保育者像を具体的に描くことができる。
- ・保育者として求められるモラル、考え方、マナー、所作について理解している。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「子どもの健やかな育ちのために、必要な保護者支援ができる学生」「保育者の社会的使命を自覚し、責任ある行動をとることが出来る学生」に学位を授与するに基づき、保育者の役割や求められる専門性を理解し、自分の目指す保育者像に近づく姿勢を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

- ・試験40%
- ・レポート30%
- ・授業のまとめ提出物・小テスト30%

### テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・秋田喜代美編集代表『今に生きる保育者論』株式会社みらい

【参考文献】

- ・『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館
- ・『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館
- ・『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説書』  
内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

### 授業外学習

【具体的な内容】

春学期で学んだ「保育原理」や「教育原理」等を参考に、保育者の役割や保育・幼児教育の制度などのポイント、また、次回の授業範囲について専門用語の意味などを予習しノートにまとめてください。

授業内で前回の授業内容の復習問題を出題しますので、授業内容を振り返り、ポイントなどを復習してノートにまとめてください。

また、付属認定こども園実習や学外保育実習を通して、保育者の子どもや保護者への対応、保育者同士のかわり、保育時間外の仕事などを観察するように心がけてください。

【必要な時間】

予習・復習時間はそれぞれ2時間、計4時間を目安とします。

### その他

科目名	子どもの食と栄養(基礎)[幼教]
開講期・単位	1年 後期・選択 1単位・演習
担当者	小野 昭子

### 講義の目的および概要

近年フリーシュガーによる乳幼児肥満が世界的に問題となり、増え続ける生活習慣病につながっている。その根は胎児期から幼児期の食生活、生活習慣にあると考えられる。幼児の食生活を考えることはその子の可能性を最大限引き出し、未来を豊かにするばかりでなく、「健康な国」をつくる根幹である。まず健康とは何かを学び、食事と自分の健康について考える。自分や子供を取り巻く現状から、良い食生活がもたらす未来に思いをはせる。子供たちに伝える食事の基礎を学ぶ。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

ビデオ、OHPを使い、教室にて授業を行う。  
考えてもらうために参加方式を出来るだけ取り入れたいと考えている。  
積極的なかわりを期待している。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

レスポンドでのミニテスト・感想を、授業中に回答・披露することで理解を深める

### 授業計画

ガイダンス カラダは食べたもので作られる  
あなたのボディをスキャンする(ヤセがもたらす問題)  
そもそも遺伝は変えられないのか(エピジェネティクスについて)  
子供の健康と食生活の意義(この20年で変わった食生活と増える慢性病)  
子どもの食の現状1  
子どもの食の現状2  
子供の発育発達と栄養の関係性・関連する生活リズム・腸内細菌・体内の慢性炎症  
食べ物の役割1 栄養素とその働き  
食べ物の役割2 野菜の役割(微量栄養素・腸内細菌と脳の関係)  
食べ物の役割3 現代の食の危うさに気づく  
(果糖・トランス脂肪・フリーシュガー・生活リズム・食品添加物)

日本人の食事摂取基準について学ぶ  
食事の整え方(食事バランスガイドと食生活指針)  
食事調べ演習  
まとめ：振り返り

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

現在の食事が、未来の健康をつくり、過去の「食」のあり方が、今の食行動につながっていることを理解し、食事の大切さ、食教育の必要性を理解する。また、その実践に役立つ知識を習得する。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

### 成績評価基準と方法

期末テスト	45%
課題レポート	40%
レスポンドによるミニテスト・コメントシート	15%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

子どもの食と栄養 第2版 保育現場で活かせる食の基本 羊土社  
太田百合子、堤 ちはる

#### 【参考文献】

子どもの脳は食べ物で変わる 生田 哲  
腸化学 ジャスティン・ソルバーク 成功する子は食べ物が9割 細川モモ・宇野 薫 他  
リカソルバーク  
世界一の美女になるダイエット リカソルバーク

### 授業外学習

【具体的な内容】

くだものや野菜、魚等食材の名前を意識する  
栄養素の基礎知識があることが望ましい。高校の家庭科を復習  
体重と体脂肪を計測しておく。2回目の授業で使用

【必要な時間】

### その他

科目名	保育内容総論[幼教]
開講期・単位	1年 前期・選択 1単位・演習
担当者	岡部 祐子

### 講義の目的および概要

保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解するとともに、保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。子どもを取り巻く環境や保育内容の歴史の変遷等を踏まえて、保育内容の基本的な考え方を理解する。保育内容の基本的な考え方を、実践につなげて理解する。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

講義形式でおこなう。基本的にはテキストにそって学習を進め、学習テーマと対応する資料や視覚的教材も使用する。レジュメやノートを活用して書き込む作業を行う。グループでの事例検討および発表を経験する。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

学生からの質問には適宜講義内で回答する。積極的な質問を期待する。提出された課題については、返却後コメント・解説を行う。

### 授業計画

オリエンテーション 保育内容の変遷と今日的課題  
 保育の全体構造と保育内容  
 幼稚園の保育内容  
 保育所の保育内容  
 認定こども園の保育内容  
 子どもの育ちと保育内容  
 保育内容の展開 養護と教育を一体的に行う・環境を通して行う  
 0歳児の保育内容  
 1・2歳児の保育内容  
 3歳児の保育内容  
 4歳児の保育内容  
 5歳児の保育内容  
 保育の計画と観察・記録と評価  
 多様な保育ニーズと保育内容  
 まとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

- ・保育の基本と保育内容の理解を深める。
- ・保育内容を総合的に捉える視点を獲得し保育を構想する力や実践への意欲を培う。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

ディプロマポリシーにかかげる「子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術を身に付けている学生」に向けて、成長の助走となる講義である。

### 成績評価基準と方法

確認テスト 30%  
 最終テスト 40%  
 提出物 30%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

・井上孝之・山崎敦子編『子どもと共に学びあう演習・保育内容総論 第2版』みらい

#### 【参考文献】

- ・『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館
- ・『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館
- ・『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説書』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

### 授業外学習

**【具体的な内容】**

受講前に、必ずテキストの指定箇所を読んでおくこと。  
不明な点、理解が難しい点は必ず質問し、疑問を解消すること。  
質問は授業中、授業外のほか、リアクションシートやメール等でも随時受け付ける。

**【必要な時間】**

事前、事後それぞれ1時間程度の学習を必要とする。

**その他**

科目名	保育実習 [幼教]
開講期・単位	1年 後期・選択 4単位・実習
担当者	伊藤 桂子、小川 久恵、山内 太郎、岡部 祐子、平野 良明、朝地 信介、東谷 一彦、河本 洋一、深浦 尚子、田村 めぐみ、野崎 剛毅

### 講義の目的および概要

保育所・各種児童福祉施設での実習を通して保育士として必要な知識・技能を身につけ、学内における学習と関連付けて学ぶ。特に実習後の学習への動機づけをする。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

内容は、実習先によって異なる。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

関連する実習科目において振り返りを行う。

### 授業計画

保育所 10日間、施設 10日間の実習を行う。

保育所、施設理解から始まり、子どもや施設の利用者とのかかわりを通して、参加、部分的な責任実習を行う。実習の内容については実習先によって多少異なる。

- ・事前訪問（オリエンテーション）・・・スケジュールの確認、実習のための諸注意
- ・観察参加実習・・・子どもたち、利用者とともに生活しながら観察・援助をする。
- ・部分実習・・・絵本の読み聞かせ、ゲーム、制作など保育のなかの一部分を責任をもって担う。

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

保育所・施設での実習で単位の認定が行われる。従ってそれぞれの実習先で充実した実習を行うことが最大の目標である。さらに2年次での発展学習への課題を明確にすること。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「保育者に求められる態度・姿勢と、社会人に必要な教養を身に付けている学生」に関連する。

### 成績評価基準と方法

授業への取組み 20%  
提出物 30%  
評価表 50%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

実習ハンドブック

#### 【参考文献】

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

健康管理をしっかりとる。  
挨拶など基本的な対人関係のマナーをしっかりと身につけておく

#### 【必要な時間】

### その他

5月頃に実習費29,000円（2020年度実績）の納入が必要になります。

科目名	保育実習指導 [幼教]
開講期・単位	1年 通年・選択 2単位・演習
担当者	伊藤 桂子、山内 太郎、岡部 祐子、野崎 剛毅

### 講義の目的および概要

保育所・各種福祉施設での実習を有意義なものにするために、事前及び事後の指導として必要な知識、技術を習得するとともに、必要な諸手続きについて理解する。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

基本的に講義形式でおこなう。また、重要事項等の確認や演習等で必要な場合はグループにわかれて演習形式でおこなう。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

授業の冒頭に適宜小テストを行い、理解度を確認する。

### 授業計画

オリエンテーション（保育実習とは何か・全体のスケジュール/実習費のことなど）

実習生としての心得  
 免疫について  
 実習に向けた準備（書類作成）  
 実習施設種別ごとの理解（養護系）  
 実習施設種別ごとの理解（障害児系）  
 実習施設種別ごとの理解（障害者支援施設）  
 実習先の発表/日誌等配布  
 実習における記録について（言葉の使い方）  
 実習における記録について（施設実習日誌の書き方）  
 実習に向けた準備（実習事前事後の流れ確認/礼状の書き方・電話のかけ方など）

実習課題の検討（Q&A準備）/巡回教員発表  
 実習直前Q&A  
 実習報告会  
 実習に向けた準備（保育所実習の事前事後の流れ）/日誌等配布/実習先発表  
 保育所の日  
 実習における記録について（保育所実習日誌の書き方）/オリエンテーション確認

実習における記録について（指導案の書き方）/巡回教員発表  
 実習グッズ紹介  
 実習課題の検討  
 ?実習直前Q&A  
 ?実習の振り返り  
 ?実習報告書作成/履修カルテ記入

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

実習を円滑に行うために、必要な知識・技術を身につける。  
 実習を開始するための諸手続きと実習終了後の諸手続きの必要性を理解する。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「保育者の社会的な使命を自覚し、責任ある行動をとることができる学生」に関連する科目である。

### 成績評価基準と方法

提出物：50%  
 課題：20%  
 小テスト：30%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

『実習ハンドブック』（授業で配布する）

#### 【参考文献】

授業において適宜提示する

### **授業外学習**

**【具体的な内容】**

事前学習として実習ハンドブックの毎回のテーマに該当する箇所に通しておくこと

事後学習として配布資料等を読み返しておくこと

**【必要な時間】**

それぞれ1時間程度で合計2時間を目安とする。

### **その他**

科目名	保育の心理学
開講期・単位	1年 前期・必修 2単位・講義
担当者	深浦 尚子

### 講義の目的および概要

保育実践にかかわる心理学の知識の習得を目的とする。その際に、子どもが人とのかかわりを通して発達することを理解する。また、発達は子どもだけではなく、生涯発達という観点から発達のプロセスについて保育との関連で理解し、考える。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

講義形式で行うが、必要に応じてグループディスカッションを行う。毎回コミュニケーションカードに講義の振り返りと質問などの記入を行う。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題は、講義中に行い、提出後コメントをつけて学生に返却を行う

### 授業計画

- 1 発達とは～子どもの発達を理解する意義
- 2 保育実践の評価と心理学
- 3 発達をどうみるのか～発達観、保育観
- 4 子どもの発達における環境とは
- 5 感情の発達と自我
- 6 身体機能と運動機能の発達
- 7 知覚と認知の発達 中間小レポートとフィードバック
- 8 ことばの発達と社会性の発達
- 9 基本的信頼感の獲得について
- 10 他者とのかかわり～社会的相互作用について
- 11 生涯発達と発達援助
- 12 胎児期と新生児期の発達
- 13 乳幼児期の発達
- 14 学童期から青年期の発達
- 15 成人期、老年期の発達"、

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

人の発達を多様な側面から学ぶことで、子どもの発達の特徴を理解し、保育をすすめる際の子どもの理解ができるようになる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

卒業認定・学位の授与のためには、子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術を身に付けていることが求められる。保育の心理学 では、子どもの発達段階にあった保育ができる知識が身につく。

### 成績評価基準と方法

授業コミュニケーションシート20%  
 中間レポート 40%  
 定期テスト 40%"

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

保育の心理学 杉村伸一郎編 中央法規

#### 【参考文献】

### 授業外学習

【具体的な内容】

予習、復習が必要です

【必要な時間】

それぞれ、おおよそ2時間くらい

**その他**

科目名	人間の心理
開講期・単位	1年 後期・選択 2単位・講義
担当者	岡田 美恵子

### 講義の目的および概要

心理学の入門の授業です。心理学の各分野の基礎知識を学びながら、心理学的な見方や考え方を習得することを目指します。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

パワーポイントを使用しながら授業を展開します。必要に応じて、授業内容に関連する視聴覚教材を観ます。心理学の考え方を理解するために、簡単な実験や調査を実施することがあります。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で返却、解説をおこないます。

### 授業計画

身近な事例等を交えながら、概ね以下の分野に関連する講義を展開する予定です。進行状況や理解度によって扱う順序を変更したり、数週にわたって同テーマを展開したり複合的に扱うことがあります。

1. オリエンテーション
2. 心理学って何だろう
3. 臨床の心理学
4. 感覚と知覚
5. 動機付け
6. 発達
7. 知覚
8. 認知
9. 性格
10. 学習
11. 記憶
12. 対人関係
13. 社会のなかの「こころ」
14. 関係とコミュニケーション 1
15. 関係とコミュニケーション 2

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

1. 心理学の全体について基礎知識を獲得する。
2. 心理学的研究方法について理解し応用できる。
3. 日常生活の中に心理学的視点を持ち、社会事象や他者、自分自身について心理学的探求をし理解を深める。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

心理学の基礎知識を身に付け、社会事象や他者、自分自身について心理学的な理解を深めることで「卒業認定・学位授与の方針」にうたわれた「共感的な感性と知性」を身に付け、「人間性豊かな保育者を養成」することにつながる。(短期大学部)

### 成績評価基準と方法

リモート授業の場合 - 小テスト(70%)、課題レポート(30%)で評価します。

対面・ハイブリッド授業の場合 - 小テスト(60%)、期末定期試験(40%)で評価します。

\* 提出物の締切後の提出は減点となります。

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

毎回プリントを配布します。

#### 【参考文献】

授業中に適宜紹介します。

## **授業外学習**

### **【具体的な内容】**

心理学の考え方に親しむために、図書やWebを活用し、興味や関心のあるトピックスについて学習をして下さい。また、授業中に得た知識を定着させるため復習を行って下さい。

### **【必要な時間】**

予習・復習は1時間程度が目安です。

## **その他**

科目名	子どもの遊び演習
開講期・単位	1年 前期・必修 1単位・演習
担当者	岡部 祐子、野崎 剛毅

### 講義の目的および概要

学生自身が遊びを体験し、楽しむことで保育者としての基礎をつくることを目的とする。幼児教育における遊びの重要性を理解し、子どもにとってより楽しく、意義のある遊びについて考えていく。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

実践を重視し、学生自身が授業構築に直接関わり、遊びについて検討していく。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

学生から提示された疑問等には講義内で対応していく。

### 授業計画

ガイダンス：科目の意義、遊びについて

運動あそび

わらべうたあそび

伝統遊び：けん玉

伝統遊び：コマ

伝統遊び：竹馬

カブラ

伝統遊び：竹とんぼ

絵本

音楽あそび

小遊具の探求

作って遊ぼう

恩物・モンテッソーリ教具

まとめ・履修カルテの記入

(冬開講) 雪で遊ぼう

なお、天候等による順番が前後することがある。

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

子どもの遊びを自分自身が体験し、その楽しさ、難しさを実感する。  
子どもが楽しめる遊びを考え、実践できる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

自ら遊び体験を深め、また「子どもの広場」の企画・運営・実践をおこなうなかで、「子どもの発達段階にあった保育ができる知識」や「子どもの安全を守るための適切な配慮」を学ぶことができる。

### 成績評価基準と方法

授業各回の実践レポート 70%

まとめのレポート 30%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

『新版遊びの指導 乳・幼児編』幼少年教育研究所編、同文書院

#### 【参考文献】

必要に応じて紹介する。

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

子どもの頃に体験した遊びを思い出しておく。また、保護者や身近な大人に、子どもの頃の遊び経験を聞いておくこと。また、授業で体験して終わるのではなく、継続的に実践し続けることを望む。

#### 【必要な時間】

授業後、1時間以上の振り返りを求める。

### その他

15回目は2月におこなう。

実際に身体を動かすことが多いため、原則として動きやすい服装で参加すること。その他、必要な準備は授業内で指示する。

科目名	ことばの基礎
開講期・単位	1年 前期・必修 2単位・講義
担当者	東谷 一彦

### 講義の目的および概要

ことばには様々な働きや役割がある。この授業では、ことばの様々な働きや役割について具体的に理解し、「読む・聞く・書く・話す」といった現実的な場面でことばを使いこなすための基礎を身に付けることを目的とする。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

ことばについての理解とともに、「読む・聞く・書く・話す」といった領域の演習を盛り込み、例えばグループワークなど、知識・技能を活用する能力を育てるための実践的な内容も取り入れる。また、漢字の知識や保育に関する語彙力を高めるために、小テストを毎回実施する。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、資料を配付する。

### 授業計画

刈エーション・話しことばと書きことばの違いについて(1)  
 話しことばと書きことばの違いについて(2)  
 正しい文章表現について(1)  
 正しい文章表現について(2)  
 敬語について(1)  
 敬語について(2)  
 敬語について(3)  
 通信文について(1)  
 通信文について(2)  
 メール文について  
 要約文  
 自己紹介文  
 意見文(1)  
 意見文(2)  
 表現活動についてのまとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

ことばの様々な働きや役割について具体的に理解し、幼児教育に関わる者として必要な知識・技能としてのことばの基礎を身に付け、適切な表現ができること。例えば、保育・幼稚園等における実習での日誌の作成などで学習したことが発揮できること。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「保育者に求められる態度・姿勢と社会人に必要な教養を身に付けている」というDPに基づき、社会人として及び保育者として自立を促す。

### 成績評価基準と方法

定期試験60%  
 提出物等30%  
     自己紹介文、要約文、手紙文、メール文、意見文の提出  
     ワークシートの提出・振り返りシートの提出  
 小テスト10%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

なし。適宜、プリントを配布。

#### 【参考文献】

保育所保育指針（H29）

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

漢字やことばの知識を身に付けるための学習も行うが、日頃から新聞や本を読むなど、活字に親しみ、「ことば」について意識すること。また、授業内容については、しっかり振り返りを行うことが必要である。

#### 【必要な時間】

予習・復習として、それぞれ2時間程度の学習を目安とする。

**その他**

授業での配布物等を保管するためのファイル（A4版）を用意すること。

科目名	ことばの力
開講期・単位	1年 後期・選択 1単位・演習
担当者	東谷 一彦

### 講義の目的および概要

春学期に受講した「ことばの基礎」の授業内容を踏まえ、ことばの様々な働きや役割について実践的に理解し、社会で役立てることのできる生きたことばの使い手になることを目的とする。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

ことばの様々な働きや役割について実践的に理解し、知識の活用を促すための応用的な内容を中心として授業を行う。例えば、絵本の「読み聞かせ」や「紙芝居」の制作と実演、幼児教育の話題をテーマとした「ディベート」などを実施する。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、資料を配付する。

### 授業計画

オリエンテーション・「絵本」について

- 「絵本」の書評について
  - 「絵本」の書評〔実作〕
  - 「絵本」の読み聞かせについて
  - 「絵本」の読み聞かせ〔実演〕
  - 「紙芝居」について
  - 「紙芝居」づくり〔構想〕
  - 「紙芝居」づくり〔作画〕
  - 「紙芝居」づくり〔台本〕
  - 「紙芝居」発表
  - 「ディベート」について（1）
  - 「ディベート」について（2）
  - 「ディベート」
  - 「ディベート」
- まとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

ことばの様々な働きや役割について実践的に理解し、幼児教育に関わる者として、十分に現場で生かすことのできる知識・技能を身に付ける。例えば、絵本の読み聞かせや紙芝居ができる、幼児教育における社会的な問題点を理解している、など。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「子どもの成長・発達を援助するために必要な保育の理論や内容、技術を習得するとともに、社会人として必要な教養や基礎的な力を身に付ける」というDPに基づき、保育者としての自立を促す。

### 成績評価基準と方法

- 創作（書評、紙芝居など） 30%
- 発表（読み聞かせ、ディベートなど） 30%
- 小テスト・提出物等 40%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

保育・教育ネオシリーズ20「保育内容・言葉」太田光洋編著（同文書院）  
このテキストは2年次の「保育内容（言葉）」でも使用する。  
その他、適宜プリントを配布。

#### 【参考文献】

「保育の基本用語」（わかば社）

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

- ・日頃から新聞や本などで活字に親しみ、「ことば」について意識する。
  - ・授業内容について、家庭でしっかりと振り返りを行う。
  - ・課題が授業内で完成しなかった場合は、授業外学習で完成させ、提出すること。
- #### 【必要な時間】
- ・絵本の下読みや紙芝居の作成、ディベートの下調べなど、2hの予・復習が必要。

### その他

授業での配布物等を保管するためのファイル（A4版）を用意すること。

科目名	ピアノ基礎演習
開講期・単位	1年 前期・選択 1単位・演習
担当者	二口 英恵、伊藤 桂子、佐々木 沙織、小杉 恵、河本 洋一、竹田 有希、長谷部 祥子

### 講義の目的および概要

保育現場で必要なピアノの基礎的な技術（読譜力、表現力、即興力）を身に付けることを目的とし、学生個々のピアノ経験に応じて指導します。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

学生個々のピアノ経験に応じて、個人レッスンの形態で講義を行います。楽譜の読み方から、音楽表現についてまで細やかに指導します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。

### 授業計画

- 1.オリエンテーション（グループ分け）
- 2.～13. 下記の～の指導項目をテキストに関連させて指導します。
  - 読譜（拍子）
  - 読譜（リズム）
  - 読譜（ト音譜表）
  - 読譜（ヘ音譜表）
  - 八長調の和音
  - ヘ長調の和音
  - ト長調の和音
  - 分散和音など様々な伴奏型
  - 初見視奏
  - 簡易な即興演奏
  - 自由曲による表現
  - 子どもの歌の弾き歌い
  - 生活の歌、行事の歌、季節の歌
14. 授業内試験
15. 春学期のまとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。  
簡単なメロディを初見で弾くことができる。  
簡単なメロディに伴奏をつけることができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術を身に付けている学生」に基づき、基礎的な音楽技術を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

- A: 定期試験（レッスンからの選択曲1曲：50%）+ 授業内試験（初見視奏、伴奏付け：20%）：合計70%  
B: 毎時の課題： 30%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

- ・『教職課程のための大学ピアノ教本（教育芸術社）』
- ・『ゆびトレ』（本学オリジナル教材）
- ・『こどものうた200（チャイルド本社）』

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

毎時、次の授業までの課題が提示されます。  
各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。

#### 【必要な時間】

事前事後各1時間程度を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。

### その他

幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本  
科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

科目名	ピアノ基礎演習 [再]
開講期・単位	1年 後期・選択 1単位・演習
担当者	伊藤 桂子

### 講義の目的および概要

保育現場で必要なピアノの基礎的な技術（読譜力、表現力、即興力）を身に付けることを目的とし、学生個々のピアノ経験に応じて指導します。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

学生個々のピアノ経験に応じて、個人レッスンの形態で講義を行います。楽譜の読み方から、音楽表現についてまで細やかに指導します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。

### 授業計画

- 1.オリエンテーション（グループ分け）
- 2.～13. 下記の～の指導項目をテキストに関連させて指導します。
  - 読譜（拍子）
  - 読譜（リズム）
  - 読譜（ト音譜表）
  - 読譜（ヘ音譜表）
  - 八長調の和音
  - へ長調の和音
  - ト長調の和音
  - 分散和音など様々な伴奏型
  - 初見視奏
  - 簡易な即興演奏
  - 自由曲による表現
  - 子どもの歌の弾き歌い
  - 生活の歌、行事の歌、季節の歌
14. 授業内試験
15. 春学期のまとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。  
簡単なメロディを初見で弾くことができる。  
簡単なメロディに伴奏をつけることができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術を身に付けている学生」に基づき、基礎的な音楽技術を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

- A: 定期試験（レッスンからの選択曲1曲：50%）+ 授業内試験（初見視奏、伴奏付け：20%）：合計70%  
B: 毎時の課題：30%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

- ・『教職課程のための大学ピアノ教本（教育芸術社）』
- ・『ゆびトレ』（本学オリジナル教材）
- ・『こどものうた200（チャイルド本社）』

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

毎時、次の授業までの課題が提示されます。  
各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。

#### 【必要な時間】

事前事後各1時間程度を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。

### その他

幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本  
科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

科目名	ピアノ基礎演習
開講期・単位	1年 後期・選択 1単位・演習
担当者	二口 英恵、伊藤 桂子、佐々木 沙織、小杉 恵、河本 洋一、竹田 有希、長谷部 祥子

### 講義の目的および概要

「ピアノ基礎演習」を踏まえ、より実践的なピアノの技術を身に付けます。一人ひとりが、自身の力を伸ばして保育実践にピアノを活用できるように、経験年数や習熟度に応じた指導を行います。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

学生個々の経験や習熟度に応じてそれぞれに合わせた目標を立て、個人レッスンの形態で、細やかに指導を行います。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。

### 授業計画

1. オリエンテーション（習熟度と秋学期の目標の確認）
2. ～13. 下記の～の課題を習熟度に応じて指導します。  
八長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調の主要和音  
八長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調の和音の変奏  
子どもの歌の弾き歌い  
初見視奏  
伴奏付け  
移調  
小品の演奏  
保育実践のための即興  
就職試験対応曲  
様々な演奏表現について
14. 授業内試験
15. 秋学期のまとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。  
子どもの歌に伴奏を付けたり、移調したり、アレンジすることができる。  
簡単なメロディに伴奏をつけることができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術を身に付けている学生」に基づき、より実践的な音楽技術を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

- A: 定期試験（レッスンからの選択曲1曲：50%）+ 授業内試験（移調演奏、伴奏付け：20%）：合計70%  
B: 毎時の課題：30%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

- ・『教職課程のための大学ピアノ教本（教育芸術社）』
- ・『ゆびトレ』（本学オリジナル教材）
- ・『こどものうた200（チャイルド本社）』

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

毎時、次の授業までの課題が提示されます。  
各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。

#### 【必要な時間】

事前事後各1時間程度を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。

### その他

「ピアノ基礎演習」の単位を取得済みであること。  
幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

科目名	子どもの図画工作
開講期・単位	1年 前期・選択 1単位・演習
担当者	朝地 信介

### 講義の目的および概要

作品制作を通してつくってあそぶ楽しさを感じると共に、保育者として必要な図画工作の基礎的技能と実践法を学ぶ。幼稚園教育要領と保育所保育指針に示された図画工作の学習内容の理解を深める。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

資料・参考作品を基に課題の説明を行い、主に制作実習室と学内、大学敷地内をフィールドとして作品を制作・鑑賞する。また授業内容の振り返りのため制作した作品と資料を綴じて作品ポートフォリオを作成する。授業冒頭には学生相互の折り紙実践（プレゼンテーション方式）を行う。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

制作した作品の鑑賞や折り紙実践の中で学生同士の相互評価と教員からのアドバイスをを行う。また毎時間の取り組みの振り返りや質問等のコメントを記入・提出し、教員がコメント等で応える。

### 授業計画

オリエンテーション / 子どもの表現、自分の表現  
 素材を見る、感じる（いろいろな紙とあそび） / 切り紙（五つ折）  
 素材を見る、感じる（いろいろな描画用具とあそび） / 切り紙（四つ折1）  
 基礎技法の造形あそび（絵具） / 切り紙（四つ折2）  
 基礎技法の造形あそび（クレヨン） / 切り紙（三つ折・六つ折）  
 基礎技法の造形あそび（鉛筆・色鉛筆） / 切り紙（四角四つ折）  
 基礎技法の造形あそび（様々な材料） / 切り紙（四角八つ折）  
 自然素材を使った活動 / 切り紙（立体折）  
 自分を表現お面づくり（制作） / 折り紙（動物1）  
 自分を表現お面づくり（発表） / 折り紙（動物2）  
 絵本表紙デザイン（準備・調べ） / 折り紙（動物3）  
 絵本表紙デザイン（構想） / 折り紙（植物1）  
 絵本表紙デザイン（下絵） / 折り紙（植物2）  
 絵本表紙デザイン（着色） / 折り紙（植物3）  
 絵本表紙デザイン（製本） / 履修カルテ記入

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

作品制作を通して自分なりに感じたことや考えたことを表現することができる。  
 制作した作品や発表を互いに鑑賞することで様々な感性や表現を知り、理解することができる。  
 造形の基本を学び、作品制作に必要な技術を身に付けることができる。  
 作品制作を振り返り、自らの表現や制作方法の課題を見つけ把握することができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術を身に付けている学生」に学位を授与する、に基づき、保育者として制作、表現に必要な知識、技術を作品制作、発表の実践を通して身に付ける。

### 成績評価基準と方法

- ・完成作品の提出、作品内容・作品数・期限など条件の達成度：70%
- ・毎時間の取り組みの振り返り（小レポート）：30%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

#### 【参考文献】

- ・文部科学省「幼稚園教育要領解説」
- ・厚生労働省「保育所保育指針解説書」
- ・授業時にプリント、資料を配布し参考作品を提示する。

### 授業外学習

【具体的な内容】

- ・制作に必要な資料や図案、モチーフを準備する。
- ・配布される材料以外に必要なものは各自で用意する。
- ・折り紙のレパートリーを調べる。
- ・期日までに提出できるよう各自で制作を進める。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1時間ずつ、合計2時間を目安とします。

**その他**

図画工作、造形表現、その他演習や実習で使用するための教材を受講年度初めに全員購入する。

( 絵の具、はさみ、カッター、クレヨン、のり、折り紙等 4,000円 )

科目名	教育と保育の方法
開講期・単位	1年 後期・選択 2単位・講義
担当者	田村 めぐみ

### 講義の目的および概要

幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について、背景となる専門領域と関連させて理解を深める。また幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

基本的に講義形式で行う。視聴覚教材にも触れ具体的に学ぶ。他の学生の意見を聞き、自分の考えをまとめることや必要に応じて、グループの話し合いや発表を行う。模擬保育の実践を通し、援助方法やカリキュラム・マネジメントについて体験的に学ぶ。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

毎回、授業のまとめの提出を課し、コメントを記入して返却をするとともに、疑問点については、次回講義で検討する。個々の指導案・記録・評価について、全体で共有し改善の視点について検討する。

### 授業計画

保育の方法を支える「4つの専門性」と「循環モデル」  
幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体の構造

- 幼児理解と保育者の援助
- 幼児理解と保育者の援助 - その子 を理解する手立て・尾比久社の援助との相互性 -
- カリキュラムデザインと環境構成
- 保育とメディア（情報機器の活用）
- 幼児の遊びと発達
- 協働する経験と保育者の援助
- 幼児同士のトラブルと保育者の援助
- 連続性を踏まえた保育と保育者の援助
- 保育の計画と実践 予行と修正 ～「観る」「観られる」の関係での学び
- 保育の計画と実践 実践と記録
- 記録を音にした省察（評価）と指導案のリトライ
- 保育者の省察を促す保育の記録と保育カンファレンス
- 授業内レポートとまとめ 保育方法のブラッシュアップ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

- ・幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。
- ・当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。
- ・幼児教育・保育における評価の考えを理解している。
- ・領域ごとに幼児が経験し、身につけていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。
- ・幼児の認識や思考、動きなどを視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。
- ・指導案の構成を理解し、具体的な方法を想定した指導案を作成することができる。
- ・模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。
- ・各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構造の向上に取り組むことができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

到達目標を習得することにより、子どもの安全を守るための適切な配慮ができる学生、及び子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術を身につけている学生になることを目指す。また、上記到達目標を習得したアカウンタビリティの必要性を理解することにより、子どもの健やかな育ちのために必要な保護者支援ができる学生となることが期待できる

### 成績評価基準と方法

授業内レポート 30%  
授業内小テスト 30%  
授業内提出物 30%  
模擬保育 10%

## テキスト・参考文献

【テキスト】  
必要に応じてプリントを配布

【参考文献】  
「幼児理解から始まる保育・教育方法【第2版】」小田豊・中坪史典編・著（建帛社）  
「保育方法の実践的理解」（萌文書林）

## 授業外学習

【具体的な内容】  
事前事後に授業内容と各解説書の該当箇所を参照し、3法令に対応した理解を進めていく。図書館等を利用し広い範囲から情報を収集し、指導計画の作成等に取り組んでほしい。

【必要な時間】  
予習・復習の時間はそれぞれ2時間を要する。

## その他

授業に際し『保育原理』・『教育原理』等で学んだ、保育・幼児教育の基本を復習しておくこと。幼児の発達の道筋を理解しておくこと。  
これまでに経験した各実習の日誌や、実践した指導案をファイリングし、省察しておくこと。

科目名	子どもの保健[幼教]
開講期・単位	1年 後期・選択 2単位・講義
担当者	小林 由希子

### 講義の目的および概要

#### 講義の目的]

子どもの心身の健康増進を図る保健活動、子どもの身体発育や生理機能および精神機能の発達と保健、子どもの疾病とその予防、保育における環境・衛生管理および安全管理について理解する。

#### [授業全体の内容の概要]

子どもの心身の健康と保健の意義、身体的発育・発達、心身の健康状態とその把握、疾病の予防と適切な対応について学ぶ。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

講義形式だが、DVD視聴、実物見本の閲覧や、一部に演習的な内容（教員によるデモンストレーション等）を含む。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題レポート内に質問・意見の項目を設定し、次回講義時にそれらの質問等への返答、全体の講評を行う

### 授業計画

子どもの生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的

子どもの健康の概念と健康指標

現代社会における子どもの健康に関する現状と課題

地域における保健活動と子ども虐待防止

身体発育及び運動機能の発達と保健

生理機能の発達と保健

子どもの健康状態の観察

心身の不調等の早期発見と病気の時の対応

発育・発達の把握と健康診断

保護者との情報共有

子どものかかりやすい病気と主な疾病の特徴

子どもの感染症とその対策、感染予防

子どものアレルギーとアレルギー性疾患への対応

子どもの事故とその予防

子どもの人権、母子保健の現状、子育て支援の課題

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

- 1.子どもの心身の健康増進を図る健康活動の意義を理解する。
- 2.子どもの心身の健康状態とその把握の方法、疾病とその予防法、他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

出席日数を満たし必要な課題を提出することにより単位を認定

### 成績評価基準と方法

平常点：出席点および課題レポート：50%（課題小レポート3回）

最終課題レポート：50%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

飯島一誠監修、「保育者のためのわかりやすい子どもの保健」、日本小児医事出版社 2019

#### 【参考文献】

日本小児科学会編著、「ママ＆パパに伝えたい 子どもの病気ホームケアガイド第5版」医歯薬出版株式会社

厚生労働省ホームページより「保育所における感染症対策ガイドライン」および「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」を参照

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

上記に提示したテキストに目を通しておく。事前学習項目は授業終了時に次回内容について示すのでその部分を事前に学習すること。特に感染症予防については厚生労働省の示す「保育所における感染症対策ガイドライン」を参照すること。

#### 【必要な時間】

事前・事後それぞれ2時間程度

**その他**

自分自身の母子手帳を見ることが可能であれば見せてもらっておく。

科目名	子ども家庭福祉[幼教]
開講期・単位	1年 後期・選択 2単位・講義
担当者	大野 慶

### 講義の目的および概要

保育者とは「専門的知識及び技術をもって、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者」（児童福祉法第18条の4）である。そこで本講義では、子どもの保育及び保護者に対する保育に関する援助・指導のあり方を考察していく上で必要となる社会福祉とりわけ子ども・家族の生活・福祉に関する基礎的知識を学修していく。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

講義方法は以下のとおりである。

1) 講義形式を基本とする。ただし必要に応じて視聴覚教材を用いることもある。

2) レジュメとその他資料を配布する。

3) リアクションペーパーの提出を求める。提出されたリアクションペーパーに対しては必要に応じて応答する。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたリアクションペーパーについては、講義前半に紹介・応答する時間を設ける。

### 授業計画

オリエンテーション 「子ども家庭福祉」を学修するとは

子ども的人権

子ども家庭福祉の成立と展開(1)

子ども家庭福祉の成立と展開(2)

現代社会と子ども家庭福祉

まとめと小テスト(あるいはレポート)

貧困と子ども・家族

障害と子ども・家族

子ども虐待・DVと子ども・家族

まとめと小テスト(あるいはレポート)

児童福祉法の法体系、行財政、機関・施設

保育制度の現状と課題

社会的養護の現状と課題

子ども家庭福祉の専門職と連携

まとめと小テスト(あるいはレポート)

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

子どもの保育及び保護者に対する保育に関する援助・指導のあり方を考察していく上で必要となるであろう、社会福祉とりわけ子ども・家族の生活・福祉に関する基礎的知識を習得することである。具体的には以下のとおりである。

1) 子ども・家族を取り巻く現代社会について理解すること

2) 子ども・家族の生活と困難について理解すること

3) 子ども・家族を支える社会的仕組みについて理解すること

4) 上記1)～4)を理解した上で、子どもの保育及び保護者に対する保育に関する援助・指導のあり方を考察できるようになること

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

以上は、札幌国際大学短期大学部幼児教育保育学科卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）にある「子どもの健やかな育ちのために、必要な保護者支援ができる学生」、「保育者の社会的な使命を自覚し、責任ある行動をとることができる学生」、「保育者に求められる態度・姿勢と、社会人に必要な教養を身に付けている学生」になるために不可欠である。

### 成績評価基準と方法

成績評価基準と方法は以下のとおりである。

1) 授業内試験（50％）

2) 出席（50％）

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

原則使用しない。講義方法2) のとおりレジュメと関係資料を配布して講義を行う。

#### 【参考文献】

適宜紹介する。

### 授業外学習

**【具体的な内容】**

事前学習では「子ども家庭福祉論」「児童福祉論」と冠したテキストを購読するとよい。適宜紹介する参考文献も併せて読みたい。また、常日頃からニュース・新聞報道に目を通されるとよい。事後学習では配布されたレジюмеやその他資料を見直しながらノートを作成するとよい。

**【必要な時間】**

事前事後学習はそれぞれ2時間程度を目安とする。

**その他**

十分に事前事後学習をしておくこと。また、授業態度としては常に「問い」をもって臨みたい。

科目名	社会的養護 [幼教]
開講期・単位	1年 前期・選択 2単位・講義
担当者	山内 太郎

### 講義の目的および概要

本講義の目的は大きく二つある。一つは社会的養護が必要な子どもの存在について理解することである。もう一つは保育所以外の児童福祉施設職員として保育士がどのような役割を果たしているのか理解することである。また、こうした取り組みが必要となる社会的背景や家族が置かれた状況についても解説する

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

テキストを中心に進めていくが、必要に応じて配布資料や視聴覚資料を使って内容を補っていく。

また、必要に応じて発言を求めたり、グループ討議を行う場合がある。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

講義の終盤に小レポートを課し、内容に応じて適宜次回の授業の冒頭で回答する。

### 授業計画

1. 現代社会における社会的養護の意義と変遷
2. 子どもの人権擁護と社会的養護
3. 家庭の機能と社会的養護
4. 社会的養護の基本原則 養育 -日常生活支援
5. 社会的養護の基本原則 保護 -自己実現に向けた支援
6. 社会的養護の基本原則 子どもであることへの回復 治療的支援
7. 社会的養護の基本原則 生活文化と生活力の習得 自立支援
8. 社会的養護の基本原則 生命倫理観の醸成 生と性の倫理
9. 社会的養護の制度と実施体系
10. 施設養護の対象・形態・専門職 乳児院と児童養護施設
11. 施設養護の対象・形態・専門職 障害児の入所施設
12. 施設養護の対象・形態・専門職 児童自立支援施設と児童心理治療施設
13. 家庭養護の特徴・対象・形態 里親とファミリーホーム
14. 社会的養護の現状と課題
15. まとめと履修カルテ記入

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

児童福祉施設の機能について理解できるとともに施設保育士として子どもとどのように向き合うべきかを考えることができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「保育者の社会的な使命を自覚し、責任ある行動をとることができる学生」として、社会的養護は社会構造の問題として生じ、保育士が重要な役割を果たしていることを理解する。

### 成績評価基準と方法

定期試験による評価50%

レポート課題20%

毎時間後の小レポート提出30%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

『児童の福祉を支える社会的養護』吉田真理編著 萌文書林

#### 【参考文献】

講義中に適宜提示する。

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

事前学習として該当する箇所についてはテキストを読み込んでおくこと。事後学習として配布された資料等を読み返して、ポイントや重要事項等を復習すること。

#### 【必要な時間】

それぞれ2時間程度が目安である。

### その他

科目名	特別支援教育・保育(基礎)
開講期・単位	1年 後期・選択 1単位・演習
担当者	岡部 祐子

### 講義の目的および概要

特別な支援を必要とする幼児・児童及び生徒が、活動に参加している実感や達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、学習や生活上の困難を知り、個別のニーズに対して連携し組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

講義を基本とし、必要に応じてグループ討議と発表、資料解読、視聴覚教材を用いた学習を行う。積極的な質問、討議参加を期待する。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

授業内試験のほか、毎回、授業のまとめ、疑問点のワークシートを提出する。これらをもとに理解の確認や修正を行う。

### 授業計画

「障がい」とはなにか ICFの概念枠組み  
障がい児・者のライフステージを見通した支援 インクルーシブ教育システムと合理的配慮  
障がい児保育の基本 関わりの基本・現場に求められること  
発達障害の理解と支援  
知的障害の理解と支援  
言語障害の理解と支援  
肢体不自由の理解と支援  
聴覚障害の理解と支援  
視覚障害の理解と支援  
重症心身障害・重複障害の理解と支援  
病弱児の理解と支援  
発達を目指した様々な連携  
小学校との接続  
「特別支援」を必要とする子どもたち  
まとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

1. インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。
2. 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。
3. 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難について基礎的な知識を理解している。
4. 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。
5. 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。
6. 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。
7. 特別支援教育コーディネーター、関係機関や家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。
8. 母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解している。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

1～8についての理解・支援方法の習得が、子どもの安全を守るための適切な配慮ができる学生、子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術を身に付けている学生、子どもの健やかな育ちのために、必要な保護者支援ができる学生となることに貢献する。

### 成績評価基準と方法

中間レポート 30%  
最終テスト 40%  
提出物 30%

### テキスト・参考文献

【テキスト】

小林徹・栗山宣夫編『ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育』みらい  
\*2年次も使用します

【参考文献】

幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説書・幼保連携型認定こども園教育保育要領  
解説（すべてフレール館）/特別支援学校学習指導要領解説自立活動編（文部科学  
省）

**授業外学習**

【具体的な内容】

- ・多くの子どもが辿る発達のみちすじを理解しておくこと。
- ・テキストの指示された箇所や特別な支援を要する当事者やその保護者、支援者らによつて書かれた文献を読んでおくこと。

【必要な時間】

事前・事後1時間以上の予習・復習を要する。

**その他**

科目名	幼児理解
開講期・単位	1年 後期・選択 1単位・演習
担当者	深浦 尚子

### 講義の目的および概要

幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものです。幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる力を身に付けます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

演習形式で行う。グループワークを取り入れる。また、毎回ワークシートに必要な事項を記入、提出を行います。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題は、授業中に行い、提出し、コメントをつけて返却します

### 授業計画

子ども理解の意義と原理  
 保育における子ども理解の意義  
 子ども理解に基づく養護及び教育の一体的展開  
 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり  
 子どもの生活と遊び  
 人的環境としての保育者と子どもの発達  
 集団における経験と育ち  
 保育環境の理解とその構成・変化・移行 中間の振り返りとフィードバック  
 子どもを理解する方法  
 職員間の対話・保護者との情報の共有  
 発達の課題に応じた援助と関わり  
 特別な配慮を要する子どもの理解と援助 1  
 特別な配慮を要する子どもの理解と援助 2  
 発達の連続性と就学への支援  
 まとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

1. 幼児理解の意義と原理・・・幼児理解についての知識を身につけ、考え方や基礎態度を理解する
2. 幼児理解の方法・・・幼児理解の方法を具体的に理解する

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術を身に付けることが卒業認定・学位の授与に必要なことから、その力を身に付ける科目である。

### 成績評価基準と方法

定期テスト40%、成果物（中間の振り返り30%、ワークシート30%）60%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

「子ども理解 個と集団の育ちを支える理論と方法」請川滋大 萌文書林

#### 【参考文献】

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

予習、復習が必要

#### 【必要な時間】

各2時間位

その他

科目名	保育英語
開講期・単位	1年 前期・選択 1単位・演習
担当者	神林 裕子

### 講義の目的および概要

近年、グローバル化社会の中で、外国とのつながりのある保護者や子どもたちが増加している。本講義では、保育士として、子どもや保護者と英語を通してコミュニケーションを図るための基本的な英語表現を身に付ける。また、英語の歌や絵本の読み聞かせ等の活動の学習を通して、積極的に保育活動に英語を取り入れ、英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる基本的な英語表現を身に付ける。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

- ・実際の保育現場を想定した英語表現をペアワークやグループワークを中心に学習する。
- ・英語を使う楽しさを伝えるため、英語の歌やゲーム等の活動活動に取り組むなどの演習をする。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをプリントにまとめて提供する。

### 授業計画

#### オリエンテーション

児童英語に関わる事項、幼保英検について

第2言語習得理論(1)

第2言語習得理論(2)

児童英語のキーワード、英語の歌、保護者や子どもとの会話の関連表現等(Topic 1)

児童英語のキーワード、英語の歌、保護者や子どもとの会話の関連表現等(Topic 2)

児童英語のキーワード、英語の歌、保護者や子どもとの会話の関連表現等(Topic 3)

確認テスト、児童英語のキーワード、英語の絵本、保護者や子どもとの会話の関連表現等(Topic 4)

児童英語のキーワード、英語の絵本、保護者や子どもとの会話の関連表現等(Topic 5)

児童英語のキーワード、英語の絵本、保護者や子どもとの会話の関連表現等(Topic 6)

フィールドワーク(予定)

フィールドワークの振り返り、保護者や子どもとの会話の関連表現等(Topic 7)

児童英語のキーワード、英語のゲーム等、保護者や子どもとの会話の関連表現等(Topic 8)

児童英語のキーワード、英語のゲーム等、保護者や子どもとの会話の関連表現等(Topic 9)

確認テスト、これまでのまとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

- ・保育現場における基本表現を用いて、日常的な会話ができる。
- ・保育者として英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「地域の国際化をふまえ、価値観の多様化を理解し、差別のない多文化共生の態度を身に付けている学生」に基づき、英語の世界の豊かさを英語学習を通して感じ取り、英語を学ぶ楽しさを子どもたちに伝える能力を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

毎回の課題等(30%)

授業への参加状況(30%)

確認テスト(各2回 20%、合計40%)

### テキスト・参考文献

【テキスト】  
『幼保英検3級テキスト』ブックフォレ  
その他、適宜、授業で配布する。

【参考図書】  
『幼保英検2級テキスト』ブックフォレ

### 授業外学習

【具体的な内容】  
・テキストで使用する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。  
・学んだ英語表現等はその日のうちにしっかり覚えましょう。  
・演習等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。  
【必要な時間】  
・予習・復習の時間はそれぞれ1時間を目安とします。

### その他

- ・ Be helpful.
- ・ Be friendly.
- ・ Be active.
- ・ Be creative.
- ・ Be ambitious.

必要に応じて辞書や電子辞書を持参しましょう。

科目名	保育英語
開講期・単位	1年 後期・選択 1単位・演習
担当者	神林 裕子

### 講義の目的および概要

近年、グローバル化社会の中で、外国とのつながりのある保護者や子どもたちが増加している。本講義では、保育英語を踏まえ、保育士として、子どもや保護者と英語を通してコミュニケーションを図るための基本的な英語表現を身に付ける。また、英語の歌や絵本の読み聞かせ等の英語学習における留意点を学び、マイクロティーチングに取り組む。マイクロティーチングを通して、積極的に保育活動に英語を取り入れて英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる基本的な指導力を身に付ける。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

・実際の保育現場を想定した英語表現をペアワークやグループワークを中心に学習する。  
・英語を使う楽しさを伝えるため、英語の歌やゲーム等の活動活動に取り組むなどの演習をする。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをプリントにまとめて提供する。

### 授業計画

#### オリエンテーション

児童英語のキーワード、小学校との連携、幼保英検について

児童英語のキーワード、英語の歌の指導、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 10)

児童英語のキーワード、英語の歌の指導、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 11)

児童英語のキーワード、英語の歌の指導、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 12)

児童英語のキーワード、絵本の読み聞かせ、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 13)

児童英語のキーワード、絵本の読み聞かせ、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 14)

確認テスト、児童英語のキーワード、絵本の読み聞かせ

児童英語のキーワード、英語のゲームの指導、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 15)

児童英語のキーワード、英語のゲームの指導、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 16)

児童英語のキーワード、英語のゲームの指導、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 17)

マイクロティーチングの準備、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 18)

マイクロティーチング 1

マイクロティーチング 2

確認テスト、マイクロティーチング (振り返り)

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

・保育現場における基本表現を用いて、日常的な会話ができる。  
・保育者として英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「地域の国際化をふまえ、価値観の多様化を理解し、差別のない多文化共生の態度を身に付けている学生」に基づき、英語の世界の豊かさを英語学習を通して感じ取り、英語を学ぶ楽しさを子どもたちに伝える能力を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

毎回の課題等及び授業への参加状況 (30%)

確認テスト (各2回 20%、合計40%)

マイクロティーチング (20%)

### テキスト・参考文献

**【テキスト】**

『幼保英検3級テキスト』ブックフォレ  
その他、適宜、授業で配布する。

**【参考図書】**

『幼保英検2級テキスト』ブックフォレ

**授業外学習**

**【具体的な内容】**

- ・テキストで使用する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。
- ・学んだ英語表現等はその日のうちにしっかり覚えましょう。
- ・演習等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。

**【必要な時間】**

- ・予習・復習の時間はそれぞれ1時間を目安とします。

**その他**

- ・ Be helpful.
- ・ Be friendly.
- ・ Be active.
- ・ Be creative.
- ・ Be ambitious.

必要に応じて辞書や電子辞書を持参しましょう。

幼保英検などの検定試験に積極的に取り組みましょう。

科目名	海外研修(事前・事後指導を含む)
開講期・単位	1年 後期・選択 2単位・演習
担当者	神林 裕子

### 講義の目的および概要

国際的視野をもつ保育者を育成するために、海外研修をオーストラリアのサザンクロス大学 (Southern Cross University) において行う (予定)。この研修の目的は、グローバルな視点で保育に係る様々な事象を捉えて思考すること、サザンクロス大学の英語教師等との交流を通して英語でのコミュニケーションの幅を広げること、ホームステイで異文化コミュニケーション能力と自立心を養うことなどである。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

海外での大学での講義、ホームステイに向けた基礎知識の習得や日常会話等の演習を通して、自分自身の研究課題を設定し、研修後には研究課題の発表をする。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、研究課題については研究発表の際にフィードバックをする。

### 授業計画

#### オリエンテーション

海外での大学での講義、ホームステイに向けた基礎知識の習得や日常会話等の演習  
海外での大学での講義、ホームステイに向けた基礎知識の習得や日常会話等の演習  
、研究課題の設定  
海外での大学での講義、ホームステイに向けた基礎知識の習得や日常会話等の演習  
、研究課題の設定  
海外での大学での講義、ホームステイ  
海外での大学での講義、ホームステイ  
海外での大学での講義、ホームステイ  
海外での大学での講義、ホームステイ  
海外での大学での講義、ホームステイ  
海外での大学での講義、ホームステイ  
海外での大学での講義、ホームステイ  
海外での大学での講義、ホームステイ  
海外での大学での講義、ホームステイ  
研究課題のまとめ  
研究課題のまとめ  
研究課題の発表

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

サザンクロス大学の英語教師等、ホームステイ先のホストファミリーとの交流を通して、自分自分を見つめ直すとともに、他者理解を深めながら、英語でコミュニケーションを図ることができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「共感的な感性と知性に支えられた、人間性豊かな保育者を育成する」に基づき、外国の多様な文化や生活習慣、価値観を尊重するとともに、異文化におけるコミュニケーション能力を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

- ・海外での大学における取組 60%
- ・帰国前後の研究課題への取組 40%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

適宜、配付する。

#### 【参考文献】

『改訂版 英語で日本紹介ハンドブック』松本 美江 (著)、アルク

### 授業外学習

【具体的な内容】

- ・海外での大学での講義、ホームステイ先での場面や状況を想定し、円滑なコミュニケーションを図ることができるよう英語表現を習得しましょう。
- ・日本、北海道、札幌、自分自身等について、英語で紹介できるようまとめておきましょう。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間はそれぞれ1時間を目安とします。

**その他**

科目名	プレゼンテーション演習
開講期・単位	2年 前期・選択 1単位・演習
担当者	小林 純、石田 麻英子

### 講義の目的および概要

人前で自らの意見を述べ、相手に伝える・説得する...プレゼンテーションは、現代社会では必要不可欠なスキルといえます。ビジネスの場だけでなく、授業内や日常生活においても、相手に「伝える」場面は多々あるものです。本科目では、人前で発表するという慣れのため、数回に渡りプレゼンテーションを実演します。また、他科目の授業でも技術が応用できるよう、意識して授業を進めます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

理論的な講義解説と、演習（プレゼンテーション）を組み合わせ、プレゼンテーションに必要なスキルを身につけていきます。

特に、この授業ではコンピュータを使わずに発表することを目的として、人前で話すことに慣れてもらい、また資料を効果的に用いて表現することを学びます。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

学生相互によるパフォーマンス評価、また授業内で全員に共通する要素をフィードバックするとともに、個別に添削、及びコメント評価を行います。

### 授業計画

以下のような流れで授業を展開する予定ですが、進度により内容を調整することもあります。

ガイダンス：プレゼンテーションとは何か  
 実習：自己紹介プレゼンテーション  
 発想の仕方：KJ法やブレインストーミング  
 実習：短時間スピーチによるプレゼンテーション  
 実習：プレゼンテーションの実施  
 振り返り：スピーチの振り返りと、口頭表現で伝える技術  
 視覚資料：なぜプレゼンテーションには視覚資料が有効なのか  
 構成：より効果的なプレゼンテーションを行うには  
 表現の仕方：数字、色、図表...  
 実習：フリップを使用したプレゼンテーション  
 説明するということが：相手に物事を伝えるとは  
 準備：情報収集とポスターの作成  
 演習：リハーサル的重要性  
 実習：ポスターセッションでのプレゼンテーション  
 まとめ：ここまで学んだことを振り返ってみよう

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

プレゼンテーションを理解し、必要な技術を身につける。  
 ストーリーを論理的に組み立て、相手を説得するための資料を作成できる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術」「保育者に求められる態度・姿勢と、社会人に必要な教養」に関連しています。

### 成績評価基準と方法

発表の様子・技術 40%  
 発表内容 40%（視覚資料・原稿など）  
 授業内における提出物 20%

以上の成績評価基準をベースとして、各演習・発表毎に配点します。

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

「30時間でマスター プレゼンテーション + PowerPoint2019」  
 編：実教出版企画開発部 実教出版  
 その他、適宜プリント等を配布します。

#### 【参考文献】

### 授業外学習

プレゼンテーション実習に関する準備活動(資料の作成・練習)に、少なくとも2時間程度の準備が必要となると考えられます。特にプレゼンテーションの完成度は、リハーサル・練習の回数によって大きく変化します。授業時間内では時間を取ることが難しいので、発表前に個々で準備をしてください。

また、プレゼンテーション後の提出物の作成などでは、1時間程度が目安となります。

### その他

毎回の授業の資料をまとめ復習し、次の回に役立ててください。次回の授業までに課せられた、または自ら設定した課題を予習として達成しておくようにしてください。多く出版されている、プレゼンテーションに関する書籍は、授業の理解を助けます。

科目名	教育課程総論
開講期・単位	2年 後期・選択 2単位・講義
担当者	野崎 剛毅

### 講義の目的および概要

学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

講義形式を中心に、適宜グループワークをおこなう。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

講義中提示された質問等については、講義内で回答し、問題意識の共有を図る。授業内課題についても、返却の際に解説を加える。

### 授業計画

教育課程とは何か 幼稚園教育要領  
 教育課程とは何か 教育課程の役割と機能  
 幼稚園教育要領の歴史 保育要領  
 幼稚園教育要領の歴史 幼稚園教育要領の制定  
 幼稚園教育要領の歴史 保育所保育指針との分離  
 幼稚園教育要領の歴史 教科化と五領域  
 幼稚園教育要領の歴史 2008年の改訂  
 幼稚園教育要領の歴史 2018年改訂版の特徴（小レポート）  
 幼稚園教育要領と幼保連携型認定こども園教育・保育要領（小レポート）  
 教育課程編成 基本的な考え方（グループワーク）  
 教育課程編成 地域・幼稚園の特色を活かした教育課程（グループワーク）  
 特色ある教育課程 レジヨ・エミリア・アプローチとシュタイナー教育  
 特色ある教育課程 テ・ファリキとドイツの教育課程改革  
 カリキュラム・マネジメントと評価（グループワーク）  
 総まとめ 幼稚園教育要領と教育課程（小レポート）、履修カルテの記入

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解している。

学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解している。

教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解している。

教育課程編成の基本原則を理解している。

教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。

単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また幼児、児童又は生徒や学校、地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解している。

学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。

カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

教育課程に関して学ぶことで、「子どもの安全を守るための適切な配慮」について理解を深め、「子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術」を身につける。

### 成績評価基準と方法

小レポート・グループワーク提出物...50%

定期試験...50%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

『幼稚園教育要領解説』：毎回持参すること

『保育所保育指針解説』

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

#### 【参考文献】

無藤隆他『ここがポイント! 3法令ガイドブック』フレーベル館

### 授業外学習

**【具体的な内容】**

2回目以降は次回の予告をするため、『幼稚園教育要領解説』等の該当する箇所を読んでおくこと。  
新聞、ニュースなどを日頃からみて、社会でどのようなことが問題とされているのかを把握しておくこと。  
実習経験を思い返し、実習園の教育課程について考えておくこと。

**【必要な時間】**

復習に重きを置く。1時間程度の予習と3時間程度の復習を必要とする。

**その他**

科目名	教育経営
開講期・単位	2年 後期・選択 2単位・講義
担当者	丸谷 雄輔

### 講義の目的および概要

本講義の目的は、現代社会の中で求められる幼児教育の意義や幼稚園、保育所、認定こども園の在り方について理解を深めると共に、社会情勢の変化等に伴い、地域に根差した幅広い保育実践の在り方が求められる保育現場の現状と課題を把握し、幼児教育の実践について幅広い観点から学びことを目指します。また、教職員の研修や自己研鑽と保育者の人間性や専門性の向上についても理解を深め、園の運営やクラス経営をどのように対応したらよいかについても考察していきます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

基本的に講義形式で行いますが、毎回振り返りシートを記入し、講義内容の振り返りを行っていきます。また、必要に応じてグループワークやディスカッションなどを取り入れるなど、能動的な学修を目指します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説します。

### 授業計画

保育の仕事を考える  
 新しい時代に求められる幼児教育（1）  
 新しい時代に求められる幼児教育（2）  
 遊びを中心とした保育実践  
 子どもの育ちを支えるデイリープログラム  
 教育課程と指導計画  
 保育の振り返りと記録  
 保育環境の重要性  
 保育実践を学ぶ（1）  
 学びを深める園内研修  
 保育実践を学ぶ（2）  
 保育実践を支える家庭との連携  
 地域と繋がる保育実践  
 子どもの育ちを繋げる幼小の接続  
 保育者としてのキャリアアップ（授業のまとめと振り返り）

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

保育者としての専門性について関心を持ち、幼児教育の本質全般「保育の営み」「遊びの本質」「保育者の役割」等々について説明できる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

### 成績評価基準と方法

毎回の提出物（振り返りシート）：80%  
 課題：20%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

なし

#### 【参考文献】

『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

今回の授業範囲について自分なりの観点で予習し、他の授業との関連事項等についても把握し、予習ノートにまとめてください。また、授業後には授業内容を振り返り、ポイントや重要事項を復習ノートにまとめてください。予習・復習の時間はそれぞれ1時間程度を目安とします。

### その他

授業中に随時指名して発言を求める場合もあるので、思考力を働かせながら、自分なりの考えを積極的に発言するよう心掛けてください。

科目名	教育相談(カウンセリングを含む)[幼教]
開講期・単位	2年 前期・選択 1単位・演習
担当者	小林 久美子

### 講義の目的および概要

教育相談は、幼児児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動です。幼児児童生徒の発達状況に即しつつ個々の心理的特質や教育的課題を適切にとらえ、支援するために必要な基礎的知識を身に付けることを目的とします。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

講義とグループワークです。振り返りシートやディスカッションなどで能動的な学修を目指します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説します。

### 授業計画

教育相談の意味と意義及び課題についての理解  
 教育相談に生かせる心理学の基礎理論と概念の理解  
 幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動の意味とその兆候を捉える視点  
 受容、傾聴、共感的理解等のカウンセリングの基礎的理解  
 職種や公務分掌に配慮した教育相談の計画作成と対象の状況に応じた目標設定と相談の進め方の基本を理解する  
 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解する  
 学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性の理解と授業内試験1  
 試験1の解説と、学校課題1 いじめに関する理解と発達段階に応じた教育相談の実際の進め方  
 学校課題2 不登校・不登園に関する理解と発達段階に応じた教育相談の実際の進め方  
 学校課題3 非行・学級崩壊に関する理解と発達段階に応じた教育相談の実際の進め方  
 学校課題4 虐待に関する理解と発達段階に応じた教育相談の実際の進め方  
 学校課題5 学級の雰囲気把握と、その状況に応じた教育相談の計画の作成や校内体制の整備  
 学校課題6 発達障害のある子どもの状況に応じた教育相談の計画の作成や校内体制の整備  
 教育相談における組織的取り組みの必要性と授業内試験2  
 試験2の解説と、ここまでの授業から効果的な教育相談を進めるために自分自身に必要な自己課題について論拠を示しながら考察する。

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

授業の各回のテーマについて理解し、説明できる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立して生きていくための専門知識、技能を身に付けている学生に学位を授与する」に基づき、教育相談の意義・理論や技法に関する知識を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

試験1(40%) 試験2(40%) レポート・ノート点検・口頭試問(20%)

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

適宜プリントを配布します。

#### 【参考文献】

幼稚園教育要領(平成29年告示)  
 文部科学省生徒指導提要(平成22年3月)

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

平日頃からニュース・新聞などで、子どもの育ちについて考えるように心がけてください。

#### 【必要な時間】

事前・事後30分以上の予習・復習を要する。

### その他

授業中に随時発言を求めることもあるので、しっかりと学習したうえで授業に参加してください。

科目名	教師論[幼教]
開講期・単位	2年 後期・選択 2単位・講義
担当者	野崎 剛毅

### 講義の目的および概要

現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割、教員の資質能力及び職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

講義形式で、てきぎグループワークをおこなう。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

講義内で出された質問や課題には、講義内で紹介して課題意識の共有をはかるとともに解説を加える。

### 授業計画

ガイダンス：幼稚園教諭の特殊性と存在意義

公教育・幼稚園教育の目的（小レポート）

幼稚園保姆・教諭の誕生と展開

幼稚園教諭をめぐる現代的特性 少子化概観

幼稚園教諭をめぐる現代的特性 少子化と学校教育（小レポート）

幼稚園教諭をめぐる現代的特性 子どもの貧困概観

幼稚園教諭をめぐる現代的特性 子どもの貧困と教育（小レポート）

幼稚園教諭をめぐる現代的特性 幼児教育の今日的課題（小レポート）

幼稚園教諭の一日、一月、一学期、一年

幼稚園教諭の職務と研修（小レポート）

地域社会と教育 チーム学校

地域社会と教育 保護者支援

地域社会と教育 早期教育

地域社会と教育 地域の特色を活かした教育（小レポート）

総まとめ 幼稚園教諭の今日的意義（小レポート）、履修カルテの記入

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解している。  
進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解している。  
教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を理解している。  
今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解している。  
幼児、児童及び生徒への指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像を理解している。  
教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。  
教員に課せられる服務上・身分上の義務並びに身分保障を理解している。  
多様な専門性を持つ人材と効果的に連携し、分担し、教員とこれらの者がチームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

幼児教育をめぐる多様な課題を学ぶことで、「保育者の社会的な使命」の自覚を促し、「保育者に求められる態度・姿勢」について深める。

### 成績評価基準と方法

小レポート...60%

定期試験...40%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

指定しない。

#### 【参考文献】

『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）

『最新保育資料集2021』（子どもと保育総合研究所、ミネルヴァ書房）

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

新聞、ニュースをみて、幼児教育・保育に関する今日的課題について把握しておくこと。

#### 【必要な時間】

事前学習1時間、事後学習3時間を必要とする。

その他

科目名	健康とスポーツ [幼教]
開講期・単位	2年 前期・選択 1単位・演習
担当者	林 二士、石川 みゆき、長屋 純市

### 講義の目的および概要

スポーツを通して身体を動かす楽しさや大切さを学び、また現代社会における様々な健康問題について認識し、自らの健康に関心を持つことの重要性を理解する。さらに実技を通して積極性、協調性などを養い保育者としての資質の向上を目指す。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

- ・3名の教員によるオムニバス形式で理論を交えて実技を行う。
- ・3つのグループに分かれてローテーションで行う。
- ・実技種目(担当教員)は、バレーボール(石川)・バスケット(長屋)、バドミントン(林)。
- ・講義の内容に応じてグループワークを取り入れ、主体的・協働的な学修を目指す。
- ・第一体育館、第二体育館、アリーナで行う。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

- ・課題の解説、学生からの疑問等は講義内で対応する。

### 授業計画

1. 種目A ガイダンス 履修方法の説明 担当教員の紹介 種目の特徴とルール
2. 種目A 基本技術 個人技術の習得
3. 種目A 基本技術 コンビ・チームプレイ
4. 種目A 応用技術 試合のルールの理解と審判
5. 種目A 応用技術 試合 習得した技術を実践する
6. 種目B 種目の特徴とルール
7. 種目B 基本技術 個人技術の習得
8. 種目B 基本技術 コンビ・チームプレイ
9. 種目B 応用技術 試合 ルールの理解と審判
10. 種目B 応用技術 試合 習得した技術を実践する
11. 種目C 種目の特徴とルール
12. 種目C 基本技術 個人技術の習得
13. 種目C 基本技術 コンビ・チームプレイ
14. 種目C 応用技術 試合 ルールの理解と審判
15. 種目C 応用技術 試合 習得した技術を実践する

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

- ・身体を動かす楽しさや大切さを学び、自発的に運動を実践できるようになる。
- ・実技を通して体力の維持向上や、自らの健康の保持増進を図る。
- ・チームプレイを通して、積極性や協調性を養い、保育者としての資質を高める。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- ・チームプレイやグループワークなどの主体的・協働的な集団活動を通して、保育者に求められる態度や姿勢、責任ある行動を学ぶ。

### 成績評価基準と方法

- ・授業への参加意欲、態度、積極性、準備・片付け、マナー(40%)
- ・各種目の基礎技能の個人的到達度(35%)
- ・レポート課題(25%)

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

- ・適宜資料を配布する。

#### 【参考文献】

- ・適宜資料を配布する。

### 授業外学習

#### 【事前学習】(2時間)

- ・自らの健康づくりに興味を持ち、日常生活の中で体を動かすことを心がける。
- ・様々なスポーツに興味を持ち「スポーツをする・観る・応援する」を意識する。

#### 【事後学習】(2時間)

- ・授業を振り返り、動きや技術の課題について自分の意見や考えを明確にし、次の授業に向けて、解決策や練習方法を調べておく。

### その他

- ・運動に適した服装(運動着、運動靴)や準備(タオル、水分、気持ち)をする。
- ・運動に不適切な服装や格好の場合は見学となることがある。
- ・その他の注意事項は1回目のガイダンスで説明する。

科目名	健康とスポーツ [幼教]
開講期・単位	2年 後期・選択 1単位・演習
担当者	林 二士、石川 みゆき、長屋 純市

### 講義の目的および概要

スポーツを通して身体を動かす楽しさや大切さを学び、また高齢化が進む現代社会における様々な健康阻害要因について認識し、青年期から健康に関心を持つことの重要性を理解する。さらに各スポーツの技能・戦術・審判法についても学習する。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

- ・3名の教員によるオムニバス形式で理論を交えて実技を行う。
- ・3つのグループに分かれてローテーションで行う。
- ・実技種目(担当教員)はバレーボール(石川)・バスケット(長屋)・卓球(林)
- ・講義の内容に応じてグループワークを取り入れ、主体的・協働的な学修を目指す。
- ・第一体育館、第二体育館、アリーナで行う。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

- ・課題の解説、学生からの疑問等は講義内で対応する。

### 授業計画

1. 種目A	ガイダンス	種目の特徴と基礎技術	個人技術
2. 種目A	種目の特徴と基礎技術	コンビ・チームプレイ	
3. 種目A	種目のルールと基礎技術	ルールの理解	
4. 種目A	応用技能と審判法	審判(ルールを活かす)	
5. 種目A	応用技能とゲーム	試合(技能を活かす)	
6. 種目B	種目の特徴と基礎技術	個人技術	
7. 種目B	種目の特徴と基礎技術	コンビ・チームプレイ	
8. 種目B	種目のルールと基礎技術	ルールの理解	
9. 種目B	応用技能と審判法	審判(ルールを活かす)	
10. 種目B	応用技能とゲーム	試合(技能を活かす)	
11. 種目C	種目の特徴と基礎技術	個人技術	
12. 種目C	種目の特徴と基礎技術	コンビ・チームプレイ	
13. 種目C	種目のルールと基礎技術	ルールの理解	
14. 種目C	応用技能と審判法	審判(ルールを活かす)	
15. 種目C	応用技能とゲーム	試合(技能を活かす)	

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

- ・身体を動かす楽しさや大切さを学び、自発的に運動を実践できるようになる。
- ・実技を通して体力の維持向上や、自らの健康の保持増進を図る。
- ・チームプレイを通して、積極性や協調性を養い、保育者としての資質を高める。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- ・チームプレイやグループワークなどの主体的・協働的な集団活動を通して、保育者に求められる態度や姿勢、責任ある行動を学ぶ。

### 成績評価基準と方法

- ・授業への参加意欲、態度、積極性、準備・片付け、マナー(40%)
- ・各種目の基礎技能の個人的到達度(35%)
- ・課題レポート提出(25%)

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

- ・適宜資料を配布する。

#### 【参考文献】

- ・適宜資料を配布する。

### 授業外学習

#### 【事前学習】(2時間)

- ・自らの健康づくりに興味を持ち、日常生活の中で体を動かすことを心がける。
- ・様々なスポーツに興味を持ち「スポーツをする・観る・応援する」を意識する。

#### 【事後学習】(2時間)

- ・授業を振り返り、動きや技術の課題について自分の意見や考えを明確にし、次の授業に向けて、解決策や練習方法を調べておく。

### その他

- ・運動に適した服装(運動着、運動靴)や準備(タオル、水分、気持ち)をする。
- ・運動に不適切な服装や格好の場合は見学となることがある。
- ・その他の注意事項は1回目のガイダンスで説明する。

科目名	現代社会論
開講期・単位	2年 後期・選択 2単位・講義
担当者	山内 太郎、野崎 剛毅

### 講義の目的および概要

本講は今日的な課題についての文献を読み込んでいくことで、現代社会の様々な課題について理解し、また読解力や広く教養を身につけていくことを目的とする。

講義はオムニバスのゼミ形式でおこなう。

担当教員の専門に合わせ、教育分野（野崎）と福祉分野（山内）から受講者で文献を選び、全員で議論をしながら読みすすめていく。受講者はそれぞれの分野で必ず1回以上、レジュメを作成し発表する。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

少人数によるゼミ形式でおこなう。

課題図書について受講者で読み合わせをし、また担当者がレジュメを作り報告をする。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

講義中に出てきた質問や提出された課題については、講義中にてきざり取り上げ、解説を加える。

### 授業計画

ガイダンス：テキストの紹介、検討、決定

教育関連の文献講読1

教育関連の文献講読2

教育関連の文献講読3

教育関連の文献講読4

教育関連の文献講読5

教育関連の文献講読6

小括

福祉関連の文献講読1

福祉関連の文献講読2

福祉関連の文献講読3

福祉関連の文献講読4

福祉関連の文献講読5

福祉関連の文献講読6

まとめレポート・履修カルテの記入

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

現代社会で課題とされていることについて理解を深める。

専門書を読み込める読解力を身につける。

他者の考えをきき、批判し、自分の意見に取り込むことでこれまでよりも広い知見を身につける。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

本講は専門知識と関わりつつも、広く教養と批判力を身につけることを目的とする。

短期大学部ディプロマポリシーの「真理を探求し」「自らを省みる姿勢」を身に付けること、「一般教養に関する広い教養を身に付け」ることと関わる。

### 成績評価基準と方法

担当回の報告：50%

小括、まとめレポート：50%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

受講者と担当教員で協議し、決定する。

新書、ブックレット等を使用する。

#### 【参考文献】

講義内で適宜紹介する。

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

テキストには事前に必ず目を通しておくこと。

また、担当回ではレジュメを作成し、わからない語句等は必ず調べておくこと。

#### 【必要な時間】

3時間程度の事前学習、1時間程度の事後学習を必要とする。

## その他

講義開始後に、受講者で選んだテキストを2冊（教育関連、福祉関連）、購入する必要がある。

科目名	社会福祉
開講期・単位	2年 後期・選択 2単位・講義
担当者	山内 太郎

### 講義の目的および概要

本講義は、自分や家族の生活にはあまり関係がないと思っていた社会福祉の話が、実は普通の生活やこれからの人生に大きくかかわっていることを理解し、そのうえで保護者支援にかかわる専門職として本講義で学んだ知識を活かすことができるようになることを目的とする。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

テキストを用いて講義形式で行うことを基本とするが、必要に応じて視聴覚資料も利用する。講義中に発言を求めたり、グループ討議、小レポートの提出を行う場合もある。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

講義終盤に行う小レポートに対し、内容に応じて次回に回答する。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. 子どもと家族の福祉 妊娠、出産にかかわる制度
3. 子どもと家族の福祉 児童虐待の発生
4. 社会保障 保育士として就職した時に重要な制度
5. 社会保障 老後の暮らし方はどうすればよい？
6. 障がい児・者福祉 障がい児の子どもの担任になる
7. 女性として生きる DVとその対策
8. 地域福祉 職場の中心(中堅保育士)として
9. ソーシャルワーク 保護者支援について考える
10. 女性として生きる 産休・育休
11. 低所得者の福祉 実父がリストラに
12. 低所得者の福祉 子どもの貧困という視座
13. 低所得者の福祉 見えにくい女性の貧困
14. 高齢者福祉 介護の経験と穏やかな老後
15. まとめと履修カルテの記入

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

社会福祉の基本的な法制度を理解し、子育て支援の専門職として社会福祉の問題をとらえることができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「保育者に求められる態度・姿勢と、社会人に必要な教養を身につけている学生」として、保育にかかわる問題を社会全体の中に位置づけて考える力を身につける。

### 成績評価基準と方法

授業内試験 50%  
レポート課題 20%  
毎時間後の小レポート 30%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

『図解で学ぶ保育 社会福祉』直島正樹・原田旬哉編著 萌文書林

#### 【参考文献】

講義中に適宜提示する。

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

授業前に関連する内容について書籍や新聞、インターネット等で調べ学習をしておくこと。また、講義終了後、配布された資料等を見直して、振り返りのポイントや重要事項を復習すること。

#### 【必要な時間】

それぞれ2時間ずつが目安となる。

### その他

NHK番組「ハートネットTV」は社会福祉にかかわる良質な情報を提供しているので視聴して授業に臨むと理解が進む。

科目名	保育内容(環境)[幼教]
開講期・単位	2年 前期・必修 1単位・演習
担当者	小川 久恵、深浦 尚子

### 講義の目的および概要

幼稚園教育要領や保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容「環境」のねらい及び内容について学び、乳幼児期における「環境を通して行う教育・保育」の意義を理解する。また乳幼児を取り巻く「環境」に関わる具体的な指導場面を想定し、保育を構想し実践する力を身に付けることを目的とする。学生自らが身近な自然・社会環境について興味・関心を持ち、それらを保育の環境づくりに活用できることを目指し、要領・指針の確認や実践事例の紹介、体験活動などを取り入れながら講義をすすめる。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

・専門事項については講義形式、その他演習、グループワーク、指導実践、環境づくりの体験などを行う。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

・課題の解説、学生からの疑問等は講義内で対応する。

### 授業計画

1. オリエンテーション「環境」とは
2. 教育・保育における「環境」・子どもの育ちと領域「環境」
3. 乳児、1～2歳児の世界と環境
4. ものや道具に関わって遊ぶ(演習)
5. ものや道具に関わって遊ぶ(まとめ)
6. 自然に親しみ、植物や生き物に触れる(演習)
7. 自然に親しみ、植物や生き物に触れる(まとめ)
8. 文字や標識、数量や図形に関心を持つ(演習)
9. 文字や標識、数量や図形に関心を持つ(まとめ)
10. 遊びや生活の情報に興味をもち、地域に親しむ(生活体験・異年齢の交流・テレビ・文化や習慣・国際理解)
11. 環境構成案づくりの実践事例
12. 環境構成案づくり(個人案作成)
13. 環境構成案づくり(グループ案作成・グループワーク)
14. 環境構成案づくり(準備・作成・グループワーク)
15. 環境構成案づくりの発表と反省・考察
16. 現代の保育の課題と領域「環境」

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

・領域「環境」のねらい及び内容について理解する。  
 ・乳幼児期における「環境を通して行う教育・保育」の意義を理解し説明できる。  
 ・乳幼児の身近な環境に関わる具体的な指導場面を想定し、保育を構想し実践できる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

・乳幼児期における「環境を通して行う教育・保育」の意義を理解し、それに関わる具体的な指導場面を想定し実践を行うことで「子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術」を学ぶことができる。

### 成績評価基準と方法

- ・小テスト・筆記試験(40%)
- ・グループワークや模擬保育の貢献度(30%)
- ・授業毎の課題レポート・提出物(30%)

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

『事例で学ぶ保育内容 領域環境』 無籐隆監修 萌文書林  
 『体験する 調べる 考える 領域「環境」』 田宮縁著 萌文書林

#### 【参考文献】

幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

### 授業外学習

#### 【事前学習】(1時間)

・次回の授業内容を確認し、専門事項であればテキストを参考に自分の考えや疑問をまとめ、指導実践であればそのアイデアを考えておく。

#### 【事後学習】(1時間)

・授業後はテキストや配布資料を振り返り、学習の内容をまとめ整理しておくこと。  
 ・指導実践後は、自他の指導内容を振り返り考察する。

## その他

日ごろから身近な自然・社会環境について興味・関心を持ち、それについて自分は「  
どう思うか」「どう考えるか」など意見を持つ習慣をつけましょう。

科目名	保育内容(言葉)[幼教]
開講期・単位	2年 前期・必修 1単位・演習
担当者	東谷 一彦

### 講義の目的および概要

幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

テキストやプリントなどを用いて、理論的な説明を中心に基礎知識を深めるための講義を行い、適宜小テストを実施する。また、指導場面などを想定した演習（グループワーク等）を取り入れたり、DVDを視聴して知識を広げたりしながら進めることとする。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、資料を配付する。

### 授業計画

オリエンテーション、幼稚園教育要領における領域「言葉」  
 保育所保育指針における領域「言葉」  
 領域「言葉」と他の領域との関係  
 ことばの発達1「ことばの発達をめぐって」  
 ことばの発達2「初語のころまで」(1)  
 ことばの発達3「初語のころまで」(2)  
 ことばの発達4「幼児期前期」(1)  
 ことばの発達5「幼児期前期」(2)  
 ことばの発達6「幼児期前期」(3)  
 ことばの発達7「幼児期後期」(1)  
 ことばの発達8「幼児期後期」(2)  
 ことばの発達9「ことばの発達の背景」  
 特別な配慮が必要な子どもとの関わり(1)  
 特別な配慮が必要な子どもとの関わり(2)  
 保育の基本と領域「言葉」・まとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

乳幼児の言葉の発達について理解し、整理できること。また、ことばの重要性を踏まえ、その指導と援助について具体的に方法を考えることができること。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術を身に付けている」というDPに基づき、保育者としての自立を促す。

### 成績評価基準と方法

提出物の評価（40％）  
 小テストの評価（40％）  
 振り返りシートの評価（20％）

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

「保育内容・言葉」（太田光洋編著 同文書院）

#### 【参考文献】

幼稚園教育要領（H29）、保育所保育指針（H29）

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

毎時の学習内容に関して事前にテキストを読み込んでおくこと。また、授業内容についての振り返りを確実に行うことが必要である。

#### 【必要な時間】

予習・復習として、それぞれ1時間程度を最低限の目安とする。

### その他

授業での配布物等を保管するためのファイル（A4版）を用意しておくこと。

科目名	北海道論[幼教]
開講期・単位	2年 前期・選択 2単位・講義
担当者	遊佐 順和

### 講義の目的および概要

本講義では、北海道の自然、歴史、産業を中心に人口動態や経済事情に関する基本的な統計数値なども学び、北海道の現状を理解することを目的にしている。さらに、道内の主な都市について、それぞれの「まち」に見られる現在の状況を把握し、外から見た北海道の魅力や地域が抱える課題などについても理解を深めていきます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

授業は配布するプリントを中心に講義形式で行う。北海道に関する全体的な学習内容を終えた時点で、グループワークによる協働作業を行ない、基本的知識を体系的に整理し、北海道の魅力を発信するためのプレゼンテーションを実施します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、参考資料等を適宜指示・配布します。

### 授業計画

授業は、概ね以下のとおり実施します。

オリエンテーション  
 北海道の基本統計  
 北海道の自然  
 北海道の歴史・文化  
 北海道の農林畜産業  
 北海道の水産業  
 北海道の都市（旭川）  
 北海道の都市（釧路）  
 北海道の都市（帯広）  
 北海道の都市（函館）  
 北海道の都市（札幌）  
 グループワーク（ディスカッション）  
 グループワーク（調査内容のまとめ）  
 グループワーク（プレゼンテーション）  
 まとめと振り返り

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

<知識・理解> 北海道に関する基本的統計、基礎知識を身につけ、北海道内の地域に対する関心や、地域貢献の意識を持てるようになる。

<技能・表現> 北海道の魅力や問題点等を発見・把握し、第三者に対して調べた内容を整理して発信できる資質を身につける。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力および課題を発見し解決する能力を身に付け北海道に貢献できる学生」に基づき、地域の現状と今後の課題を認識でき、北海道に対して貢献できる能力を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

定期試験	50%
プレゼンテーション	30%
授業内課題	20%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

適宜、資料などを提示・配布します。

### 授業外学習

**【具体的な内容】**

毎回授業で取り扱う内容に関し、地図帳や新聞記事、雑誌、書籍、テレビなどから関連事項に積極的に触れ、予備知識をつけて臨むこと。授業後はしっかりと復習を行い、さらに自ら関連する内容を深く調べ、それらの内容もノートなどに整理しておくこと。

**【必要な時間】**

1 - 2時間の時間が必要です。

**その他**

この科目で養うDPに関する能力：

科目名	保育臨床
開講期・単位	2年 前期・選択 1単位・演習
担当者	深浦 尚子

### 講義の目的および概要

保育の場で起きる様々な出来事、子どもの問題行動、保育者との絆、保護者との関係などの事例を、心理臨床的な観点等を応用して読み解きます。その中で、子どもと大人の精神保健（メンタルヘルス）の側面、心の拠り所としての保育者の援助的役割について考察し、臨床的なセンスと保護者への対応について学びます

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

演習方式で行います。事例や実際の認定こども園での観察から検討します。グループワーク、ディスカッションなどを通して理解を深めます。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題は、授業中に行い、コメントを付けて返却します。

### 授業計画

子どもと大人の精神保健（メンタルヘルス）の基礎知識（1）  
 精神保健の基礎知識（2） 保育の現場で気になる子  
 園生活の治療的意味とカウンセリングマインド 保育者の援助的役割  
 子育ての歪みを受けとめる（1） 母子分離不安、過剰な期待と抑圧  
 子育ての歪みを受けとめる（2） 子育ての悩みと拒否感、子どものいざこざと親  
 のSOS  
 子どもの関係の歪みを読みとめる（1） いじめが発生する集団の状況  
 歪みを読みとめる（2） いじめの構造、保育者がこうしていたら  
 歪みを読みとめる（3） 登園拒否の発生するクラス  
 言葉につまづく集団状況、選択性緘黙  
 発達診断と発達援助（1）  
 発達診断と発達援助（2）  
 発達の問題をもつ子どもと家庭の支援  
 幼稚園での観察－気になる子の観察  
 幼稚園での観察－保育の実際  
 まとめのレポートと解説

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

事例を読み解く中で、保育実践の中のカウンセリングマインド、保育者の援助的役割、臨床的なセンスへの理解を深め、現場で遭遇する問題、保護者との関係に対応する力を身につける。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

幼児教育保育学科のディプロマ「子ども達の安全を守る適切な配慮」「子どもの健やかな育ちのために、必要な保護者支援ができる」保育者の社会的な使命を自覚し、責任ある行動をとることができる」「保育者に求められる態度・姿勢と、社会人に必要な教養」に基づき、自立した保育者として現場の問題に対応できる力を身に付けることを目標とします。

### 成績評価基準と方法

まとめのレポート50%、振り返りシート50%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

適宜プリントを配布します。

#### 【参考文献】

新聞などで、幼児に関する記事を探して読む。授業後は、レジュメを復習し理解を深める

### 授業外学習

【具体的な内容】  
予習、復習が必要です。

【必要な時間】  
それぞれ2時間くらいです。

**その他**

科目名	保育内容(表現)[幼教]
開講期・単位	2年 前期・必修 1単位・演習
担当者	朝地 信介、河本 洋一

### 講義の目的および概要

幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

幼稚園教育要領や保育所保育指針における「表現」の位置付けを理解します。

「表現」の構成要素を理解し、指導案を理解する力を身につけます。

子どもの表現力を伸ばすための技術や教材を作成する力を身につけます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

「保育者としての自分」という観点を毎回の授業の中に採り入れ、オムニバス形式で講義と演習をバランスよく取り入れながら、学生が自ら目標を立てて活動することを基本とします。なお、各回の講義方法と担当者については授業計画に別掲します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

模擬保育などの演習については、口頭による助言また、提出物に関してはコメントを付けるなどのフィードバックをおこないます。

### 授業計画

オリエンテーション：保育内容（表現）という科目の目指すものを理解し、授業の受け方を確かめます。（河本・朝地）[講義]

幼稚園教育要領や保育所保育指針等における「表現」の位置付け：当該領域のねらいおよび内容を踏まえ、「気づいたり、感じたりするなどして楽しむ」とはどういうことか具体的に検討します。（河本・朝地）[講義・演習]

「表現」の構成要素：様々な事例から、多岐多様な「表現」の保育内容を理解し、指導上の留意点を理解します。（河本・朝地）[講義・演習]

「教えられること」と「教えるのではなく育てること」保育の中で混同されがちなこの2つについて具体的に検討し、幼稚園教育における評価の考え方を理解します。（河本）[講義・演習]

保育技術の基本（音楽）：発問の仕方、表情によるコミュニケーションなど、子どもの表現力を伸ばすための技術の基本を体験します。（河本）[講義・演習]

保育技術の基本（図画工作・造形）：発問の仕方、表情によるコミュニケーションなど、幼児の認識や思考を踏まえ、子どもの表現力を伸ばすための技術の基本を体験します。（朝地）[講義・演習]

「表現」の指導の実際：器楽を中心とした指導や評価の留意点について理解します。（河本）[講義・演習]

「表現」の指導の実際：歌唱を中心とした指導や評価の留意点について理解します。（河本）[講義・演習]

「表現」の指導の実際：図画工作や造形を中心とした指導や評価の留意点について理解します。（朝地）[講義・演習]

「表現」の指導の実際：レッジョ・エミリア・アプローチ等の先進的な取組から、情報機器の活用や小学校の教科との関連及び保育構想の向上の方法を理解します。（河本・朝地）[講義・演習]

モデルプランの再現の準備：優れた保育事例を基に、自分たちがそれを再現するための指導案の作成方法を身に付けます。（河本・朝地）[グループワーク]

モデルプラン・リレー模擬保育：既成の指導案を使い、先生役、子ども役、観察役にわかれ模擬保育を行うと共に、保育を改善するための視点を身に付けます。（河本・朝地）[グループワーク・演習]

モデルプラン・リレー模擬保育：役割を入替えて同上的内容を実施します。（河本・朝地）[グループワーク・演習]

モデルプラン・リレー模擬保育：役割を入替えて同上的内容を実施します。（河本・朝地）[グループワーク・演習]

授業内レポート：保育における「表現」の位置付け及び、子ども一人ひとりや集団の特徴に合わせた「表現」についての自分の考えを述べます。履修カルテの記入（河本・朝地）[レポート]

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

## 【到達目標】

- 1) 幼稚園教育要領や保育所保育指針等における保育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。
- 2) 当該領域のねらい及び内容を踏まえ、子どもが経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。
- 3) 保育における評価の考え方を理解している。
- 4) 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。
- 5) 子どもの認識や思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
- 6) 各領域の特性や子どもの体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。
- 7) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案の導入部を作成することができる。
- 8) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
- 9) 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

## 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

本科目は、学位授与方針第2項に掲げる「子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術を身に付けている学生」という方針に沿った授業内容であり、『保育内容（表現）』に関連する保育技術の知識側面と実践的側面の両面の定着を図り、卒業認定の要素の一つに資することを目指している。

## 成績評価基準と方法

下記A：B＝40：60 合計100点で評価します。

A 授業内レポート（40点） 幼稚園教育要領等で示される保育における「表現」の位置付けを踏まえ、「表現」の内容および指導法や評価法について、課題に沿って記述します。

B リレー模擬保育（20点×3回） 先生、子ども、観察のそれぞれの立場による取組についてワークシートを作成します。

## テキスト・参考文献

## 【テキスト】

新版実践保育内容シリーズ 『音楽表現』一藝社 1年生時に購入

新版 遊びの指導 乳・幼児編（同文書院） 1年生時に購入済

## 【参考文献】

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

岩下修著 『AさせたいならBと言え?心を動かす言葉の原則』 明示図書

向後千春著 『上手な教え方の教科書?入門インストラクショナルデザイン』 技術評論社

## 授業外学習

## 【具体的な内容】

リレー模擬保育の事前準備に関しては、その内容相当の授業外学習（準備作業）を要します。

指導案の作成はありませんが、リレー模擬保育で扱う「導入」部分のプランの作成があります。

## 【必要な時間】

## 事前

- ・次時の授業内容の準備のための下調べや材料の用意などで最低1時間を要します。
- ・模擬保育の場合には上記の準備時間に加え、グループ内での練習の時間が加わりません。

## 事後

- ・毎時の授業内容の記録に1時間程度の時間を要します。なお、記録媒体は文字や図、音符などが記録できるノートが望ましい。

## その他

本授業内では、既成のモデルプランを使用するので、指導案全体を作成することはありません。

リレー模擬保育は、グループ評価ではなく個人評価なので、グループで準備する内容はありますが、模擬保育のどの部分を担当しても構わないように、予め準備しておく必要があります。

模擬保育で必要な消耗品については、教員と相談の上、可能な限り学科で用意します。

制作時は「子どもの図画工作」で購入した教材等を使用します。

科目名	幼稚園実習指導[幼教]
開講期・単位	2年 通年・選択 1単位・演習
担当者	小川 久恵、朝地 信介、河本 洋一、田村 めぐみ

### 講義の目的および概要

事前指導では教育実習生として学校(幼稚園)の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解します。これらを通して教育実習の意義を理解します。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

学外幼稚園実習に向け、グループワークやディスカッション、保育計画の作成等の演習、発表、講義を織り交ぜ、能動的な学修を目指します。

本講義は教員・幼稚園教諭の実務経験のある教員が、実習にかかわる知識・技術を活かして、教育実習の意義、習得すべき知識・技能について、教員の視点から理解できる講義を実施します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説します。また、ディスカッションやグループワークを通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びに繋げていくことを目指します。

### 授業計画

オリエンテーション(幼稚園実習の意義と目的)

指導案作成 保育実習における指導案の振り返りをふまえた立案

指導案作成 子ども理解・保育内容・指導法をふまえた立案

幼稚園実習の研究課題の設定(実習園の概要、実習目標、実習内容)

幼稚園実習記録の作成について(日誌の振り返り、日誌記載における課題の確認)

幼稚園実習の振り返り (自己課題の振り返り、成果と自己課題の交流)

幼稚園実習の振り返り (自己課題の改善に向けて)

幼稚園実習のまとめ(実習記録の作成)、履修カルテの記入

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

- ・教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。
- ・教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解する。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「保育者の社会的使命を自覚し、責任ある行動をとることができる学生」「保育者に求められる態度・姿勢と、社会人に必要な教養を身に付けている学生」に学位を授与するに基づき、保育者の使命、求められる態度・姿勢、必要な知識・技能等を自覚し、自己課題を思考する態度を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

- ・提出物(指導案、実習報告レポートなど): 70%
- ・授業のまとめ、リアクションシートなど: 30%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

『実習ハンドブック』

#### 【参考文献】

『幼稚園実習(基礎)付属幼稚園ハンドブック』、『実習記録』

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

『幼稚園実習(基礎)付属幼稚園ハンドブック』と『実習ハンドブック』を精読し、実習のねらいや実習準備のポイント等を予習しノートにまとめてください。研究課題の設定や自己課題の設定時に課題を出題します。

毎回の授業内容を振り返り、ポイントなどを復習してノートにまとめてください。

#### 【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1時間、計2時間を目安とします。

### その他

- ・幼稚園実習(応用)を合わせて履修すること
- ・制作時は「子どもの図画工作」で購入した教材等を使用します。

科目名	日本文化演習(茶道)[幼教]
開講期・単位	2年 後期・選択 1単位・演習
担当者	吉井 守和

### 講義の目的および概要

茶道とは何だろうか。点前とは何だろうか。最低限の道具を使って、略盆の点前を習いながら、点前の意味、茶道の意味を学んでいきます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

点前に関しては、実習です。基本動作を繰り返して、身に着けます。講義部分では常識としてほしい内容を学びます。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題は振り返りながら進みます。それぞれが独立しているわけではなく、関連しているということを意識して下さい。

### 授業計画

以下は基本的な進行です。状況によって多少変化していきます。授業の中で変わる部分は説明していきますので、授業を休まないようにしてください。

オリエンテーション/道具の説明/座すということ  
 道具の引き渡し(菓子)  
 茶を点じてみる/基本の手順  
 茶巾の畳方と扱い/袱紗の扱い  
 茶筌の扱い  
 通して点前をする  
 通して点前をする  
 実技試験  
 実技試験  
 煎茶  
 茶道の歴史(10)  
 茶事(茶会)と懐石料理(10)  
 茶道具について(10)  
 菓子について(10)  
 まとめ(茶から何を楽しむか/何を学ぶか)

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

茶道とは何かということについてある程度の説明ができるようになること。  
 抹茶を点てる、煎茶を入れるようになること。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

茶を通じて、日本文化を理解します。自文化に対する理解は異文化に対する理解の基礎となります。

### 成績評価基準と方法

以下のような内容を基本的に考えていますが、進度や状況によって変わります。  
 <実技>茶巾の扱い(10)、袱紗の扱い(10)、点前(20)、客の作法(10)、煎茶(10)  
 <講義>茶道の歴史(10)、懐石料理(10)、茶道具(10)、菓子(10)

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

配布物

#### 【参考文献】

茶道、懐石料理、禅、焼き物など多くの関連分野があります。

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

型を正確に覚えるためには繰り返しが必要です。また、先入観が非常に多い内容です。自分の目でしっかりと見て、判断することが重要です。

#### 【必要な時間】

授業と同じぐらいの時間を基本的な振り返りの時間と考えてください。

## その他

茶道には様々な側面があります。茶を楽しむ。道具を楽しむ。精神修養。礼儀作法。どれもが茶道の側面です。

科目名	情報処理演習(データ活用)
開講期・単位	2年 後期・選択 1単位・演習
担当者	小柳 万貴子

### 講義の目的および概要

本演習では、パソコンの表計算ソフトを使い、ワープロなどとの併用方法についての学習を通して、データ活用の知識と技術を身につける。  
データの集計から仮説の検証、研究結果の発表までの一連の実践的な処理を通して、データ活用の方法を身につける。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

テキストやリファレンス動画での解説、教員の補足説明を参考に、学生が主体的に取り組む実技演習形式で授業を進める。必要に応じてディスカッションなどを取り入れて実施する。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題及び参考資料は、学内共有フォルダやWeb上の共有ドライブを介して配付する。確認テストについての補足や解答、提出されたファイルへの概評などを適宜、行う。

### 授業計画

科目ガイダンス、授業用各種環境確認  
Excelで作成（関数、シート間処理）  
Excelで作成（行列関数、並べ替え、グラフ）、基本Excel修了テスト  
レポートの基本と構成  
レポート作成の流れ、レポートテーマ修了テスト  
仮説1の検証(アンケート結果の確認)  
仮説1の検証（集計とグラフ化）  
仮説2の検証、仮説検証修了テスト  
アンケート結果の文章化とアウトラインの作成  
アンケート結果のレポート化（要項と工夫）  
アンケート結果のレポート化（設定と作成）、研究結果レポート修了テスト  
アンケート結果のスライド化（スライドの設計と作成）  
アンケート結果のスライド化（効果の検討と工夫）  
アンケート結果のスライド化（発表について）、研究結果発表修了テスト  
まとめと振り返り

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

パソコンの表計算ソフトを中心に、他のソフトウェアとの連携を通して、効果的なデータ活用の処理ができる。表計算のさまざまな機能を使い、データの集計から目的に応じた情報の資料化、発表までの一連の処理ができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「一般教養に関する広い教養を身に付けている学生に学位を授与する」に基づき、情報の整理や文書化、視覚化、情報モラルなどの知識と技術の獲得を通して社会人として自立できる能力を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

授業内修了テスト：60%  
課題：30%  
確認テスト（予習復習）：10%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

『学生のためのOffice2016スキル活用&情報モラル』Ness付き noa出版著作、ワークアカデミー発行

#### 【参考文献】

各アプリケーションソフトの市販解説本  
noaリファレンスサイト [http://noa-prolab.co.jp/reference\\_mov/](http://noa-prolab.co.jp/reference_mov/)  
マイクロソフトヘルプサイト <https://support.office.com/>

### 授業外学習

ファイル作成やタイピング練習、予習・復習としての確認テストを2時間を目安として取り組むこと。時間配分に留意しながら、継続的に取り組むこと。

### **その他**

一連の課題に対して、積極的に考え、取り組むことに努めてください。  
前期開講の「情報処理演習(文書処理)」で使ったテキストを引き続き使います。  
テキストにテスト用の個別のユーザー名とパスワードが付いていますので、後期のみ  
の履修の場合には、新規にテキストの購入が必要です。

科目名	情報処理演習(文書処理)
開講期・単位	2年 前期・選択 1単位・演習
担当者	小柳 万貴子

### 講義の目的および概要

本演習では、パソコンの代表的なアプリケーションソフトの使い方を通して、情報の整理や文書化、視覚化などについての知識と技術を身に付ける。また、情報社会で必要とされるセキュリティ確保や情報モラルについての知識を深める。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

テキストやリファレンス動画での解説や教員の補足説明を参考に、学生が主体的に取り組む実技演習形式で授業を進める。必要に応じてディスカッションなどを取り入れて実施する。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題及び参考資料は、学内共有フォルダやWeb上の共有ドライブを介して配付する。確認テストについての補足や解答、提出されたファイルへの概評などを適宜、行う。

### 授業計画

科目ガイダンス、情報環境の確認と設定  
 Windows基本操作、環境設定  
 ファイル操作、タイピング練習  
 Wordでチラシ作成（全体の設定、書式の検討）  
 Wordでチラシ作成（詳細の作成）  
 Wordでレポート作成（全体の設定、書式の検討）  
 Wordでレポート作成（詳細の作成）、Word修了テスト  
 Excelで作成（計算式、関数の利用）  
 Excelで作成（シート間処理）  
 Excelでグラフ作成、Excel修了テスト  
 PowerPointでスライド作成（構成と手順）  
 PowerPointでスライド作成（詳細の作成）、PowerPoint修了テスト  
 セキュリティを高める  
 情報モラルを学ぶ、セキュリティと情報モラル修了テスト  
 まとめと振り返り

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

ソフトウェアの多様な機能を理解し、情報の整理や文書作成などを創意工夫して処理できる。情報のセキュリティに適切な対応ができ、情報モラルに関して適正な行動が執れる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「一般教養に関する広い教養を身に付けている学生に学位を授与する」に基づき、情報の整理や文書化、視覚化、情報モラルなどの知識と技術の獲得を通して社会人として自立できる能力を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

授業内修了テスト：50%  
 タイピング：10%  
 課題：30%  
 確認テスト（予習復習）：10%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

『学生のためのOffice2016スキル活用&情報モラル』Ness付き noa出版著作、ワークアカデミー発行

#### 【参考文献】

各アプリケーションソフトの市販解説本  
 noaリファレンスサイト [http://noa-prolab.co.jp/reference\\_mov/](http://noa-prolab.co.jp/reference_mov/)  
 マイクロソフトヘルプサイト <https://support.office.com/>

### 授業外学習

ファイル作成やタイピング練習、予習・復習としての確認テストを2時間を目安として取り組むこと。時間配分に留意しながら、継続的に取り組むこと。

## その他

一連の課題に対して、積極的に考え、取り組むことに努めてください。

テキストにタイピングやテスト用の個別のユーザー名とパスワード（1年間有効）が付いていますので、購入は必須です。

科目名	キャリア基礎演習[幼教]
開講期・単位	2年 前期・必修 1単位・演習
担当者	山内 太郎、岡部 祐子、河本 洋一、野崎 剛毅

### 講義の目的および概要

社会人として必要な常識、態度などについて学びます。「キャリア形成」を踏まえ、就職することについて考察することにより、就職に対して具体的な理解を深めます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

グループワークやディスカッション、資料作成等の演習を中心としながら、講義や外部講師講話を通して課題の明確化等を織り交ぜ、能動的な学修を目指します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説します。また、グループワークやディスカッションを通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びに繋げていくことを目指します。

### 授業計画

オリエンテーション、進路調査アンケート  
 就職までの手続きについて（キャリア支援センターより）、社会人に求められるマナーについて  
 進路調査票について  
 外部講師講話：就職するということ  
 就職試験について（実技編）  
 就職試験について（一般常識編）  
 就職試験について（専門知識編）  
 外部講師講話：就職試験に向けて  
 求人票の見方  
 履歴書の書き方  
 履歴書の書き方・就職までの手続きについて（キャリア支援センターより）  
 面接について  
 面接について（グループワーク）  
 外部講師講話：保育者として  
 まとめ及び就職ガイダンス、履修カルテの記入

15回は秋学期に振り替えます。

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

社会人として豊かな生活を送るための必要な知識、態度などについて理解を深めるとともに、保育者としての専門性について理解を深めることを目標とします。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

本科目は、学位授与方針第5項「保育者に求められる態度・姿勢と、社会人に必要な教養を身に付けている学生」にかかわる科目である。

### 成績評価基準と方法

毎時のワークシート等の提出物 60%  
 授業内レポート 40%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

テキストは使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

#### 【参考文献】

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

常日頃から新聞やニュースなどで、最近の社会や企業の動き、世の中の動向を意識することを心掛けて下さい。  
 必ず前回の授業内容を復習し、自分の将来について具体的にイメージして出席してください。

#### 【必要な時間】

予習・復習の時間は合わせて2時間を目安とします。

### その他

科目名	外国語コミュニケーション(基礎)
開講期・単位	2年 前期・選択 1単位・演習
担当者	神林 裕子

### 講義の目的および概要

本講義では英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けるとともに、日常生活に関連した英会話力を身に付けることを目的とする。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

日常生活に関連した内容について、ペアワークやグループワークを中心に学習する。また、英語を使う楽しさを実感できるような資料等を適宜配布し、演習形式で学習する。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをプリント等にまとめて提供する。

### 授業計画

Orientation  
 Unit 1 Introductions  
 Unit 2 Daily Life  
 Unit 3 Weekend Events  
 Review of Units 1?3  
 Unit 4 Small Talk  
 Unit 5 Likes and Dislikes  
 Unit 6 Student Life  
 Review of Units 4?6  
 確認テスト1 / フィードバック  
 Unit 7 Family  
 Unit 8 Friends  
 Unit 9 Going Out  
 Review of Units 7?9  
 確認テスト2 / フィードバック

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

基本的な英会話を身に付け、様々な場面において対応できるようにする。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「共感的な感性と知性に支えられた、人間性豊かな保育者を育成する」に基づき、英語でのコミュニケーションを図るよさを感じながら、基本的な英会話力を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

毎回の課題等 (30%)  
 授業の参加状況 (10%)  
 確認テスト1 (40%)  
 確認テスト2 (20%)

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

・Free Talking, by Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvist, Yuki Hasegawa, 出版社: Cengage Learning

#### 【参考文献】

・しゃべる英文法, 監修・著 白井恭弘, 出版社: コスモピア株式会社  
 ・究極の英語学習法K/Hシステム 基本編 著 国井信一/橋本敬子, 出版社: アルク  
 ・Essential Grammar in Use (A self-study reference and practice book for elementary students of English, with answers), by Raymond Murphy, 出版社: Cambridge University Press

### 授業外学習

**【具体的な内容】**

- ・テキストで使用する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。
- ・学んだ英語表現等はその日のうちにしっかり覚えましょう。
- ・演習等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。

**【必要な時間】**

- ・予習・復習の時間はそれぞれ1時間を目安とします。

**その他**

- ・ Be helpful.
  - ・ Be friendly.
  - ・ Be active.
  - ・ Be creative.
  - ・ Be ambitious.
- 必要に応じて辞書や電子辞書を持参しましょう。

科目名	外国語コミュニケーション(応用)
開講期・単位	2年 後期・選択 1単位・演習
担当者	神林 裕子

### 講義の目的および概要

本講義では、保育者として必要な基本的な英語表現を身に付ける。外国語コミュニケーション(基礎)を踏まえ、フィリピン講師との実績的な英会話にも取り組む。また、適宜、英語の歌やゲーム等の活動の学習を通して、保育者として英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる指導力を育成する。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

実際の保育現場を想定した英語表現をペアワークやグループワークを中心に学習する。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをプリントにまとめて提供する。

### 授業計画

#### オリエンテーション

Unit 9 Let's eat lunch!

Unit 9 Let's eat lunch! 、関連した英語の活動

Unit10 What do you want to do?

Unit10 What do you want to do? 、Zoomにおける実践

Unit11 What do you have to do?

Unit11 What do you have to do? 、Zoomにおける実践

確認テスト、Unit12 I need to go potty

Unit12 I need to go potty 、関連した英語の活動

Unit13 Good job!

Unit13 Good job! 、Zoomにおける実践

Unit14 Injuries and emergencies

Unit14 Injuries and emergencies 、関連した英語の活動

Unit15 We're going to go outside

Unit15 We're going to go outside 、関連した英語の活動

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

保育現場における基本表現を用いて、積極的に日常的な会話ができる。また、発音とリズムに留意しながら、英語の歌、英語の絵本の読み聞かせ等の基本的な指導ができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「共感的な感性と知性に支えられた、人間性豊かな保育者を育成する」に基づき、英語の世界の豊かさを英語学習を通して感じ取り、英語を学ぶ楽しさを子どもたちに伝える能力を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

毎回の課題の提出 30%

小テスト 30%

確認テスト 20%

定期試験 20%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

・Speaking of Childcare, Peter Vincent & Naoko Nakazono, 出版社：NAN'UN-DO

#### 【参考文献】

・しゃべる英文法, 監修・著 白井恭弘, 出版社：コスモピア株式会社

・Essential Grammar in Use (A self-study reference and practice book for elementary students of English with answers), by Raymond Murphy, 出版社：Cambridge University Press

### 授業外学習

**【具体的な内容】**

- ・テキストで使用する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。
- ・学んだ英語表現等はその日のうちにしっかり覚えましょう。
- ・演習等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。

**【必要な時間】**

- ・予習・復習の時間はそれぞれ1時間を目安とします。

**その他**

次の5つを大切にしましょう。

- ・ Be helpful.
- ・ Be friendly.
- ・ Be active.
- ・ Be creative.
- ・ Be ambitious.

必要に応じて辞書や電子辞書を持参しましょう。

科目名	幼稚園実習(応用)
開講期・単位	2年 通年・選択 3単位・実習
担当者	伊藤 桂子、小川 久恵、山内 太郎、岡部 祐子、朝地 信介、河本 洋一、田村 めぐみ、野崎 剛毅

### 講義の目的および概要

教育実習（幼稚園実習）は、将来教員（幼稚園教諭）になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会として行われます。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育（幼稚園教育）の実際を体験的、総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることを目的とします。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

8月下旬から3週間、学外の幼稚園で実習を行います。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

実習終了後、実習日誌、レポート等を作成し、「幼稚園実習指導」の中で事後指導を行います。

また「学外幼稚園実習記録」の作成に取り組み、記録集として発行し、各自の課題を明らかにするとともに課題点の共有を図ります。

### 授業計画

原則として私立幼稚園で実習を行う。

実習期間は8月下旬から3週間を予定。

実習前に実習園を訪問し、オリエンテーションを行う。

およその実習日程・内容は以下の通り。実習園ごとに日程・内容は異なる。

着任式・見学実習

観察実習

〃

〃

〃

観察実習、参加実習、部分実習

〃

〃

〃

〃

〃

〃

全日実習(責任実習)

集会実習、離任式

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

・ 幼児の活動や環境等に対して適切な観察を行うとともに、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解するため、幼稚園実務に対する補助的な役割を担うよう行動できる。

・ 大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育の実践を通して身に付けることができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「保育者の社会的使命を自覚し、責任ある行動をとることができる学生」「保育者に求められる態度・姿勢と、社会人に必要な教養を身に付けている学生」に学位を授与する、に基づき、保育者の使命、求められる態度・姿勢、必要な知識・技能等を実践を通して身に付ける

### 成績評価基準と方法

- ・ 実習園の評価70%
- ・ 提出物(実習日誌・指導案レポートなど)30%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

『実習ハンドブック』

#### 【参考文献】

『幼稚園実習(基礎)ハンドブック』

前年度『学外幼稚園実習記録』

## 授業外学習

### 【具体的な内容】

『実習ハンドブック』と『幼稚園実習（基礎）ハンドブック』をよく読み、実習のねらいや実習準備のポイント等を予習しノート等にまとめてください。  
また、幼稚園実習（基礎）や幼稚園実習指導での講義内容と、附属幼稚園実習で気付いたことや各幼稚園での事前オリエンテーションの内容、各自の研究課題に沿って、実習で必要となる指導案や実習グッズの作成、手遊びや読み聞かせ、楽器の練習等を行ってください。また一日ごとの日誌の作成や、課題点の整理などを行ってください。

### 【必要な時間】

予習・復習に必要な時間はいずれもそれぞれ3.5時間を目安とします。

## その他

- ・幼稚園実習指導を合わせて履修すること。
- ・実習費23,000円（2020年度参考）

科目名	保育実習 (保育所)
開講期・単位	2年 前期・選択 2単位・実習
担当者	伊藤 桂子、小川 久恵、山内 太郎、岡部 祐子、朝地 信介、河本 洋一、田村 めぐみ、野崎 剛毅

### 講義の目的および概要

保育所での実習を通して、保育士として必要な知識・技能を身につける。この科目は1年次の保育所実習の発展版と位置付けられるので、学生には実際に現場に立つ卒業後の自分自身を想定しながら、より専門的に学ぼうとする姿勢が求められる。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

基本的には、1年次に実習した保育所で行う。  
「学外」科目につき、内容は実習先によってそれぞれ異なる。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

関連する実習科目で振り返りを行う。

### 授業計画

講義の目的にあるように、この実習は基本的な施設理解が既に習得されているという前提で行われる。そのため、1年次の実習において得たことを踏まえ、さらに課題を設定して行うことが望まれる。

実習の内容については、実習先によって多少異なるが、大まかには以下の通りである。

- ・ 課題の設定
- ・ 部分実習（時間をいただき、絵本の読み聞かせやゲーム、制作等の活動をする。）
- ・ 完全実習（仕上げの段階で、クラスの保育を初めから終わりまで一通り任せられる。）
- ・ 実習のまとめ、反省
- ・ 実習終了後、レポート提出（実習前に設定した課題について、レポートにまとめる。）

実習期間中、3歳未満時（0・1・2歳）、3歳児、4歳児、5歳児の各クラスに入ったり、縦割りによる異年齢混合クラスに入って実習を行う。

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

保育現場に立つ者としての自覚ある態度で取り組み、自分自身の課題を明確にする。有意義な実習を行い、保育者として必要な知識・技能をさらに高める。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「保育者に求められる態度・姿勢と、社会人に必要な教養を身に付けている学生」に関連する。

### 成績評価基準と方法

学外保育所における実習評価を60%、実習日誌・レポートを40%とし、これらを合わせて評価する。

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

実習ハンドブック

#### 【参考文献】

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

事前学習として1年次の振り返りをしっかりとしておくこと。

#### 【必要な時間】

実習科目のため事前学習は何時間必要かは学生によって異なる。

### その他

実習費18,000円（2020年度実績）の納入が5月頃に必要なになります。

科目名	保育実習 (施設)
開講期・単位	2年 前期・選択 2単位・実習
担当者	伊藤 桂子、小川 久恵、山内 太郎、岡部 祐子、朝地 信介、河本 洋一、田村 めぐみ、野崎 剛毅

### 講義の目的および概要

本科目は、卒業後に施設保育士として働きたいと思っている学生が履修していることを想定している。したがって、保育実習 において経験した施設実習を踏まえて、より専門的ななかかわりの習得を目的としている。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

学外における保育所以外の児童福祉施設での実習を行う。  
そのため内容は配属される実習先によって異なる。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

関連する実習科目において振り返りを行う。

### 授業計画

講義の目的にあるように、この実習は基本的な施設理解がすでに習得されているという前提で行われる。そのため、1年次の実習において得られたことを踏まえ、さらに課題を設定して行うことが望まれる。  
実習の内容については、実習先によって異なるが、大まかには以下のとおりである。

- ・施設機能の理解（入所児童の理解含む）
- ・保育実習指導において設定した実習課題への取り組み
- ・個別的なかかわりを深める（ケース研究的なかかわり）
- ・設定保育（行わない場合もある）
- ・実習のまとめ、反省
- ・実習終了後、レポート提出（実習課題についてレポートにまとめる）

実習先によっては関連する地域の諸機関での実習も含まれる。

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

施設保育士としての仕事のおもしろさと難しさを体験的に語れるようになる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「保育者に求められる態度・姿勢と、社会人に必要な教養を身に付けている学生」に関連する。

### 成績評価基準と方法

実習先による評価（評価表）60%、実習日誌、レポート等の提出物40%とし、これらを合わせて総合的に評価する。

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

実習ハンドブック

#### 【参考文献】

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

1年次の振り返りをしっかりとしておくこと。

#### 【必要な時間】

実習科目のため一律に必要な時間を設定することはできない。各自の自覚が必要。

### その他

実習費18,000円（2020年度実績）の納入が5月頃に必要になります。

科目名	保育・教職実践演習(幼稚園)
開講期・単位	2年 後期・選択 2単位・演習
担当者	小川 久恵、朝地 信介、河本 洋一

### 講義の目的および概要

本講義では、これまで履修してきた実習を含む全ての科目を通して、幼児理解のための理論及び方法が形成されたかを振り返ります。  
保育者になる上での自己課題を明確化し、改善に取り組む中で保育者に必要な資質・能力を高めます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

グループワークやディスカッション、模擬保育等の演習を中心としながら、記録からの省察や課題分析等を織り交ぜ、能動的な学修を目指します。  
本講義は幼稚園教諭や学校教員として実務経験のある教員が、保育・教育の計画・実践にかかわる視点・知識・技術を活かして、指導方法や振り返りを通して自己課題を改善する方法を身に付けられる内容を行います。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説します。また、グループワークやディスカッションを通して他者の考えや学びを知り、自分の考えや学びに繋げていくことを目指します。

### 授業計画

オリエンテーション(履修カルテより自己課題を設定)

自己課題の設定 幼稚園実習の振り返り

自己課題の設定 自己課題の設定(教員を目指すものとして)

模擬保育に向けての準備 望ましい教員のあり方を考察

模擬保育に向けての準備 環境(物的環境・人的環境)

模擬保育に向けての準備 子ども理解と保育内容をふまえた指導案作成

模擬保育に向けての準備 子どもの発達と保育内容をふまえた指導案作成

模擬保育に向けての準備 個と集団の発達と保育内容をふまえた指導案作成

模擬保育(保育実践) 指導案をもとに保育方法の実践

模擬保育(保育実践) 保育方法の展開・発展

模擬保育の振り返り 保育方法の実践への反省・評価

模擬保育の振り返り 保育方法の実践への改善・計画

自己課題の発表 保育実践から得られた指導計画・教材研究の展開

自己課題の発表 自己課題の改善に向けた保育実践から得られたまとめ

自己の学びの振り返り(まとめ)、履修カルテ記入

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

幼稚園、保育所、認定こども園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び、過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術を身に付けている学生」「保育者の社会的な使命を自覚し、責任ある行動をとることができる学生」に学位を授与するに基づき、幼児の発達段階を想定して保育を構想する方法を身に付ける。また、自己を省みることから保育者に求められる資質・能力を理解する姿勢を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

- ・提出物・レポート・発表70%
- ・まとめレポート30%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

#### 【参考文献】

「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館  
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書」内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

### 授業外学習

**【具体的な内容】**

- ・子どもの発達段階の特徴と保育のポイントなどを予習しノートにまとめてください
- 。これまでの学修や実習を通して明確になった自己課題をノートにまとめてください
- 。自己課題の設定や指導案作成時に課題を出題します。
- ・毎回の授業内容を振り返り、ポイントなどを復習してノートにまとめてください。

**【必要な時間】**

予習・復習の時間はそれぞれ2時間ずつ、合計4時間を目安とします。

**その他**

- ・制作時は「子どもの図画工作」で購入した教材等を使用します。

科目名	子どもの食と栄養(応用)[幼教]
開講期・単位	2年 前期・選択 1単位・演習
担当者	小野 昭子

### 講義の目的および概要

胎児期から幼児期の食生活、生活習慣がその子の体格や病気になりやすさだけでなく性格までも影響することが近年の研究から明らかになっている。幼児教育の中での保護者をも巻き込んだ「食育」は今その重要性を増している。後期は食育にフォーカスする

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

ビデオ、OHPを使い、教室にて授業を行う。  
考えてもらうために参加方式を出来るだけ取り入れたいと考えている。  
積極的なかわりを期待している。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

レスポンのミニテストや感想を、授業中に回答・披露することで理解を深める

### 授業計画

#### 【応用】 発育期の食生活

人生で一番大事な最初の1000日の食事【胎児期から幼児期の重要性】  
幼児期(6歳まで)の食と眠りの重要性【腸内細菌と生活リズム・体格も脳機能も心までも。味覚形成の仕組み】  
乳児期の食生【母乳と腸内細菌の多様性・人工栄】  
離乳期の栄養【食のスタートが将来の人生に関係・悩みが深い離乳食  
母への対応と世界の状況】

#### 【状況】

アレルギーについて考える【予防は離乳期から】  
幼児の食 お弁当で考える食事  
お弁当実習へ向けて(グループ学習)  
お弁当実習・「だし」とベビーフード味覚レポート  
幼児期の発育・発達と食生活(食事形態・食環境・間食)  
幼児期の発育・発達と食生活(保護者の悩みへの対応)  
幼児の食と心の育ち 食卓の重要性【共食とコミュニケーション・自己評価】  
【行事食と子供の人生・脳のつくられ方】

保育所給食と幼児の食育1  
保育所給食と幼児の食育2(グループ)  
グループ発表

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

幼児期の栄養と食習慣が、子どもの未来の可能性を広げることを理解する。日々の食教育の重要性、必要性を理解し、保護者・地域を巻き込んだ食育を考える。その実践に役立つ知識を習得し、実際に演習する。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

### 成績評価基準と方法

期末テスト	40%
課題レポート	45%
レスポンスミニテスト・感想	15%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

子どもの食と栄養 第2班 羊土社 太田百合子 堤 ちはる

#### 【参考文献】

家族を育てる食卓 室田洋子著  
「自分で食べる！」が食べる力を育てる シル・ラブレイトン・マーケット著  
人生で一番大事な最初の1000日の食事 ヘリ・サイラッド・グレア・ルエリ

### 授業外学習

【具体的な内容】

1. 幼児期に関わってくれた人（父母、祖父母など）からエピソードを聞いてくる。  
またはアルバムや、おたより帳などがあれば目を通す
2. 自分の母子手帳見ておく。（授乳期、離乳食の様子を聞く）

【必要な時間】

**その他**

科目名	保育実習指導 (保育所)
開講期・単位	2年 前期・選択 1単位・演習
担当者	伊藤 桂子、山内 太郎、岡部 祐子、野崎 剛毅

### 講義の目的および概要

#### 講義の目的および概要

1年次に行った保育実習 の経験を踏まえて、子ども理解と保育・養護の技術のさらなる深化をすることを目的とする。そのために事前指導として課題の明確化や指導案・記録技法の習得が中心となる。  
また、事後指導として、実習終了後に保育者としての自身の特性や課題を明確にすることを旨とする。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

実習の振り返りをもとに課題を明らかにし、実習に向けての取り組みを具体化できるよう、講義・演習・発表形式で行う。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中で適宜質問を受け付けることでフィードバックを行う。

### 授業計画

#### <事前指導>

1. 保育実習 の振り返り
2. 実習課題の検討・確定
3. 記録技法について 「活動」
4. 記録技法について 「指導案」
5. 記録技法について 「日案」の基本的な考え方
6. 記録技法について 「日案」の作成

#### <事後指導>

7. 実習報告会に向けて(2年生のみでの振り返り)
8. 実習報告会の実施(1年生を交えた報告会)

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

実習での経験を踏まえて、保育士としての自身の特性と課題を理解する。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「保育者の社会的な使命を自覚し、責任ある行動をとることができる学生」に関連する。

### 成績評価基準と方法

- ・提出物(実習の振り返り、実習報告レポートなど): 50%
- ・授業への取り組み、毎回のまとめ: 50%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

実習ハンドブック

#### 【参考文献】

特になし

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

毎回の授業で配布された資料等を読み返して理解を深めること。

#### 【必要な時間】

2時間程度を目安とする。

### その他

- ・1年次に学習した専門科目を復習し、実習との繋がりを理解しておくこと。
- ・保育実習 と合わせて履修すること。

科目名	保育実習指導 (施設)
開講期・単位	2年 前期・選択 1単位・演習
担当者	伊藤 桂子、山内 太郎、岡部 祐子、野崎 剛毅

### 講義の目的および概要

1年次に行った保育実習 の経験を踏まえて、子ども理解と保育・養護の技術のさらなる深化をすることを目的とする。そのために事前指導として課題の明確化や指導案・記録技法の習得が中心となる。  
また、事後指導として、実習終了後に保育者としての自身の特性や課題を明確にすることを旨とする。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

実習の振り返りをもとに課題を明らかにし、実習に向けての取り組みを具体化できるよう、講義・演習・発表形式で行う。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

授業の中で随時質問を受け付けることでフィードバックを図る。

### 授業計画

#### <事前指導>

1. 保育実習 の振り返り
2. 実習課題の検討・決定
3. 記録技法について 「活動」
4. 記録技法について 「指導案」
5. 記録技法について 「日案」の基本的な考え方
6. 記録技法について 施設種別ごとの日誌記載の方法について

#### <事後指導>

7. 実習報告会にむけて(2年生のみでの振り返り)
8. 実習報告会の実施(1年生を交えた報告会)

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

実習での経験を踏まえて、保育士としての自身の特性と課題を理解している。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「保育者の社会的な使命を自覚し、責任ある行動をとることができる学生」に関連する。

### 成績評価基準と方法

- ・提出物(実習の振り返り、実習報告レポートなど) : 50%
- ・授業への取り組み、毎回のまとめ : 50%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

実習ハンドブック

#### 【参考文献】

授業中に適宜提示する。

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

毎回の授業で配布された資料等を読み返して理解を深めること。

#### 【必要な時間】

2時間程度を目安とする。

### その他

- ・1年次に学習した専門科目を復習し、実習との繋がりを理解しておくこと。
- ・保育実習 と合わせて履修すること。

科目名	保育の心理学
開講期・単位	2年 後期・選択 1単位・演習
担当者	深浦 尚子

### 講義の目的および概要

保育実践について理解を深めるとともに、学習の過程を理解し、保育における発達援助を学ぶ

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

演習形式で行い、グループワークでの議論やその結果を発表する。  
グループワークでは、ワークシートを記入し、提出をする。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題は授業中に行い、提出後、コメントをつけて返却を行う。

### 授業計画

1. 子ども理解における発達の把握
2. 個人差や発達過程に応じた保育
3. 身体感覚をともなう多様な経験と環境との相互作用
4. 環境としての保育者と子どもの発達
5. 子どもの相互のかかわりと関係づくり
6. 子ども集団と保育の環境
7. 子どもの生活と学び
8. 子どものあそびと学び 中間レポート
9. 基本的生活習慣の獲得
10. 自己主張と自己抑制
11. 主体性の形成
12. 生涯にわたる生きる力の基礎を培う
13. 発達と学びの連続性と就学支援
14. 発達援助における協働
15. 現代社会における子どもの発達と保育の課題、

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

1. 子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める
2. 生活や遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する
3. 保育における発達援助について学ぶ

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術を身に付けることが卒業認定・学位の授与には必要であることから、この科目を通してその力を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

成果物 30%  
中間レポート30%  
まとめのレポート40%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

「保育の心理学」清水益治編、中央法規

#### 【参考文献】

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

予習・復習をしっかりと行う。予習は主にテキストを熟読し、復習は、ノートやワークシートを振り返り理解を深める。

#### 【必要な時間】

予習、復習におおよそ2時間ほど必要である。

その他

科目名	諸外国の保育
開講期・単位	2年 後期・選択 2単位・講義
担当者	野崎 剛毅

### 講義の目的および概要

国際化社会である現在、幼稚園や保育所においても外国人児童や外国につながる児童が多く入所している。  
この科目をとおして、諸外国の保育の現状を学ぶとともに、多文化共生の理論を理解し、外国につながる児童への保育の基礎知識を学習する。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

授業は講義と演習でおこなう。  
幼児教育の世界的な潮流を確認したあと、いくつかの国について学生が調べ、発表する。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

質問、課題内容等については、講義内でとりあげ、解説をおこなう。

### 授業計画

ガイダンス 外国の保育を学ぶ意義  
諸外国の保育の概観  
関心の整理とテーマの設定  
テーマ学習 基礎学習  
テーマ学習 資料の作成  
発表 スウェーデンの保育  
スウェーデンの保育の補足と検討  
発表 フィンランドの保育  
フィンランドの保育の補足と検討  
発表 ニュージーランドの保育  
ニュージーランドの保育の補足と検討  
発表 ドイツの保育  
ドイツの保育の補足と検討  
日本の多文化保育  
まとめと履修カルテ記入

ただし、とりあげる国、地域については受講生の関心にそって変更することがある。

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

海外の保育の動向を理解する。  
現代日本の保育を多角的、客観的、相対的にみることができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

諸外国の様々な子ども観、保育観、保育実践を知ること、「子どもたちの発達段階にあった保育ができる知識と技術」をより深める。

### 成績評価基準と方法

発表 50点  
検討会 20点  
まとめ 30点

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

指定しない

#### 【参考文献】

講義内で紹介する

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

準備学習として、紹介する資料やHP、関連書籍などにより、その国の基本情報をまとめておくことが必要である。  
また、我が国の保育を相対化するためには、何よりも我が国の保育について正しく理解している必要がある。2年生秋学樹科目であることから、これまでに学んだことをきちんと振り返り、理解しておくことが何より重要である。

#### 【必要な時間】

事前・事後それぞれ2時間程度の学習を必要とする。

### その他



科目名	子どもの発達と保育
開講期・単位	2年 後期・選択 1単位・演習
担当者	田村 めぐみ

### 講義の目的および概要

本授業では、子どもの心身の発達に関する学習と保育実習を関連付け、発達段階に応じた保育を展開できる力を高める。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

年齢ごとの子どもの発達の振り返りを行いながら、グループワークを含めた演習形式で実施する。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

グループワーク等の課題の中で特筆すべき点については、全体に向けて解説し、共有する。

### 授業計画

オリエンテーション  
 0歳児の心身の発達  
 0歳児の保育  
 1歳児の心身の発達  
 1歳児の保育  
 2歳児の心身の発達  
 2歳児の保育  
 未満児のまとめ(中間レポート)  
 3歳児の心身の発達  
 3歳児の保育  
 4歳児の心身の発達  
 4歳児の保育  
 5歳児の心身の発達  
 5歳児の保育  
 全体のまとめ(レポート)

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

保育者としての子どもの発達についての知識の再確認と、それを保育実践に結び付けて展開できる力を身につける。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術を身につけている学生」に学位を授与するに基づき、保育に必要な理論と技術を結び付ける。

### 成績評価基準と方法

中間レポート 20%  
 まとめのレポート 40%  
 提出物 20%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

#### 【参考文献】

必要に応じて適宜提示する。

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

保育の心理学、乳児保育など関連する科目について復習をする。

#### 【必要な時間】

事前事後各1時間程度

### その他

科目名	子ども音楽療育概論[幼教]
開講期・単位	2年 前期・選択 2単位・講義
担当者	下出 理恵子

### 講義の目的および概要

音楽教育、保育、発達臨床、音楽療法などの様々な関連分野から、保育音楽療育の専門性を、論理的に学習する。また、音楽を構成している要素と療育における音楽活動の関係の学び、音楽療育における音楽の役割を理解する

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

関連領域の文献や臨床のVTRを使い、必要に応じて演習を交えながら講義を行う。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

### 授業計画

オリエンテーション/保育音楽療育とは  
 対象者理解(成人、高齢者)  
 対象者理解(乳幼児、児童、～WSの子どもたち～)  
 音楽の特性  
 歌唱(声)活動の目的とデザイン  
 器楽(即興的な活動)の目的とデザイン  
 器楽(既成曲を使った活動)の目的とデザイン  
 動きを伴う活動の目的とデザイン  
 音楽のコミュニケーション性  
 音楽活動のサポートとは  
 アセスメント・プログラム・評価  
 音楽と人間形成 ～音楽心理学に学ぶ～  
 関連領域に学ぶ対象理解  
 WSプログラムの意義と目的  
 まとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

- ・対象理解のための知識を備える。
- ・保育音楽療育における音・音楽の役割を理解する。
- ・保育音楽療育の意義と目的を理解する。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

### 成績評価基準と方法

毎回の授業後のコメントシート 30%  
 小テスト、レポートなど、授業内で提示される課題を総合して70%で評価する。

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

適宜資料配布

#### 【参考文献】

障害児の成長と音楽 音楽の友社編 音楽の友社  
 音楽療法の実践 加藤美知子 他 春秋社  
 音楽療法の手引き 松井 紀和 牧野出版  
 保育における特別支援 竹田 契一他 日本文化科学社

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

関係する領域は多岐にわたる。参考文献や講義内で紹介された著書などは必ず読んで、自ら学び、興味を広げていくことが、大切である。

#### 【必要な時間】

事前・事後60分以上の予習・復習を要する。

### その他

科目名	子ども音楽療育演習
開講期・単位	2年 後期・選択 1単位・演習
担当者	小川 久恵

### 講義の目的および概要

本講義は障害のある子どもを対象とした音楽療育実践に必要な基礎知識と技術を獲得することを目的とします。  
また、音楽療育実践のための音・音楽の使い方、対象に応じた展開やサポートの方法を習得することを目指します。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

グループワークやディスカッション等の演習、発表などを通して療育プログラムの立案・模擬セッション・省察・セッション再構成を体験します。  
また、講義を通して療育のための音楽活動の構成力、実践力を高めます。  
本講義は幼稚園教諭・保育音楽療育士の実務経験のある教員が、療育実践にかかわる知識・技術を活かして、音楽療育実践に必要な知識と技術、実践方法について、保育者の視点から理解できる講義を実施します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説します。また、グループワーク等の演習・実習を通して、多様な理論、実践方法について互いに検討します。

### 授業計画

オリエンテーション/からだあそび  
スキンシップあそび  
身体の知覚、ボディイメージを高めるあそび  
模擬セッション1  
模擬セッション1 振り返りグループワーク  
楽器を使うあそび  
身体模倣あそび  
うたあそび、ことばあそび  
模擬セッション2  
模擬セッション2 振り返りグループワーク  
シアターにおける音楽の役割  
音楽つきミニシアター計画  
音楽つきミニシアター練習  
音楽つきミニシアター発表  
まとめ、履修カルテの記入

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

- ・目的に応じた音楽療育を計画し、実践することができる。
- ・音楽活動時に見られる子どもの姿を発達の視点で捉え、活動をサポートする方法を考えることができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「子どもの安全を守るための適切な配慮ができる学生」「子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術を身に付けている学生」に学位を授与するに基づき、子ども理解や適切な環境構成、療育プログラムを実践できる能力を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

- ・療育プログラムの立案・実践・省察レポート70%
- ・コメントシート(毎回授業後に提出する)30%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

・『ユニバーサルデザインの音楽表現』星山麻木編著・板野和彦著 萌文書林

#### 【参考文献】

### 授業外学習

**【具体的な内容】**

『子ども音楽療育概論』や関連する科目を参考に、障害の特性やかかわりのポイント、音楽あそびなどを予習しノートにまとめてください。療育プログラムの計画や実践時に課題を出題します。

毎回の授業を振り返り、ポイントなどを復習してノートにまとめてください。

**【必要な時間】**

予習・復習の時間はそれぞれ1時間、計2時間を目安とします。

**その他**

科目名	子ども音楽療育実習[幼教]
開講期・単位	2年 前期・選択 1単位・実習
担当者	小川 久恵

### 講義の目的および概要

本講義では音楽活動の多様性を知り、関連領域の理論と音楽活動の関係を体験的に理解することから実践力を広げることを目的とします。  
また、障害についての理解を深めながら、音楽活動時に見られる子どもの姿を理解することを目指します。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

音楽療育ワークショップにおける療育実践に向け、音楽療育ワークショップ実習や現場実践者の講義、またグループワークや療育プログラムの検討・作成等の演習を織り交ぜ、能動的な学修を目指します。

本講義は幼稚園教諭・保育音楽療育士の実務経験のある教員が、療育実践にかかわる知識・技術を活かして、音楽活動の多様性や音楽療育の実践について、保育者の視点から理解できる講義を実施します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説します。また、グループワーク等の演習・実習を通して、多様な理論、実践方法について互いに検討します。

### 授業計画

オリエンテーション：実習の心構え、マナー  
音楽療育実習の活動計画：ワークショップの構成とねらい  
実習事前指導：観察視点と日誌の書き方  
ワークショップ観察実習：流れを知る  
ワークショップ観察実習：子どもの姿を理解する  
ワークショップ観察実習：子どもの姿を理解する  
ワークショップ観察実習：音楽活動時におけるかかわり方を学ぶ  
観察実習事後指導：日誌を使用した省察  
ワークショップ参加実習：指導者と子どものかかわりを学ぶ  
ワークショップ参加実習：音楽活動の関与について学ぶ  
ワークショップ部分実習：音楽活動による療育の計画・実践  
ワークショップ部分実習：音楽活動による療育の計画・実践  
ワークショップ部分実習：療育の計画・実践に対する省察  
特別講座：関連領域から障害を理解する  
実習事後指導：まとめ、履修カルテの記入

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

・ワークショップにおいて子どもや保護者とかかわることから、障害についての理解や子ども理解について深めることができる。  
・概論と演習を繋ぎ、自身の療育プログラムを実習の場で実践をすることができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「子どもの安全を守るための適切な配慮ができる学生」「子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術を身に付けている学生」に学位を授与するに基づき、子ども理解や適切な環境構成、療育プログラムを実践できる能力を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

- ・実習日誌などの提出物：50%
- ・部分実習の立案、実践(発表)など：50%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

- ・『ユニバーサルデザインの音楽表現』 星山麻木編著・板野和彦著 萌文書林

#### 【参考文献】

### 授業外学習

**【具体的な内容】**

『子ども音楽療育概論』や関連する科目を参考に、障害の特性やかかわりのポイントなどを予習しノートにまとめてください。療育プログラムの計画や実践時に課題を出題します。

毎回の授業内容を振り返り、ポイントなどを復習してノートや実習日誌にまとめてください。

**【必要な時間】**

予習・復習の時間はそれぞれ1時間、計2時間を目安とします。

**その他**

実習費 2000円

資格申請費 5700円

上記の費用が必要になります。(2020年度参考)

科目名	保育プロジェクト演習
開講期・単位	2年 通年・必修 1単位・演習
担当者	伊藤 桂子、小川 久恵、山内 太郎、岡部 祐子、朝地 信介、林 二土、河本 洋一、田村 めぐみ、神林 裕子、野崎 剛毅

### 講義の目的および概要

自らの興味関心に基づき、保育者として必要な基礎知識をさらに深めていく。具体的には指導教員の専門性に基づきテーマを提示し、学生自身が教員の指導の下で、具体的な学習テーマを決めた上で、それについて学習を深め実践する。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

グループごとに、その会の授業目的に合った方法（講義形式・演習形式等）で行う。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

各自の目標に合わせて、学習を積み上げ、必要に応じてフィールドワークや、実技の発表等を行う。

### 授業計画

オリエンテーション 授業の目的とすすめ方

専門領域ごとの概要とテーマの設定

課題についての情報収集とアドバイス

専門学習 1

専門学習 2

専門学習 3

専門学習 4

専門学習 5

専門学習の振り返り：中間レポート

フィールドワーク 1（実践 1）

フィールドワーク 2（実践 2）

調査のまとめ（資料のまとめ）（実践 3）

調査のまとめ（活動のまとめ）（実践 4）

ディスカッション（発表）

授業内レポート（発表）・履修カルテ記入

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

学生自身が課題を設定し、それを調べ、実践し、省察することでができ、さらに保育者の専門性の幅をひろげることを目標とする。その場合、個人の活動に加え他者と協働し行うことを経験する。

また春学期での保育プロジェクト演習での学びは、秋学期の保育・教職実践演習において、模擬保育に繋がるようなものとする。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

各グループによってディプロマポリシーとの関連で重きを置く部分は異なる。

1年次に学んできた内容、2年次に学んでいく内容をそれぞれの関心・テーマに沿ってより深めていく講義である。

### 成績評価基準と方法

中間レポート（40％）

授業内レポート・発表（40％）

提出物・振り返りシート（20％）

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

配属されたグループにおいて、適宜指示される。

#### 【参考文献】

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

毎回の授業において、次週の授業までに行う予習や課題が提示される。

今回の授業においては、その課題を行っていることが前提となるため、必ず準備しておくこと。

#### 【必要な時間】

各グループにおいて指示される。

### その他

科目名	ピアノ基礎演習 [再]
開講期・単位	2年 前後期・選択 1単位・演習
担当者	伊藤 桂子

### 講義の目的および概要

「ピアノ基礎演習」を踏まえ、より実践的なピアノの技術を身に付けます。一人ひとりが、自身の力を伸ばして保育実践にピアノを活用できるように、経験年数や習熟度に応じた指導を行います。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

学生個々の経験や習熟度に応じてそれぞれに合わせた目標を立て、個人レッスンの形態で、細やかに指導を行います。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。

### 授業計画

1. オリエンテーション（習熟度と秋学期の目標の確認）
2. ~ 13. 下記の ~ の課題を習熟度に応じて指導します。  
八長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調の主要和音  
八長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調の和音の変奏  
子どもの歌の弾き歌い  
初見視奏  
伴奏付け  
移調  
小品の演奏  
保育実践のための即興  
就職試験対応曲  
様々な演奏表現について
14. 授業内試験
15. 秋学期のまとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。  
子どもの歌に伴奏を付けたり、移調したり、アレンジすることができる。  
簡単なメロディに伴奏をつけることができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術を身に付けている学生」に基づき、より実践的な音楽技術を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

- A: 定期試験（レッスンからの選択曲1曲：50%）+ 授業内試験（移調演奏、伴奏付け：20%）：合計70%  
B: 毎時の課題： 30%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

- ・『教職課程のための大学ピアノ教本（教育芸術社）』
- ・『ゆびトレ』（本学オリジナル教材）
- ・『こどものうた200（チャイルド本社）』

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

毎時、次の授業までの課題が提示されます。  
各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。

#### 【必要な時間】

事前事後各1時間程度を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。

### その他

「ピアノ基礎演習」の単位を取得済みであること。  
幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

科目名	表現課題演習(基礎)
開講期・単位	2年 前期・必修 1単位・演習
担当者	朝地 信介、河本 洋一

### 講義の目的および概要

学科行事『わくわくフェスティバル』に向けて表現活動のテーマを設定し、計画・目標を立てて取り組む過程を通して、自ら課題を発見して解決する手段や方法を実践的に学びます。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

提示された表現活動の基礎的な知識や方法、活動の見通しに基づいて、学生が個人・グループで主体的に活動する演習形式で行います。授業内容としてはディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどの能動的学修、実践が中心となります。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

各自の計画・目標、授業での取り組み、成果物、課題などについて記録にまとめます。作成した記録は記録集として発行し、各自の取り組みの課題を振り返るとともに、学生同士での課題の共有を図ります。

### 授業計画

授業の目的、わくわくフェスティバルの概要、活動の見通し  
 表現活動の基礎知識・方法、表現形態の紹介、表現形態・演目選びの要点、準備委員選出  
 表現活動のテーマ検討  
 表現活動のテーマ決定、表現形態・演目の検討  
 表現形態・演目の決定、作業役割分担班の検討・希望調査・調整  
 作業役割分担班の決定、各班リーダー選出  
 全体のスケジュール検討（舞台監督など）、脚本作成（演出など）  
 全体のスケジュール決定、作業役割分担班ごとの活動内容・スケジュール検討（各班リーダーなど）  
 全体活動（キャスト検討・希望調査など）、作業役割分担班ごとの活動・作業計画決定  
 全体活動（オーディションなど）、作業役割分担班ごとの活動  
 全体活動（キャスト調整など）、作業役割分担班ごとの活動  
 全体活動（キャスト発表など）、作業役割分担班ごとの活動、個人の課題・計画・目標設定  
 全体活動（脚本配布、脚本読み合わせ、練習）、作業役割分担班ごとの活動  
 全体活動（稽古、練習など）、作業役割分担班ごとの活動  
 作業分担ごとの取り組み経過の発表、授業内レポート、履修カルテ記入

準備委員は作業役割分担班リーダー選出まで、準備委員会議、授業の進行などを担当する。

各班リーダーはわくわくフェスティバル終了まで、リーダー会議、授業の進行などを担当する（主に舞台監督など）。

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

保育者となる学生としての視点を持って、子どもから大人までが楽しめる表現活動のテーマや内容を設定することができる。

テーマの具現化に向けて課題を発見し、解決に向けた手段や方法を探り、計画・目標を立てることができる。

自らの取り組みについて省察することができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術を身に付けている学生」「保育者に求められる態度・姿勢と、社会人に必要な教養を身に付けている学生」に学位を授与する、に基づき、子どもや保育を想定した知識、技術、態度、姿勢を持って学科企画の企画立案、運営にあたり、それらの能力を実践を通して身に付ける。

### 成績評価基準と方法

- ・取り組み（毎時間の授業記録提出）：50%
- ・レポート ・ ：50%

### テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

必要に応じてその都度提示します。

**授業外学習**

【具体的な内容】

- ・ 取り組み、成果物などの記録やワークシートを作成してください。
- ・ 表現に関わる様々な内容や方法、わくわくフェスティバルのイベントとして必要な事について情報を集めてください。
- ・ 制作や練習などの準備は個人、グループでも進めてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1時間ずつ、合計2時間を目安とします。

**その他**

- ・ 制作や練習に関わる費用は、授業予算を充てます。
- ・ 制作時は「子どもの図画工作」で購入した教材等を使用します。

科目名	表現課題演習(応用)
開講期・単位	2年 後期・必修 1単位・演習
担当者	朝地 信介、河本 洋一

### 講義の目的および概要

学科行事『わくわくフェスティバル』の準備と発表を通して、多様な表現形態や表現方法を実践し、協同して物事を進めるための方法を学びます。また、取り組みの中で発見した課題や、立てた計画・目標について振り返ります。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

学生が個人・グループで主体的に活動する演習形式で担当部署の作業や練習を行い、取り組みの成果発表として学科行事『わくわくフェスティバル』を実施します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

各自の計画・目標、授業での取り組み、成果物、課題などについて記録にまとめます。作成した記録は記録集として発行し、各自の取り組みの課題を振り返るとともに、学生同士での課題の共有を図ります。

### 授業計画

全体活動（脚本（最終）配布、稽古、練習など）、作業役割分担班ごとの活動  
 全体活動（稽古、練習など）、作業役割分担班ごとの活動  
 全体活動（稽古、練習など）、作業役割分担班ごとの活動  
 全体活動（稽古、練習など）、作業役割分担班ごとの活動  
 全体活動（稽古、練習など）、作業役割分担班ごとの活動  
 全体活動（稽古、練習など）、作業役割分担班ごとの活動、仕込み（舞台設営など）

通し稽古（音楽・音響・照明、衣装・メイク、舞台美術・転換）  
 通し稽古（音楽・音響・照明、衣装・メイク、舞台美術・転換）  
 通し稽古（音楽・音響・照明、衣装・メイク、舞台美術・転換）  
 通し稽古（音楽・音響・照明、衣装・メイク、舞台美術・転換）

ゲネプロ

わくわくフェスティバル1日目

わくわくフェスティバル2日目

後片付け

授業内レポート（個人の課題・計画・目標設定の振り返り、作業分担ごとの成果物）、アンケート、履修カルテ記入

各班リーダーはわくわくフェスティバル終了まで、リーダー会議、授業の進行などを担当する（主に舞台監督など）。

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

保育者となる学生としての視点を持って表現活動に組み込み、表現を通して子どもや人と関わることができる。

個人同士やグループ、わくわくフェスティバル全体の中での役割や関わり方を考えながら取り組むことができる。

自らの取り組みについて省察することができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術を身に付けている学生」「保育者に求められる態度・姿勢と、社会人に必要な教養を身に付けている学生」に学位を授与する、に基づき、子どもや保育を想定した知識、技術、態度、姿勢を持って学科企画の企画立案、運営にあたり、それらの能力を実践を通して身に付ける。

### 成績評価基準と方法

- ・取り組み（毎時間の授業記録提出）：50%
- ・レポート：50%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

#### 【参考文献】

必要に応じてその都度提示します。

### 授業外学習

**【具体的な内容】**

- ・ 取り組み、成果物などの記録やワークシートを作成してください。
- ・ 表現に関わる様々な内容や方法、わくわくフェスティバルのイベントとして必要な事について情報を集めてください。
- ・ 制作や練習などの準備は個人、グループでも進めてください。

**【必要な時間】**

予習・復習の時間はそれぞれ1時間ずつ、合計2時間を目安とします。

**その他**

- ・ 制作や練習に関わる費用は、授業予算を充てます。
- ・ 制作時は「子どもの図画工作」で購入した教材等を使用します。

科目名	子ども・家族と社会
開講期・単位	2年 後期・選択 2単位・講義
担当者	山内 太郎

### 講義の目的および概要

本講義は、現代社会における子ども・家族にかかわる諸問題について取り上げて、その全体像を把握するとともに、それぞれのトピックに関する現時点での最新の論争点について考えることを目的とする。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

視聴覚資料を用いながらテーマを設定し、4～5名程度のグループで学習する形式が多くなる。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

例年履修者が少数であるため、講義中に必要に応じて質疑応答がなされる。

### 授業計画

1. オリエンテーション この授業の進め方
2. 人工妊娠中絶の是非をめぐって
3. 血縁関係を考える～特別養子縁組における真実告知
4. 障がいを持って生まれた子どもの家族について考えよう
5. 障がい児のきょうだいへのケア
6. 家族のあり方を考える～LGBTのことを知る
7. 家族のあり方を考える～性同一性障害を生きるとは
8. 非行少年の更正について
9. 犯罪を犯した家族と向き合うということ
10. しつけと虐待の境界はどこにあるのか
11. 顕在化しにくい性的虐待の現状
12. 虐待が子どもに与える影響とは
13. 貧困問題と児童虐待についてのグループワーク 1
14. 貧困問題と児童虐待についてのグループワーク 2
15. グループワークをまとめた発表会および履修カルテ記入

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

家族のあり様は非常に多様であることを理解すること、支援の必要な家庭に対してどのようなかわりができるかを考えることができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

本講義には「保育者に求められる態度・姿勢・と社会人に必要な教養を身につけている学生」となるためにも必要な内容が多分に含まれています

### 成績評価基準と方法

提出物及びレポート 60%  
グループワーク発表会の内容 40%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

なし。必要に応じて資料を配布します。

#### 【参考文献】

講義中に適宜提示する。

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

授業前に関連する内容について書籍や新聞、インターネット等で調べ学習をしておくこと。また、講義終了後、配布された資料等を見直して、振り返りのポイントや重要事項を復習すること。

#### 【必要な時間】

それぞれ2時間ずつが目安となる。

### その他

グループワークが多くなるため、各自積極的な姿勢で参加することが求められます。

科目名	子どもの健康と安全[幼教]
開講期・単位	2年 後期・選択 1単位・演習
担当者	古郡 美智子

### 講義の目的および概要

子どもの心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考える。  
 子どもの疾病とその予防及び適切な対応について学ぶ。  
 緊急時の対応や事故防止、安全管理について学ぶ。  
 個別的な配慮を必要とする子ども、障害のある子どもへの適切な対応を学ぶ。  
 保育における保健活動の計画及び評価について学ぶ。  
 家庭、専門機関、地域との連携について学ぶ。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

保育士や幼稚園教諭に必要な基礎知識を各テーマにて講義形式で行う。  
 本講義は、幼稚園教諭、保育士、医療保育専門士の実務経験のある教員（現保育園施設長）が現場の映像を用い、内容によってはデモンストレーション等も取り入れ展開していく。教えられることだけにとどまらず、“自らより良い保育の手段が湧いてくるような保育者”に近づけるようなきっかけ、土台作りを演習課題（学生達が自ら考え、話し合いの機会を作るグループワーク、ディスカッションを取り入れ）を設け取り組んでいく。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

口頭発表には、その場で助言。講義や演習のワークシート、講義内容の復習、確認を兼ねた振り返り用紙の作成や課題については授業内でも解決しながら進めていく。

### 授業計画

子どもの健康と保育の環境  
 子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康  
 衛生管理  
 事故防止および安全対策  
 災害への備えと危機管理  
 体調不良や障害が発生した場合の対応  
 救急処置および救急蘇生法  
 感染症の集団発生と予防、対応  
 保育における保健的対応の基本的考え方  
 3歳未満児への適切な対応  
 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応  
 障害のある子どもへの適切な対応  
 職員間の連携・協働と組織的取り組み  
 保育における保健計画および評価  
 子どもを中心とした家庭・専門機関・地域との連携 等

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。
2. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。
3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について具体的に理解する。
4. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について具体的に理解する。
5. 保育における健康的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドラインや近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。
6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取り組みや保健活動の計画及び評価等について具体的に理解する。
7. 乳幼児の健康や安全に関する知識を習得し、疾病や事故の予防を考えた保育ができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

保育における保健的観点からの環境作りや援助、衛生管理や事故防止、子どもの体調不良に対する適切な対応など、現場の状況に合わせて子どもの安全を守るよう、適切な判断及び配慮ができる知識と技術を身につける。

### 成績評価基準と方法

小テスト（理解力）1回 35%  
 定期テスト1回 35%  
 課題（振り返りも含む）の提出 30%

## テキスト・参考文献

### 【テキスト】

オリジナルの資料を含め、適宜プリントを配布する。

### 【参考文献】

- ・『子どもの健康と安全』監修：公益財団法人 児童育成協会 中央法規
- ・『保育所における感染症対策ガイドライン』厚生労働省
- ・『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』厚生労働省
- ・『保育の安全と管理』著：相川徳孝他 同文書院

## 授業外学習

### 【具体的な内容】

事前学習として、幼稚園、保育園実習に行ってみて健康と安全について困ったこと、疑問に思ったこと、学びを深めてみたいと思うことをまとめておく。  
前回の授業内容を振り返り、ポイントや重要事項をまとめておく。また、わからないことや、復習して気が付いたこと、質問事項などピックアップしておき授業内で更なる学びへ繋げていく。  
事後学習として、就職に向け実際に保育を進められるよう準備を進めること、頭の中でシュミレーションしながら自分なりの事故対応マニュアルを描き、自身の資質を高めていく。

### 【必要な時間】

常日頃からニュース・新聞などで最近の社会（特に保育に関係のある事項）の動き・情報を意識して保育に繋げていけるように心がける。

## その他

授業中のグループワーク、ディスカッションの他にも発言も求めますので、受動的ではなく能動的な参加を求める。

科目名	子ども家庭支援の心理学[幼教]
開講期・単位	2年 前期・選択 2単位・講義
担当者	深浦 尚子

### 講義の目的および概要

子どもとその家庭を、発達の視点でとらえ、現代の子育て家庭の社会状況と課題について理解することを目的とする。  
 家族・家庭の機能、子育て家庭の現状、課題について学ぶ。また、子どもの精神保健とその課題についても学ぶ。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

講義形式で行うが、グループワークなどを取り入れ、ワークシートの作成など能動的な学修を目指します。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説を行う。

### 授業計画

オリエンテーション、乳児期の発達  
 幼児期の発達  
 学童期の発達  
 青年期の発達  
 成人期・中年期の発達  
 高齢期の発達  
 家族・家庭の意義と機能  
 家族関係・親子関係の理解  
 子育て経験と親としての育ち  
 子育てを取り巻く社会状況  
 ライフコースと仕事・子育て  
 多様な家庭とその理解、授業内テスト  
 特別な配慮を要する過程  
 子どもの生活・生育環境とその影響  
 子どものこころの健康にかかわる問題、

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

生涯発達を踏まえ、親子関係、家族を発達的な視点で理解する。また、子育て家庭をめぐる社会的状況と課題の理解、子どもの精神保健とその課題を理解する。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術を身に付けている学生と子どもの健やかな育ちのために、必要な保護者支援ができる学生に基づき、子どもとその家庭の支援ができる知識を獲得する。

### 成績評価基準と方法

レポート50%  
 定期試験50%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

「子ども家庭支援の心理学」新基本シリーズ9 編 白川佳子、福丸由佳 中央法規

#### 【参考文献】

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

予習、復習が必要です。

#### 【必要な時間】

それぞれ2時間程です。

### その他



科目名	子ども家庭支援論[幼教]
開講期・単位	2年 前期・選択 2単位・講義
担当者	品川 ひろみ、田村 めぐみ

### 講義の目的および概要

#### 講義の目的および概要

本講義では、子ども家庭支援の意義や役割をはじめとして、子どもとその家庭の理解を深め、子育て家庭への支援に関する保育士としての基本姿勢や支援の内容、具体的に実践するための技術や方法について学修します。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

授業は講義形式ですすめるが、内容によってグループワークなどを取り入れて行う。また2人で授業を担当するため、授業計画が前後することがあるが、テキストだけに頼らず、北海道や札幌市の具体的な事例も取り入れながら学修をすすめます。本講義は自治体において子育て支援を実践していた教員と、子育て支援施策に携わっていた実務経験を持つ教員が担当し、分かりやすく実践的な講義を行います。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の授業において記入するアクションシートはLMSを通じて提出してもらいます。質問に対する回答は次回の授業の冒頭で行います。

### 授業計画

#### 授業計画

##### 子ども家庭支援とは

子ども家庭支援の意義と必要性

子ども家庭支援の目的と機能

子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進

保育の専門性を生かした子ども家庭支援とその意義

子どもの育ちの喜びの共有

保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援と保育士の態度

子ども家庭支援に必要な理論のまとめ（小テスト）

家庭の状況に応じた支援

地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力

保育所を利用する子どもの家庭への支援

子ども家庭支援の内容と対象

地域の子育て家庭への支援

要保護児童およびその家庭に対する支援

子育て支援に関する課題と展望（履修カルテの記載）

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

子ども家庭支援の意義や役割を説明することができ、それを実践するための具体的な方法や技術を使うことができることを目的とします。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

幼児教育保育学科のディプロマ・ポリシー 子どもの安全を守るための適切な配慮ができる学生 子どもの健やかな育ちのために、必要な保護者支援ができる学生に関連付けられます。

保育士資格取得における必修科目です。

### 成績評価基準と方法

#### 成績評価基準と方法

成績は授業内の試験および小レポート、アクションシートを総合して評価します。

中間試験30%、授業内アクションシート20% 定期試験50%

### テキスト・参考文献

#### テキスト・参考文献

##### 【テキスト】

松原康夫・村田典子・南野奈津子編集『子ども家庭支援論』2019,中央法規

##### 【参考文献】

参考文献は必要に応じて周知します。各自治体のHP（子育てに関するページ）

### 授業外学習

**事前事後学習**

**【具体的な内容】**

毎回の授業の単元について読んでくること。またホームページなどで居住地の子育て支援の状況について調べておくこと。授業後にはノートに内容を整理すること。

**【必要な時間】**

毎回の授業の事前・事後の学習時間として、それぞれ2時間を目安とします。

**その他**

**その他**

本科目は2年生秋学期に開講される「子育て支援」の理論編となるものです。積極的な姿勢で臨み保育士としてのスキルを身につけてください。

科目名	子育て支援
開講期・単位	2年 後期・選択 1単位・演習
担当者	品川 ひろみ

### 講義の目的および概要

この科目では、春学期の「子ども家庭支援論」の学びを基礎として、子育て支援についてより深く学び、保護者からの相談に対応することができるようなスキルを獲得することを目的とします。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

授業は講義を中心として理論を学修するが、実際に事例についてどのように理解して、支援を行うのがよいのかをワークシートを用い、実践形式で学習する。可能であればグループワークを行い、自分自身の考えばかりでなく、他者の考え方を知ること、支援の在り方について幅広い観点を持てるようにする。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

提出したワークシートはLMSを通じてコメントします。また共通する疑問については、翌週の授業のはじめに解説する。

### 授業計画

子育て支援とは  
 子育て支援の意義  
 子育て支援の基本的価値・倫理  
 子育て支援の基本的姿勢  
 子育て支援の基本的技術  
 園内・園外との連携と社会資源  
 記録・評価・研修  
 日常会話を活用した子育て支援  
 文書を活用した子育て支援  
 行事などを活用した子育て支援  
 環境を活用した子育て支援  
 地域子育て拠点における支援  
 入所施設における子育て支援  
 通所施設における子育て支援  
 最終試験と解説（授業のまとめ）

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

保護者支援のために必要な知識と技術を獲得し、実践的な支援ができるようになること。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

本科目は幼児教育保育学科のディプロマポリシー「子どもの健やかな育ちのために、必要な保護者支援ができる学生」「保育者に求められる態度・姿勢と社会的に必要な教養を身につけている学生」に該当する。

### 成績評価基準と方法

毎回提出するワークシート 42%  
 最終試験 58%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

二宮祐子『子育て支援』萌文書林

#### 【参考文献】

参考文献は必要に応じて授業で提示する。

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

授業前に学習範囲を読んでおくこと。返却されたワークシートを見直し訂正すること。

#### 【必要な時間】

事前・事後ともにそれぞれ2時間程度を目安とする。

### その他

テキストには必要なワークシートが含まれているため必ず購入すること。  
 なお提出はマナバを通じて行います。  
 授業は学生の進度や状況によって変わることがあります。

科目名	社会的養護 [幼教]
開講期・単位	2年 前期・選択 1単位・演習
担当者	山内 太郎

### 講義の目的および概要

本講義では保育士としての倫理や責務をあらためて確認し、社会的養護の特性を踏まえた具体的ななかかわり技法について学ぶことを目的とする。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

テキストを中心に進めつつ、各回の講義において個人あるいはグループに分かれた演習を行う予定である。主体的な受講姿勢が求められる。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

講義の時間の中に適宜質疑応答の時間を設ける。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. 児童の権利擁護
3. 保育士の倫理及び責務
4. 児童養護の体系と児童福祉施設の概要
5. 日常生活支援と諸施設の暮らし 児童養護施設
6. 日常生活支援と諸施設の暮らし 乳児院、母子生活支援施設
7. 日常生活支援と諸施設の暮らし 医療型障害児入所施設
8. 日常生活支援と諸施設の暮らし 児童自立支援施設・児童心理治療施設
9. 日常生活支援と諸施設の暮らし 福祉型障害児入所施設
10. 里親制度とその実際
11. 心の傷をいやし、心をはぐくむための援助・親子関係の調整
12. ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用
13. 施設の小規模化と地域連携
14. 地域住民と施設
15. まとめと履修カルテ記入

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

事例検討を通して、社会的養護を必要とする子どもたちの現状を理解すること。様々な家庭のかたちがあり、保護者支援も保育士の重要な業務であると理解すること。以上の二点が到達目標となる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

本科目で身につける内容は「子どもの安全を守るための適切な知識と技術を身につけている学生」として重要な事項である。

### 成績評価基準と方法

期末レポート 50%  
 中間レポート 20%  
 各回における小レポート 30%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

『児童の福祉を支える 演習 社会的養護』吉田真理編著 萌文書林

#### 【参考文献】

必要に応じて適宜提示する。

### 授業外学習

#### 【具体的な内容】

事前学習としてテキストの該当する箇所を読み込んでおくこと。事後学習として配布された資料や演習内容について復習をしておくこと。

#### 【必要な時間】

それぞれ1時間程度が目安である。

### その他

科目名	特別支援教育・保育(応用)
開講期・単位	2年 前期・選択 1単位・演習
担当者	中島 そのみ、岡部 祐子

### 講義の目的および概要

障害病理や発達の特徴などの基礎知識を確認するとともに、特別な支援を要する子どもの困難について背景を含めて理解を深める。共に育ちあう視座に立った保育における留意点・援助のあり方を、具体的場面を想定しながら検討する。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

講義を中心に理解を深めるが、映像等を用いてより具体的に学ぶ。必要に応じてグループでの事例検討および発表を行い多様な観点からインクルーシブ保育を構想する。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

毎回、授業のまとめの提出を課し、コメントを記入して返却するとともに、疑問点については、次回授業で検討する。

### 授業計画

教員2名で担当する。

#### 【岡部担当回】

「障がい」とは 歴史の変遷

特別な支援を要する子どもとの出会い

特別支援保育・教育の基本 計画および評価

知的障がい(ダウン症含む)の理解と支援方法

自閉症スペクトラムの理解と支援方法

視覚障がい・聴覚障がいの理解と支援方法

様々な連携

まとめ

#### 【中島担当分】

障がい児保育の意義

肢体不自由児(脳性麻痺)の特徴と対応の基本

肢体不自由児(筋ジストロフィー)の特徴と対応の基本

肢体不自由児(二分脊椎)の特徴と対応の基本

注意欠如・多動症 特徴と対応の基本

限局性学習症 特徴と対応の基本

病弱・虚弱児の概要

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

1. 障害児支援の枠組みや歴史の変遷について確認し障害児及びその保育について理解を深める。
2. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解を深める。
3. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や評価、援助の実際について理解する。
4. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について具体的方法を理解する。
5. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解し多様な観点から特別支援保育・教育をイメージできるようになる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

1~5を習得することによって、子どもの安全を守るための適切な配慮ができる学生、および子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術を身に付けている学生となることを目指す。また、1,2,3,5についての実践力、4についての深い理解が子どものもの健やかな育ちのために必要な保護者支援ができる学生、となることにつながる。

### 成績評価基準と方法

確認テスト 20%

最終テスト 50%

提出物 30%

### テキスト・参考文献

【テキスト】（岡部分）  
小林徹・栗山宣夫編『ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育』みらい  
\*1年次テキストの継続使用

【参考図書】  
保育所保育指針解説書・幼保連携型認定こども園教育保育要領解説・教育幼稚園教育  
要領解説（すべてフレール館）

【参考文献】  
適宜配布する。

### **授業外学習**

【具体的な内容】  
特別支援教育・保育（基礎）の復習をする  
テキストの指示された箇所を読んでおく。

【必要な時間】  
事前・事後1時間以上の予習・復習を要する。

### **その他**

科目名	保育の計画と評価
開講期・単位	2年 後期・選択 2単位・講義
担当者	田村 めぐみ

### 講義の目的および概要

保育実践の根幹となる保育の計画と方法について理解を深めるとともに、カリキュラム・マネジメントを営むための基礎的な力を培う

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

講義を中心に知識の定着を図るが、保育計画に基づく一貫性と柔軟性のある保育をイメージできるよう、観察、指導案作成、模擬保育、記録を基にしたカンファレンス等の演習を交えた授業を展開する。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

授業内試験の他、毎回、授業のまとめ、疑問点のワークシートを提出する。疑問点については、次回授業で検討する。

個々の指導案・記録・評価について全体で共有することで、各プロセスの取り組みを客観視するとともに、対話・改善の手立てに活用する。

### 授業計画

保育の計画と方法の原理 基本的理解  
 幼稚園における教育課程・指導計画  
 保育園における保育の計画と評価  
 認定こども園における教育課程の特徴  
 乳児保育のカリキュラムの実際 \* ~ の確認テスト  
 1歳以上3歳児未満児のカリキュラムの実際  
 3歳児のカリキュラムの実際  
 4歳児のカリキュラムの実際  
 5歳児のカリキュラムの実際  
 特別な配慮を必要とする子どもの指導計画 \* ~ の確認テスト  
 指導計画の作成  
 指導計画の実践  
 保育の記録と省察・よりよい保育に向かう評価・改善の取り組み  
 記録の集積としての要録  
 まとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

1. 保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。
2. 全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。
3. 子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉え、理解する。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

1～3のプロセスを通して、子どもの安全を守るための適切な配慮ができる学生、および子どもの発達段階にあった保育ができる知識と技術を身に付けている学生となることを目指す。また、これらを習得することによってアカウンタビリティの能力が涵養され、子どものもの健やかな育ちのために必要な保護者支援ができる学生となり、保育者の社会的使命や保育者に求められる態度・姿勢への理解が促進される。

### 成績評価基準と方法

確認テスト 30%  
 授業内提出物 30%  
 授業内試験 30%  
 指導計画と実践・記録と評価に関する取り組み 10%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

『幼児教育・保育カリキュラム論』河邊貴子編著 東京書籍

#### 【参考文献】

『保育所保育指針解説書』・『幼保連携型認定こども園教育保育要領解説』・『幼稚園教育要領解説書』すべてフレーベル館

#### 【参考文献】

『保育の質を高める』大宮勇雄 ひとなる書房  
 『社会情動的スキル 学びに向かう力』経済協力開発機構(OECD) 他 明石書店

### 授業外学習

**【具体的な内容】**

事前事後に授業内容と参考文献の該当箇所を参照し、3法令に対応した理解を進めていく。図書館等を利用し広い範囲から情報を収集し、指導計画の作成等に取り組んでほしい。

**【必要な時間】**

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を要する。

**その他**

授業に際し『教育と保育の方法』で学んだの4つの専門性を復習して臨むこと。これまでに経験した各実習の日誌や、実践した指導案をファイリングし、省察しておくこと。

科目名	保育英語
開講期・単位	2年 前期・選択 1単位・演習
担当者	神林 裕子

### 講義の目的および概要

近年、グローバル化社会の中で、外国とのつながりのある保護者や子どもたちが増加している。本講義では、保育英語を踏まえ、保育士として、子どもや保護者と英語を通してコミュニケーションを図るための英語表現を身に付ける。また、実践者からの講義を通して、外国とのつながりのある保護者や子どもたちへの対応、ゲーム等の英語学習における留意点を学び、教材作成もしながらマイクロティーチングに取り組む。マイクロティーチングを通して、積極的に保育活動に英語を取り入れ、て英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる指導力を身に付ける。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

- ・実際の保育現場を想定した英語表現をペアワークやグループワークを中心に学習する。
- ・英語を使う楽しさを伝えるため、英語の歌やゲーム等の活動活動に取り組むなどの演習をする。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをプリントにまとめて提供する。

### 授業計画

#### オリエンテーション

児童英語のキーワード、英語の歌の指導、幼保英検等について

児童英語のキーワード、英語の歌の指導、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 1)

児童英語のキーワード、英語の歌の指導、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 2)

児童英語のキーワード、英語のゲームの指導、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 3)

児童英語のキーワード、英語のゲームの指導、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 4)

#### フィールドワーク(予定)

確認テスト、フィールドワークの振り返り

保育における英語について(実践者より)、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 5)

児童英語のキーワード、英語の絵本作り等、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 6)

児童英語のキーワード、英語の絵本作り等、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 7)

児童英語のキーワード、英語の絵本作り等、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 8)

児童英語のキーワード、マイクロティーチング

児童英語のキーワード、マイクロティーチング

確認テスト、これまでのまとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

- ・保育現場における基本表現を用いて、日常的な会話ができる。
- ・保育者として英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「地域の国際化をふまえ、価値観の多様化を理解し、差別のない多文化共生の態度を身に付けている学生」に基づき、英語の世界の豊かさを英語学習を通して感じ取り、英語を学ぶ楽しさを子どもたちに伝える能力を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

毎回の課題等及び授業への参加状況 (30%)

確認テスト (各2回 20%、合計40%)

マイクロティーチング (20%)

### テキスト・参考文献

【テキスト】

「実践家からの児童英語教育法 -実践編 AB」 中本幹子（著）

【参考図書】

『幼保英検 3 級テキスト』ブックフォレ

『幼保英検 2 級テキスト』ブックフォレ

**授業外学習**

【具体的な内容】

- ・ テキストで使用する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。
- ・ 学んだ英語表現等はその日のうちにしっかり覚えましょう。
- ・ 演習等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。

【必要な時間】

- ・ 予習・復習の時間はそれぞれ 1 時間を目安とします。

**その他**

- ・ Be helpful.
- ・ Be friendly.
- ・ Be active.
- ・ Be creative.
- ・ Be ambitious.

必要に応じて辞書や電子辞書を持参しましょう。

幼保英検などの検定試験に積極的に取り組みましょう。

科目名	保育英語
開講期・単位	2年 後期・選択 1単位・演習
担当者	神林 裕子

### 講義の目的および概要

近年、グローバル化社会の中で、外国とのつながりのある保護者や子どもたちが増加している。本講義では、保育英語を踏まえ、保育士として、子どもや保護者と英語を通してコミュニケーションを図るための英語表現を身に付ける。また、実践者からの講義を通して、外国とのつながりのある保護者や子どもたちへの対応、ゲーム等の英語学習における留意点を学び、フィリピン講師との英会話に取り組む。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

- ・実際の保育現場を想定した英語表現をペアワークやグループワークを中心に学習する。
- ・英語を使う楽しさを伝えるため、英語の歌やゲーム等の活動活動に取り組むなどの演習をする。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをプリントにまとめて提供する。

### 授業計画

#### オリエンテーション

児童英語のキーワード、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 9)  
 保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 9)、 Zoomにおける実践  
 児童英語のキーワード、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 10)  
 保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 10)、 Zoomにおける実践  
 児童英語のキーワード、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 11)  
 保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 11)、 Zoomにおける実践  
 確認テスト、これまでのまとめ  
 保育における英語について (実践者より)  
 児童英語のキーワード、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 12)  
 保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 12)、 Zoomにおける実践  
 児童英語のキーワード、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 13)  
 保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 13)、 Zoomにおける実践  
 児童英語のキーワード、保護者や子どもとの会話の関連表現等のまとめ  
 確認テスト、これまでのまとめ

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

- ・保育現場における基本表現を用いて、日常的な会話ができる。
- ・保育者として英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「地域の国際化をふまえ、価値観の多様化を理解し、差別のない多文化共生の態度を身に付けている学生」に基づき、英語の世界の豊かさを英語学習を通して感じ取り、英語を学ぶ楽しさを子どもたちに伝える能力を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

毎回の課題等 (30%)  
 授業への参加状況 (30%)  
 確認テスト (各2回 20%、合計40%)

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

適宜、授業で配布する。

#### 【参考図書】

- 『幼保英検3級テキスト』ブックフォレ
- 『幼保英検2級テキスト』ブックフォレ

### 授業外学習

【具体的な内容】

- ・テキストで使用する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。
- ・学んだ英語表現等はその日のうちにしっかり覚えましょう。
- ・演習等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間はそれぞれ1時間を目安とします。

**その他**

- ・ Be helpful.
- ・ Be friendly.
- ・ Be active.
- ・ Be creative.
- ・ Be ambitious.

必要に応じて辞書や電子辞書を持参しましょう。  
幼保英検などの検定試験に積極的に取り組みましょう。

科目名	海外研修(事前・事後指導を含む)
開講期・単位	2年 後期・選択 2単位・演習
担当者	神林 裕子

### 講義の目的および概要

国際的視野をもつ保育者を育成するために、海外研修をオーストラリアのサザンクロス大学 (Southern Cross University) において行う (予定)。この研修の目的は、グローバルな視点で保育に係る様々な事象を捉えて思考すること、サザンクロス大学の英語教師等との交流を通して英語でのコミュニケーションの幅を広げること、ホームステイで異文化コミュニケーション能力と自立心を養うことなどである。

### 講義方法/課題に対するフィードバックの方法

#### 【講義方法】

海外での大学での講義、ホームステイに向けた基礎知識の習得や日常会話等の演習を通して、自分自身の研究課題を設定し、研修後には研究課題の発表をする。

#### 【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、研究課題については研究発表の際にフィードバックをする。

### 授業計画

#### オリエンテーション

海外での大学での講義、ホームステイに向けた基礎知識の習得や日常会話等の演習  
 海外での大学での講義、ホームステイに向けた基礎知識の習得や日常会話等の演習  
 、研究課題の設定  
 海外での大学での講義、ホームステイに向けた基礎知識の習得や日常会話等の演習  
 、研究課題の設定  
 海外での大学での講義、ホームステイ  
 海外での大学での講義、ホームステイ  
 海外での大学での講義、ホームステイ  
 海外での大学での講義、ホームステイ  
 海外での大学での講義、ホームステイ  
 海外での大学での講義、ホームステイ  
 海外での大学での講義、ホームステイ  
 海外での大学での講義、ホームステイ  
 海外での大学での講義、ホームステイ  
 研究課題のまとめ  
 研究課題のまとめ  
 研究課題の発表

### 到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

#### 【到達目標】

サザンクロス大学の英語教師等、ホームステイ先のホストファミリーとの交流を通して、自分自分を見つめ直すとともに、他者理解を深めながら、英語でコミュニケーションを図ることができる。

#### 【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「共感的な感性と知性に支えられた、人間性豊かな保育者を育成する」に基づき、外国の多様な文化や生活習慣、価値観を尊重するとともに、異文化におけるコミュニケーション能力を身に付ける。

### 成績評価基準と方法

- ・海外での大学における取組 60%
- ・帰国前後の研究課題への取組 40%

### テキスト・参考文献

#### 【テキスト】

適宜、配付する。

#### 【参考文献】

『改訂版 英語で日本紹介ハンドブック』松本 美江 (著)、アルク

### 授業外学習

【具体的な内容】

- ・海外での大学での講義、ホームステイ先での場面や状況を想定し、円滑なコミュニケーションを図ることができるよう英語表現を習得しましょう。
- ・日本、北海道、札幌、自分自身等について、英語で紹介できるようまとめておきましょう。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間はそれぞれ1時間を目安とします。

**その他**